

1996年度

外国語学部共通科目シラバス

教養課程シラバス

外国語学部共通自由科目シラバス

獨協大学

## 利用上の注意

- ① この冊子では、目次が1994年度以降入学者用と、1993年度以前入学者用とに分かれています。
- ② 目次では、部門ごとに科目名、指導教員名、掲載ページが記載されています。
- ③ 科目名の末尾に、該当する入学年度が表示されています。  
表示がない場合は、入学年度による科目名の区別はありません。  
1994年度以降・1993年度以前の入学者の合併でおこなわれる授業では、それぞれの科目名が併記されています。
- ④ 「文化人類学」は1994年度以降・1993年度以前、どちらの入学者にも開設していますが、それぞれ下記の表のように合併しており、異なる科目です。履修登録や、試験の際には十分に気をつけてください。

	1994年度以降入学者	1993年度以前入学者
科	文化人類学	人類学
目 名	社会科学特殊講義A (文化人類学特殊講義) 4	文化人類学

# 目 次

## 1994年度以降入学者対象

### 保健体育部門

保健体育講義	1	-----	久 松 一 恵	-----	1
"	2	-----	青 柳 多恵子	-----	3
"	2	-----	梶 野 克 之	-----	5
"	2	-----	松 原 裕	-----	7
体育					
"	(アウトドア海浜型)	-----	和 田 智	-----	9
"	(アウトドア山岳型)	-----	和 田 智	-----	11
"	(インラインスケート)	-----	加 藤 雅 子	-----	13
"	(インラインスケート)	-----	和 田 智	-----	15
"	(インラインスケート/スケート)	-----	和 田 智	-----	17
"	(硬式テニス)	-----	小 俣 充	-----	19
"	(硬式テニス)	-----	田 中 茂 宏	-----	21
"	(硬式テニス)	-----	土 井 浩 信	-----	23
"	(硬式テニス)	-----	中 川 昭	-----	25
"	(硬式テニス)	-----	中 沢 克 江	-----	27
"	(硬式テニス)	-----	野 口 昭 彦	-----	29
"	(硬式テニス)	-----	松 原 裕	-----	31
"	(ゴルフ)	-----	野 口 昭 彦	-----	33
"	(ゴルフ)	-----	山 中 邦 夫	-----	35
"	(ゴルフ)	-----	吉 田 卓 司	-----	37
"	(サッカー)	-----	田 代 力 也	-----	39
"	(サッカー)	-----	田 中 茂 宏	-----	41
"	(サッカー)	-----	松 本 光 弘	-----	43
"	(サッカー)	-----	萩 原 武 久	(最初の授業で説明)	
"	(スキートレーニング/スキー)	-----	松 原 裕	-----	45
"	(スキー検定トレーニング/スキー検定)	-----	松 原 裕	-----	47
"	(ソーシャルダンス)	-----	青 柳 多恵子	-----	49
"	(ソフトボール)	-----	池 垣 功 一	-----	51
"	(ソフトボール)	-----	田 代 力 也	-----	53
"	(ソフトボール)	-----	萩 野 元 祐	-----	55
"	(ソフトボール/スキー)	-----	田 代 力 也	-----	57
"	(卓球)	-----	天 野 和 彦	-----	59
"	(卓球)	-----	太 田 朝 博	-----	61
"	(卓球)	-----	小 川 又八朗	-----	63
"	(卓球)	-----	奥 野 忠 枝	-----	65

" (卓球)	本 田 稔 祐	6 7
" (軟式野球)	太 田 朝 博	6 9
" (軟式野球)	萩 野 元 祐	7 1
" (バスケットボール)	太 田 朝 博	7 3
" (バスケットボール)	勝 瀬 武	7 5
" (バスケットボール)	檜 山 康	7 7
" (バドミントン)	梶 野 克 之	7 9
" (バドミントンⅡ)	梶 野 克 之	8 1
" (バレーボール)	小 俣 充	8 3
" (バレーボール)	中 沢 克 江	8 5
" (フットサル)	檜 山 康	8 7
" (フットサル)	松 原 裕	8 9
" (フリスビー／ウインドサーフィン)	和 田 智	9 1
" (ラグビー)	天 野 和 彦	9 3

## 人文科学部門

哲学	高 尾 由 子	9 5
"	松 丸 壽 雄	9 7
心理学	杉 山 憲 司	9 9
"	三 本 茂	1 0 1
倫理学	市 川 達 人	1 0 3
国語学	桂 千 佳 子	1 0 5
"	小 島 幸 枝	1 0 7
国語表現	新 里 博 樹	1 0 9
"	北 村 進	1 1 1
"	小 島 幸 枝	1 1 3
"	肥 田 野 昌 之	1 1 5
"	宮 澤 康 造	1 1 7
日本文学	北 村 進	1 1 9
"	中 村 文	1 2 1
"	肥 田 野 昌 之	1 2 3
外国文学	亀 谷 敬 昭	1 2 5
"	北 澤 滋 久	1 2 7
"	松 山 恒 見	1 2 9
"	宮 澤 康 造	1 3 1
歴史学		
" (日本史)	新 井 孝 重	1 3 3
" (日本史)	齊 藤 博	1 3 5
" (東洋史)	春 日 井 明	1 3 7
" (東洋史)	熊 谷 哲 也	1 3 9
" (西洋史)	高 橋 正 男	1 4 1
" (西洋史)	古 川 堅 治	1 4 3
人文科学特殊講義A		
" (東洋思想史)	1 春 日 井 明	1 4 5

" (現代社会と学問)	2	川村 肇	147
" (中東の歴史)	3	高橋 正男	149
" (西洋哲学史)	4	谷口 郁夫	151
" (哲学思想史)	5	谷口 郁夫	153
" (キリスト教史 I)	6	中島 文夫	155
" (西洋倫理思想史)	7	中島 文夫	157
" (日本近代史)	8	中村 繁	159
" (古典古代の遺産)	9	古川 堅治	161

## 社会科学部門

政治学		志摩 園子	163
経済学		岡田 博	169
"		小尾 惠一郎	171
日本国憲法		元山 健	(最初の授業で説明)
社会学		有吉 広介	189
国際関係論		阿部 純一	191
文化人類学		井上 兼行	193
社会科学特殊講義 A			
" (東アジア国際関係分析)	1	阿部 純一	195
" (教育法)	2	市川 須美子	197
" (近代市民社会像の形成と批判)	3	市川 達人	199
" (文化人類学特殊講義)	4	井上 兼行	201
" (政治学原論)	5	小野 修三	203
" (広告論)	6	梶山 皓	205
" (商法概論)	7	坂本 延夫	207
" (マスコミュニケーション論)	8	佐々木 輝美	209
" (経営学概論)	9	冨田 忠義	211
" (日本経済論)	10	波形 昭一	213
" (歴史的に見たパレスチナ問題)	11	奈良本 英佑	215
" (経済理論の基礎 —マクロ理論を中心として)	12	西村 允克	217
" (国際法)	13	廣部 和也	219
" (国際貿易と国際収支調整)	14	益山 光央	221
" (民法概論)	15	松嶋 由紀子	223
" (社会思想史)	16	松丸 壽雄	225
" (集団と社会の心理学)	17	三本 茂	227
" (ジャーナリズム)	18	森永 京一	229
" (世論調査)	19	森永 京一	231
" (貿易実務)	20	山崎 静光	233
" (会計総論)	21	湯田 雅夫	235
" (現代国際社会の統合と分裂)	22	若林 広	237

## 自然科学部門

数 学		福井 尚生	239
-----	--	-------	-----

物理学			東 孝 博	2 4 3
地 学			福 井 尚 生	2 4 5
生物学 A			加 藤 僖 重	2 4 7
" B			加 藤 僖 重	2 4 9
自然科学概論			福 井 尚 生	2 5 1
自然科学特殊講義A				
" (東洋の健康論)	1		青 柳 多恵子	2 5 5
" (人間の自然認識)	2		東 孝 博	2 5 7
" (トレーニング論)	3		梶 野 克 之	2 5 9
" (植物と人間)	4		加 藤 僖 重	2 6 1
" (化学)	5		杉 浦 三千夫	2 6 3
" (宇宙論)	6		福 井 尚 生	2 6 5
" (体力トレーニング論)	7		松 原 裕	2 6 7

### 情報科学部門

コンピュータ概論			東 孝 博	2 6 9
"			金 子 憲 一	2 7 1
"			高 柳 敏 子	2 7 3
"			前 田 功 雄	2 7 5
情報論			前 田 功 雄	2 7 7
文献調査法			宮 部 頼 子	2 7 9
言語学			新 里 博 樹	2 8 1
"			城 田 俊	2 8 3
情報科学特殊講義A				
" (コンピュータ・プログラミング論)	1		高 柳 敏 子	2 8 5
" (コンピュータ・プログラミング論)	1		立 田 ル ミ	2 8 7
" (コンピュータサイエンスと自然言語処理)	2		工 藤 育 男	2 8 9
言語学特殊講義A				
" (音の構造)	1		伊豆山 敦 子	2 9 1
" (外国人から見た日本語)	2		W. M. Jacobsen	2 9 3

### 比較文化部門

地域文化研究				
" (現代英米社会研究)	1		有 吉 広 介	2 9 5
" (熱帯雨林の生態と開発問題)	2		犬 井 正	2 9 7
" (ヨーロッパ近代とイスラーム世界)	3		奈良本 英 佑	2 9 9
" (戦後冷戦史の展開)	4		深 谷 満 雄	3 0 1
" (西洋美術史)	5	(後期完結)	前 川 久美子	3 0 3
" (中洋(ネパール・インド・チベット)の社会と文化)	6		三 本 茂	3 0 5
比較文化論特殊講義A				
" (カリブ海の民族と文化)	1		井 上 兼 行	3 0 7
" (東西文化比較)	2		近 衛 秀 健	3 0 9
" (南から見る南北アメリカ関係)	3		佐 藤 勘 治	3 1 1
" (能楽における中世武士の諸像)	4		瀬 尾 菊 治	3 1 3

〃(ユダヤ教の歴史)	5	-----	高橋正男	-----	315
〃(比較教育)	6	-----	鳥谷部志乃恵	-----	317
〃(パロディーが作りだす日本文学の伝統)	7	-----	中村文	-----	319
〃(現代スペインの社会と文化)	8	-----	野々山ミチコ	-----	321
〃(神話・説話の世界)	9	-----	肥田野昌之	-----	323
〃(古代ギリシャ社会における日常生活)	10	-----	古川堅治	-----	325
〃(アラブ文化・芸術)	11	-----	本田孝一	-----	327
〃(比較思想)	12	-----	松丸壽雄	-----	329

### 日本語教育部門

日本語学概論	-----	金田一秀穂	-----	331
日本語教育概論	-----	井口厚夫	-----	333
日本語教授法Ⅰ	-----	中西家栄子	-----	335
日本語教授法Ⅱ	-----	井口厚夫	-----	337
日本語文法論	-----	城田俊	-----	339
日本語音声学	-----	城田俊	-----	341
対照言語学	-----	中西家栄子	-----	343
日本語史	-----	小島幸枝	-----	345
日本語学特殊講義A (日本語ケーススタディ)	-----	井口厚夫	-----	347

### 第三外国語部門

ドイツ語Ⅰ	-----	大串紀代子	-----	349
ドイツ語Ⅱ	-----	渡部重美	-----	351
フランス語Ⅰ	-----	鷓澤恵子	-----	352
フランス語Ⅱ	-----	渡沼英二	-----	353
スペイン語Ⅰ(総)	-----	野々山ミチコ	-----	354
		J. L. Velasco	-----	354
スペイン語Ⅰ(L)	-----	北岸団	-----	355
		後藤雄介	-----	355
〃Ⅱ(総)	-----	後藤雄介	-----	356
〃Ⅱ(L)	-----	高松朋子	-----	357
〃Ⅱ(読)	-----	北岸団	-----	358
〃Ⅲ(総)	-----	北岸団	-----	359
〃Ⅲ(L)	-----	佐藤勘治	-----	360
〃Ⅲ(読)	-----	佐藤勘治	-----	361
ロシア語Ⅰ	-----	井上幸義	-----	362
中国語Ⅰ	-----	丸山鋼二	(最初の授業で説明)	
〃	-----	秦敏	-----	363
中国語Ⅱ	-----	陳跡	-----	364
朝鮮語Ⅰ	-----	朴勇俊	-----	365
朝鮮語Ⅱ	-----	朴聖雨	-----	366
アラビア語Ⅰ	-----	本田孝一	-----	367
アラビア語Ⅱ	-----	本田孝一	-----	368

古典ギリシア語	-----	古川堅治	-----	369
ラテン語	-----	松田治	-----	370

### 総合部門

総合講座B-1	-----	(前期完結) 加藤億重	-----	371
" 2	-----	(後期完結) 加藤億重	-----	373

### 共通演習部門

共通演習	-----	青柳多恵子	-----	375
"	-----	有吉広介	-----	376
"	-----	井口厚夫	-----	377
"	-----	佐藤勸治	-----	378
"	-----	城田俊	-----	379
"	-----	高橋正男	-----	381
"	-----	中西栄子	-----	383
"	-----	古川堅治	-----	385
"	-----	松原裕	-----	387
"	-----	松丸壽雄	-----	389



# 目 次

## 1993 年度以前入学者対象

### 一般教育科目

#### 人文科学系列

哲 学	高 尾 由 子	9 5
"	松 丸 壽 雄	9 7
倫理学	市 川 達 人	1 0 3
日本語学	桂 千佳子	1 0 5
"	小 島 幸 枝	1 0 7
国 語	新 里 博 樹	1 0 9
"	北 村 進	1 1 1
"	小 島 幸 枝	1 1 3
"	肥田野 昌之	1 1 5
"	宮 澤 康 造	1 1 7
日本文学	北 村 進	1 1 9
"	中 村 文	1 2 1
"	肥田野 昌之	1 2 3
外国文学	亀 谷 敬 昭	1 2 5
"	北 澤 滋 久	1 2 7
"	松 山 恒 見	1 2 9
"	宮 澤 康 造	1 3 1
日本史	新 井 孝 重	1 3 3
"	齊 藤 博	1 3 5
東洋史	春日井 明	1 3 7
"	熊 谷 哲 也	1 3 9
西洋史	高 橋 正 男	1 4 1
"	古 川 堅 治	1 4 3
一般言語学	新 里 博 樹	2 8 1
"	城 田 俊	2 8 3
一般音声学	伊豆山 敦子	2 9 1

#### 社会科学系列

経済学	(外国語・法学部生対象)	岡 田 博	1 6 9
"	"	小 尾 惠一郎	1 7 1
"	(経済学部生対象)	小 林 進	1 7 3
"	"	森 健	(最初の授業で説明)
"	"	田 村 伸 一	1 7 5
"	"	波 形 昭 一	1 7 7
"	"	益 山 光 央	1 7 9

経済学	(経済学部生対象)	松本正信	181
"	"	山本美樹子	183
"	"	米山昌幸	185
政治学		臼井久和	165
"		柴田平三郎	167
"		志摩園子	163
法学(日本国憲法2単位を含む)(外国語・経済学部生対象)		元山健	(最初の授業で説明)
"	(日本国憲法2単位を含む)(法学部生対象)	坂本延夫	187
"	(日本国憲法2単位を含む)(法学部生対象)	後藤巻則	187
社会学		有吉広介	189
社会思想史		市川達人	199
"		松丸壽雄	225
人文地理学		犬井正	297

### 自然科学系列

心理学		杉山憲司	99
"		三本茂	101
数学I・II(経済学部生対象)		田中雅英	241
数学概論(外国語・法学部生対象)		福井尚生	239
物理学		東孝博	243
化学		杉浦三千夫	263
地学		福井尚生	245
生物学A		加藤僖重	247
"B		加藤僖重	249
人類学		井上兼行	193
自然科学概論		田中雅英	253
"		福井尚生	251
コンピュータ概論		東孝博	269
"		金子憲一	271
"		高柳敏子	273
"		前田功雄	275
総合			
総合科目B-1	(前期完結)	加藤僖重	371
"2	(後期完結)	加藤僖重	373

## — 保健体育科目

### 保健体育部門

保健体育講義1		久松一恵	1
"2		青柳多恵子	3
"2		梶野克之	5
"2		松原裕	7
体育実技I・体育実技II			
"(アウトドア海浜型)		和田智	9

101	〃	(アウトドア山岳型) .....	和田 智	11
102	〃	(インラインスケート) .....	加藤 雅子	13
103	〃	(インラインスケート) .....	和田 智	15
104	〃	(インラインスケート/スケート) .....	和田 智	17
105	〃	(硬式テニス) .....	小俣 充	19
106	〃	(硬式テニス) .....	田中 茂宏	21
107	〃	(硬式テニス) .....	土井 浩信	23
108	〃	(硬式テニス) .....	中川 昭	25
109	〃	(硬式テニス) .....	中沢 克江	27
110	〃	(硬式テニス) .....	野口 昭彦	29
111	〃	(硬式テニス) .....	松原 裕	31
112	〃	(ゴルフ) .....	野口 昭彦	33
113	〃	(ゴルフ) .....	山中 邦夫	35
114	〃	(ゴルフ) .....	吉田 卓司	37
115	〃	(サッカー) .....	田代 力也	39
116	〃	(サッカー) .....	田中 茂宏	41
117	〃	(サッカー) .....	松本 光弘	43
118	〃	(サッカー) .....	萩原 武久	(最初の授業で説明)
119	〃	(スキートレーニング/スキー) .....	松原 裕	45
120	〃	(スキー検定トレーニング/スキー検定) .....	松原 裕	47
121	〃	(ソーシャルダンス) .....	青柳 多恵子	49
122	〃	(ソフトボール) .....	池垣 功一	51
123	〃	(ソフトボール) .....	田代 力也	53
124	〃	(ソフトボール) .....	萩野 元祐	55
125	〃	(ソフトボール/スキー) .....	田代 力也	57
126	〃	(卓球) .....	天野 和彦	59
127	〃	(卓球) .....	太田 朝博	61
128	〃	(卓球) .....	小川 又八朗	63
129	〃	(卓球) .....	奥野 忠枝	65
130	〃	(卓球) .....	本田 稔祐	67
131	〃	(軟式野球) .....	太田 朝博	69
132	〃	(軟式野球) .....	萩野 元祐	71
133	〃	(バスケットボール) .....	太田 朝博	73
134	〃	(バスケットボール) .....	勝瀬 武	75
135	〃	(バスケットボール) .....	檜山 康	77
136	〃	(バドミントン) .....	梶野 克之	79
137	〃	(バドミントンⅡ) .....	梶野 克之	81
138	〃	(バレーボール) .....	小俣 充	83
139	〃	(バレーボール) .....	中沢 克江	85
140	〃	(フットサル) .....	檜山 康	87
141	〃	(フットサル) .....	松原 裕	89
142	〃	(フリスビー/ウインドサーフィン) .....	和田 智	91
143	〃	(ラグビー) .....	天野 和彦	93

# — 共通自由科目 —

## 文化・思想部門

西洋哲学史 .....	谷 口 郁 夫 .....	1 5 1
西洋倫理思想史 .....	中 島 文 夫 .....	1 5 7
キリスト教思潮 .....	中 島 文 夫 .....	1 5 5
西洋美術史 .....	(後期完結) 前 川 久美子 .....	3 0 3
東洋思想史 .....	春日井 明 .....	1 4 5
マスコミュニケーション論 1 .....	佐々木 輝 美 .....	2 0 9
"          2 .....	森 永 京 一 .....	2 2 9
社会心理学 .....	三 本 茂 .....	2 2 7
文化人類学 .....	井 上 兼 行 .....	2 0 1
情報論 .....	前 田 功 雄 .....	2 7 7
コンピュータ・プログラミング論 1 .....	高 柳 敏 子 .....	2 8 5
"          2 .....	立 田 ル ミ .....	2 8 7
西洋文化特殊講義A-1 .....	近 衛 秀 健 .....	3 0 9
"          2 .....	高 橋 正 男 .....	3 1 5
"          3 .....	古 川 堅 治 .....	3 2 5
日本文化特殊講義A-1 .....	瀬 尾 菊 次 .....	3 1 3
"          2 .....	中 村 粂 .....	1 5 9
"          3 .....	中 村 文 .....	3 1 9
"          4 .....	肥 田 野 昌 之 .....	3 2 3

## 社会・国際関係部門

比較文化論特殊講義A .....	奈良本 英 佑 .....	2 9 9
情報論特殊講義A .....	工 藤 育 男 .....	2 8 9
マスコミュニケーション論特殊講義A .....	梶 山 皓 .....	2 0 5
時事問題研究 .....	阿 部 純 一 .....	1 9 1
世論調査 .....	森 永 京 一 .....	2 3 1
文献調査法 .....	宮 部 頼 子 .....	2 7 9
経済原論 .....	西 村 允 克 .....	2 1 1
日本経済論 .....	波 形 昭 一 .....	2 1 1
経営学 .....	富 田 忠 義 .....	2 1 1
簿記・会計 .....	湯 田 雅 夫 .....	2 3 1
貿易実務 .....	山 崎 静 光 .....	2 3 1
民法概論 .....	松 嶋 由 紀 子 .....	2 2 1
商法概論 .....	坂 本 延 夫 .....	2 0 1
教育法 .....	市 川 須 美 子 .....	1 9 1
政治学原論 .....	小 野 修 三 .....	2 0 1
国際関係論 1 .....	(前期) 有 賀 貞 .....	3 9 1
	(後期) 竹 田 い さ み .....	
"          2 .....	(前期) 竹 田 い さ み .....	3 9 1
	(後期) 有 賀 貞 .....	

国際法 .....	廣 部 和 也 .....	2 1 9
国際経済論 .....	益 山 光 央 .....	2 2 1
国際政治史 .....	深 谷 満 雄 .....	3 0 1
時事問題研究特殊講義A-1 .....	阿 部 純 一 .....	1 9 5
"                    2 .....	佐 藤 勘 治 .....	3 1 1
時事問題研究特殊講義A-3 .....	奈良本 英 佑 .....	2 1 5
国際関係論特殊講義A .....	若 林 広 .....	2 3 7

## 言語部門

日本語表現法 .....	松 縄 啓 子 .....	3 9 5
日本語教授法 .....	中 西 家 栄 子 .....	3 3 5
日本語学概論 .....	金田一 秀 穂 .....	3 3 1
日本語文法論 .....	城 田 俊 .....	3 3 9
日本語音声学 .....	城 田 俊 .....	3 4 1
日本語教育概論 .....	井 口 厚 夫 .....	3 3 3
日本語史 .....	小 島 幸 枝 .....	3 4 5
対照言語学 .....	中 西 家 栄 子 .....	3 4 3
言語学特殊講義A .....	W. M. Jacobsen .....	2 9 3
日本語学特殊講義A-1 .....	井 口 厚 夫 .....	3 4 7
"                    2 .....	井 口 厚 夫 .....	3 3 7
古典ギリシア語 .....	古 川 堅 治 .....	3 6 9
ラテン語 .....	松 田 治 .....	3 7 0
ドイツ語Ⅰ .....	大 串 紀 代 子 .....	3 4 9
ドイツ語Ⅱ .....	渡 部 重 美 .....	3 5 1
フランス語Ⅰ .....	鵜 澤 恵 子 .....	3 5 2
フランス語Ⅱ .....	渡 沼 英 二 .....	3 5 3
スペイン語Ⅰ (総) .....	野々山 ミチコ .....	3 5 4
	J. L. Velasco .....	3 5 4
スペイン語Ⅰ (L) .....	北 岸 団 .....	3 5 5
	後 藤 雄 介 .....	3 5 5
スペイン語Ⅱ (総) .....	後 藤 雄 介 .....	3 5 6
スペイン語Ⅱ (L) .....	高 松 朋 子 .....	3 5 7
スペイン語Ⅱ (読) .....	北 岸 団 .....	3 5 8
スペイン語Ⅲ (総) .....	北 岸 団 .....	3 5 9
スペイン語Ⅲ (L) .....	佐 藤 勘 治 .....	3 6 0
スペイン語Ⅲ (読) .....	佐 藤 勘 治 .....	3 6 1
ロシア語Ⅰ .....	井 上 幸 義 .....	3 6 2
中国語Ⅰ .....	丸 山 鋼 二 .....	(最初の授業で説明)
中国語Ⅰ .....	秦 敏 .....	3 6 3
中国語Ⅱ .....	陳 跡 .....	3 6 4
朝鮮語Ⅰ .....	朴 勇 俊 .....	3 6 5
朝鮮語Ⅱ .....	朴 聖 雨 .....	3 6 6
アラビア語Ⅰ .....	本 田 孝 一 .....	3 6 7
アラビア語Ⅱ .....	本 田 孝 一 .....	3 6 8

科目名	保健体育講義1	担当者名	久松一恵
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>健康が作られたり、壊されたりする所は家庭、学校、職場、そして地球規模での社会においてである。しかも、生まれてから死ぬまで同一の地域・環境の中で暮す人は少なく、余儀なく、あるいは自ら進んで移動したり、時に外国生活をする機会が増加している。</p> <p>それぞれの文化あるいは文明の中に潜在する健康危険を意識し、必要な保健医療サービスを利用しながら、心身を調整したり、また生活環境に対処する実際的知識を問うこと。</p>	
講義概要	<p>本講義では生活者個人として心得ておくべき健康管理上の問題を、生活環境と心の問題に分けて、取り上げる。</p> <p>前者では、いかなる時代、いかなる所でも、とくに開発途上国では重要な病原微生物による健康障害と、食品の生産・製造・加工技術の高度化及び食品流通の国際化によって危惧される化学物質の安全性、外国へ旅行する場合の留意点について講義し、後者では主として精神不健康・精神障害の予防の視点で、その基本的考え方を述べる。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	厚生統計協会編集・発行『国民衛生の動向』（厚生指標臨時増刊号） 課題に応じてプリントを配布し、参考文献を紹介する。
評価方法	<p>学期末の定期試験による。</p> <p>授業への出席状況も考慮する。</p> <p>受講者が少人数の場合にはレポート提出を課すこともある。</p>	
受講者に対する要望など	講義予定は多少前後することがある。	

# 年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	健康学について
2	健康に関連する用語：健康、不健康、疾病、障害、
3	看護、介護、リハビリテーション、死。
4	食物・飲料水等に起因する疾病の予防
5	食品・嗜好品の安全性（食品添加物、残留農薬）
6	海外旅行と健康：感染症の問題、飛行機旅行、自然環境、携行医薬品等
7	心の健康、その考え方
8	心の不健康(1)
9	心の不健康(2)
10	精神障害の予防
11	健康づくりの実践的課題
12	まとめ
備考	

科目名	保健体育講義2	担当者名	青柳 多恵子
-----	---------	------	--------

講義の目標	<p>近年、健康革命が起こり、人々はタバコ・酒・諸々の薬の人体に及ぼす悪影響について真剣に考え、禁煙に踏切り、よりよい食事や運動に心掛けて病気にならないようにと思い始めた。しかし、現代生活の便利な日常生活が身体に及ぼす影響を考える時、何を成すべきかについてはまだ混乱があるといえる。現実の我々が営んでいる“文化的”なライフスタイルの多くを失わずに、より長く、より健康で、生産的な人生を豊かに生きるための、問題解決を研究することを目標とする。</p>	
講義概要	<p>現代の文明の発達が人間の生活環境や、健康にとって極めて危険な状態にある事と、真の健康の意味を正しく把握し、生涯を通して個々の事態に応じた運動処方の基本をする。真の健康について検証し、その上に立って個人に合った運動プログラムについて作成していく。個々の体力を検証したうえで、栄養の問題・年齢に応じた運動の問題・日常生活の問題点や環境の作り出すストレスと疾病の関わりを考えながら、安全かつ健康な生活のための運動処方を作成する現代のトータルフィットネスに必要な項目を一つずつ検証する。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『大学生の体力テストハンドブック』</li> <li>・『体力科学からみた健康問題』加藤 橋夫著</li> <li>・『日本人の健康観』NHK</li> <li>・『健康・体力づくり』ネット・ローレンス著</li> <li>・『スポーマンの食卓』五明 みさ子著</li> </ul>
評価方法	<p>テストと出席状況による。</p>	
受講者に対する要望など		



# 年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	機械文明の身体に及ぼす功罪について
2	運動不足と健康・疾病との関係
3	体力とは
4	栄養面から見た現代人の健康
5	身体運動から見た現代人の健康
6	疾病から見た現代人の健康
7	スポーツとその運動強度
8	運動処方について [その必要性と在り方]
9	年齢・性差・環境と健康
10	心拍数・エネルギー代謝率・スポーツからみる運動強度
11	個人に合う運動処方と健康維持について
12	まとめ レポート
備考	

科目名	保健体育講義2	担当者名	梶野克之
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>生涯を通じての健康のためには、年齢・体力に応じた身体活動の実践が重要である。人間の社会生活にとって不可欠の文化活動として存在するスポーツ・身体活動の実践により健康の増進と体力の維持向上をはかることが重要になる。これらの課題を解決するために、体育・スポーツに関する情報を理解したうえで、実践に結びつけることが大切である。体育学に関する知識をいろいろな角度から探求し、社会生活にとって重要な基礎的理論を身につけることにより、現在から将来にわたって健康で有意義な社会生活が送れることを目的としたい。</p>		
講義概要	<p>体育学に関する知識についていろいろな角度から解説する。はじめに現代社会の特質とスポーツについて、その現状と問題点についての理解を深める。つづいて体育をめぐる心理学的な側面について、個人・集団にわたって解説する。さらに体育・スポーツの実践にかかわる身体運動について、生理学的な側面から解説し、理解を深める。さらに現代社会をめぐる体力についてその現状を理解するとともに、体力を向上させる各種のトレーニングについて、一般的な原則を考えるとともに、その具体的な方法についても考える。ウエイト・トレーニング、サーキット・トレーニング、インターバル・トレーニング等を取り上げ、理解を深めるとともに実践に結びつけていきたい。</p>		
使用教材	テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 桑野豊編『現代社会とスポーツ』不味堂出版</li> <li>・ 大学保健体育研究会編『大学生の体育と保健』道和書院</li> </ul>	
評価方法	<p>評価は授業への参加態度、出席回数、定期試験の成績を加味して決定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>半期完結科目であるので、前・後期の受講者数を平均化したい。第1回の授業で調整をするので必ず出席して下さい。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要の全般的な説明と、現代社会とスポーツについて考える。現代社会の特質に伴う体力の必要性や、スポーツに対する考え方の社会的背景とその変化などについて解説する。
2	前回に引き続き、生活の中のスポーツについてその現状と問題点を探り、これからの生活の質をめぐっての理解を深めるとともに、今後の課題について考える。
3	体育の心理について考える。体育の心理的側面について、発育・発達の意義、発達段階について考え、さらに身体的機能や運動能力の発達などをとらえて理解する。
4	前回に引き続き、体育における運動学習について考える。学習の意義を考えるとともに、運動技能の能率化について理解し、練習の意味を考えると同時に、その効果について理解する。
5	前回に引き続き、体育における集団の心理について考える。集団として実施される体育活動について、その集団の形成や集団の構造について理解するとともに、集団の機能について理解する。
6	運動の生理について考える。身体活動の生理学的な側面について、運動と呼吸から理解する。呼吸数や換気量を理解したうえで、酸素摂取量やエネルギー代謝などから考え、運動と循環について理解する。
7	前回に引き続き、運動と筋力について考える。筋収縮のメカニズムについて考え、収縮のエネルギー源について理解する。運動を制御する神経系についての理解を深める。
8	前回に引き続き、運動と筋力について考える。筋収縮にともなう疲労の発生について理解するとともに、疲労の要因についての諸説を理解する。
9	体力とトレーニングについて考える。体力の概念について理解を深める。学生の体格・体力について理解するとともに、体力診断についてその方法を理解するとともに意義について考える。
10	前回に引き続き、体力づくりとトレーニングについて、その定義について考え理解を深める。さらにトレーニングの一般的な原則についての理解を深める。
11	前回に引き続き、体力づくりの具体的な方法について考える。筋力にかかわる、ウェイト・トレーニングと、全身持久力にかかわる、サーキット・トレーニングについての理解を深める。
12	前回に引き続き、インターバル・トレーニングやその他のトレーニングについて考える。定期試験の範囲を発表するとともに、出題の傾向について発表する。
備考	

科目名	保健体育講義2	担当者名	松原 裕
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>一人一人が正しい健康観をもち、同時にスポーツや体操やダンスなどの運動の文化的意義を理解するとともに、運動と衛生を具体的に実践することを目標とする。社会人となっても、明るく健やかに過ごすことの大切さを考えて欲しい。</p>		
講義概要	<p>大学における保健体育の目的は、一人一人が正しい健康観をもち、同時にスポーツや体操やダンスなどの運動の文化的意義を理解するとともに、運動と衛生を具体的に実践することです。受講者は、まず自分自身の健康を積極的に保持増進させ、学生生活ばかりでなく社会人となっても、明るく健やかに過ごすことの大切さを真剣に考えてほしいのです。</p> <p>運動についてはいろいろなカリキュラムが組まれていますがその種目には限りがあります。生涯体育に向かって、得意な運動種目についての技能を習得することはもちろんですが、「見て楽しむスポーツ」についても、できるだけ多くの運動について理解しておくことは大切なことですし、幅広い教養人の素養としても価値あることでしょう。</p>		
使用教材	テキスト	『運動文化と体育』 多和健雄編著 共栄出版	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VTR「ヒストリー・オブ・ザ・ワールドカップ VOL2」</li> <li>・VTR「THIS IS THE オーストリアスキー」</li> </ul>	
評価方法	<p>毎時間の出席、受講態度、レポート、テストなどを総合して評価する。遅刻は認めないのでその時間の講義を受講できない場合がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に立ち、「松原裕」というフィルターを通して保健体育の一面を学んで欲しい。常に自己のレベル向上を目指す態度を持ち続けて欲しい。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意
2	健康と運動・健康と疲労
3	サッカーの話
4	スキーの話
5	腰痛と姿勢の基礎
6	余暇とスポーツ
7	実技：ベタンク
8	スポーツとフェアプレー・スポーツと紳士の行為
9	運動技能と大脳生理学
10	実習：心拍数について
11	近代・現代の体育
12	日本の体育
備考	

科目名	体育(94年度以降)・体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前) (インラインスケート〈前期〉/アウトドアレクリエーション海浜型〈集中授業〉)	担当者名	和田 智
-----	----------------------------------------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>前期インラインスケートでは、基本的なスケート技術の習得を目標とする。</p> <p>集中授業アウトドアレクリエーション海浜型では、スキンドайビング、ウインドサーフィン、カヤック、フィッシングに関わる知識・技術の習得を通して、海という自然環境と関わる楽しみを追求していく。</p>		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具、施設の都合から、募集人数は男子20名、女子20名までとする。</li> <li>・インラインスケート実施時にはソックスを必ず用意すること。</li> <li>・インラインスケート、スキンドайビング他は未経験者でも受講可能。ただし、海での活動に支障のある疾患を持つものは受講できない。</li> <li>・集中授業の必要経費(宿泊費・食費・保険料等)として30000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。</li> </ul> <p>集中授業は、期間：平成8年7月26日(金)～30日(火) 4泊5日 場所：新潟県佐渡郡赤泊村菟場(むしろば)海水浴場の予定 現地集合・現地解散とする。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	出席状況(60%)、受講態度(20%)、技術の向上度(20%)で評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意・ストップング
3	歩行からフィアストロック・フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク・バックストロックの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育(94年度以降)・体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前) (アウトドアトレーニング(前期)/アウトドアレクリエーション山岳型(集中授業))	担当者名	和田 智
-----	------------------------------------------------------------------------	------	------

講義の目標	山岳型野外活動の基本的な知識と技術の習得・グループワークトレーニングを前期授業の中で行い、実践の場として集中授業で山へ出かけていく。これらの活動を通して、将来個人で、また家族で、安全で快適に自然を享受できる能力を身につけることを目標とする。		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志賀高原で実施する集中授業に向けて、必要な知識、技術を前期学内の授業でグループワークを中心に学ぶ。集中授業では、ホテルをベースに、毎日変化に富んだコースを歩き、志賀高原の自然を楽しむ。歩くコースはファミリー向けのハイキングコースだが、期間中歩く距離は30～40 kmに及ぶ。</li> <li>・学内の授業は、平常授業時間以外に週末を利用することもある。</li> <li>・集中授業では、日頃から歩きなれていない者にとっては大変つらく感じるかもしれない。そのため、4泊5日乗り越える自信のある者、あるいは挑戦してみたい者の受講を望む。</li> <li>・集中授業は、必要経費(宿泊費・食費・保険料等)として35000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。</li> </ul> <p>集中授業は、期間：平成8年9月4日(水)～8日(日)4泊5日 場所：長野県志賀高原周辺(志賀パレスホテル泊)の予定 現地集合・現地解散とする。</p>		
使用教材	テキスト	ナン	
	参考文献		
評価方法	出席状況(60%)、受講態度(40%)で評価する。		
受講者に対する要望など			



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	グループ編成・グループゲーム
3	班別野外炊事打ち合わせ
4	班別野外炊事 その1
5	マップリーディング
6	コンパスゲーム
7	野外技術 その1
8	野外技術 その2
9	野外技術 その3
10	班別野外炊事打ち合わせ
11	班別野外炊事 その2
12	集中授業についてのオリエンテーション
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育（インラインスケート）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	加藤雅子
-----	------------------------------------------	------	------

講義の目標	フィットネス、レース、ホッケー、スタント等が楽しめるようになる為にインラインスケートの基礎技術を身に付ける。	
講義概要	スケータィングとクロスフォアとバック、ストップ、方向転換、ステップ等を組み合わせて行なえるように技術練習をし、ローラーに乗る位置と感覚を覚える。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席状況、授業態度、技術の向上度、レポートを加味して評価する。	
受講者に対する要望など	動きやすい服装であること。 ソックスは必ず用意すること。 やむを得ない事由の欠席の場合は、できるだけ早く届け出ること。	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間スケジュールおよび履習上の諸注意と、インラインスケートの特性について説明 イメージビデオの視聴。
2	インラインスケートの履き方と、安全面の諸注意。 足踏み、歩行練習。
3	ハの字歩行、フォアひょうたん、ストップの練習（ヒール）
4	フォアスケータリング、片ひょうたんの練習
5	バックの歩行とひょうたんの練習。 Tストップの練習。
6	バックの片ひょうたんの練習。
7	パイロンを使ったフォアのスラロームの練習1
8	パイロンを使ったフォアのスラロームの練習2
9	パイロンを使ったフォアのスラロームの練習3
10	フォアクロスの導入
11	フォアクロスとスケータリングを組み合わせた練習。
12	ローラーホッケーのゲーム。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習。
2	フォアのサーペンタイン。 ターンの練習。
3	バックのサーペンタイン。 フォアのサーペンタイン+バックのサーペンタインを組み合わせた練習。
4	スピンストップの練習。 モホークターンの練習。
5	コンビネーションステップの練習。
6	バッククロス導入。
7	バッククロスとスケータリングを組み合わせた練習。
8	パワーストップの練習。
9	フォア/バックのトランジション（方向転換）
10	ワンフットスラローム。（フォア）
11	ワンフットスラローム。（バック）
12	ローラーホッケーのゲーム。
備考	

科目名	体育（インラインスケート）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	和田 智
-----	------------------------------------------	------	------

講義の目標	インラインスケート基本技術の習得		
講義概要	<p>インラインスケート初心者でも受講可能。</p> <p>スケート靴、プロテクター類はすべて大学で用意している。</p> <p>動きやすい服装で受講すること。</p> <p>ソックスは必ず用意すること。</p>		
使用教材	テキスト	ナン	
	参考文献		
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（20%）、テストの結果（20%）で評価する。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意、ストッピング
3	歩行からフォアストローク・フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク・バックストロークの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習
2	ターン
3	パワースライド
4	フォアクロス その1
5	フォアクロス その2
6	フォアクロス その3
7	ダンスの練習
8	ダンス
9	バッククロス
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

科目名	体育(94年度以降)・体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前) (インラインスケート〈後期〉/スケート〈集中授業〉)	担当者名	和田 智
-----	----------------------------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>後期インラインスケートでは、アイススケートのための基本的なスケート技術の習得を目標にする。集中授業アイススケートでは、冬季の代表的なスポーツであるアイススケート・カーリングの実践を通して知識・技術を身につけることにより、将来に向けての余暇享受能力を開発することを目標とする。</p> <p>集中授業アイススケートでは、後期に実施してきたインラインスケートの技術を活かしながら、基本滑走、アイスフォークダンス、アイスダンス、アイスホッケー、ノルマの達成を通して、フォアクロス、バッククロスまでできることを技術的な目標に置く。カーリングでは、ゲームの楽しさを理解できる程度の知識、技術の習得を目標に置く。</p>	
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インラインスケート実施時にソックスを必ず用意すること。</li> <li>・インラインスケート、アイススケート他の未経験者でも受講可能。</li> <li>・インラインスケートに関わる用具はすべて大学で用意しているが、アイススケートの靴については、自分の靴を準備することが望ましい。(10,000円程度)</li> <li>・集中授業の必要経費(宿泊費・食費・保険料等)として40000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。</li> </ul> <p>集中授業は、期間：平成8年12月18日(水)～22日(日) 4泊5日 場所：長野県軽井沢スケートセンター(塩壺温泉ホテル宿泊)の予定 現地集合・現地解散とする。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法	出席状況(60%)、受講態度(20%)、技術の向上度(20%)で評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意 ストップング
3	歩行からフィアストロック フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク バックストロックの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

科目名	体育（硬式テニス）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	小 俣 充
-----	--------------------------------------	------	-------

講義の目標	テニスというスポーツをどのように理解し、どのような目標を設け、どのように取り組むのかを確定し、その取り組み方に必要なこと（基礎）の獲得を目指す。	
講義概要	アグレッシブ・テニスに必要な基礎（ストロークまたはボレー）と、それぞれの動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。多岐にわたる基礎を簡潔にまとめ、個々に身についた動作の修正を含めて繰り返し練習する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ベスト・テクニック・テニス 日本プロテニス協会編、学習研究社</li> <li>2. テニスのメンタルトレーニング ロバート・S・ワインバーグ、大修館書店</li> <li>3. スポーツを読む 稲垣正浩、三省堂</li> <li>4. インナーゲーム・インナーテニス W.T. ガルウエイ、日刊スポーツ出版社</li> </ol>
評価方法	出席回数をベースにし、テニスにどれほど集中し努力したかにより評価	
受講者に対する要望など	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経験者（中級以上：フォアとバックのストロークおよびボレーがひと通り打てる）のみ受講可。</li> <li>2. 後期に埼玉オープンを見学する予定。</li> </ol>	



# 年 間 講 義 予 定

## 主 要 テ ー マ

前・後期とも受講者の実態と進歩の状況により、次ぎのテーマを順次取り上げる。また個々のプレーを映像でとらえ、研究する。

1. 身体の構えと加重
2. 身体の軸と身体の動き
3. フットワーク
4. グリップ
5. ストロークの原型
6. ラケットのセット
7. ラケットの動き
8. 打点
9. 目線（バックとフォアの見分け）

科目名	体育(硬式テニス)(94年度以降) 体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前)	担当者名	田中茂宏
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	技術的には、フォア、バックハンドの両ストロークを中心にラリーが続けられる様になり、ゲーム形式の練習時ではゲームの進め方、ルールを学ぶ。	
講義概要	<p>ストローク、ボレー、サービスの練習を中心に行い、ゲーム形式の授業時には、結果を記録する。</p> <p>能力別のグループ分けを行い、レベルに応じて授業を進める。</p> <p>ダブルス、シングルのゲームを通してルール、ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>出欠点呼を毎回実施し、遅刻を認めない。</p> <p>雨天時には3棟1階の体育掲示板で集合場所等を指示する。</p> <p>着替えを忘れた者は授業への参加を認めない。</p> <p>見学者は着替えた後出席すること。</p> <p>授業はテニスコートで実施する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法	出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの記録を加味して評価する。	
受講者に対する要望など	クレーコートを使用するので必ずテニスシューズで出席すること。出欠状況は各自で覚えておくこと。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成。
2	準備体操各種と実施上の注意。用具の準備の仕方と片付け方の指示。ストロークを中心にを行う。
3	準備体操の後、ストロークを中心に、ボレー、サービス等の練習を加えていく。
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	ゲームを行い、審判法、ルール、ゲームの進め方を習得する。
11	同上
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	準備体操の後、ストローク、ボレー、サービスの練習を復習する。
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	準備体操、ストローク練習の後、ダブルスのゲームを行い、記録をとる。
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

科目名	体育（硬式テニス）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	土井浩信
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	テニスの授業を通して、体育とは何か、自分にとっての生涯スポーツの在り方とはどんなものであるかを考えていきたい。		
講義概要	テニスに関する技能学習が中心になるが、場に応じた課題を与えていく。スポーツの楽しさ、スポーツにとってのルール、他者観察力、自己観察力、自分自身の身体との対話能力、中心把握のポイント等々、授業を通して課題について考える。		
使用教材	テキスト	なし。※雨天時等に指導ビデオの教材を使用する。	
	参考文献	なし。	
評価方法	授業への出席度とレポートによる評価。		
受講者に対する要望など	テニスコート専用の運動靴（テニスシューズ）着用厳守。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業説明と受講にあたっての諸注意。個人カード作成。
2	ラケットの基本的な持ち方握り方。グループ分け。用具の準備の仕方。 フォアハンドの基本ストロークの学習。 用具の片付けとコート整備の仕方。
3	フォアハンド（手なげトスのボール）。ショートラリー。 バックハンド（手なげトスのボール）
4	サーブ練習の導入。球出し練習。 テニス経験者、ゲーム指導（ローテーション方式）。
5	サービスとサービスレシーブ練習。 連続グランドストロークのポイント式ゲーム導入。
6	ダブルスゲーム（ルールの説明、審判の仕方、ゲームケアのマナー）の導入。円滑なゲーム運営について役割確認。
7	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
8	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
9	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
10	ダブルスゲームのチーム戦開始。
11	ダブルスゲームのチーム戦開始。
12	ダブルスゲームのチーム戦開始。前期のまとめ
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ボレーの基本練習。ショートフライボールのボレー、ロングフライボールのボレー、ライナーボールのボレー連続。 サービス、サーブレシーブの練習。
2	シングルスゲームの導入。ルールの説明、運営方法の確認。
3	シングルスゲームのチーム戦。動き方の基本、ポジショニングの学習。
4	シングルスゲーム・ダブルスゲームのチーム戦。
5	ダブルスゲームのゲーム評価の仕方。動きのチェック。
6	ダブルスゲーム（乱取り形式でのゲーム運営）。 課題「全員が楽しめるテニスのプレイ」
7	ダブルスゲーム（乱取り形式） 課題「視・観・察」
8	ダブルスゲーム（乱取り形式） 課題「自分に最も適した運動リズムとフォーム」
9	ダブルスゲーム 課題「自己観察、他者観察」
10	ダブルスゲーム 課題「中心把握する能力」
11	ダブルスゲーム 課題「自分自身の身体との対話、イメージ能力」
12	一年のまとめと評価。レポート提出。
備考	

科目名	体育（硬式テニス）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	中川 昭
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	主として日常生活における運動不足の解消と健康の保持、増進のために、生涯を通して運動（テニス）に親しんでもらう能力と態度を身につける。	
講義概要	前期は、個々の能力に応じた指導を行うために、初心者と経験者に分かれて練習を行う。初心者はグラウンドストロークの練習を中心に、経験者はアプローチショットやネットプレー等実践的な練習を中心に行う。尚、出来る限り短期間で技術の向上を図るために、ストロークやボレー等のビデオ撮影を行い、個々の欠点を細く分析してゆく予定である。後期は、初心者と経験者を合わせてグループ分けをし、グループごとの対抗戦（ダブルス）を行う。尚雨天時には、トレーニングルームおよび教室にて健康維持のため（減量、成人病予防を含む）の運動処方（運動の種類、強度、頻度等）について講義および実技指導を行う。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	授業への貢献度によって決定する。	
受講者に対する要望など	必ずテニスシューズを着用すること。雨天時にも必ずトレーニングウェアを持参すること。	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（種目の選択、授業に関する注意事項等）。
2	テニスによる傷害（肉離れ、テニス肘等）予防と競技力向上を目的としたストレッチ等の具体的方法について学習する。
3	初心者はグリップの握り方とボールに慣れるための練習（ボールつきなど）を行う。経験者はグランドストロークの練習を中心に行う。
4	初心者はグランドストロークの練習を、経験者は主としてボレーの練習を行う。
5	初心者はグランドストロークの練習とボレーの練習を、経験者は、スマッシュの練習を中心に行う。
6	初心者、経験者に分け、6～8人のグループをつくる。そしてグループごとにストロークやボレーの練習を行う。ビデオ撮影。
7	上記に同じ。また、特に経験者のグループでは、サーブ、スマッシュやアプローチショット、ボレーの組み合わせなどの実践的な練習を中心に行う。ビデオ撮影。
8	上記に同じ。また、同じグループ内でダブルスのゲームを行う。その際、ゲームの進め方、審判の仕方も学習する。
9	上記に同じ。
10	上記に同じ。
11	上記に同じ。
12	グランドストローク、ボレーおよびルールについて簡単な試験を行う。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に学んだ各技術の復習を行う。
2	初心者と経験者を合わせてグループ分けをし、同じグループ内でダブルスのゲームを行い、お互いの実力を確認しあう。
3	グループごとの対抗戦（ダブルス、4～6ゲーム先取の1セットマッチ）を行う。
4	上記に同じ。
5	"
6	"
7	"
8	"
9	"
10	"
11	"
12	サーブと試合を通して実践的技術の試験を行う。
備考	

科目名	体育(硬式テニス)(94年度以降) 体育実技I・II(93年度以前)	担当者名	中沢克江
-----	---------------------------------------	------	------

講義の目標	テニスのゲームを楽しむために基本的技術を習得する。体を動かすことを目的とし、ボールを打ち合いながら受講生同士の親睦を図る。		
講義概要	<p>基本的技術の習得</p> <p>ルール、マナーの理解</p> <p>ゲームを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームはダブルスを行う。</li> <li>・ゲームのペアは、受講生同士の親睦を深めることを目的に組むので、教員が指示する。</li> <li>・技術レベル別リーグ戦では、受講生同士でペアを組み、技術レベル別は自己申告で決める。</li> </ul>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、受講態度、課題の理解度、技術を評価する。</p> <p>受講態度の中には、服装も対象とする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>体育実技に適した服装で受講のこと。</p> <p>クレーコートに適するテニスシューズ必ず用意すること。</p> <p>天候などにより、内容の変更がある。</p>		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：授業に関する説明及び諸注意。個人資料の作成。
2	基礎練習：ラケットの使い方。ボールに慣れる。身体の使い方。等
3	基礎練習：グラウンドストローク。
4	基礎練習：グラウンドストローク。サービス。
5	基礎練習：グラウンドストローク。サービス。ボレー。 応用練習：グラウンドストローク。
6	基礎練習：グラウンドストローク。ボレー。サービス。 応用練習：簡易ゲーム＝ルール説明
7	応用練習：グラウンドストローク。ボレー。サービス。
8	応用練習：ダブルスゲーム＝ゲーム方法の説明。ルール説明。
9	ダブルスゲーム
10	ダブルスゲーム
11	ダブルスゲーム
12	ゲームを中心に、評価を行う。
備考	雨天の時は、内容を変更します。3棟の体育掲示板を見ること。

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	基礎応用練習：グラウンドストローク他。
2	基礎応用練習中心で、ゲームも行う。 ゲームは男女別、男女混合でも行う。
3	ゲーム（ダブルス）中心。 応用練習：グラウンドストローク他。
4	ゲーム（ダブルス）中心。 応用練習：グラウンドストローク他。
5	ゲーム：ダブルス 第7週からの技術レベル別リーグ戦のためのダブルスペア作りの準備。
6	ゲーム：ダブルス 第7週からの技術レベル別リーグ戦のダブルスペアの決定。
7	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
8	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
9	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
10	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
11	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
12	評価を行う。
備考	

科目名	体育（硬式テニス）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	野口昭彦
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>現代社会では科学技術文明の進歩に伴い社会環境が著しく変化してきた。その変化に対して身体運動の重要性が認識され、「健康増進」に深い関心が持たれてきた。また、ストレス解消等さまざまな目的に応じて身体活動を行う社会へと変化してきた。このような現代社会での健康管理は、ただ漠然と運動やスポーツを行うものではなく、各自のライフスタイルや体力に応じ、自分の健康は自分で創り上げていく、ウェルネス（WELLNESS）運動が必要である。以上のことを考慮し、学生時代に運動の基礎を体得し、永い人生に活用できる内容を展開する。</p>	
講義概要	<p>テニスは生涯スポーツとして適切な運動刺激があり、年齢やその人の体力、技能に応じてできるスポーツなので、身体運動の習慣を身に付けることが期待でき、その楽しさを生涯味わうことができる。テニスはメンタルな要素を多く含んでおり、いつでも冷静な判断で精神力や集中力を養い、エチケットやマナーを守り、人々の人間関係を大切にできるスポーツである。また、テニスは技術の取得に経験と時間が必要とされることから、全体を初心、中級、上級の4クラスに分け、各クラスに適した指導を行い、楽しいテニスを取得し、永い人生の生涯体育として、また、社会生活に貢献できることを期待したい。</p>	
使用教材	テキスト	適宜資料を配布する。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『テニス教本』 テニスジャーナル</li> <li>・『先手をとるダブルス2人の役割』 学研</li> <li>・『テニスのメンタルトレーニング』 大修館書店</li> </ul>
評価方法	<p>出席を重視するが、履修態度や運動服装も評価の対象とする。簡単なテストを行う。</p>	
受講者に対する要望など	<p>必ずコートに適合したテニスシューズを各自で用意する事。降雨等でコートが使用不可能の場合は、教室にてビデオまたは、講義を行う。年間講義予定は授業の進行状況により、変更の場合もある。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション。1年間の履修概要説明。
2	基本動作：ラケットグリップの確認（フォア、バック） ボールに慣れる、フットワーク
3	基本動作：技術レベルごとに班編成。グラウンドストローク（フォア）
4	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク（バック）
5	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク。ボレー
6	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク（クロス）、ボレー（ロー、ハイ）
7	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク（逆クロス）、ボレー、スマッシュ
8	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サーブ
9	各班ごとに、ダブルスの試合、審判法、マナー 試合の基本練習
10	各班ごとに、ダブルスの試合、審判法、マナー 試合の基本練習
11	各班ごとに、ダブルスの試合、審判法、マナー 試合の基本練習
12	各班ごとに、ダブルスの試合、審判法、マナー 試合の基本練習
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の基本動作の復習
2	応用動作：グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス
3	応用動作：グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス
4	応用動作：グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス
5	各班ごとに、ダブルス（含ミックス）試合、雁行陣、試合のセオリー説明
6	各班ごとに、ダブルス（含ミックス）試合、雁行陣、試合のセオリー説明
7	各班ごとに、ダブルス（含ミックス）試合、並行陣、試合のセオリー説明
8	各班ごとに、試合。ダブルス（含ミックス）リーグ戦
9	各班ごとに、試合。ダブルス（含ミックス）リーグ戦
10	各班ごとに、試合。ダブルス（含ミックス）リーグ戦
11	各班ごとに、試合。ダブルス（含ミックス）リーグ戦
12	各班ごとに、試合。ダブルス（含ミックス）リーグ戦
備考	

科目名	体育(硬式テニス)(94年度以降) 体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前)	担当者名	松原 裕
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、硬式テニスを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女・技術レベルは問わないが、ダブルスの試合ができるようになることを目標とする。一面6人×6面=36名を定員とし、40名以上は抽選となる。</p> <p>基本技術では、ストロークよりも、サーブ、レシーブ、ボレーに中心をおいて練習する。ゲームの要素を早い時期から取り入れ、分習法よりも全習法が主体となる。コートが使用できない場合には他の場所を使用して練習するか基礎的な理論を講義する。</p> <p>希望者には夏季休業中に合宿を実施する。</p>		
使用教材	テキスト	『テニス教本』 社団法人日本プロテニス協会編	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VTR『突然変わり出す覚え方』 サーブの新打法とネットダッシュ 宮村 宏</li> <li>・VTR『突然変わり出す覚え方』 ネットプレーの新技術 宮村 宏</li> <li>その他</li> </ul>	
評価方法	毎時間の出席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	必ず、コートに適合したテニスシューズを各自で用意する事。常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意
2	個人のビデオ撮影① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
3	個人のビデオ撮影② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
5	技術レベルごとに班編成をし班別に練習② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
6	技術レベルごとに班編成をし班別に練習③ ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
7	技術レベルごとに班編成をし班別に練習④ ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
8	ダブルスの試合の進め方① ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
9	ダブルスの試合の進め方② ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
10	ダブルスの試合の進め方③ ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
11	ダブルスの試合の進め方④ ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
12	テスト ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	個人のビデオ撮影① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
2	個人のビデオ撮影② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
3	技術レベルごとに班編成をし班別に練習① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
5	ダブルスの試合の進め方① ○プレイヤーの戦術的な動き
6	ダブルスの試合の進め方② ○プレイヤーの戦術的な動き
7	技術レベルごとに班編成をして団体戦①
8	技術レベルごとに班編成をして団体戦②
9	技術レベルごとに班編成をして団体戦③
10	技術レベルごとに班編成をして団体戦④
11	技術レベルごとに班編成をして団体戦⑤
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体育（ゴルフ）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	野口昭彦
-----	------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>現代社会では科学技術文明の進歩に伴い社会環境等が著しく変化してきた。その変化に対して身体運動の重要性が認識され、“健康増進”に深い関心が持たれてきた。また、ストレス解消等さまざまな目的に応じて身体活動を行う社会へと変化してきた。このような現代社会での健康管理は、ただ漠然と運動やスポーツを行うものではなく、各自のライフスタイルや体力に応じ、自分の健康は自分で創り上げていく、ウェルネス (WELLNESS) 運動が必要である。以上のことを考慮し、学生時代に運動の基礎を体得し、永い人生に活用できる内容を展開する。</p>		
講義概要	<p>ゴルフは生涯スポーツとして適切な運動刺激があり、年齢やその人の体力、技能に応じプレーが可能のため、身体運動の習慣を身に付けることが期待でき、その楽しさを生涯味わうことができる。また、ゴルフはメンタルな要素を多く含んでおり、いかなる時でも冷静な判断で行動を行なうことで精神力や集中力を養い、人への思いやりや、気配等のエチケットやマナーを守り、周囲の人々の人間関係を大切にすることをスポーツである。以上の様にゴルフは非常に特徴のあるスポーツなので、技術の習得はもとより、ゴルフを通じて生活環境の変化や悪化等にも対応できる、精神力や体力を養い、永い人生での社会生活に貢献できることを期待したい。</p>		
使用教材	テキスト	適宜資料を配布する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・谷口信弘『はじめてのゴルフ』 新星出版社</li> <li>・伊能一郎『ゴルフスウィング、レッスン』 新星出版社</li> <li>・『ゴルフ基本』 学研</li> <li>・田中誠一『ゴルフ上達の科学』 プレジデント社</li> <li>・市村操一『ティーチング・ゴルフ』 ベースボールマガジン社</li> <li>・デビット・レッドベター『ザ・アスレチックスウィング』 ゴルフダイジェスト社</li> </ul>	
評価方法	出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする。また、簡単なテストを行なう		
受講者に対する要望など	<p>降雨等でグラウンドが使用不可能の場合は、教室にてビデオまたは、講義を行なう。5月下旬から学外のゴルフ練習場で行う。ゴルフシューズか運動靴を使用すること。年間講義予定は授業の進行状況により、変更の場合もある。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の履修概要の説明。
2	基礎知識＝エチケット、マナー、服装、クラブ構造と用途について。
3	前期は基礎技術を中心に行なう＝クラブの握り方、左手、右手の握り方、グリップとクラブフェスの関係について。
4	スタンス（身体の構え）＝両足と上体の構え、左腕、右腕の構え方、両足とボールの位置関係を中心に行なう。
5	正しいアドレスの入り方＝ボールの後方から球筋を見る、右手で目標ラインに合わせる、飛球線と平行に構える等を中心に行なう。
6	正しいスイングの基本＝スイングのスタート、バックスイングのトップ、ワンピーススイング等について行なう。
7	正しいスイングの基本＝ダウンスイングの開始、インパクト、フォロースルー等について行なう。
8	スイングの弧とショットの関係＝スイングの弧とボール位置、円軌道のタイプと飛球方向等について行なう。
9	タイミングの実際＝ダウンスイングの開始とタイミング、タイミングとリズムの関係を中心に行なう。
10	ミドルアイアの練習＝前回までの学習を踏まえて、ゴルフ練習場にて練習球を使用しての練習。
11	ミドルアイアの練習＝確実にヒットすることを目標に。
12	ミドルアイアの練習＝ダウブローを中心とした打ち込み。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業で行なった練習の復習。
2	ショートアイアの練習＝目標に対して正確に打つ練習。
3	アプローチショット＝ピッチエンドラン、ランニングアプローチ、ピッチショット等コントロールを必要とする練習を中心に行なう。
4	ロングアイアンの練習＝苦手意識を捨てる事の練習を行なう。
5	ドライバー＝構えとボールの位置、アッパーブローに打つ、力まず力を抜いて打つ練習を中心に行なう。
6	フェアウェイウッド＝ドライバと同様の練習。
7	5、6週目と同じ練習。
8	応用スイング＝基本スイングを変化させ、応用スイングの知識を知る練習を行なう。
9	8週目と同じ練習。
10	各クラブの基本スイングを変化させ、応用スイングにて実践的な練習を行なう。
11	10週目と同じ練習。
12	10週目と同じ練習。
備考	

科目名	体育(ゴルフ)(94年度以降) 体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前)	担当者名	山中邦夫
-----	------------------------------------	------	------

講義の目標	ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。	
講義概要	ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズムカルなスイング、さらには力強いスイングができるよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。	
使用教材	テキスト	特になし。
	参考文献	
評価方法	授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。	
受講者に対する要望など	欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。登録時に、練習場のボール代(10,000円)を払込むこと。ゴルフクラブは各自で、靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。	



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ゴルフ競技の概要 (VTRと講義)
3	スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)
4	スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)
5	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットボードゴルフも行なう。
6	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットボードゴルフも行なう。
7	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットボードゴルフも行なう。
8	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
9	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
10	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
11	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
12	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
2	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
3	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
4	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
5	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
6	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
7	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
8	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
9	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
10	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
11	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
12	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
備考	

科目名	体育(ゴルフ)(94年度以降) 体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前)	担当者名	吉田卓司
-----	------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得して欲しい。</p>		
講義概要	<p>ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をVTRビデオにより学習する。前期は主として、クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック、ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>後期は、はじめから、ゴルフ練習場にて、実習する。雨天にかかわらず実習可能なので、直接ゴルフ場に集合すること。ショートアイアン、ミドルアイアンの打法と1番・3番ウッドの打法を習得する。TVビデオを使用して、個人個人のスイングをチェック指導の予定である。</p>		
使用教材	テキスト	ナシ	
	参考文献	ナシ	
評価方法	<p>出席を重視し、普段の履習態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドの2回実施する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること(汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため)</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ゴルフの歴史と正しいマナーについて
3	基本的技術の TV ビデオ鑑賞
4	ショートアイアン (8, 9, PW, SW) のスウィング (グリップ、スタンス、アドレス、スウィングの方法をを習得する)
5	(学内でプラスチック・ボールを使用して実習)
6	(各人の個別指導) (正しいグリップ、スタンスの巾、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法)
7	
8	ゴルフ練習場にて実習 ショートアイアン ミドルアイアン 基本的なスウィングと打球
9	(反復練習)
10	(個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック)
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ゴルフ練習場にて、実習
2	アイアンショット (3, 5, 7, 9, PW, SW) 練習 (個別指導とフォームのチェック)
3	1番ウッド (ドライバー) 3番ウッド (スプーン) の打法と練習
4	(ロングアイアン3, 4) ショット練習
5	
6	TV ビデオを使用して、個人個人のスウィングをチェック指導
7	
8	
9	
10	テスト (アイアン、及びウッド) 及び実習
11	
12	
備考	

科目名	体育(サッカー)(94年度以降) 体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前)	担当者名	田代力也
-----	-------------------------------------	------	------

講義の目標	技術の習得、体力の向上をめざす。チームゲームの中で協調性を高める。正しいルールと、フェアで安全なプレイを学ぶ。	
講義概要	さまざまな基本練習から、攻撃、守備の展開、ゲームへと移行する。ゲーム毎にポイントを与え、確認する。 グラウンド不良時には、ビデオ等により、さまざまな角度からサッカーを学習する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、チームの中での協調性を評価する。	
受講者に対する要望など	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。	

科目名	体育（サッカー）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	田中茂宏
-----	-------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>ゲーム形式中心の内容を通して、ゲームの進め方、ルールを学ぶ。</p> <p>グループ別の練習を取り入れて、基礎的な技能の向上をねらう。</p> <p>各チームが均等になる様に分けてリーグ戦を行う。</p> <p>ゲームでは、主審、ラインズマンをつけて行う。（各自、1度は経験する）</p>	
講義概要	<p>ゲーム中心で行うが、ゲームの中でボールを扱える様に個人、チームでの練習を行う。</p> <p>ビデオ等でルールの審判のやり方を学び、ゲームで実際に経験する。</p> <p>出欠呼を毎回実施し、遅刻を認めない。</p> <p>雨天時には、3棟1階の体育掲示板で集合場所等を指示する。</p> <p>着替えを忘れた者は授業への出席を認めない。</p> <p>見学者も更衣の後に出席すること。</p> <p>授業はサッカー場で実施する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法	<p>出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果を加味して評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>出欠状況は各自で覚えておくこと。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と授業内容の説明、個人の資料の作成。
2	準備体操と実施上の注意。用具の準備と片付け方の指示。 基礎的な練習を行い、ゲームを行う。
3	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
4	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
5	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
6	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
7	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
8	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
9	チーム対抗戦を行う。主審、ラインズマンをつけて、成績を記録する。
10	チーム対抗戦を行う。主審、ラインズマンをつけて、成績を記録する。
11	チーム対抗戦を行う。主審、ラインズマンをつけて、成績を記録する。
12	チーム対抗戦を行う。主審、ラインズマンをつけて、成績を記録する。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	準備体操、ボールを使用して個人、チームでの練習を行う。ゲームを行う。
2	準備体操、ボールを使用して個人、チームでの練習を行う。ゲームを行う。
3	準備体操、ボールを使用して個人、チームでの練習を行う。ゲームを行う。
4	準備体操、ボールを使用して個人、チームでの練習を行う。ゲームを行う。
5	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
6	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
7	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
8	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
9	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
10	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
11	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
12	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
備考	

科目名	体育(サッカー)(94年度以降) 体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前)	担当者名	松本光弘
-----	-------------------------------------	------	------

講義の目標	サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して体力の向上も合わせて目標とする。 内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることを最終目標とする。	
講義概要	サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。 雨天時には体育館で実技を行うか、教室にてVTRを利用した講義を行う。	
使用教材	テキスト	特になし
	参考文献	特になし
評価方法	出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進捗度を含め総合的に評価する。	
受講者に対する要望など	ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を要望する。	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション、種目分け
2	体力測定、12分間走 簡単なゲーム
3	技術練習と HALF ゲーム
4	技術練習と HALF ゲーム
5	技術練習と HALF ゲーム
6	ルールの解説 (講義)
7	個人戦術と HALF ゲーム
8	個人戦術と HALF ゲーム
9	個人戦術と HALF ゲーム
10	グループ戦術と HALF ゲーム
11	グループ戦術と HALF ゲーム
12	サッカーの歴史 (講義)
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	チーム戦術とミニゲーム
2	チーム戦術とミニゲーム
3	チーム戦術とミニゲーム
4	攻撃におけるグループ戦術とミニゲーム
5	守備におけるグループ戦術とミニゲーム
6	グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム
7	グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム
8	フルゲーム
9	フルゲーム
10	フルゲーム
11	フルゲーム
12	フルゲーム 評価
備考	



科目名	体育 (94年度以降)・体育実技Ⅰ・Ⅱ (93年度以前) (スキートレーニング〈後期〉/スキー〈集中授業〉)	担当者名	松原 裕
-----	-----------------------------------------------------------	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、アルペンスキーを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女・技術レベルは問わないが、アルペンスキーの基本を理解し、身に付けることを目標とする。学内の授業では、ローラーブレード等のバランス感覚とストックワーク・基本姿勢などを学ぶ。</p> <p>スキー実習は2月下旬秋田県田沢湖スキー場を予定している。費用は交通費、レンタルを除いて40,000円の予定。</p>		
使用教材	テキスト	『ベーシック・スキー・テキスト』 板垣和男/佐々木明男著	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VTR『THIS IS THE オーストリアスキー』</li> <li>・VTR『スキー王国の上達マニュアル1』</li> <li>・VTR『スキー王国の上達マニュアル2』</li> <li>その他</li> </ul>	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	学内、集中ともに適合した用具を各自で用意する事。常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。集中授業で団体生活ができる事。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ホリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意 *第2週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ローラーブレード① ○サイズ合せ ○基本滑走
2	ローラーブレード② ○デモビデオでのイメージトレーニング ○基本滑走
3	ストックワーク① ○直滑降姿勢・曲げプルーク・伸しプルーク ○ストックワーク
4	ストックワーク② ○ターンイメージの中でのストックワーク
5	ローラーブレード③ ○滑走しながらのストックワーク
6	ローラーブレード④ ○スラローム滑走しながらのストックワーク
7	ローラーブレード⑤ ○ベア滑走でのシンクロ・逆シンクロ
8	ストックワーク③ ○正しい姿勢の反復練習
9	総合練習
10	スキー実習のオリエンテーション① ○テキスト配布 ○スキー指導法 ○スキーの基本理論
11	スキー実習のオリエンテーション② ○スキーの基本理論・応用 ○スキー実習実施上の注意
12	スキー実習のオリエンテーション③ ○スキーの基本理論・応用 ○スキー実習実施上の注意
備考	

科目名	体育(94年度以降)・体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前) (スキー検定トレーニング〈後期〉/スキー検定〈集中授業〉)	担当者名	松原 裕
-----	-------------------------------------------------------------	------	------

講義の目標	『大学は学問を通じての人間形成の場である』という建学の理念に基づき、SAJ基礎スキー技能テスト(級別テスト)を通じてフェアプレーの基本を多角的に考え、スキーを理解し、個人のレベルアップを目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女は問わないが、技術レベルとしてはリフトに乗って中斜面を滑った程度を目安とする。</p> <p>学内の授業では、ローラーブレード等のバランス感覚、ストックワーク・基本姿勢などを学ぶ。40名以上は抽選となる。</p> <p>スキー実習は12月26日(木)～30日(月)4泊5日長野県斑尾高原サンパティックスキー場を予定している。29日(日)に級別テスト(1級～5級)を実施する。</p> <p>実習参加費は、交通費・レンタルを除いて42,000円を予定している。</p>		
使用教材	テキスト	『日本スキー教程』 全日本スキー連盟編	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VTR『基礎スキー検定』</li> <li>・VTR『スキー王国の上達マニュアル1』</li> <li>・VTR『スキー王国の上達マニュアル2』</li> <li>・その他『WOWOWスキーレッスン』等</li> </ul>	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	<p>教員、受講学生、お互いの努力で実のある授業となるようにしたい。</p> <p>この授業がいろいろな意味でキッカケになってくれれば良い。</p> <p>集中授業で団体生活ができる事。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成（写真添付） ○授業実施上の諸注意 *第2週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ローラーブレード① ○サイズ合せ ○基本滑走
2	ローラーブレード② ○基本滑走 ○ストックワーク
3	ローラーブレード③ ○基本滑走 ○ストックワーク 曲げ・伸し
4	ローラーブレード④ ○ターンイメージの中でのストックワーク
5	ストックワーク① ○直滑降姿勢 ○曲げブルーク・伸しブルーク
6	ストックワーク② ○ターンイメージの中でのストックワーク
7	ストックワーク③ ○ペアでのシンクロ・逆シンクロ
8	スキー検定に関する講義① ○検定基準 ○スキー用語
9	スキー検定に関する講義② ○スキー用語のテスト ○実習事務連絡
10	スキー検定に関する講義③ ○スキー用語のテスト結果 ○実習事務連絡確認
11	スキー実習の反省
12	
備考	

科目名	体育（ソーシャルダンス）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	青柳多恵子
-----	-----------------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>日常生活が西洋化されているにも関わらず、所作やダンスに対する考え方は日本的な領域から脱皮していない。また、国際的マナーの一つとしてのボディコミュニケーションである考え・話し・聞く・話すことの一部としてダンスを身につけることを目標とする。</p>	
講義概要	<p>ソーシャル・ダンスの初歩の歩行から、ワルツ・タンゴ・ルンバ・チャチャなどの技術的なことと同時に、踊るための体力の養成をし、踊ることの楽しさと、音楽によって自由に動けるテクニックを訓練する。しかし、特殊な難しいことでなく、歩ける人と音楽を楽しむ人であれば誰でも出来る、また楽しい生涯体育の一つです。</p>	
使用教材	テキスト	ソーシャルダンス基礎編
	参考文献	
評価方法	<p>出席を重視する。ただし、ワルツ・ルンバをマスターする事。</p>	
受講者に対する要望など	<p>ダンスは男女同数しか受け付けません。 ダンスシューズを購入してください。</p>	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業概要の説明
2	ダンスの歩行・ステップの説明 ブルース・マンボのリズムにのって
3	ワルツ・ブルース・マンボ
4	ワルツ (チェンジステップ・ナチュラルターン) ブルース・マンボ
5	ワルツ (チェンジステップ・ナチュラルターン) ブルース・マンボ
6	ルンバ (スクエア) ブルース (クォーターターン)
7	ルンバ (スクエア) ブルース (クォーターターン)
8	VTR タンゴ・ワルツ・ブルース・ルンバ
9	タンゴ (リンク・) ワルツ・ブルース・ルンバ
10	チャチャ・ジャイブ
11	チャチャ・ジャイブ
12	VTR 撮影 総まとめ
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習 ステップの解説
2	前期の VTR の解説 ワルツ・ジャイブ・ルンバ
3	ワルツ (スピントーン・フィスク) キュウバンルンバ
4	ワルツ (スピントーン・フィスク) キュウバンルンバ
5	チャチャ・キュウバンルンバ
6	チャチャ・キュウバンルンバ
7	VTR ジャイブ・
8	VTR ワルツ
9	VTR ルンバ
10	VTR ブルース
11	VTR 総まとめ
12	VTR 映写 解説
備考	

科目名	体育（ソフトボール）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	池 垣 功 一
-----	---------------------------------------	------	---------

講義の目標	正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。		
講義概要	前期の前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。後期は試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	評価は体育実技評価規準により、出席点に技能点、総合点（態度・努力・服装等）を加味して行なう。		
受講者に対する要望など	前・後期とも、雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間スケジュールおよび履修上の諸注意と、ソフトボールの特質、ルール等について説明
2	キャッチボール（ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム） ピッチング（スリングショット投法）
3	ピッチング（スリングショット投法の復習およびウインドミル投法） トスバッティング
4	ピッチング（各種投法の復習） ハーフバッティング
5	守備練習（基本的なゴロと飛球の捕り方） フリーバッティング
6	守備練習（各ポジションの守備方法） シートノック
7	ベースランニングおよびスライディングの練習 バント練習（内野手の連けいプレー）
8	シートノックによる守備練習（ダブルプレーの練習） ゲーム形式のバッティング練習
9	審判の方法についての説明 チームの編成(1)（ポジション・打順を決める） 練習試合
10	チーム練習（試合前の、シートノック） 試合 A～B、C～D
11	チーム練習（トスバッティング） 試合 A～C、B～D
12	チーム練習（バント） 試合 A～D、B～C
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に学習した内容の総合的練習(1) 審判方法の復習
2	前期に学習した内容の総合的練習(2) スコアブックのつけ方についての説明
3	チーム編成(2)（以下、各々試合3回ごとに編成をかえる） 練習試合
4	チーム練習（毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ） 試合 E～F、G～H
5	チーム練習 試合 E～G、F～H
6	チーム練習 試合 E～H、F～G
7	チーム編成(3) チーム練習 試合 I～J、K～L
8	チーム練習 試合 I～K、J～L
9	チーム練習 試合 I～L、J～K
10	チーム編成(4) チーム練習 試合 M～N、O～P
11	チーム練習 試合 M～O、N～P
12	チーム練習 試合 M～P、N～O
備考	



科目名	体育（ソフトボール）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	田代力也
-----	---------------------------------------	------	------

講義の目標	ソフトボールの正しいルールの理解と、チームプレイによる協調性を育くむ。また体力、運動能力の向上、技術のかく得をめざす。	
講義概要	打撃、守備の基本練習からゲームに移行する。時限毎にゲームのポイントを指摘して確認する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、チームの中での協調性について評価する。	
受講者に対する要望など	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。	

科目名	体育（ソフトボール）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	萩野元祐
-----	---------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p>	
講義概要	<p>初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数7回以上の者については評価の対象としない。</p> <p>交通機関及び体調などやむえない理由以外の遅刻は認めない。</p>	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（体育館）。 登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成など。
2	ソフトボールの歴史、特性、競技場、基本ルールなどの説明。 個人技能練習、ボールの握り方、キャッチボールの送球、捕球の基本練習。
3	前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
4	バッティング、バットの握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。 独自ルールでゲームの実習。
5	前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
6	前回までの復習。 バンドのグリップ、スタンス、セフティバンドなどの練習。 独自ルールでのゲーム実施。
7	守備における送球、補球（ゴロ、フライ）練習。 独自ルールでゲームの実習。
8	前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
9	投手のボールの握り方と投法練習。 独自ルールでゲームの実習。
10	前回の復習。 4チームによるリーグ戦。（A対B、C対D）
11	前期の復習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
12	ゲームの攻防を通してテスト。 リーグ戦、（A対D、B対C）
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習。 独自ルールでゲームを実施。
2	上記と同じ。
3	集団技能（守備）、ベースカバーを練習。 4チームによるリーグ戦。（A対B、C対D）
4	前回の復習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
5	集団技能（守備）、リレープレイを練習。 リーグ戦、（A対D、B対C）
6	前回の復習。 リーグ戦2巡目、（A対B、C対D）
7	集団技能を復習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
8	スクイズプレイの練習。 リーグ戦、（A対D、B対C）
9	ダブルプレイの練習。 リーグ戦3巡目、（A対B、C対D）
10	前回の復習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
11	リーグ戦、（A対D、B対C）
12	ゲームの攻防を通してテスト。
備考	

科目名	体育(94年度以降)・体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前) (ソフトボール〈後期〉/スキー〈集中授業〉)	担当者名	田代力也
-----	------------------------------------------------------	------	------

講義の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトボール</li> <li>打つ、走る、捕える、投げる等の基本運動能力を高める。</li> <li>チームゲームを通じて協調性を高める。</li> <li>・スキー</li> <li>生涯スポーツとしてのスキーを認識する。</li> <li>理論と実技の中で、技術の習得、安全なスキーを学ぶ。</li> </ul>		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトボール</li> <li>打撃、守備の基本練習からゲームに移行する。時限毎にゲームのポイントを指摘し確認する。</li> <li>・スキー</li> <li>体力、技術程度により班別講習を行なう。“スキーはリズム”をテーマとする。ビデオ撮りによって各自のすべりの分析を行ない、技術向上への資料とする。ソフトボールと並行してスキーのためのトレーニングを行なう。</li> </ul>		
使用教材	テキスト	ベーシック・スキー・テキスト 板垣和男/佐々木明男：共著 千早書房	
	参考文献		
評価方法	出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、またソフトボールについては、チームの中での協調性について評価する。		
受講者に対する要望など	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。		

科目名	体育（卓球）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	天野和彦
-----	-----------------------------------	------	------

講義の目標	卓球の基本的知識を学習するとともに、技能の向上をはかる。		
講義概要	ゲームを中心に行い、その中で、ルール、打法、ゲームのすすめ方を紹介する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出欠、授業態度、さらに技能の進歩などを考慮して決定する。		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ラリーの連続を行うために①——コントロール
3	ラリーの連続を行うために②——サービスとレシーブ
4	シングルの簡易ゲームを行い、グループ編成をする。
5	シングルの簡易ゲームを行い、グループ編成をする。
6	グループ別でのシングルスゲーム
7	グループ別でのシングルスゲーム
8	グループ別でのシングルスゲーム
9	上級者と初級者のペアで、ダブルスの練習
10	ダブルスゲームのリーグ戦
11	ダブルスゲームのリーグ戦
12	ダブルスゲームのリーグ戦
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ラリーの連続を行うために③——いろいろな打法
2	全員によるシングルストーナメント
3	全員によるシングルストーナメント
4	能力別でのダブルスゲーム
5	能力別でのダブルスゲーム
6	能力別でのダブルスゲーム
7	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
8	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
9	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
10	全員によるダブルストーナメント
11	全員によるダブルストーナメント
12	
備考	

科目名	体育(卓球)(94年度以降) 体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前)	担当者名	太田朝博
-----	-----------------------------------	------	------

講義の目標	<p>台球は、老若男女を問わずだれでも手軽にでき、生涯を通して楽しめるスポーツである。又、他の競技に比較して、コートがせまく、ボールも小さく軽いので、非常にスピーディーな対応が要求される。さらに対人競技であるから、勝負におけるかけひきも重要となる。したがって技術の習得と並行して、敏しょう性、持久力、脚力などの体力と、精神的にも鋭い反射神経や決断力を養なう。</p>		
講義概要	<p>基本的技能を繰り返し練習し、それをしっかりと身につけ、スピード感のある動きの習得と高度なゲーム展開ができるようにする。</p> <p>又、ダブルスゲームでは互いのコンビネーションを身につけ、互いに打ち合うおもしろさと、パートナーと協力して相手とゲームをする方法を身につける。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席点を中心として評価し、授業態度、技能の進歩などを加味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人的技能＝フォア・バックロング、カット、スマッシュ、サーブ</li> <li>・ゲーム結果</li> </ul> <p>欠席時数7回以上の者に対しては、評価の対象としない。</p>		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成
2	<b>個人的技能</b> グリップ [シェイク・ペン]、素振り サーブ、サーブレシーブ
3	フォアロング、バックハンドロング—スマッシュ フォアショート、バックショート
4	カット 等の習得
5	
6	基本的技能の反復 <b>応用的技能</b> 基本的技能の連携とラリー ラリーにより数多くの打込みを行ないその中で動きを身につけて行く。
7	
8	
9	
10	
11	<b>簡易ゲーム</b> ・シングルスゲームの動きと戦法 ・ダブルスゲームのコンビネーション
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	基本的技能 } の反復練習 応用的技能 }
2	各自で不得手としている技術を中心に練習を行なう。 <b>リーグ戦</b>
3	シングルスゲーム 個々にゲームを展開し、その結果を記録する。
4	
5	
6	
7	
8	ダブルスゲーム 固定のペアを組みゲームを展開し、その結果を記録する。
9	
10	
11	
12	
備考	



科目名	体育(卓球)(94年度以降) 体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前)	担当者名	小川 又八朗
-----	-----------------------------------	------	--------

講義の目標	卓球を通じて、運動をする習慣を身につけ、生涯体育として健康の維持増進をはかるとともに、卓球の基本動作、ルールなどについても勉強し技能の向上を計るとともに、社会生活の中でもそれらを活用できるようにすることをめざす。		
講義概要	卓球についてのビデオを見て、基本練習を通じてラリーを続けられるようにし、集中力を養う。また、サービスとレシーブの重要性を理解させ簡単なゲームができること、審判ができるようにルールについても勉強していく、ゲームは、簡単なものから、個人ゲーム、ダブルスゲーム、団体対抗ゲームと進めていく。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	特になし。	
評価方法	評価は出席点を中心とし、技能の進歩の度合、平素の授業態度、特に服装の適否なども加味して行なう。尚欠席が7回以上の者は、評価はFとする。やむを得ず欠席した場合はできるだけ早く口頭で届け出ること。		
受講者に対する要望など	欠席、遅刻はしないこと。服装は体育に適したもの、Gパンは認めない。靴も、ゴム底の運動靴を使用すること。用具については、大学で用意するが、ラケットはできるだけ各人で用意すること。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と、個人の資料作成、授業内容の説明。
2	教室でビデオを見て、基本的知識を修得する。
3	準備運動の実施方法、簡単な能力テストをし、能力別のグループ作成、ルールについて説明。
4	シングルのゲーム（リーグ戦）、初心者は、基本練習。
5	シングルのゲーム（リーグ戦）、初心者は、基本練習。
6	シングルのゲーム（リーグ戦）、初心者は、基本練習。
7	シングルのゲーム（リーグ戦）、初心者は、基本練習。
8	ダブルスのゲーム（リーグ戦）。
9	ダブルスのゲーム（リーグ戦）。
10	ダブルスのゲーム（リーグ戦）。
11	ダブルスのゲーム（リーグ戦）。
12	全員を抽選により、トーナメント試合。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	トーナメント試合。
2	トーナメント試合。
3	トーナメント試合。
4	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
5	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
6	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
7	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
8	シングルス及び、ダブルスゲーム。
9	シングルス及び、ダブルスゲーム。
10	シングルス及び、ダブルスゲーム。
11	シングルス及び、ダブルスゲーム。
12	技能テスト。
備考	

科目名	体育(卓球)(94年度以降) 体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前)	担当者名	奥野忠枝
-----	-----------------------------------	------	------

講義の目標	卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。 ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。	
講義概要		
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。	
受講者に対する要望など		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認 授業内容の説明と諸注意 個人資料の作成
2	競技場と用具について（準備と片付け方） ラケットの種類、持ち方
3	ボールの打ち方 ラリーの連続を行う。 ミニ試合
4	サービス、レシーブの練習 ミニ試合
5	バックハンド フォアハンドの練習 シングルの試合方法と試合
6	サービスについて ボールの回転とラケットの動きを練習 シングルス試合
7	審判法について学ぶ
8	ダブルス競技のルールを学ぶ ダブルスミニ試合
9	グループでリーグ戦形式のダブルス試合
10	上記に同じ
11	シングルス試合
12	前期のまとめ シングルス試合
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習 基本の動き シングルス試合
2	カットについて学ぶ シングルス試合
3	マナーについて 悪いマナー 良いマナー
4	ダブルの作戦おパートナーとの動きについて
5	グループでダブルの試合
6	上に同じ
7	上に同じ
8	上に同じ
9	シングルのトーナメント試合
10	シングルス ダブルスにわかれて試合
11	総復習
12	総復習と反省
備考	

科目名	体育（卓球）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	本田 稔 祐
-----	-----------------------------------	------	--------

講義の目標	卓球を通じて、運動をする習慣を身につけるとともに、卓球の基本動作、ルールなどを学習して、技能も向上させ、将来それらが健康の維持増進のために役立つようにすること。	
講義概要	卓球についてのビデオを見て、基本練習を通じてラリーを続けられるようにし、サービス、レシーブの重要性を理解するとともに、ゲームと審判ができ、簡易ゲーム、シングルス、ダブルス、団体対抗ゲームなども体験させる。	
使用教材	テキスト	特になし
	参考文献	特になし
評価方法	評価は出席点を中心とし、平素の授業態度、服装の適否、技能の進歩の度合などを加味して行う。なお欠席が7回以上の者は、評価はFである。	
受講者に対する要望など	欠席、遅刻はしないこと。服装は運動着以外は認めない、靴もゴム底の運動靴を使用のこと。卓球用具は、大学で用意するが、できればラケットは各人で用意した方が望ましい。欠席などの届けは、口頭でよい。	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業内容の説明と授業登録の確認、個人の資料作成など。
2	教室でビデオを見て、基本的知識、基本動作の理解。
3	能力テストによりグループ分け、基本練習。
4	シングルスゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
5	シングルスゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
6	シングルスゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
7	シングルスゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
8	ダブルスゲーム（リーグ戦）
9	ダブルスゲーム（リーグ戦）
10	ダブルスゲーム（リーグ戦）
11	ダブルスゲーム（リーグ戦）
12	全員でのトーナメント試合
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	トーナメント試合
2	団体対抗のリーグ戦
3	団体対抗のリーグ戦
4	団体対抗のリーグ戦
5	団体対抗のリーグ戦
6	団体対抗のリーグ戦
7	ダブルスゲーム（リーグ戦）
8	ダブルスゲーム（リーグ戦）
9	ダブルスゲーム（リーグ戦）
10	ダブルスゲーム（リーグ戦）
11	ダブルスゲーム（リーグ戦）
12	技能テスト
備考	

科目名	体育（軟式野球）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	太田朝博
-----	-------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>野球は、守備と攻撃を規則的に交代しあってゲームを展開し、一定回数内の得点を競い合うスポーツである。投球、捕球、打撃、走塁などの基本的な個人技術を習熟するとともに、スタイズ、バントエンドラン、ヒットエンドランなどの攻撃法やバントシフト、ピックオフプレー、カットプレーなどの防御法を通して集団的技能を身につける。これらのことを基礎にして、ゲームでは、個人的、集団的技能を生かした作戦をたてて組織的なゲーム展開が出来るようにする。</p>		
講義概要	<p>個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、スピード感のある高度なゲーム展開が出来ることを目指し授業を進める。</p> <p>雨天等で実技が出来ない時はルールの解説、スコアのつけ方、ビデオなどを見て学習。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席点を中心にして評価し、授業態度、技能の進歩などを加味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人的技能——捕球——送球 遠球 打撃</li> <li>・ゲーム結果——（集団、個人技能）等を総合的に見て評価する。</li> </ul> <p>欠席時数7回以上の者に対しては、評価の対象としない。</p>		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成
2	<b>個人的技能</b> 基本技能 キャッチング
3	スローイング 1対1での正確な技能の習得 バッティング ノックとトスバッティング、バッティングをしっかりと身につける
4	ピッチング
5	
6	<b>集団的技能</b> 連携プレー 攻撃＝バント及びヒットエンドラン
7	タッチアッププレー 守備＝フォースプレー
8	ダブルプレー バント処理と野手の動き
9	カバーリング あらゆるプレーに対するフォーメーション
10	ルールの解説とスコアのつけ方（ワンプレーに対する判定法）
11	<b>簡易ゲーム</b> 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	<b>個人技能</b> } の反復練習 <b>集団技能</b> }
2	キャッチング トス、フリーバッティング <span style="float: right;"><b>ゲーム</b></span>
3	個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくなり にチーム編成し、リーグ戦を行なう。
4	シフト打撃 ピッチング
5	スコアをつけ個人の打撃成績（打率・盗塁・打点など） を集計し技能を競い合う。
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	



科目名	体育（軟式野球）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	萩野元祐
-----	-------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、軟式野球を楽しむということも目標のひとつである。</p>		
講義概要	<p>初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、軟式野球の特性や、技術、戦術を高める。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数7回以上の者については評価の対象としない。</p> <p>交通機関及び体調などやむえない理由以外の遅刻は認めない。</p>		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（体育館）。 登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成など。
2	軟式野球の歴史、特性、競技場、基本ルールなどの説明。 個人技能練習、ボールの握り方、キャッチボールの送球、捕球の基本練習。
3	前回の復習。 バッティング、バットの握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。
4	前回の復習。 ゲーム形式で練習。
5	バンドのグリップ、スタンス、セフティバンド ゲーム形式で練習。
6	前回の復習。 ゲーム形式で練習。
7	投手のボールの握り方と投法練習。 4チームによるリーグ戦。（A対B、C対D）
8	守備における送球、補球（ゴロ、フライ）練習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
9	前回の復習。 リーグ戦、（A対D、B対C）
10	集団技能（守備）、ベースカバーを練習。盗塁、盗塁阻止練習。 リーグ戦2巡目、（A対B、C対D）
11	前回の復習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
12	ゲームの攻防を通してテスト。 リーグ戦、（A対D、B対C）
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習。 練習形式のゲーム。
2	上記と同じ。
3	集団技能（守備）、バックアップを練習。 チームによるリーグ戦。（A対B、C対D）
4	前回の復習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
5	集団技能（守備）、リレープレイを練習。 リーグ戦、（A対D、B対C）
6	前回の復習。 リーグ戦2巡目、（A対B、C対D）
7	集団技能を復習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
8	スクイズプレイの練習。 リーグ戦、（A対D、B対C）
9	ダブルプレイの練習。 リーグ戦3巡目、（A対B、C対D）
10	前回の復習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
11	リーグ戦、（A対D、B対C）
12	ゲームの攻防を通してテスト。
備考	

科目名	体育(バスケットボール)(94年度以降) 体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前)	担当者名	太田朝博
-----	-----------------------------------------	------	------

講義の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットボールの特性や練習方法を理解し、個人的技能や集団的技能を養ない、各自の技能の程度やチームの力量に応じ、作戦を立てて、ゲームが出来るようにする。</li> <li>・チームとしての共通の目標をもち、相互に協力して、計画的に安全に練習やゲームが出来るようにする。</li> <li>・ゲームの計画や運営が自主的に出来、審判も出来るようにして、生涯を通して、運動を楽しむことが出来る能力や態度、習慣を身につけるようにする。</li> </ul>	
講義概要	<p>個人技能と集団技能を交互に繰り返し、スピード感のある高度なゲームの展開が出来ることを目指して授業を進める。</p> <p>ゲームでは簡単なスコアをつけ、個々の技能を確認する。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>出席点を中心として評価し、授業態度、技能の進歩などを加味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人的技能—シュート力、ドリブル技術、等。</li> <li>・ゲーム結果—(集団、個人技能)等を総合的に見て評価する。</li> </ul> <p>欠席時数7回以上の者に対しては、評価の対象としない。</p>	
受講者に対する要望など		

# 年間講義予定

## 前期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成
2	<b>個人的技能</b> (基本技能) パスワーク、ドリブル、シュート (ジャンプ・ロング)
3	リバウンド、フリースロー 等の習得
4	
5	
6	<b>集団的技能</b> (チームプレー) ・オフェンスの基本プレー
7	2対2、3対3から展開し、チームオフェンス ・ディフェンスの基本プレー
8	2対2、3対3から展開し、チームディフェンス ゾーンとマンツーマンディフェンス
9	
10	
11	<b>応用技能</b> (簡易ゲーム)
12	基本的技能、集団技能の習得の確認 正規ゲームの準備
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	<b>個人的技能</b> } の反復練習 <b>集団的技能</b> }
2	バス <span style="float: right;"><b>リーグ戦</b></span> シュート 個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくなるように チーム編成し、リーグ戦を行なう。
3	オフェンス、ディフェンス 簡単なスコアをつけ個々の技術を競い合う。 (シュート、アシスト)
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育(バスケットボール)(94年度以降) 体育実技I・II(93年度以前)	担当者名	勝 瀬 武
-----	------------------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p>	
講義概要	<p>バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲームの時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。</p> <p>個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法	<p>出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の1/3を超した者は不合格とする。</p>	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	基本練習（パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート）
3	基本練習（パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート）
4	セットオフense （ハーフコートにおける 3対2）
5	セットディフェンス （ハーフコートにおける 5対5）
6	オールコートにおける試合（班分けをする）
7	オールコートにおける試合（班分けをする）
8	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
9	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
10	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
11	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
12	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期リーグ戦前の予備試合（後期リーグのためにチームの再編成）
2	後期リーグ戦前の予備試合（後期リーグのためにチームの再編成）
3	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
4	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
5	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
6	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
7	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
8	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
9	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
10	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
11	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
12	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
備考	

科 目 名	体 育 (バスケットボール) (94年度以降) 体育実技 I・II (93年度以前)	担当者名	檜 山 康
-------	-----------------------------------------------	------	-------

講 義 の 目 標	バスケットボールの技術向上とともに、ゲームを通じてバスケットボールの特性を学びながら、楽しさを知ること为目标とする。		
講 義 概 要	バスケットボールのゲームを中心に行い、その中で問題があれば練習で改善できるようにしていく。常にゲームを中心に考え、自分たちで練習内容を組み立てられるようにしていく。		
使 用 教 材	テキスト		
	参 考 文 献	随時、プリントを配布して学習を進めていく。	
評 価 方 法	出席重視、欠席日数が全授業時数の1/3に達した場合、いかなる理由があっても、評価はしません。また全員にレポートを課す場合もある。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	服装などスポーツを行うのにふさわしいものを身につける。特に貴金属類、時計などは危険なので絶対にはずすこと。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ボールに慣れよう(1) ・ボール運動とドリブル ～様々なゲームを通して、ボールに慣れ、友達になろう～
3	ボールに慣れよう(2) ・パスとシュート ～色々なパスとシュートの方法を知ろう。正確に行えるようにしよう～
4	バスケットボールの動きに慣れよう(1) ・ステップワーク、ターン、ガーディングなどバスケットボール特有の動きを身につけよう。
5	バスケットボールの動きに慣れよう(2) ・ボールキープ、マークの方法などを身につけよう
6	基本を学ぼう(1) ・個人戦術の基本について a) パスアンドラン、b) まわりを見る、c) ボールを迎えに行く
7	基本を学ぼう(2) ・グループ戦術の基本 a) ボールをもった人をサポートする、b) 攻撃の方向を変える
8	基本を学ぼう(3) ・チーム戦術の基本 a) マンツーマンディフェンスとゾーンディフェンス
9	チームごとの練習と対抗試合(1) ・試合—反省—練習—試合というサイクルを作れるようにしよう
10	チームごとの練習と対抗試合(2)
11	チームごとの練習と対抗試合(3)
12	チームごとの練習と対抗試合(4)
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	1対1の攻防 ・フェイントの方法とディフェンス
2	2対1の攻防 ・パスのもらい方とスクリーンプレー
3	2対2の攻防 ・マンツーマンディフェンスについて
4	3対2の攻防 ・ボールなしの動き、3人目の動き
5	3対3の攻防 ・マンツーマンディフェンスと各種攻撃プレー
6	速攻とその守備について
7	チームによるリーグ戦①
8	チームによるリーグ戦②
9	チームによるリーグ戦③
10	チームによるトーナメント戦①
11	チームによるトーナメント戦②
12	チームによるトーナメント戦③
備考	



科目名	体育(バドミントン)(94年度以降) 体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前)	担当者名	梶野克之
-----	---------------------------------------	------	------

講義の目標	ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、バドミントンの基本的なプレーを練習を通して、身につける。これらの過程を通して身体活動の必要性を理解するとともに、体力の維持向上をはかる。シングルス、ダブルスの試合方法を理解して実践できるようにするとともに、審判法についても十分に理解し、進んで審判ができるようにする。バドミントンの全般的な理解とともに、体力の維持向上をはかり、今後の生活の中に生かせるようにすることを目標としたい。	
講義概要	バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合を実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた課題を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。ダブルスのフォーメーションについて理解し、パートナーと協力して試合を組み立てていく。審判法についても理解して、進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。	
使用教材	テキスト	使用しない。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相沢マチ子『やさしいバドミントンレッスン』、1983、ベースボールマガジン社</li> <li>・阿部一佳、渡辺雅弘『基本レッスンバドミントン』、1985、大修館書店</li> </ul>
評価方法	評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。	
受講者に対する要望など	毎回出席を原則とし、毎週新しい技術の習得を目指したい。より効果をあげるために毎回出席して、努力してほしい。	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間授業計画の説明と、受講上の注意、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認をする。
2	バドミントン競技の全般的な説明を行う。コート・ラケット・シャトル等についての解説をする。基本的なグリップの説明を行い、素振りによりストロークの基本を学ぶ。ネットをはさんでクリヤーの基本を練習する。
3	前回到練習した基本的なストロークを、相手コート深くにシャトルを送るハイクリヤーに発展させる。ハイクリヤーと同じ構えから、シャトルをネット際に落とすドロップを理解し基本を練習する。
4	前回までのクリヤー・ドロップの復習をする。ネット近くで小さくコントロールするヘアピンの練習をする。最初はネット近くに構えて行いが、慣れてきたら、中央近くに位置し前方へのフットワークを学ぶ。
5	前回までの各種のストロークを復習する。アンダーハンドからシャトルを打つ、サーブの基本となる動作を練習する。コートを縦半分を使い、これまで練習した各種ストロークを自由に打ちあってみる。
6	前回までの各種ストロークを課題をきめて練習する。前週の半面シングルスのカウントをとって実施する。縦半分の広さであるので、前後の動きを課題として試合形式で行う。
7	前回までのストロークを課題をきめて練習する。前回到続いて半面シングルスを行い、審判法について理解し進んで審判を行うようにする。試合結果について記録し、上達度の参考とする。
8	前回までのストロークを復習する。ドライブの基本を学び、相手コートに素早くシャトルを送り込めるようにする。全面を使用した正規のシングルスのゲームを実施する。
9	前回までの各種ストロークを復習する。スマッシュの基本を学び、これまでよりもスピードのあるシャトルに慣れる。前回到続いて正規のシングルスのゲームを実施する。
10	前回までのストロークを課題をきめて練習する。相手にハイクリヤーを打ってもらい、ホームポジションから後方へのフットワークを学ぶ。ダブルスの基本を理解し、試合形式のダブルスを実施する。
11	前回までのストロークを復習する。ダブルスの基本的なフォーメーションを学び練習する。ダブルスのルールについて理解し、試合を実施すると同時に、審判法の理解を深める。
12	前回までのストロークを復習する。全体をいくつかのグループに分け、総あたりのリーグ戦を実施する。進行係を決めて、試合及び審判が円滑に進行するようにする。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に練習した基本的なストロークを復習する。ダブルスの試合進行方法と、審判法を確認し、ダブルスの試合を実施する。バドミントンを久しぶりに行う者が多いので、前期の感覚を思い出させる。
2	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスのパートナーを決め、いくつかのグループによりリーグ戦を再開する。セッティングについて説明を行い、理解を深める。
3	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスの基本的なフォーメーションについてパートナーと確認し、ゲームの中で実施できるように心がける。
4	パートナーとクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し問題点を整理する。前回到引き続き、ダブルスゲームを実施する。
5	クリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し、問題点を整理する。ゲームの進行状態を確認し、組み合わせを変えてリーグ戦を進める。
6	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダブルスゲームを進行し、練習した課題がゲームの中で実際に使えるように努力し、ゲームの質を高める。
7	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続き、ダブルスゲームを進行し、ゲームのおもしろさを理解し、進んでゲーム・審判を行う。
8	クリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続きゲームを進行し、試合の中で課題の克服に努める。パートナーと相談しながらより高いレベルのゲームを心掛ける。
9	クリヤーから開始し、各種ストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を集中して練習する。リーグ戦の進行状況により、パートナー・組み合わせを考える。
10	クリヤーから開始し、課題となるストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中で相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習をする。引き続きゲームを進める。
11	クリヤーから開始し、ストロークの練習をする。パートナーとゲームの中での問題点を整理し練習する。ゲーム・審判ともに全員が進んで実行するようにする。
12	ゲームの進行を確認し、勝負、順位などについて整理する。この授業のまとめと、これ以後のバドミントンとの関わりや、体育・身体運動との関わりについて考える。
備考	

科目名	体育(バドミントンⅡ)(94年度以降) 体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前)	担当者名	梶野克之
-----	----------------------------------------	------	------

講義の目標	バドミントンの授業を受講した者や経験者を対象とした授業としたい。バドミントンの基本的プレーを充実させると同時により高いレベルの技術を練習を通して身につける。これらの過程を通して身体活動の必要性を理解するとともに、体力の維持向上をはかる。シングルス、ダブルスの試合を実践することを通して技術の向上とともに、審判法についても理解を深める。バドミントンの全般的な理解するとともに、体力の維持向上をはかり、今後の生活の中に生かせるようにすることを目標としたい。		
講義概要	バドミントンに関しての技術やルールについてより深い理解をする。各種のストロークの技術を向上させ、より正確なショットを目指す。シングルス・ダブルスの試合を実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法についても理解を深める。ゲームの中で、練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた課題を克服してより高いレベルのゲームを求めていく。ダブルスのフォーメーションについて理解し、パートナーと協力して試合を組立てていく。審判法について理解し、自ら進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿部一佳 渡辺雅弘『基本レッスンバドミントン』、1985、大修館書店</li> <li>・阿部一佳他訳、Jake Downey『ウィニングバドミントン [ダブルス]』、1990、大修館書店</li> </ul>	
評価方法	評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。		
受講者に対する要望など	毎回の出席を原則とし、毎週新しい技術の修得を目指したい。より効果をあげるために努力してほしい。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間授業計画の説明と、受講上の注意、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認をする。
2	バドミントン競技の全般的な説明を行う。コート・ラケット・シャトル等についての解説をする。基本的なグリップの説明を行い、素振りによりストロークの基本を学ぶ。ネットをはさんでクリヤーの基本を練習する。
3	前回は練習した基本的なストロークを、相手コート深くにシャトルを送るハイクリヤーに発展させる。ハイクリヤーと同じ構えから、シャトルをネット際に落とすドロップを理解して基本を練習する。
4	前回までのクリヤー・ドロップの復習をする。ネット近くで小さくコントロールするヘアピンの練習をする。最初はネット近くに構えて行すが、慣れてきたら、中央近くに位置し前方へのフットワークを学ぶ。
5	前回までの各種のストロークを復習する。アンダーハンドからシャトルを打つ、サーブの基本となる動作を練習する。コートを縦半分を使い、これまで練習した各種ストロークを自由に打ちあってみる。
6	前回までの各種ストロークを課題をきめて練習する。前週の半面シングルスのカウントをとって実施する。縦半分の広さであるので、前後の動きを課題として試合形式で行う。
7	前回までのストロークを課題をきめて練習する。前回に続いて半面シングルスを行い、審判法について理解し進んで審判を行うようにする。試合結果について記録し、上達度の参考とする。
8	前回までのストロークを復習する。ドライブの基本を学び、相手コートに素早くシャトルを送り込めるようにする。全面を使用した正規のシングルスゲームを実施する。
9	前回までの各種ストロークを復習する。スマッシュの基本を学び、これまでよりもスピードのあるシャトルに慣れる。前回に続いて正規のシングルスゲームを実施する。
10	前回までのストロークを課題をきめて練習する。相手にハイクリヤーを打ってもらい、ホームポジションから後方へのフットワークを学ぶ。ダブルスの基本を理解し、試合形式のダブルスを実施する。
11	前回までのストロークを復習する。ダブルスの基本的なフォーメーションを学び練習する。ダブルスのルールについて理解し、試合を実施すると同時に、審判法の理解を深める。
12	前回までのストロークを復習する。全体をいくつかのグループに分け、総あたりのリーグ戦を実施する。進行係を決めて、試合及び審判が円滑に進行するようにする。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に練習した基本的なストロークを復習する。ダブルスの試合進行方法と、審判法を確認し、ダブルスの試合を実施する。バドミントンを久しぶりに行う者が多いので、前期の感覚を思い出させる。
2	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスのパートナーを決め、いくつかのグループによりリーグ戦を再開する。セッティングについて説明を行い、理解を深める。
3	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスの基本的なフォーメーションについてパートナーと確認し、ゲームの中で実施できるように心がける。
4	パートナーとクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し問題点を整理する。前回に引き続き、ダブルスゲームを実施する。
5	クリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し、問題点を整理する。ゲームの進行状態を確認し、組み合わせを変えてリーグ戦を進める。
6	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダブルスゲームを進行し、練習した課題がゲームの中で実際に使えるように努力し、ゲームの質を高める。
7	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続き、ダブルスゲームを進行し、ゲームのおもしろさを理解し、進んでゲーム・審判を行う。
8	クリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続きゲームを進行し、試合の中で課題の克服に努める。パートナーと相談しながらより高いレベルのゲームを心掛ける。
9	クリヤーから開始し、各種ストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を集中して練習する。リーグ戦の進行状況により、パートナー・組み合わせを考える。
10	クリヤーから開始し、課題となるストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中で相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習をする。引き続きゲームを進める。
11	クリヤーから開始し、ストロークの練習をする。パートナーとゲームの中での問題点を整理し練習する。ゲーム・審判ともに全員が進んで実行するようにする。
12	ゲームの進行を確認し、勝負、順位などについて整理する。この授業のまとめと、これ以後のバドミントンとの関わりや、体育・身体運動との関わりについて考える。
備考	

科目名	体育（バレーボール）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	小 俣 充
-----	---------------------------------------	------	-------

講義の目標	バレーボールの面白さの経験とそれによる運動欲求の充足を目指す。また自らの努力と、他の努力を促すことによりチームの仲間意識（存在意識）を育む。	
講義概要	ゲームに向けた基礎とその動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。また基礎を簡潔にまとめ、その動作を繰り返し練習する。続いてリーグ戦を行い、勝つことを目指して力を合わせ気持ちを集中し、その楽しさと充足感を体験する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	1 スポーツとルールの社会学 守能信次著、名古屋大学出版会 2 スポーツ・人間・社会 ライナー・マートンズ、ベースボール・マガジン社 3 人と人との間 木村 敏、弘文堂
評価方法	出席回数をベースにし、どれほど自ら努力したか他の努力を促したかにより評価。	
受講者に対する要望など	バレーボールを面白くするためにバレーボール経験者（運動部）の受講を多少優遇することがある。	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の目的を説明。基本技術と動きの反復練習。教師と受講生および受講生相互のコミュニケーションを図る。
2	基本技術と動きの反復練習。運動量と脈搏・呼吸の関係の理解。プレーしながらの発声の徹底。
3	チーム分け。ゲームでのポジション確定へのプロセスに導入。 : 固定ポジションとローテーション
4	固定ポジションでの連係プレーの反復練習。
5	固定ポジションでのゲームプレーの反復練習。
6	ポジション確定。ゲームプレーの反復練習。
7	リーグ戦その1
8	リーグ戦その2
9	リーグ戦その3
10	リーグ戦その4
11	リーグ戦その5
12	順位決定戦と前期のまとめ。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏季休業中のスポーツ・レクリエーション活動実態調査。授業の目的を説明。基本技術と動きの反復練習。
2	固定ポジションでの連係プレーの反復練習。
3	固定ポジションでのゲームプレーの反復練習。
4	ローテーションでの連係プレーの反復練習。
5	ローテーションでの連係プレーの反復練習。
6	ローテーションでのゲームプレーの反復練習。
7	リーグ戦その1 (固定およびローテーション)
8	リーグ戦その2 (上に同じ)
9	リーグ戦その3 (上に同じ)
10	リーグ戦その4 (上に同じ)
11	リーグ戦その5 (上に同じ)
12	順位決定戦と後期のまとめ。
備考	

科目名	体育(バレーボール)(94年度以降) 体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前)	担当者名	中 沢 克 江
-----	---------------------------------------	------	---------

講義の目標	<p>バレーボールのゲームを楽しむために必要な基本的技術、ルール等を学びながら、体を動かし、チームワークを養う。</p> <p>チームプレーの中で自分の役割を考え、受講生同士の親睦を図る。</p>	
講義概要	<p>基本的技術の習得。</p> <p>ルールの理解。</p> <p>ゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期のゲーム：受講生の親睦を深めるため、チームの編成は毎週変更する。 技術レベル別、男女混合などのゲームも行う。</li> <li>・後期のゲーム：4週目までは前期と同じ。 5週目からは、メンバー編成固定でリーグ戦を行う。</li> <li>・6人制のゲームを中心に、いろいろなゲームを楽しむ。</li> </ul>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>出席状況、受講態度、課題の理解度、技術を評価する。</p> <p>受講態度の中には、服装も対象とする。</p>	
受講者に対する要望など	<p>体育実技に適した服装で受講すること。</p> <p>体育館専用シューズを用意すること。</p> <p>内容については変更がありうる。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：授業に関する説明及び諸注意。個人資料の作成。
2	基本技術：オーバーハンドパス アンダーハンドパス
3	基本技術：オーバーハンドパス アンダーハンドパス トス 簡易ゲーム
4	基本技術：パス トス レシーブ サーブ スパイク 簡易ゲーム
5	基本応用技術：サーブレシーブ等 簡易ゲーム
6	チーム練習：各ポジションでの動き ・チームの構成メンバーは毎週変更する。 ゲーム
7	ゲーム
8	ゲーム
9	ゲーム
10	ゲーム
11	ゲーム
12	評価を行う。 ゲーム
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	基本技術：パス トス レシーブ サーブ スパイク 基本応用技術：サーブレシーブ等
2	チーム練習：各ポジションでの動き ・チームの構成メンバーは4週目まで毎週変更。 ゲーム
3	ゲーム
4	ゲーム
5	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦 ・チームの構成メンバーを固定し、リーグ戦を行う。
6	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
7	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
8	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
9	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
10	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
11	ゲーム
12	評価を行う。 ゲーム
備考	



科目名	体育(フットサル)(94年度以降) 体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前)	担当者名	檜山 康
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	フットサルを通じて技術、体力を高め、その特性を学びながら楽しむことを目標とする。		
講義概要	<p>フットサルは、いわゆるミニサッカーやサロンフットボールと呼ばれているものである。すなわちサッカーを狭いスペースでも楽しめるようにルールやコート of 広さ、人数などを変化させたものである。そのためサッカーに似ている点も多いが、異なる点も多い。技術や戦術面でも非常に特徴あるスポーツである。</p> <p>授業では、フットサルの特性に触れられるように内容を組み立てていくつもりである。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	随時プリントを配布して学習を進めていく。	
評価方法	出席重視、欠席日数が全授業時数の1/3に達した場合、いかなる理由があっても、評価はしません。また全員にレポートを課す場合もある。		
受講者に対する要望など	服装などスポーツを行うのにふさわしいものを身につける。特に貴金属類、時計などは危険なので絶対にはずすこと。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ボールに慣れよう(1) ・ドリブルの練習 ～様々なゲームを通して、思い通りにボールを動かせるようにしよう～
3	ボールに慣れよう(2) ・パスの練習 ～パスの方法を学習し、思い通りにパスができるようにしよう～
4	ボールに慣れよう(3) ・ボールキープの練習 ～ボールをとられないようにしよう～
5	基本を学ぼう① a)パスアンドゴー、b)パスを受ける前に周りを見る、c)ボールに寄る ～手を使ったゲームで基本的な動きを覚えよう～
6	基本を学ぼう② ～①の課題を試合形式の練習で応用できるようにしよう～
7	基本を学ぼう③ ・サポート（ボールを持った味方を助ける）の動き ・3人で3角形をつくり協力すること
8	チーム対抗のゲーム
9	チーム対抗のゲーム
10	チーム対抗のゲーム
11	チーム対抗のゲーム
12	チーム対抗のゲーム
備 考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	アイコンタクトとは？
2	コーチングとリスニングとは？
3	攻撃のリズムや方向を変えるとは？
4	幅広く攻撃するとは？
5	1対1について ・ディフェンスの方法とフェイントの使い方
6	2対1の攻防 ・速攻とその対処の仕方
7	2対2の攻防 ・マンツーマンディフェンスの方法
8	3対2の攻防 ・オーバーラップ、スイッチプレーを使う
9	ゲーム①
10	ゲーム②
11	ゲーム③
12	ゲーム④
備 考	

科目名	体育（フットサル）（94年度以降） 体育実技Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	松原 裕
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	『大学は学問を通じての人間形成の場である』という建学の理念に基づき、フットサルを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	世界に広がる多種多様なミニサッカー競技の呼び名を統一し、ルールも統一したのがフットサルです。選択の際には男女・技術レベルは問わないが、1チーム5人。うち1人はGKが基準となる。40名以上は抽選となる。スパイクは不可。アップシューズ等スパイクのないものを使用する。基本練習は、VTRを見て共通のイメージを作ってから行なう。前期は、分習法が主体となる。後期はゲーム中心の全習法が主体となる。グラウンドが使用できない場合には他の場所を使用して練習するか、基本的な理論を講義する。		
使用教材	テキスト	・『FUTSAL OFFICIAL HANDBOOK』	
	参考文献	・VTR「君が主役だフットサル」 その他	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意
2	基本トレーニング① ○VTRとボール慣れのトレーニング
3	基本トレーニング② ○基本技術とウォーミングアップ
4	パス・コントロール
5	シュート
6	1 VS 1 の攻防
7	グループの戦術①・攻撃
8	グループの戦術②・守備
9	ゴールキーパー
10	スタイルを考えたゲーム
11	スタイルを考えたゲーム
12	テスト ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業のダイジェスト
2	チーム分けとゲーム
3	リーグ戦①
4	リーグ戦②
5	リーグ戦③
6	リーグ戦④
7	リーグ戦⑤
8	リーグ戦⑥
9	リーグ戦⑦
10	リーグ戦⑧
11	リーグ戦⑨
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体育(94年度以降)・体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前) (フリスビー〈前期〉/ウインドサーフィン〈集中授業〉)	担当者名	和田 智
-----	-----------------------------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>前期フリスビーでは、基本的なスローイング技術の習得とアルテミットというゲームを楽しむためのルール・チームの動きを学習してもらう。</p> <p>集中授業ウインドサーフィンでは、ウインドサーフィンに関する知識・技術の習得を通して、海という自然環境と関わる楽しみを追求していく。</p>		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具の都合から、募集人数は男子20名、女子20名までとする。</li> <li>・フリスビー、ウインドサーフィン未経験者でも受講可能。ただし、海での活動に支障のある疾患を持つものは受講できない。</li> <li>・用具類はすべて大学で用意している。</li> <li>・ウインドサーフィンは、必要経費(宿泊費・食費・保険料等)として28000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。</li> <li>・ウインドサーフィンの技術進歩は、天候に大きく左右される。</li> </ul> <p>集中授業は、期間：平成8年9月13日(金)～17日(火) 4泊5日 場所：千葉県館山市獨協学園館山海の家の予定 現地集合・現地解散とする。</p>		
使用教材	テキスト	霜山厚、『ボードセイリングマスター』、マリン企画	
	参考文献		
評価方法	出席状況(60%)、受講態度(20%)、技術の向上度(20%)で評価する。		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	フリスビー・ディスクの基本的スローとキャッチ
3	バックハンドスローの練習 その1
4	バックハンドスローの練習 その2
5	サイドアームスローの練習 その1
6	サイドアームスローの練習 その2
7	アルテミットのルールとミニゲーム
8	アルテミットリーグ戦
9	アルテミットリーグ戦
10	アルテミットリーグ戦
11	アルテミットリーグ戦
12	ウインドサーフィンのオリエンテーション
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育(ラグビー)(94年度以降) 体育実技Ⅰ・Ⅱ(93年度以前)	担当者名	天野和彦
-----	-------------------------------------	------	------

講義の目標	ラグビーの技術、戦術の基礎を習得する。また、ルールを理解とゲームの展開方法を学習する。		
講義概要	安全に留意しながら、最終的には、15人制のゲームができるようにする。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出欠、授業態度、さらに多少の技能の進歩などを考慮して決定する。		
受講者に対する要望など	できる限りスパイクを用意すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ラグビーの個人技術を学ぶ①
3	ラグビーの個人技術を学ぶ②
4	ラグビーの個人技術を学ぶ③
5	ラグビーの個人技術を学ぶ④
6	ラグビーの集団技術を学ぶ①
7	ラグビーの集団技術を学ぶ②
8	ラグビーの集団技術を学ぶ③
9	ラグビーの集団技術を学ぶ④
10	フォワードの戦術①
11	バックスの戦術①
12	ゲーム
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	フォワードの戦術② スクラムからの攻撃と防御
2	フォワードの戦術③ ラインアウト、モール・ラックからの攻撃と防御
3	バックスの戦術② パスによる攻撃と防御
4	バックスの戦術③ キックによる攻撃と防御
5	フォワード、バックスが一体となった動き①
6	フォワード、バックスが一体となった動き②
7	フォワード、バックスが一体となった動き③
8	いろいろな状況からの攻撃と防御①
9	いろいろな状況からの攻撃と防御②
10	ゲーム
11	ゲーム
12	ゲーム
備考	



科目名	哲 学	担当者名	高尾由子
-----	-----	------	------

講義の目標	「自分で、哲学的に、考える」ことをめざす。主に西洋哲学の基本的な概念を用いながら、「私」という足場を固め、「他者」、「世界」に向かう態度をつくっていききたい。		
講義概要	哲学史上、主要な思想家の著作を手がかりにしながら、特に「私」をいかに理解するか、という問題を中心に講義を進める。哲学史的な知識を増やすことではなく、自ら考えること、またそのための準備をすることが課題となる。		
使用教材	テキスト	年間予定を参照。	
	参考文献	授業時にそのつど指示する。	
評価方法	前・後期各一回のレポートによる。 提出期限、提出方法は授業時に指示する。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の予定の説明と、哲学という学について。
2	プラトンの『ソクラテスの弁明』における「知」と「無知」について考える。
3	"
4	"
5	"
6	"
7	デカルトの『方法叙説』における「我（われ）」について考える。
8	"
9	"
10	"
11	"
12	前期のまとめと課題について。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	カントの『純粋理性批判』における「主観」と「客観」について考える。
2	"
3	"
4	"
5	"
6	"
7	ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』における独我論。「言語」と「世界」について考える。
8	"
9	"
10	"
11	"
12	一年間のまとめと課題について。
備考	

科目名	哲学	担当者名	松丸 壽雄
-----	----	------	-------

講義の目標	<p>人間は存在する限り、様々な問題と遭遇し、それと対決せざるを得ない。その場合に、どのような立場から、どのように問題に対処するかを、様々な角度から考えることができるように目指す。</p>		
講義概要	<p>人の生涯は、生まれ、世界の中に生き、死にゆく。それぞれの人の生涯の中で様々な局面において何時かは考えなければならないのは、生、愛、世界、死をめぐる問題であろう。これらの問題を、どう対処するかを、何人かの思想家の考えたところから知ることとする。続いて、これらの問題を自分の問題として捉えたらどうなるか、をディスカッションを通じて検討して行く。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	講義中に指示	
評価方法	最低年二回のレポートとディスカッションの積極的参加度により評価		
受講者に対する要望など	<p>自分で考えようと努力し、ディスカッションに積極的に参加する用意のある人たち。単に哲学的知識を身につけたいだけの人は、他の講義を受けること。ディスカッションという性質上、人数制限も有り得る。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要説明
2	ディスカッションのグループ分け
3	愛とは、愛と恋愛の区別
4	家族愛、同胞愛、人類愛
5	自愛、他愛
6	ディスカッション
7	愛をめぐる諸問題
8	生とは
9	人間の生、他の存在者の生
10	生きるとは
11	ディスカッション
12	前期のテーマの総括
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	世界の問題
2	生きる場所としての世界
3	生きる場所としての家、社会
4	ディスカッション
5	我々の於てある場所についての考察
6	死の問題
7	生に対する死
8	自殺の問題
9	ディスカッション
10	やがては迎えなければならない死をどう受けとめるか
11	安楽死、脳死の問題
12	ディスカッション
備考	

科目名	心理学	担当者名	杉山憲司
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>この授業では、学習、記憶、動機づけ、発達、パーソナリティ、創造性など、心理学が扱う諸問題の中からもなるべく広範囲に、また、日常的な問題と関連するテーマを選び講述する。講義を通じて、心理学の問題の捉え方、研究方法や成果について紹介し、心理学から見た科学的な人間の理解が講義の最終的な目標である。</p>		
講義概要	<p>心理学の研究対象は日常的な現象が多く、学生は、既に、一定の意見を持っていることが多い。しかし、人間はいつ動機づけられ、無力感に陥るのか。性格はどのように形成されるのかなど、案外解っていないことや、常識が間違っていることも多い。また、学問としての心理学は、自分自身を研究対象にするという際だった特徴があり、自己を知ることが目的として受講される学生も多いであろう。これに対して、心理学は、大きく分けて、人間に共通する一般的特徴や法則の研究と、一人一人の個性・個人差、即ち特定の個人を理解しようとする研究とがあり、両研究は相互に刺激しあっている。</p> <p>この授業では、なるべく広範囲に渡って様々なテーマを選び、心理学の問題の捉え方、研究方法を紹介しながら、心理学の研究と日常生活がどのように関係するかについて講述する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>青柳肇・瀧本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介（編著） 『こころのサイエンス』『トピックスこころのサイエンス』福村出版（各¥1,900）</p>	
	参考文献	<p>教科書の各章末に参考文献が示されている。その他は授業中に随時指示する。</p>	
評価方法	<p>前後期2回の試験とリーディングレポートで評価する。 追試は教務課を通すこと。</p>		
受講者に対する要望など	<p>自己を知り、他人を知ること。個人の特性と置かれた状況とを見つめ直すチャンスとして利用すること。 授業を聞く際、専攻や、将来の職業との関連を絶えず意識すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	心理学への導入：1) 学習目標；前・後期目標、講義の進め方、成績評価、2) 心理学の学問的体系；研究対象と研究方法、他の学問との方法に関する比較と特徴、3) 一般法則と個人差研究；実験研究、事例研究、
2	I. 行動の視点からの人間研究（4章）：1) 行動の種類と進化；エソロジー、2) 学習の基本型；条件づけ、実験神経症、強化随伴性、しつけ、情緒の統制、バイオ・フィードバック、プログラム学習（CAD）
3	行動の視点からの人間研究（その2）：1) 模倣の理論と役割；モデリング、影響力のある社会的勢力モデル、同一視、社会的学習理論、2) 行動の自己制御；強化基準（価値）の内在化
4	重要な学習・行動の種類と内容：1) スポーツ、健康の自己管理、学習の動機づけ、2) 技能学習の特徴、自動車運転の要因モデル、感覚運動習熟、
5	重要な学習・行動の種類と内容（その2社会的行動）：1) リーダーシップ；リーダーシップスタイル、PM類型論、2) 同調と服従；
6	社会的行動（その2）：3) 攻撃行動、愛他行動；責任の分散、4) 課題達成と愛他行動のバランスと育成；発達・教育課題
7	II. 感覚受容器、知覚や認知の視点から（5章）：1) 感覚；受容器の特徴や種差など、2) 知覚；恒常性や錯視などの特徴
8	3) 認知のプロセス、4) 人間の情報処理モデル；トップダウン、ボトムアップ、選択的注意、5) 社会的認知
9	記憶の構造や特徴 1) 短期記憶・長期記憶、意味記憶・エピソード記憶など、2) 記憶の情報処理モデル
10	III. 動機づけと情緒の視点から（6章）：1) 生理的動機、ホメオステアセス、2) 情緒
11	内発的動機 1) 学習・仕事動機；知的好奇心、自己原因性、有能感、2) 内発的動機づけ；活性化、最適不適合理論、自己決定理論
12	対人社会動機 1) 愛着（アタッチメント）、共感性と愛他動機、2) 動機の矛盾、コンフリクト、フラストレーション、ストレス耐性
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期目標：人間の個性理解 I. パーソナリティ（性格）（1章）：1) 気質類型論とクレペリン検査、DSM-III-R
2	2) パーソナリティの特性論 質問紙性格検査、因子分析と根源特性 標準心理検査
3	3) パーソナリティの力動論 フロイトの精神分析、無意識、幼児期の重視、心的外傷、4) 人間性心理学説のパーソナリティ論
4	パーソナリティの形成・発達と病理 1) 初期経験の重要性、相互作用説、遺伝プログラムと状況規定性、2) パーソナリティの病理と対処法、クライアント中心療法
5	II. 知能と創造性（2章）：1) 知能研究の源、知能観と知能検査、2) 新しい知能観、偏差値の功罪、能力か動機づけか
6	創造性と創造性の開発：知能検査で測られていないもう一つの能力 1) 拡散的思考と集中的思考、2) 創造性の育成と活性化
7	III. 生涯発達（3章）：1) 研究の源と発達観の変遷、生涯発達の視点、2) 研究法：縦断的研究、親や教師の発達観とピグマリオン効果
8	初期発達 1) 乳児の気質の型、アタッチメント、2) コンピテンスと自己原因性の獲得
9	社会性の発達 1) 道徳性と向社会性の発達段階、2) 仲間関係のルールとスキル
10	青年期と自己意識 1) 公的自己・私的自己、自我同一性の獲得、2) 自己主張、対人不安
11	生涯発達と生き甲斐 1) 仕事と生き甲斐、キャリアーとしての職業、2) 老人の喪失感、統制感の喪失
12	最終のまとめ 1) 心理学からみた人間、2) 現代の課題、残された問題
備考	

科目名	心理学	担当者名	三本 茂
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>一人間行動の理解のために— 心理学は人間の行動における法則性を明らかにしようとする科学である。講義では、人間の行動を個人・社会集団のふたつの側面から考察する。</p>		
講義概要	<p>個人の行動の側面としてパーソナリティ（性格、集団的パーソナリティ、知能、適応のメカニズムなど）を取り上げる。 更に、社会集団の側面として、集団の機能、人間以外の動物の集団、社会的態度、文化と社会現象について触れる。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	その都度指示する	
評価方法	<p>評価は、前期および随時のレポートと年度末の筆記試験により行う。</p>		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

### 主 要 テ ー マ

○性格

1. 性格とは何か
2. 性格とパーソナリティ
3. 性格の理論
4. パーソナリティの形成 (集団的パーソナリティ)
5. パーソナリティの診断
6. 適応

○知的行動

1. 知能とは何か
2. 知能の形成と発達
3. 知能と社会・文化的要因

備考

## 後 期

### 主 要 テ ー マ

○社会的行動

1. 集団の特質
2. 動物の集団
3. 集団内の個人行動
4. 社会的態度

○社会集団と文化

1. 文化をどう考えるか
2. 比較文化論の視点
3. 社会現象

備考



科目名	倫理学	担当者名	市川 達人
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>前半は倫理についての理論的な理解を目的として倫理学上の基礎概念について解説する。</p> <p>後半は今日の実践倫理の主要テーマである生命倫理について考える。倫理的視点から時代をみすえる方法を確立することを目標とする。</p>	
講義概要	<p>私達の日常生活は様々な倫理的価値や規範を織りこんで成立している。しかしその倫理は必ずしも自覚されているわけではない。その隠れた倫理を探し出し明晰な自覚にまで高めようとするのが倫理学である。</p> <p>実証科学万能の風潮のなかで冷遇されてきた倫理学であるが、今日環境や医療、また政治や経済の問題をめぐって倫理学の必要性が再び叫ばれている。</p> <p>講義は前半と後半に分け、前半では倫理学の原理論を、後半では生命倫理の問題を死、身体、医療との関係で考えていきたい。</p>	
使用教材	テキスト	使用しない
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤和夫他『生命の倫理を問う』大月書店</li> <li>・森岡正博『生命観を問いなおす』築摩書房</li> </ul>
評価方法	レポート評価とペーパーテストで行う。	
受講者に対する要望など	私語を慎むこと。	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の予定。倫理学の対象と課題
2	倫理学の歴史（概観）
3	規範としての倫理(1) 動機—行為—結果の連関と倫理的判断
4	規範としての倫理(2) 法の問題
5	規範としての倫理(3) 習俗の問題
6	価値としての倫理(1) 価値と欲求構造
7	価値としての倫理(2) 事実と価値
8	価値としての倫理(3) 人格と人間性の価値
9	倫理的問題状況(1) 倫理学の発生にかかわって
10	倫理学的問題状況(2) 近代倫理の基本構図
11	モラルとしての倫理
12	倫理と科学（科学からの倫理批判と倫理からの科学批判）
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	功利主義と自由主義(1)
2	功利主義と自由主義(2)
3	生命倫理学の現況
4	生命哲学への問い——人間の生命とは？
5	人工妊娠中絶問題——胎児の権利？
6	人工妊娠中絶と優生思想
7	安楽死と死の哲学
8	「生命の質」と「生命の尊厳」
9	脳死と臓器移植
10	医療社会批判——イリイッチとフーコー
11	身体と人格の個別性と共同性
12	まとめ
備考	

科目名	国語学（94年度以降） 日本語学（93年度以前）	担当者名	桂 千佳子
-----	-----------------------------	------	-------

講義の目標	<p>コトバの本質や機能を知り、日本語の特徴を様々な面から学ぶことで自分自身の思考を深める。</p>	
講義概要	<p>前期は、日本人の言語意識と日本語の表記の特異性について学びかつ考えることで自分自身の問題意識を深める。</p> <p>後期は、日本語の文の構造の特徴を軸に、それを解き明かすに至った道程をたどり、物の見方、考え方に対して新たな視点をもてるようにする。</p>	
使用教材	テキスト	特になし
	参考文献	<p>・金田一春彦・林大・柴田武編『日本語百科大事典』大修館書店</p> <p>各テーマごとの参考文献は随時指示する。</p>
評価方法	<p>前期のレポートと後期のテストとの総合評価とする。</p>	
受講者に対する要望など	<p>前期は、とにかく“考える”努力を望みます。</p> <p>後期は、理論を学ぶことで自分の思考を広げるようにしてほしいと思います。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	母語と母国語
2	コトバはなぜ通じるのか。
3	「コトバが話せる」のは本能か？
4	日本人と日本語Ⅰ —— 言霊の思想
5	日本人と日本語Ⅱ —— 討論が苦手といわれる理由
6	日本語の表記Ⅰ —— 漢字とマンガ
7	日本語の表記Ⅱ —— 漢字が脳の発達を妨げる？
8	日本語の表記Ⅲ —— なぜこんなに文字の種類が多いのか。
9	日本語の表記Ⅳ —— データにみる実態
10	日本語の音
11	日本語の語彙
12	まとめと課題について
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	頭の中の文法 —— 外国人の日本語学習者の誤用例をめぐって
2	文理解のしくみ —— 私達はどのように文や文章を理解しているのか。
3	日本語の文の構造Ⅰ —— 「コト」とテニヲハ
4	日本語の文の構造Ⅱ —— 単文の階層構造とは
5	日本人が考えてきたことⅠ —— 「桜が咲く」は文か
6	日本人が考えてきたことⅡ —— 「言語過程説」という考え方
7	日本人が考えてきたことⅢ —— 江戸時代の国学を学ぶ
8	日本人が考えてきたことⅣ —— 「主語廃止論」とは？
9	日本人が考えてきたことⅤ —— 「主語廃止論」その後
10	コトバの構造と文法観
11	まとめ
12	テスト 論述問題を中心とする。
備考	

科目名	国語学（94年度以降） 日本語学（93年度以前）	担当者名	小島幸枝
-----	-----------------------------	------	------

講義の目標	<p>世界の言語を使用人口の割から見ると、ドイツ語に並んで第6位に位置づけられる日本語を、日本人自身は、学校教育を通して体系的には学んでいないのではないだろうか。国際社会にあって日本人の海外進出が日常的になっている現今、単に日本で生れ成長して日本語で用が足せる程度では日本語を修得しているとはいえない。</p> <p>本講では日本民族の地理的環境をふまえた重層文化に根ざす日本語の、基本知識の修得を目標とする。</p>		
講義概要	<p>国語学とはどのような内容をもつ学問なのか、国語学の分野を、音声・音韻・文字・文法・語彙・意味の領域に分けて講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>福島邦道著 国語学要論（笠間書院）</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩波講座日本語（岩波書店）</li> <li>・講座日本語学（明治書院）</li> <li>・橋本進吉：国語学概論（岩波書店）</li> <li>・金田一春彦：日本語（岩波新書）</li> <li>・築島裕：国語学（東大出版会）</li> <li>・国語学会編：国語学大辞典（東京堂）</li> <li>・佐藤喜代治編：国語学研究事典（明治書院） 他</li> </ul>	
評価方法	<p>原則として前期はテスト、後期はレポートとする。</p>		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本語の特徴（日本語系統論のきめて）
2	日本語の音韻（音声学と音韻論、音節文字）
3	五十音図といろは歌、天地詞
4	漢字音
5	音韻の変遷
6	アクセント
7	文字（漢字、国字）
8	仮名1（万葉仮名、上代特殊仮名遣）
9	仮名2（片仮名、反切）
10	仮名3（平仮名）
11	かなづかい（定家仮名遣、契沖仮名遣、歴史的仮名遣）
12	ローマ字（単音文字）ポルトガル式ローマ字、ヘボン式ローマ字、日本式ローマ字
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文法総説(1)
2	文法総説(2)
3	文法総説(3)
4	文法総説(4)
5	文法総説(5)
6	文法総説(6)
7	語彙・文体・辞書について(1)
8	語彙・文体・辞書について(2)
9	語彙・文体・辞書について(3)
10	語彙・文体・辞書について(4)
11	語彙・文体・辞書について(5)
12	国語問題について 21世紀の日本語への展望
備考	

科目名	国語表現（94年度以降） 国語（93年度以前）	担当者名	新里博樹
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	<p>コトバは、人間の内面を構成する素材である。そして、言語表現とは、その内なるコトバを様式として外に言語として実体化させることに他ならない。すなわち、言語による表現とは、単に何かを他者に伝達することのみにとどまらず、自己の内面を深化させることにもつながるのである。本講座では、そうした素材であり、手段である、“コトバ言語”の特質を踏まえながら、言語表現の様式の諸相、およびその諸特徴を講じつつ、日本語による表現のルールと方法を学び、国語表現（文章表現・口頭表現）の実際を体験することを目標とする。</p>	
講義概要	<p>国語表現における基礎事項に関する講義を交えつつ、講義—実作演習—添削批評という基本パターンを反復しながら、さまざまなスタイルの表現を実際に体験してもらう。講義1に対して演習3の割合で、実際の表現演習に学生自身が自分で取り組むことになる。文章表現の場合は、その場で（あるいは前以て）提示される課題・テーマに対して、その場で取り組み、基本的に授業時間内に提出する。そして、提出物は後日、添削批評を経て返却される。口頭表現の場合は、スピーチ・ディベートなどを、予め定めた手順に従って（全員が何らかの形で参加することになる）体験することになる。また時には相互批評などの討議形式の授業も実施する予定である。</p>	
使用教材	テキスト	使用せず
	参考文献	その都度、提示・紹介する。
評価方法	<p>授業時における提出物と授業に対する参加（質問や発言など）の度合いによって評価する。返却された提出物（原稿その他）はすべて保管し、最終授業時にまとめて再提出してもらい、それによって評価することになるが、基本的には平常点による評価と考えて良い。</p>	
受講者に対する要望など	<p>B5原稿用紙を各自用意して欲しい。また、小型のものでよいから、国語辞典を携帯してもらいたい。演習中心なので、自ら積極的に取り組む姿勢が望まれる。他の受講者にとって迷惑となる行為は一切厳禁する。</p>	

## 年間講義予定

### 前期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンスとして、年間の講義概要の解説、および、評価の方法と基準の説明などを行い、導入として、言語による表現とはどういうことか、という問題について講じる。
2	文章表現演習Ⅰ：自己紹介文 とりあえず自由に、自己紹介の文章を作成する。自分の生い立ち、趣味、特技、性質、癖、現在の状況、悩んでいること、価値観 etc.
3	講義Ⅰ：原稿用紙の歴史と使用法 原稿用紙の発達の歴史とその使用規則の基礎的な事項を講じる。その上で、実際に、特定の文章を原稿用紙に転記する演習を行う。
4	文章表現演習Ⅱ：随想文 講義Ⅰの内容に留意しながら、随想文を作成する。テーマは「日本の色」。自分の思い、価値観などを具体例を提示しながら書く。
5	文章表現演習Ⅲ：百字文 「手」というタイトルで、段落表示や句読点を含めて百字ぴったりの短文を作成し、それを起としてさらに、承転結の百字文を三編作成する。
6	講義Ⅱ：文章の構成と段落 文章構成の様相と、段落について講じる。段落はどのように設定すべきか、全体の構成はどうしたらよいかなど、文章構成の基礎を解説する。
7	文章表現演習Ⅳ：論説文 講義Ⅰ・Ⅱの内容に留意しながら論説文を作成する。テーマは「現代日本の社会状況」。自分なりにポイントを絞り、具体的に書く。
8	文章表現演習Ⅴ：推敲演習 推敲の方法とその目安についての理解を深めるため、文章表現演習Ⅳの作品の幾つかを採り挙げ、推敲の演習を行う。
9	講義Ⅲ：題材の求め方とその膨らませ方 文章表現のテーマや素材（具体例など）をどこに求め、どう膨らませていくか、という認識法や発想法について講じる。
10	文章表現演習Ⅵ：要約演習 まず自由に二百字文を作成する。その上で、できるだけ内容を変えないように、百字、五十字、二十字、十字と字数を減らしていく演習を行う。
11	文章表現演習Ⅶ：写生文 具体的事物を見ながら、それを写生した文を作成する。それを見ていない人に伝えるべく、言葉によるスケッチを行う。
12	前期の総括と夏期休暇中の課題提示 前期における提出物を全て返却し、夏期休暇中の課題を提示する。目上の人物に対する近況報告の” 堅い手紙 ” を作成するのが課題となる。
備考	授業時間内に提出するため、比較的短い文章の演習が中心となってしまう。そこで、長文の文章の添削批評を希望する学生は、随時、自由に申し出てもらうことになるが、ただし、添削批評の時間的余裕を与えて欲しい。

### 後期

週	主 要 テ ー マ
1	夏期休暇中の課題の提出。後期の予定の確認。
2	文章表現演習Ⅷ：報告文 夏期休暇中における自己の行動（自分で設定する）に対しての報告文を作成する。客観的事実と自己の感想を分けて書く。書式は授業時に提示。
3	文章表現演習Ⅸ：批評文 提示された現代短歌の幾つかの中から一首を選び、それに対する鑑賞批評の文章を作成する。鑑賞批評は単なる感想でないことに留意して書く。
4	講義Ⅳ：詩的表現と短歌 詩的表現としての韻文について概説し、その中でも世界に誇り得る日本の文化の一つとしての短歌の特質について講じる。
5	文章表現演習Ⅹ：短歌実作演習 十首程度の短歌を実際に作成する演習を行う。併せて、その中から一首を選び、次回の歌会の準備を行う。
6	口頭表現演習Ⅰ：歌会演習 前回の準備に従い、実際に歌会を行う。提示された各自の作品に対して相互に自由に批評しあい、討議する。
7	講義Ⅴ：口頭表現の留意点 話し言葉による伝達の構造とその特質を論じ、音声言語による表現における留意点を講じる。
8	口頭表現演習Ⅱ：スピーチの原稿作成 結婚披露宴におけるスピーチの原稿を作成する。併せて、次回実施される結婚披露宴のシュミレーションの役割分担を行う。
9	口頭表現演習Ⅲ：結婚披露宴のシュミレーション 前回の打ち合わせに従って、想定された結婚披露宴のシュミレーションを行う。各自の役割分担に従ってスピーチを行う。
10	講義Ⅵ：ディベートの方法 ディベートの方法について解説する。ディベートの進行方法、考え方、技術、評価の方法などについて講じる。併せて、次回の役割分担を行う。
11	口頭表現演習Ⅳ：ディベート演習 その場で提示される論題に対して、ディベートの対戦を行う。対戦者以外は、全員が審査員となる。
12	総括、および、提出物の再提出
備考	添削批評を経て返却された原稿に対しては、訂正・書き直しをした上で、整理しておくことが望ましい。くれぐれも、その場の” 書き捨て ” にせぬよう心掛けて欲しい。



科目名	国語表現（94年度以降） 国語（93年度以前）	担当者名	北村 進
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	<p>和歌・短歌の表現を通して日本語の美しさを学ぶとともに、実作によって表現の仕方を身につける。多くのすぐれた作品に触れ、それらを覚えることは教養の一つであり、美しい日本語を身につける手段である。</p> <p>短歌は自分の心の動き（感動）を表現する一手段であるが、散文と違って音数に制約がある。制約がある分、感動が凝縮され、言葉で表現した以上のものが生まれてくる。そこに魅力があると言える。定型にまとめるのは確かに難しい。その難しい作業を通して、日頃おろそかにしている言葉による表現を見つめ直す。</p>		
講義概要	<p>言葉が氾濫していると言われる状況にあって、一語一語を大切に、美しい日本語による表現力を身につけたい。そのためには多くのすぐれた文学作品に接することが必要だと考えるが、本講義では特に和歌・短歌という定型にこだわって、その表現の変遷をたどりながら、言葉の大切さ、日本語の美しさを学ぶつもりである。講義は古代から現代に至る作品を読み味わうことが中心となるが、それにとどまらない。やはり実作を通して学ぶことが大切であろう。そこで毎月一首以上の短歌制作を義務づける。言葉の選択の仕方、表現の難しさを身をもって体験してもらおう。講義中にも短歌の鑑賞文など書いてもらおう。その他国語に関する一般知識についても触れるつもりである。</p>		
使用教材	テキスト	『新修 日本抒情詩歌』(株)おうふう	
	参考文献	その都度指示する。	
評価方法	<p>前期はレポート、後期は未定。</p> <p>出席・提出物も重視する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>提出物は期日を守ってきちんと提出すること。欠席をしないこと。当然のことだが講義中無駄話をしないこと。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要を説明し、古代から現代までの和歌・短歌の流れを略説する。
2	現代短歌鑑賞及び入門―俵万智の『サラダ記念日』の中から何首か取り上げて、現代短歌に親しむと共に、作歌の手引とする。
3	岡井隆『短歌の世界』、俵万智『短歌をよむ』を参考に、短歌を作る上での基本事項について解説する。
4	『万葉集』の歌を取り上げる。『万葉集』について解説し、初期万葉（巻1が中心）の歌を読み味わう。テキスト p23～p24
5	『万葉集』巻2～巻5までの歌を取り上げる。テキスト p25～p30
6	『万葉集』巻6～巻10までの歌を取り上げる。伝説歌が中心となる。テキスト p33～p36
7	『万葉集』巻11～巻16までの歌を取り上げる。作者未詳の一般大衆の歌が中心となる。テキスト p37～p42
8	『万葉集』巻17～巻20までの歌を取り上げる。大伴家持及び防人の歌が中心となる。テキスト p43～p46
9	『古今和歌集』及び『和泉式部集』の歌を取り上げる。テキスト p55～p58
10	『新古今和歌集』の歌を中心に、王朝和歌を取り上げる。テキスト p59～p61
11	『百人一首』の歌を取り上げる。テキスト p65～p78
12	『百人一首』のパロディを取り上げる。『狂歌百人一首』など、百人一首をもじった歌の数々。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	中世の歌謡を取り上げる。『梁塵秘沙』や『閑吟集』の中から、よく知られた歌謡を取り上げ、解説する。テキスト p51～p54、p78～p81
2	近世の和歌を取り上げる。賀茂真淵は万葉調の歌を詠み、これに異を唱えた香川景樹は古今的な調べを重んじた。それぞれの歌を景樹著『新学異見』を読みながら考察する。
3	近世末期に登場した歌人たち、良寛、大隈言道、橋曙寛の歌を取り上げる。テキスト p96～p98
4	明星派の歌人たちの歌を取り上げる。与謝野鉄寛、与謝野晶子、山川登美子など。テキスト p96～p98
5	同 上
6	アララギ派の歌人たちの歌を取り上げる。正岡子規、長塚節、伊藤左千夫他。テキスト p108～p112
7	この時期に活躍したその他の歌人たち―石川啄木、若山牧水、北原白秋の歌を取り上げる。テキスト p99～p108
8	明治・大正・昭和にわたる「恋」の名歌を取り上げる。
9	古代から近代に至る「辞世」の歌を取り上げる。
10	詩を鑑賞する。島崎藤村、室生犀星、佐藤春夫、立原道造など。テキスト p125～165
11	現代短歌を取り上げる。男性歌人の歌。
12	同 上 女性歌人の歌。
備考	

科目名	国語表現（94年度以降） 国語（93年度以前）	担当者名	小島幸枝
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	現代の動勢の中で自らの意見を、正確で品位のある日本語で表現する力の養成。実用文が難なく書けるようになることを目標とするが、各自、十分な漢字力をつけ語彙量を增強する訓練を怠らないことを前提としたい。		
講義概要			
使用教材	テキスト	松村明編 国語表現法（桜楓社）	
	参考文献		
評価方法	平常の提出物で評価する。試験はしない。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	表現者（送り手）と理解者（受け手）のことばにおけるメカニズムを概説
2	音声言語について。文字言語との差異および特徴の認識
3	音声言語の種々相
4	日本語の基礎知識——日本語の音韻、アクセントの特徴
5	美しいことばの条件。正確さと品格をどのように獲得するか
6	スピーチ（演習） 互いのスピーチをきいて評価、および自己評価をする
7	反省とまとめ（次週ディベートの予告）
8	ディベート
9	反省とまとめ
10	敬語について。日本の敬語の歴史と特徴（上代～中世）
11	同上（中世末～現代）
12	漢字テスト
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文字言語——文章を書く手順、材料の収集法
2	文章を書く——自由文又は意見文
3	交換、添削しあう
4	手紙を書く——型のある文章、敬語
5	材料の収集と選択、配列——説明文、報告文を書く
6	文献、資料を用いて文章を補強する
7	漢字テスト
8	アウトラインの作り方——効率よく文章を書くために
9	評論を書く
10	段落とトピックセンテンスのきめ方——書評を書く
11	交換、批評しあう
12	推敲のポイントを学ぶ。まとめ
備考	前期は、読解と実作を習慣づけるために宿題形式で①社説要約（週1作）②読書報告（月1本）③作文（週1作）を課すが後期は短時間で実作する習慣をつけるために作文は授業中に完成する。従って③の課題はない。

科目名	国語表現（94年度以降） 国語（93年度以前）	担当者名	肥田野 昌之
-----	----------------------------	------	--------

講義の目標	日本語への関心を深め、日本語による表現を豊かにしようとするものである。また常用漢字の練習や日本語・日本文学の基本的な知識の学習を通して、大学生としての教養を深めたいと思う。	
講義概要	論理的な文章表現の習得を目的とし、文章の構成・段落の問題、表記法、原稿用紙の使い方などの基礎的事項についての講義と実習を行い、文章による効果的な伝達の技能を養うようにしたい。 また、文字の問題・仮名づかいなど日本語に関する知識や教養としての能や歌舞伎など日本文学に関連する基本的知識についても言及したい。	
使用教材	テキスト	『新しい常用漢字の書き表し方』 角川書店
	参考文献	
評価方法	授業への出席と実作および年度末の試験によって決定する。	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	国語表現についての意義と一年間の講義概要を説明する。
2	現代社会における文章の機能についての考察とともに文章上達法についても考える。
3	「文は人なり」について考えるとともに文章と文体についても言及する。
4	文章表現のプロセスとして、文章の目的・主題の選定・主題の限定などについて説明する。
5	文章表現のプロセスとして、材料の意義・材料の源泉などについて説明する。
6	文章表現のプロセスとして、材料の順序と構成やアウトラインについて説明する。
7	豊かな内容とは——物の見方や読書などについて考える。
8	国語表記の問題——段落の分け方や送りかななどについても言及する。
9	原稿用紙の使い方や校正などについても説明する。
10	作文を書く（添削と採点）
11	作品を返還して、感想や注意事項を述べる。特に誤字の問題、常体・敬体の混在など。
12	学生が黒板に出て、漢字かなづけ・漢字書き取りを行う。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	教養として能・狂言の入門——熊野・附子など——
2	教養としての歌舞伎入門——勸進帳・与話情浮名横櫛など——
3	文字について——特に「漢字御廃止之儀」から常用漢字までを概説する。
4	仮名づかいについて——仮名づかいの歴史、特に歴史かなづかいと現代かなづかいに力点をおいて説明する。
5	標準語と方言について説明し、女房詞や忌詞などについてもふれる。
6	文章のさまざま——実用性の濃い文章と芸術性の濃い文章など——
7	手紙の書き方——手紙の形式を中心にして説明する。
8	課題作文を書く（添削と採点）
9	作品を返還し、感想や注意事項を述べる。
10	学生が黒板に出て、四字句の完成などを行う。
11	まとめとしてプリント二枚を配り、年度末試験についての傾向と対策を説明する。
12	ことばと社会について——ことばの乱れや敬語法について考える。
備考	

科目名	国語表現（94年度以降） 国語（93年度以前）	担当者名	宮澤康造
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	<p>国語表現には、音声（話し言葉）と文字（文章）による二つの方法がある。本講座では文章表現を主として展開し、その基本を身につけると共に、実作と作家の文章の考察により文章力を高めることを目標とする。また応用として詩歌などの創作、新聞や雑誌の編集、自分史のまとめなどについても広く学ぶ。</p> <p>書くことが習慣化し、文章を読みまた書くことが楽しくなることが最終の目標である。</p>	
講義概要	<p>継続は力、とくに国語表現の養成は、日常生活の中でのたゆまぬ努力によって培われる。文章は内なるものの表現、書けるようになるには、内なるものの充実が必要である。体験を重んじ、読書を大切にすることが必須である。現代の情報の氾濫の中で、いかに情報を受容し活用するかが鍵となる。</p> <p>本講座では、年間を通じて書くことに心を向けさせ、書くことの方法を身につけるための習練と広い知識の学習を用意している。手紙の書き方からはじめ、漢字や仮名づかい、作家の文章や文章論に学び、新聞や碑文のことばに関心を寄せ、資料の生かし方、編集の方法など多岐に及んだ講義・演習を用意している。</p>	
使用教材	テキスト	①「文章の書き方」（文化庁）②「作家・文学碑の旅」（ぎょうせい）
	参考文献	前期の第1時限「国語表現参考書目」（プリント）で提示。
評価方法	<p>①出席を重視する。毎時のノート、プリント等の累加記録が大切。</p> <p>②前・後期末のテスト2回の成績</p> <p>③折々の作文のまとめと提出状況、自主レポート</p> <p>④学生の自己評価も参考にして、総合評価</p>	
受講者に対する要望など	<p>欠席や遅刻を平気とする者は、初めから受講の申込みをしないこと。</p> <p>受講するなら最後まで出席への努力を重ねるように。</p>	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講座要項、国語表現参考書目（プリント）により、年間の講座の概要を示す。また文章の姿、上達のための要件について講話。
2	手紙について—— 文章に習熟する近道は、手紙と日記を書くことである。まず手紙についての知識から身につけるようにする。実習—— 封筒の書き方
3	手紙の実習と諸注意—— 手紙についての具体的留意事項を葉書・封書・往復葉書・海外郵便等で学ぶ。
4	作家の手紙の考察—— 藤村・漱石はじめ作家の書簡から学ぶ。 詩から散文へ—— 藤村の小諸時代の手紙。資料としての手紙。
5	文章の書き方—— テキスト①座談会の要約をメモしながら、文章の要点を学ぶ。メモのとり方と実習。記録というものの力。持続は力なりということ。
6	原稿用紙の書き方—— 文章における段落というものの理解、原稿用紙の正しい表記に慣れる。
7	文題と内容—— 一般題と特殊的文題の理解、題材とその構成のしかたについて学ぶ。テキスト①文章の技術
8	漢字の学習—— 誤り易い漢字や熟語、身につけたい160の漢字、漢字の字源、構成を学ぶ。
9	文章の書き方—— 望ましい文章とは何か、機能的な文章への関心を深める。文章の種類とそれに応じた書き方を学ぶ。
10	文章論に学ぶ—— 作家の文章読本・文章論を通じて、文章のあるべき姿を知る。書き出しの工夫、結びの要領、構成等を学ぶ。
11	文学碑のことば—— 作家の文学碑に刻まれたことばや文章を通じて、ことばの力を考える。それぞれの作家の特色の理解。テキスト②
12	埼玉県の文学碑—— 文学碑一覧により、学園近辺の文学を理解する。とくに芭蕉と草加などレポートのまとめ方、夏休みの自主レポートを計画する。
備考	夏休みを利用して、国語表現にかかわる学習を進める。その参考題目を挙げ、その中より自主レポートとして進んでまとめることを心がける。

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期答案の返却と概評。「ことしの夏を語る」感想発表またはメモ。題材となるものをどのように列べるか考える。 実作—— 「ことしの夏」
2	作家の文章の考察—— 短編を選び、その主題を考察する。さらにその書き出しと結筆の工夫を考える。
3	かな（カナ）文字について—— 「あいうえお」五十音、「いろは歌」四十七文字の由来、かな・カタカナの由来、変体仮名について学ぶ。
4	作家と文章—— 好きな作家を選び、その文章の特色を考え、文章の道を学ぶ。作家とエッセイ（随筆集）、作家のペンネームの由来を知る。テキスト②
5	外来語—— 新聞・雑誌に登場するカタカナ語・外来語の文章中での生かし方。キーワードについて。 実習—— カタカナ語の収録
6	新聞に学ぶ—— 日刊新聞を通じて、新聞のあるべき姿、その概要を知る。見出しと内容について。社説、コラムの文章について。実習—— 新聞記事の切抜き
7	新聞に学ぶ—— 新聞・雑誌の編集について。割付けということ。作家・文人の投稿の文章、コラム欄に学ぶ。
8	作家の文章論に学ぶ—— 作家の文章読本、文章論を通じて文章のあり方を考える。丸谷オー「名文を読め」ということ。（前期の展開）
9	短詩型文学について—— 日本の韻文として、和歌、俳句、川柳、詩等のさまざまな短詩型文学を理解する。 実作—— 俳句を作る
10	レポート、論文のまとめ方—— 資料を生かしていかに整った文章に構成するかを学ぶ。 実作—— 「大学生活とは」
11	自分史のまとめ—— 現在迄の年譜の作成。その中の一時代の文章化を試みる。その積み重ねで自分史をまとめる。 実作—— 「～のころ」
12	情報や資料の生かし方—— 溢れる情報洪水の中から、いかに資料を収集し、生かすかを学ぶ。スクラップの作り方。
備考	プリント資料の綴じ込を作成



科目名	日本文学	担当者名	北村 進
-----	------	------	------

講義の目標	近代の小説を読み味わいながら、小説のおもしろさ、奥深さを学ぶとともに、人間・社会・愛・自分などについて考える。いろいろな作品を取り上げ解説を加えることによって、小説に対する興味を持たせたい。今が一番本を読める時期だからである。		
講義概要	近代のいろいろな人の短篇小説を読み、内容を把握しながらその作品の主題、作者の意図するところを探り、理解を深める。また作者についても学ぶ。作品を読んだ後は簡単な読後感想を書いてもらう。		
使用教材	テキスト	『近代の短篇小説』 ㈱おうふう	
	参考文献	必要があればその都度指示する。	
評価方法	前期はレポート、後期は未定。 出席も重視する。		
受講者に対する要望など	休まず出席すること。積極的に意見を述べること。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要を説明し、近代文学の流れを概観する。アンケートに答えてもらう。
2	坂口安吾を取り上げる。坂口安吾について解説し、安吾の文学史における位置付け、及び「無頼派」について解説する。
3	坂口安吾「桜の森の満開の下」を読む。
4	「桜の森の満開の下」の作品世界について考察する。
5	太宰治を取り上げる。太宰治の生涯をたどりながら、文学活動を三期に分け、それぞれの特徴について解説する。
6	太宰治の前期の作品から一つ選んで読み、解説する。
7	「走れメロス」を取り上げ、この話の元となったシラーの詩との比較を通して作品化の方法について考察する。
8	太宰の中期の作品から一つ選んで読んでみる。
9	「桜桃」を読み、晩年の太宰について「家庭」という面から考察する。
10	横光利一を取り上げる。「新感覚派」について文学史をたどりながら解説する。
11	横光利一の「蠅」を読み、その作品世界について考察する。
12	横光利一の「頭ならびに腹」を読み、その作品世界について考察するとともに、千葉亀雄の「新感覚派の誕生」にも触れる。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	横光利一「春は馬車に乗って」を読む。
2	中島敦を取り上げる。中島敦について解説し、「名人伝」を読む。
3	「名人伝」について解説し、中島敦の文学方法について考察する。
4	中島敦の「文字禍」を読み、解説する。
5	武田麟太郎を取り上げる。武田麟太郎について解説し、「雪の話」を読む。
6	「雪の話」について解説する。
7	森鷗外の歴史小説を読み、解説する。
8	同 上
9	同 上
10	大江健三郎「他人の足」を読む。
11	「他人の足」について考察し、作品の意図をさぐる。
12	樋口一葉「十三夜」を読む。
備考	

科目名	日本文学	担当者名	中村文
-----	------	------	-----

講義の目標	鎌倉時代の初めに成立した『建礼門院右京大夫集』を講読する。平家の全盛を背景とした華やかな宮中の女房として仕えた作者が、源平の争乱による恋人の戦死という悲痛な体験を乗り越え、自らの生涯を綴った作品の読解を通して、王朝最末期の動乱の時代を一人の女性がどのような姿勢と心情で生き抜いたのか、読み取っていきたい。また、人間が自己の体験を文字で記録することの意味について考えたい。		
講義概要	作者の建礼門院右京大夫は、平清盛の娘で高倉天皇の後となった徳子の許に仕える女房であった。平家の莫大な経済力に裏打ちされて、王朝の残り火のように展開した絢爛たる文化の中で、まだ少女のような作者は輝くように美しい天皇と中宮徳子の姿を仰ぎ見、平家の公達との風雅な交遊を楽しみ、宮仕えの煩わしさに悩み、二人の貴公子との恋に苦しんだ。そうした女房としての様々の体験を読み取りながら、実際の時代状況と照らし合わせて、彼女が何を書き残し、何を書かなかったのかを探り、戦乱や恋人の死を経験した女性にとっての追憶の意味や自己の生涯をことばによって再構成する理由などについて考えたい。		
使用教材	テキスト	久松潜一・久保田淳校注『建礼門院右京大夫集 付平家公達草紙』（岩波文庫）	
	参考文献		
評価方法	前期・後期各一回のレポートを提出してもらう。作品に対する読解の程度により判定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイドンス。時代的背景についての解説。
2	序文。内と中宮。
3	中宮と建春門院。
4	実宗との贈答。実宗と維盛。
5	御八講。一枝の花。上の御笛。
6	友の恋。慶び申し。内裏近き火。
7	蘆分け小舟の櫛。のがれがたき契り。
8	おましのきりぎりす。尾花が袖。
9	風をいとふ花。御垣の花。
10	清経と大炊御門齋院中将。忘れ草。
11	維盛北の方との贈答。
12	西八条の遊び。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後白河院京極慰問。
2	臨時の祭。
3	雪の朝。朝顔の花。
4	面影に立つ夕。
5	中宮の御産。
6	色好むと聞く人。
7	焚く藻の煙。
8	なれし枕。夜床のほととぎす。
9	星合の空。
10	重衡の鬼物語り。
11	寿永・元暦の世のさわぎ。
12	ためしなき別れ。
備考	

科目名	日本文学	担当者名	肥田野 昌之
-----	------	------	--------

講義の目標	日本の代表的な古典である『万葉集』を講読する。主として作品の背景をなす万葉の時代・万葉人の生活・歴史的事件などについて解説し、教養人として必要な「万葉集入門」となるような講義をしたいと思う。		
講義概要	前期は主として、初期万葉の歴史的事件を背景として、有間皇子や大津皇子の悲劇・額田王や但馬皇女などについて、その歌とのかかわりで物語風に概説する。また代表歌人たる人麻呂などの有力歌人群、東歌・防人歌の問題、伝説・説話の歌など広く検討してみたい。		
使用教材	テキスト	小野寛校註『万葉集抄』笠間書院	
	参考文献	斎藤茂吉『万葉秀歌』上下（岩波新書）	
評価方法	授業への出席と前・後期試験によって決定する。		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要の説明。『万葉集』について名義・成立・注釈書などを概説する。
2	巻一国歌大鑑番号1番・雄略天皇の歌について考える。
3	中大兄の三山歌について、いろいろな角度から考察する。
4	額田王とその歌についての説明と鑑賞。
5	柿本人麻呂とその長歌を中心に読む。
6	大津皇子・大伯皇女について、謀反事件を考察しながら、それらの歌を読む。
7	穂積皇子と但馬皇女の悲恋と歌物語について。
8	有間皇子の謀反と歌について、日本書紀を参考にして考える。
9	再び柿本人麻呂の短歌とその終焉について考える。
10	山部赤人「不尽山を望くる歌」を中心に読む。
11	前期のまとめとしてプリント二枚を配って、前期試験の傾向と対策について説明する。
12	大宰帥大伴旅人「酒を讀むる歌」を中心にして読む。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	真間娘子について——赤人と虫麻呂——
2	山上憶良とその歌——貧窮問答歌を中心にして——
3	万葉集の歌体について、特に旋頭歌を中心にしての歌と説明。
4	高橋虫麻呂の伝説歌について——浦島子・菟原処女など——
5	寄物陳思・正述心緒——巻十一の歌を読む。
6	万葉集の用字法——特に義訓・戯訓など。
7	東歌についての説明と歌。
8	中臣宅守と狭野弟上娘子の悲恋とその贈答歌について。
9	巻十六有由縁并雑歌を中心にして読む。
10	大伴家持とその歌について講読する。
11	後期のまとめとしてプリント二枚を配り、後期試験の傾向と対策について説明する。
12	防人歌についての説明と歌。上代特殊仮名遣についても説明する。
備考	

科目名	外国文学	担当者名	亀谷敬昭
-----	------	------	------

講義の目標	<p>外国文学といっても、ここではヨーロッパの文学を主とする。ギリシア・ローマ以来ヨーロッパの文学は、人はいかに生きるべきかという問題と深く関係してきた。文学の原点をここにすえて、それぞれの時代と国とにおいて、この問題がどのように展開されてきたのかを検討してみるのが、本講義の目標である。世紀という概念はヨーロッパ的であるにしても、間もなく新しい世紀を迎えようとするこの時期に、人生いかに生きるべきかは永遠の課題であり、自ら探究しようとする人の指針となることを期待している。</p>		
講義概要	<p>ヨーロッパ文学を代表する作品約10編を取り上げ、その作者や時代の背景、作品の成立やその問題点などを検討し、それが現代のわれわれにどのような意味があるのかを考える。</p>		
使用教材	テキスト	<p>授業時間中に適宜指示する。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前期はレポートで、後期は試験とするが、時々簡単な小テストを試み、これらを合わせて評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「ホメロスの「イーリアス」。その成立および背景となる事情。
2	「イーリアス」続き。アキレウスとヘクトールの決闘。後代のヨーロッパ文学に及ぼした影響など。
3	アイスキュロスの「アガメムノン」。その成立および背景となる事情。
4	「アガメムノン」3部作。オレステスの復讐とその後。
5	ソフォクレスの「オイディプス王」。
6	「オイディプス王」続き。ギリシア悲劇と近代悲劇の比較
7	「ニーベルンゲンの歌」。その成立と背景となる事情。
8	「ニーベルンゲンの歌」と「ベアオルフ」および「ローランの歌」との比較。
9	クリストファー・マーロウとシェイクスピア。
10	シェイクスピアの4大悲劇について。
11	ゲーテの「ファウスト」第1部の成立とその背景
12	ゲーテの「ファウスト」第2部の成立とその背景
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ゲーテの長篇小説「ウィルヘルム・マイスターの徒弟時代」。その成立と背景および後代への影響について。
2	ゲーテの長篇小説「ウィルヘルム・マイスターの遍歴時代」。その成立と背景について。
3	レフ・トルストイの長篇小説「アンナ・カレニナ」その成立と時代背景。
4	「アンナ・カレニナ」と「戦争と平和」の比較。
5	ドストエフスキイの「罪と罰」。その成立と時代背景。
6	「罪と罰」と「カラマーゾフの兄弟」の比較。
7	トーマス・マンの長篇小説「ブテンブローク家の人々」。その成立と時代背景。
8	「ブテンブローク家の人々」と「魔の山」の比較。
9	ヘルマン・ヘッセの「荒野の狼」について。その成立と時代背景。
10	「荒野の狼」と「車輪の下」の比較。
11	フランツ・カフカの作品「城」。その成立と時代背景。
12	「城」と「審判」の比較。
備考	



科目名	外国文学	担当者名	北澤 滋久
-----	------	------	-------

講義の目標	文学を味わうことの愉しさを伝え、併せて教養豊かな国際人をめざす者の人間形成の一助とすることを主たる目標とします。		
講義概要	<p>—英米の文学に観る人間像—</p> <p>英米の文学のなかの古典・傑作をいくつかのトピックスに大別して、1講義、1作家、1作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説してゆきます。毎回聴いていけば「学」はつくでしょうが、文学史的な体系を覚えてもらうつもり科目ではありません。何より受講者の感性に訴えたく思います。文学は本来楽しいものはずです。この際ちょっと読書好きになってさえもらえれば、美しく感動的に描かれた未知の人生や思想と出会えて、心地よい興奮とともに、ずっしりと重く自分の人生への指標が仄かに視えてもくることでしょう。こうした文学へのいざないに、肩のこらない楽しい授業にしたいと思います。興味ある向きは、最初のガイダンス授業を覗いてみてください。</p>		
使用教材	テキスト	テキストは特に定めません。	
	参考文献	参考文献は、2回目の授業時間に一覧表にして配布します。	
評価方法	前期の講義で扱った作品の中から一編を読んで（翻訳可）、その感想文を夏休み後に提出してもらいます。これと後期の試験により評価します。		
受講者に対する要望など	毎年多数の受講者の集まるのは結構なのですが、熱心な学生から私語が多くて困るとの苦情が出ています。単に単位獲得のみを目的とする方は悪しからずご遠慮ください。因みに毎年20-30%の不合格者が出ています。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	登録のよすがに：本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと
2	開講の辞：言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学
3	I 現代文明下のアメリカの少年たち 『ハックルベリーの冒険』：インノセントな魂 THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN by Mark Twain
4	『ブラック・ボーイ』：人種差別に抗って BLACK BOY by Richard Wright
5	『ライ麦畑でつかまえて』：現代社会に生きることの苦悩 THE CATCHER IN THE RYE by J. D. Salinger
6	II 19世紀、イギリスの娘たち 『テス』：汚された？純潔 TESS OF THE D'URBERVILLES by Thomas Hardy
7	『フロス河畔の水車場』：新しい女性の生きざまを求めて THE MILL ON THE FLOSS by George Eliot
8	『ジェーン・エア』：自立する女性 JANE EYRE by Charlotte Brontë
9	III 19世紀、英米文学の驚異 『嵐が丘』：天国と地獄のパラドックス WUTHERING HEIGHTS By Emily Brontë
10	『白鯨』：近代的英雄の悲劇 MOBY-DICK by Herman Melville
11	IV 英雄不在の20世紀の英雄たち 『ロード・ジム』：英雄ならざる英雄の悲劇 LORD JIM by Joseph Conrad
12	『老人と海』：一老漁師にみる英雄的雄姿 THE OLD MAN AND THE SEA by Ernest Hemingway
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	V 海洋(冒険)小説の諸相 『ロビンソン・クルーソー』：孤島に生きる近代人 THE ADVENTURES OF ROBINSON CRUSOE by Daniel Defoe
2	『ガリヴァ旅行記』：人間嫌悪の結晶 GULIVER'S TRAVELLS by Jonathan Swift
3	VI 近代芸術観の極致 『月と六ペンス』：芸術家の狂気 THE MOON AND SIXPENCE by William Somerset Maugham
4	『アッシュナー館の崩壊』他：至上の美を求めて THE FALL OF THE HOUSE OF USHER by Edgar Allan Poe
5	『ドリアン・グレイの肖像』：耽美の世界に踏み入って THE PICTURE OF DORIAN GRAY by Oscar Wilde
6	VII 父なるもの、母なるものの原像 『ハムレット』：青年の母への愛憎 HAMLET by William Shakespeare
7	『息子たち、恋人たち』：母と息子の絆・SONS AND LOVERS by D. H. Lawrence
8	『若い芸術家の肖像』：父なるものを求めて A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN by James Joyce
9	VIII 倫理と欲望の狭間 『ねじの回転』：女性家庭教師のみた幻想 THE TURN OF THE SCREW by Henry James
10	『事件の核心』：信仰と不倫に揺れて THE HEART OF THE MATTAER by Graham Greene
11	『緋文字』：姦通と復讐の贖い THE SCARLET LETTER by Nathaniel Hawthorne
12	閉講の辞：芸術と人生、そして質疑・応答
備考	

科目名	外国文学	担当者名	松山恒見
-----	------	------	------

講義の目標	読書の愉しみと、それによってもたらされる教養の基盤がどれほど大きいかを悟ってもらうこと。特に、自国文学ではなく、他国のそれは、地球規模でものを考える時代には、よその国の人びとの思想感情を少しでも理解すると共に、他山の石として、自分の生活や研究にも役立てられるはずで、これも当然、射程に入る。		
講義概要	本年度については、広く読まれている作品を可能なかぎり中軸にしたい。同時に、文学作品を架空の出来事と見るのではなく、自分の人生にひき較べるような読みかたを会得させたい。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	多岐にわたるので、その都度指示。	
評価方法	前・後期とも、課題図書を定め、その読後感を書いてもらうことで評価の50%とする。残る50%は、通常の試験と同様で、講義内容の理解度を見る出題による。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	読書について——文学とは何か。自国文学を知るためにも、外国文学を知ろう。
2	ヨーロッパ文学の源泉(1) 古代ギリシャ・ローマ文明、とくにその文学。
3	ヨーロッパ文学の源泉(2) 聖書、キリスト教。
4	中世文学——ロランの歌、トリスタンとイゾー、狐物語、ヴィヨン。
5	十六世紀 (ルネッサンス) ——モンテーニュとラブレー。
6	十七世紀——古典主義、コルネイユ、ラシーヌ、モリエール。
7	十七世紀(2) ラ・フォンテーヌ、デカルト、パスカル、モラリスト、ラファイエット夫人 (クレヴの奥方)。
8	十八世紀——啓蒙主義、ヴォルテール、ディドロ。(課題図書発表)
9	十八世紀(2)——ルソオ、「危険な関係」、「ポールとヴィルジニー」、「マノン・レスコー」。
10	フランス革命をめぐる。アナトール・フランスの「神々は渴く」。
11	十九世紀——ロマンチズム。シャトーブリアン、スタール夫人、(輔)コンスタンの「アドルフ」。
12	十九～二十世紀文学の展望。(進度調節)
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ロマンチズムの四大詩人。ユーゴー。
2	スタンダールの「ラシーヌとシェイクスピア」をめぐる。
3	ジュージュ・サンド、バルザック。
4	スタンダール、メリメ。
5	フロベール、モーパッサン。
6	ボードレール、ヴェルレーヌ、ランボー、マラルメ。(象徴主義)
7	十九世紀のその他の作品。
8	ゾラ、自然主義。(課題図書発表)
9	アンドレ・ジイド、ヴァレリー、ブルースト。
10	コクトー、ロマン・ロラン、マルタン・デュガール、その他。
11	サルトル、ボーヴァール、カミュ、モーリャック。
12	現代文学。ルイ・アラゴンからミシェル・トゥルニエまで。
備考	

科目名	外国文学	担当者名	官澤康造
-----	------	------	------

講義の目標	<p>訓読漢詩文を通じて、中国の古典を学習し、その読解力を身につける。特にわが国の古典に大きな影響を及ぼした唐代の詩文について学ぶ。あわせて現代に生きる漢文故事成語の原典に当り、また広く故事成語を理解する。</p>		
講義概要	<p>古くから日本の文物制度は、中国に負うところが大きい。特に中国文学がわが国の文学に与えた影響は大きい。日本古典の学習には、漢文の読解力や理解を無視することはできない。本講座では、漢文読解の力を養い、漢詩文を理解し、また日本で現在も生きている故事成語を広く学ぶ。基礎編で漢文の訓読、演習編で漢詩文の読解・演習に当る。</p> <p>さらに参考のプリント教材を多く用意して、広く中国文学の概要を学び、日本所在の漢詩文の碑（いしぶみ）の読解なども加えて、興味ある講座を用意している。</p>		
使用教材	テキスト	詩文選・故事成語考（御牧貞風編）	
	参考文献	<p>①漢文学習のための辞典 ②教材学習のための参考書</p> <p>いずれも授業時プリント等で示し、解説する。</p>	
評価方法	<p>①出席状況を重視する。日頃の訓読演習への参加は学習向上への鍵。</p> <p>②前・後期末実施のテストの成績。</p> <p>③学生の自己評価表も参考にする。</p> <p>④自主レポート</p> <p style="text-align: right;">以上の四点から総合評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>継続は力、日常の学習の積み重ねが肝要。平気で休んだり遅刻するような学生は始めから申し込みをしないこと。学問を通じて人間形成を望む者は来れ。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	漢文学の学習について——日本文学と中国古典との関連にふれ、漢文学習の重要性を知る。まず身近かな故事成語から学ぶ。年間講座要項の説明。
2	漢文の基礎——漢文訓読の方法について学ぶ。現代に生きる漢文故事成語にどんなものがあるか。その原典は。初め三回はプリントによる考究。
3	漢文の基礎——漢文の字源（成り立ち）、中国の歴史概略、中国文学の日本文学への影響、日本所在の漢文・漢詩碑について。森鷗外撰文の漢文碑の通読。
4	訓読基礎編——「他山之石」「五十歩百歩」（テキスト1頁） 読解（指名読・範読・斉読・語釈・通解・・・以下共通）日本のことわざと比較。
5	「矛盾」「朝三暮四」「借虎威」（テキスト2～3頁）読解。
6	「蛇足」「四面楚歌」「寒翁馬」（テキスト4～6頁）読解。
7	漢文故事成語考（テキスト27～54頁）の学習。故事成語をどのように理解するか。その出典との関係を考える。
8	年令の異称・名数についての理解。（テキスト55～60頁）
9	演習編 陶潜「飲酒」の読解。陶潜の生涯とその文学について。
10	「帰園田居」の読解。古詩の押韻について。
11	「帰去来辞」「五柳先生伝」の読解。中国の文章の種類について。
12	全国漢詩碑についての考察。夏休みの自主レポートのこと。
備考	夏休みの余暇に、漢文や漢詩の碑を探訪して、その読解を試みる。（参照——全国漢詩碑）読めないところは、後期の質問として解明していく。

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の答案返却と概評。王維の詩「送元二使安西」の読解。「唱渭城」とは。唐代の詩の概説——主なる詩人とその作品について——
2	劉希夷「代悲白頭翁」（白頭吟）の読解。対句的表現の妙について。
3	李白と杜甫について——プリントにより対比考察。李白と「子夜呉歌」、「子夜呉歌」読解。楽府について解説。
4	李白の詩を学ぶ——テキスト六編の中より好きな一詩をとくに考究して、暗誦できるまで学習する。六詩の通解。
5	杜甫の詩を学ぶ——テキスト六編の中から好きな一詩を選び、暗誦できるまで学習する。「貧交行」～「月夜」の五詩通解。
6	杜甫の詩「兵車行」の考究。設問（プリント）の解答。杜甫の詩の特色についてまとめる。
7	白居易について——その生涯と作品について——「慈烏夜啼」読解。
8	「長恨歌」を学ぶ。——長編の詩の通読、表現上の特色について知る。段落と押韻について考究。第一段の読解。
9	「長恨歌」を学ぶ。——第二・三段の読解。設問（プリント）の解答。
10	「長恨歌」を学ぶ。——長恨歌伝、長恨歌の背景について解説。
11	「長恨歌」と日本古典——源氏物語をはじめ、わが国古典に及ぼした影響を考究、さらに中国古典と日本文学との関係を学ぶ。
12	故事成語学習のまとめ——故事成語の原典の通読（テキスト27～54頁）現代の新聞にあらわれた故事成語について。
備考	

科目名	歴史学（日本史）（94年度以降） 日本史（93年度以前）	担当者名	新井孝重
-----	---------------------------------	------	------

講義の目標	13世紀の中頃から畿内を中心にあらわれる盗賊武士団＝悪党を、鎌倉時代の体制がもつ矛盾と関連づけて観察し、彼らの活動が客観的にはたした歴史的意味をさぐる。		
講義概要	鎌倉体制の崩壊とそれにつづく建武政権・南北朝の内乱の過程を民衆の視点から詳論する。北条得宗専制の体制は、地方農村にいかなる重圧を加えていたのか、その体制に反抗する悪党と呼ばれる集団は、いかなる人びとであったのか、建武政権はどのような政策をとったのか、そしてこの政権の政策に対する武士の対応はどのようなものであったか、さらに南北朝内乱期の民衆の武力がいかなる特質をもっていたのか、などのことがらをみる。		
使用教材	テキスト	・新井孝重『中世悪党の研究』吉川弘文館	
	参考文献	・網野善彦『蒙古襲来』小学館、日本の歴史 ・佐藤進一『南北朝の動乱』中央公論、日本の歴史（中公文庫にあり）	
評価方法	評価は、後期の試験成績をもってする。		
受講者に対する要望など	紳士的な態度でリラックスして聴いていただければよい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	寺社に現われる悪党。これまで荘園を支配し、悪党に対峙する存在として考えられてきた寺院や神社内部から、実は悪党が発生している事実を注目する。
2	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(1)寺院内部の構造としくみを観る。とくに僧房という私的空間に僧の武装慣行のはじまった事実を注目。
3	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(2)寺院の全体意志の形成原理、実現の様式を注目し、それとの対抗的存在と行動を「悪僧」にみる。
4	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(3)寺院「悪僧」と農村武士悪党とのつながりを観察する。
5	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(1)中世成立期荘園制の概容をながめる。
6	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに名主と名田に対する権力の統制装置を「没官」を通じて考える。
7	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに下司・公文など荘官層のかかえもつ矛盾を別出する。
8	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに〈荘園〉を構成する寺院権力の在地とのかかわり方をみる。
9	幕府権力の動態(1)鎌倉幕府の成立と將軍専制のありようを概観する。また、地方の行政権力としての守護、地頭を発生の際と役割の面からみる。
10	幕府権力の動態(2)鎌倉幕府の内部における執権と評定制にみられる権力の安定性と、武家政治の充実をみる。
11	幕府権力の動態(3)鎌倉幕府の得宗家の専制化と権力の不安定化を、モンゴル襲来、御家人窮乏、霜月騒動を通じてながめる。
12	悪党の跳梁は、鎌倉時代政治史に何をもたらしたか。前期授業の総括を兼ねて北条得宗専制と公家、寺社の伝統的・門閥的支配に反抗する悪党を観る。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	南北朝内乱期悪党の群像(1)伊賀国黒田荘悪党金王兵衛盛俊の動きを追う。
2	南北朝内乱期悪党の群像(2)伯耆の土豪・武装商人であった名和長年の動きを追う。
3	南北朝内乱期悪党の群像(3)河内の土豪武装芸能民であった楠木正成の動きを追う。
4	建武政権の崩壊(1)後醍醐天皇はいかなる権力の樹立をめざしたか、理念と現実をみる。
5	建武政権の崩壊(2)政権を崩壊にみちびいた足利尊氏・直義の動きを観察する東国足利荘を基盤として成長した豪族領主足利氏を観る。
6	建武政権の崩壊(3)南北両朝の大分裂、足利族内抗争（観応の擾乱）の政治過程を通観する。
7	内乱を通じて何が変わったか。(1)変わる戦争の形態、騎馬から徒歩立の戦闘、悪党の傭兵化、足軽の発生。
8	内乱を通じて何が変わったか。(2)変わる村の生活、旧名体制がくずれて、新たな小百姓らをふくむ惣村が形成された。
9	内乱を通じて何が変わったか。(3)民衆の発言力の増大。荘園にくらす農民たちは、みずからの結合組織をバックに、さまざまな戦いを開始する
10	バサラと芸能(1) 内乱期の文化表現にバサラというのがある。バサラ大名の佐々木道誉、土岐頼遠の行動様式を通じてバサラについて考える。
11	バサラと芸能(2) 中世を貫徹する「狂」の表現（バサラをも通底する）を、“悪”なるものを基礎にして考える。寺院大衆の延年、猿楽などを観察。
12	中世の終焉。中世的な世界を、地侍の一揆体制という形で実現していたかつての悪党の巢窟伊賀国は、近世の先駆的権力織田信長に滅ぼされた。
備考	



科目名	歴史学（日本史）（94年度以降） 日本史（93年度以前）	担当者名	齊藤 博
-----	---------------------------------	------	------

講義の目標	地域民衆史や全体史としての社会史の立場から、日本および日本人のトータルな課題に迫る。思想・人物・地域の三視点から日本人像に照射を加えたい。		
講義概要	<p>読書を通じての思索によってしか、歴史的なものの見方は身につかない。「若者の感性」やマスメディアの多数派思考やCM的流行ムード、あるいは国民的多数のマインドによって、歴史学を水に薄めるわけにはいかないのである。きちんとした専門書、あるいはしっかりした啓蒙書を読むことが、歴史学の学習には求められている。</p> <p>レポートは、「我が家の歴史」である。夏期休業中に祖父母、家業、家系についての聴き取り調査、文献文書の報告書（400字詰縦書き5枚以上）を提出（後期第1回目授業まで）する。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齊藤 博『歴史の精神』学文社</li> <li>・齊藤 博『民衆史の構造』新評論</li> </ul>	
	参考文献	講義の間に、12冊以上を紹介する。そのうち2～3冊は是非とも通読してもらいたい。	
評価方法	前期と後期にペーパーテスト（論文形式）がある。		
受講者に対する要望など	出席が良好でないとう理解しにくい内容・傾向・水準にある。日本史だから日本人にはよくわかる、ということはない。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本および日本人について。日本史の特徴Ⅰ、日本人が日本史を学ぶ困難性
2	日本史の特徴Ⅱ、風土と歴史、日本史研究者像Ⅰ、新井白石、本居宣長、伴信友
3	日本史研究者像Ⅱ、津田左右吉、和辻哲郎、柳田国男、喜田貞吉、服部之総、羽仁五郎
4	日本史研究者像Ⅲ、瀧川政次郎
5	日本史研究者像Ⅳ、芳賀登、色川大吉、井上幸治
6	地域民衆史の視座と方法
7	「日本的なもの」を考える
8	「天への想い」Ⅰ、日中歴史学の比較と対照、東洋的歴史像の構築
9	「天への想い」Ⅱ
10	アジア的共同体論についてⅠ
11	アジア的共同体論についてⅡ
12	「我が家の歴史」をどう記録するか
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	近世史と近代史の問題点Ⅰ
2	近世史と近代史の問題点Ⅱ
3	明治維新論Ⅰ
4	明治維新論Ⅱ
5	高杉晋作の漢詩集を読む、教育精神の系譜から（獨協精神）、吉田松陰論、品川弥二郎論
6	同上Ⅱ、幕末維新論Ⅰ（日本資本主義発展史の視座から）
7	同上Ⅲ、幕末維新論Ⅱ
8	同上Ⅳ、幕末維新論Ⅲ
9	同上Ⅴ、幕末維新論Ⅳ
10	同上Ⅵ、幕末維新論Ⅴ
11	同上Ⅶ、近代化論をどう考えるか。
12	まとめ（総括）—日本および日本人論をめぐって
備考	

科目名	歴史学（東洋史）（94年度以降） 東洋史（93年度以前）	担当者名	春日井 明
-----	---------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>我々日本人は近代化の過程でアジアに対する視点を失い、語りかける言葉を失ってしまった。語りかけるにも語りかける術を知らないということは、彼等との歴史的土壌の共通性への感覚を失っているからである。アジアと言っても、近代化以前は中国文化圏と言い換えることができる東アジアの世界が、日本の歴史や文化の形成に深く関わり、我々の意識の深奥に東アジア的価値観とも言うべきものが存在することを歴史を材料として考えてみたい。今後の新しい価値観の創造に連なる意味ももつであろう。</p>		
講義概要	<p>東洋史の名で呼ばれる歴史世界の領域は非常に広い。そこで、歴史学でその対象としている東洋世界の気候風土の全体像と地域的な相違を大まかに理解し、その上で、日本の歴史・文化が育まれた東アジア世界に講義の中心を置き、さらにより焦点を絞って、日本の歴史の展開が東アジアの世界形成とその構造とどのように結びついてきたかを観ることにする。日本史を国際関係の中に位置づけて理解するということである。扱う時代は19世紀以前とする。</p> <p>以上を講義の骨格としながら、日本文化論に登場する幾つかの文化価値についても東アジア世界という立場から考えてみたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・西嶋 定生『中国史を学ぶということ』</p>	
	参考文献	<p>講義中に、随時紹介するものとする。</p>	
評価方法	<p>学年末に、常時出席者を対象として筆記試験を行う。出席していなかったものは、原則として受験資格を失う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義中の私語は厳禁。違反者はその時点で退室してもらう。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	アジアの風土と地理(1)
2	同 上 (2)
3	西アジア世界、中央アジア世界、北アジア世界、南アジア世界の素描(1)
4	同 上 (2)
5	東アジア世界の始まりと中国史
6	東アジアの一員としての日本の位置
7	漢字文化圏の成立と東アジア世界の関係
8	漢字について——その歴史的価値
9	冊封体制——東アジアの国際関係——の成立
10	女王卑弥呼の国際感覚と国際情勢
11	倭の五王と国際感覚と国際情勢
12	隋唐帝国の成立と、聖徳太子及び天智天皇の国際感覚の欠如
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	唐詩と平安文学を、歴史意識の視点から比較する。
2	10世紀から11世紀にかけての東アジアの変動(1)
3	同 上 (2)
4	日本の武家政権の有国際性と無国際性——(1)日宋貿易と勘合符貿易
5	同 上 (2)蒙古襲来と秀吉の朝鮮出兵
6	ヨーロッパのアジア貿易——茶をめぐる(1)
7	同 上 (2)
8	江戸時代の国際交流(1)——対中国
9	同 上 (2)——対朝鮮
10	祖先信仰と天の思想
11	中国の儒教(1)
12	同 上(2)
備考	

科目名	歴史学（東洋史）（94年度以降） 東洋史（93年度以前）	担当者名	熊谷哲也
-----	---------------------------------	------	------

講義の目標	<p>西アジアの歴史について講述する。イスラーム教徒が共有する過去を知ることにより、彼らが何を常識とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。</p> <p>イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、ここでじっくりと腰を落ち着け、彼らの歴史を学ぶことはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>前期は7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀までの歴史を概観し、イスラーム教の拡大によって広大な宗教世界が形成される様子を理解する。宗教・社会・文化についての基本的な知識も学ぶ。</p> <p>後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別、テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな問題について、関心と理解が深められるよう留意する。</p>		
使用教材	テキスト	とくに定めない。	
	参考文献	夏休みあけに読書レポートを提出していただくが、そのためにイスラームに関する新書程度の本を用意してもらおう。詳しくは授業で指示する。	
評価方法	試験とレポート。発想のオリジナリティを重視する。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。
2	イスラーム教の誕生以前の世界について考える。ユダヤ教やキリスト教の知識が必要である。
3	預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、その時代背景について考える。彼の教えがアラビア半島内にひろまる経過を理解する。
4	最初の4人のカリフ（正統カリフ）について考える。第一次内乱、シーア派の出現を理解する。
5	ウマイヤ朝の歴史について考える。これがヴェルハウゼンの古典理論において「アラブ帝国」と定義される意味を検討する。
6	アッバース朝の歴史について考える。その成立が、古典理論において「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行と定義される意味を検討する。
7	イスラーム教の聖典であるコーラン（クルアーン）、預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって成立・発達した初期思想とその展開について学ぶ。
8	アッバース朝時代から発達したアラビア科学とその内容について、また、中世イスラーム社会において民衆教化の役割をはたしたイスラーム神秘主義（スーフィズム）について考える。
9	アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその発展について考える。
10	エジプトのマムルーク朝について考える。とくにイクター制が西ヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。
11	ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代、それらが作り上げたヨーロッパの人々の歴史観について検討する。
12	予備
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点について検討する。また、カピトレーションの問題をとりあげる。
2	欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について考えながら、アジアにおける近代化の枠組をひとまず一般論として把握する。
3	西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動とその内容を考える。欧化主義や原理主義（復興主義）が成立する基本的なメカニズムを理解する。
4	さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフィズムなどの問題について考える。
5	エジプトの近代化とその過程について考える。
6	トルコの近代化とその過程について考える。トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。
7	近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて、いくつかの問題をとりあげて考察する。
8	知識人層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会に固有なことがらを取りあげ、近代化との関係について考える。
9	近・現代のアラブ世界の文化について考える。
10	今世紀のイスラーム世界について考える。イスラーム諸国における民族主義とそのゆくえ、マイノリティーの問題をとりあげる。
11	東西冷戦終結後におけるイスラーム諸国と欧米諸国との関係を考える。
12	予備
備考	

科目名	歴史学（西洋史）（94年度以降） 西洋史（93年度以前）	担当者名	高橋正男
-----	---------------------------------	------	------

講義の目標	<p>近年我々はユーラシア大陸の大半を占める西欧、東欧・ロシア、中東で起こった政治情勢の変転に際会し、人間生活の過去を構築する歴史学への興味をかきたてられている。本年度は文明の発生から現代に至るまでの政治・社会史に重点をおいた西洋史の大勢をエルサレムを基点に世界史的な連関のもとに多面的・立体的に理解させることを主眼とし、受講生とともに日本人の視点から西洋史を現代国際関係から見直し21世紀を展望してみたい。</p>		
講義概要	<p>講義は平明・概説的であるが、重要事項は詳述し、あわせて学界の研究状況も織り込んで紹介する。講義内容は別紙シラバスを参照されたい。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高橋正男著『エルサレム』（世界の都市の物語14）文藝春秋、1996年</li> <li>・高橋正男著『年表 古代オリエント史』（第2刷）時事通信社、1994年</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高橋正男著『旧約聖書の世界』（第4刷）時事通信社、1994年</li> <li>・D=バハト著（高橋正男訳）『図説 エルサレムの歴史』（第2刷）東京書籍、1994年</li> </ul> <p>その都度紹介する。</p>	
評価方法	<p>前期・後期の筆記試験による。</p> <p>講義資料等は出席者のみに配布する。</p>		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	歴史とは何か
2	先史時代・歴史時代
3	文明の発生
4	古代オリエント史の推移(1)
5	古代オリエント史の推移(2)
6	族長時代から王国成立まで(1)
7	族長時代から王国成立まで(2)
8	第一神殿時代 —前586年まで— (1)
9	第一神殿時代(2)
10	バビロニア捕囚時代
11	第二神殿時代 —前538～後70年—
12	第二神殿時代(2) まとめ・VIDEO
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ローマ時代 —70～330年—
2	ビザンツ時代 —330～638年—
3	初期ムスリム時代 —638～1099年—
4	十字軍時代 —1099～1187年—
5	アイユーブ朝およびマムルーク朝時代 —1187～1517年—
6	オスマン・トルコ時代 —1517～1917年—
7	イギリス委任統治時代 —1917～1948年—
8	イェルサレムの東西分断 —1948～1967年—
9	イェルサレム再統合 —1967年以降
10	第二次世界大戦後の中東情勢
11	現代歴史学の諸問題
12	後期のまとめ・VIDEO
備考	



科目名	歴史学（西洋史）（94年度以降） 西洋史（93年度以前）	担当者名	古川 堅 治
-----	---------------------------------	------	--------

講義の目標	本講座は「ヨーロッパの歴史」と題して、その統合と分裂の側面から通観し、今日のヨーロッパ連合が発展のどのような可能性をもっているかを考えることを目標としている。		
講義概要	講義は概説的に進めていくが、関連するテーマのビデオや映画などできるだけ使って理解を深めるのに役立てたい。授業では細かな年代や事項を暗記してもらうというのではなく、各テーマ毎に問題を提示し、それについて考えてもらうことを主眼にしているので、積極的かつ活発な質問、意見が出ることを期待されている。その意味でも自由に意見が述べられるようにアットホームな雰囲気、小じんまりとしながら進めていく。		
使用教材	テキスト	とくに使用することはない。	
	参考文献	フレデリック・ドルーシュ編／木村尚三郎監訳『ヨーロッパの歴史』東京書籍、1994年 クシントフ・ポミアン／村松剛訳『ヨーロッパとは何か』平凡社、1994年	
評価方法	前期・後期2回のレポートと何回かの小レポートで評価する。テーマ・枚数、メ切等については授業中に提示する。		
受講者に対する要望など	受身の姿勢ではなく、積極的に問題点を考え、議論する姿勢を期待する。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「はじめに」 ヨーロッパとは何か
2	「(1)先史文明から古典文明まで」(I) ・ヨーロッパ最初の耕作民 ・金属時代と地中海交易
3	「(2)先史文明から古典文明まで」(II) ・地中海世界におけるギリシアの発展 ・古典文明の最盛期
4	「(3)ローマ帝国の威光」(I) ・ローマ都市国家から世界帝国へ ・ローマ帝国のヨーロッパ
5	「(4)ローマ帝国の威光」(II) ・侵入と変動 ・新しいヨーロッパの成立に向けて
6	「(5)ビザンツ帝国と西欧世界」(I) ・ユスティニアヌスとビザンツ帝国 ・ビザンツ帝国の最盛期
7	「(6)ビザンツ帝国と西欧世界」(II) ・西欧世界とビザンツ帝国 ・東方と西方の宗教生活
8	「(7)中世のキリスト教世界」(I) ・中世ヨーロッパとキリスト教 ・ヨーロッパの封建制
9	「(8)中世のキリスト教世界」(II) ・都市のネットワーク ・文化的統一と政治的分裂
10	「(9)危機とルネサンス」(I) ・経済と社会 ・政治と行政
11	「(10)危機とルネサンス」(II) ・宗教と精神生活 ・文化の変容
12	「小 括」 前期のまとめ
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「(11)新世界との出会い」(I) ・ヨーロッパの膨張 ・「大発見」の時代
2	「(12)新世界との出会い」(II) ・植民帝国の形成 ・世界経済と異文化との接触
3	「(13)宗教改革と絶対主義」(I) ・宗教革命 ・対抗宗教改革とカトリックの改革
4	「(14)宗教改革と絶対主義」(II) ・宗教戦争とヨーロッパの分裂 ・絶対主義のヨーロッパ
5	「(15)啓蒙の時代と自由の思想」(I) ・グランド・ツアー ・社会生活と経済
6	「(16)啓蒙の時代と自由の思想」(II) ・啓蒙の時代 ・アメリカの独立戦争とフランス革命
7	「(17)ヨーロッパの近代化」(I) ・自由主義と民族主義 ・都市化と人口増加
8	「(18)ヨーロッパの近代化」(II) ・農業改革 ・ヨーロッパの工業化と社会改革
9	「(19)自己破壊への道」 ・第1次大戦 ・第2次大戦
10	「(20)分裂から相互理解へ」(I) ・分裂したヨーロッパ ・復興と東西対立
11	「(21)分裂から相互理解へ」(II) ・危機への対応 ・EUの可能性
12	「総 括」 一年間のまとめ
備考	

科目名	人文科学特殊講義A (東洋思想史) 1 (94年度以降) 東洋思想史 (93年度以前)	担当者名	春日井 明
-----	------------------------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>今、日本にとって近代西欧の諸価値は最早我々の目標ではなくなった観がある。近代西欧が其の輝きを失ったところのみ責任があるのではない。日本の社会が其の伝統と入念な対話をするところから近代西欧世界に入っていくことをしなかったところに我々の問題の出発点がある。産業社会が曲がり角に来て、足下を見つめ直すときが今であるとの認識から、「伝統思想と近代思想」との視点で中国の思想史を考察し、日本を振り返る際の契機を模索してみたい。</p>		
講義概要	<p>中国の思想史の中で伝統と近代の境界点はアヘン戦争にある。これ以降、中国は侵略され、必死で抵抗しながら自己変革の長い道のりを歩む。それは今日まで続いている。此の自己変革とは、前近代の古衣を脱ぎ捨て、借り物の近代という着物をちゃっかりと着て外側を変え、中身には殆ど手を付けずに、それでいて変革を済ませた顔をするというわけには行かなかった。中国文明は其の空間と時間の巨大さの故に、西欧的近代の外被をまとうだけでは全く身動きがとれない。伝統思想を栄養源とする近代化の産みの苦しみを経なければ本物の自己変革にはなり得なかった。そこで、伝統思想を支配者の思想と民衆の思想の両面から考察し、これがアヘン戦争後の近代思想としてどう変わっていったかを考える。</p>		
使用教材	テキスト	使用せず。	
	参考文献	『中国文化叢書』全10冊 大修館 1967～68年 『東と西の学者と工匠』全2冊 ニーダム著 山田慶児訳 河出書房新社	
評価方法	<p>学年末に常時出席者を対象として筆記試験を行う。  出席していなかったものは、原則として受験資格を失う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義中の私語は厳禁。違反者は其の時点で退室して貰う。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	中国思想の中核的なものとしてまずとりあげるべきものは儒教でもなく道教でもない。「天の思想」である。思想史の最初として、これを中心に周代から春秋戦国期への思想の推移をたどることとする。
2	此の第(1)として甲骨文字の「帝」と殷代の至上神を取り上げる。
3	(2); 周の成立と「天の思想」の出現
4	(3); いわゆる「徳治主義」—天信仰の非人格化—
5	戦国時代の政治状況と新思想の出現—「諸子百家」について—
6	孔子と孟子の「天道」と「人道」の峻別
7	「礼」の観念について—儒教と道教—
8	荀子の「性悪説」と法家思想
9	戦国期の混乱を経て秦漢統一帝国が出現する（前3世紀末）。あらゆる意味で其の中心は「皇帝」である。人間にとっての絶対者であると同時に宇宙の絶対者として君臨する。此処に「天道」と「人道」の再度の一体化が認められるのではないかとこの視点から、思想史の立場で「皇帝とは何か」を考える。
10	
11	儒教に於ける「皇帝観の変遷」
12	人格神仰と皇帝—方士と皇帝—。秦の始皇帝や漢の武帝の信頼を集めた巫祝たち（方士）を取り上げる。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	魏晉南北朝時代（3世紀末—6世紀末）は再び分裂の時代である。政治社会の混乱期であると共に精神世界の動乱の時代でもある。中国の伝統思想の基本的部分が始めて大きな外からの刺激を受けた時代と言える。
2	其の刺激の最大のものは異民族との否応のない交流である。そして道教の興隆と仏教の流入である。先ず、後漢時代の礼教国家と言われる社会がどう変わったかを探る。
3	民衆の思想を後漢末の「太平道」と「五斗米道」に見る—大同思想—。併せて、清朝末期の「変法運動」に於ける康有為の大同思想を考える。
4	中華思想（華夷思想）の変質と20世紀清朝末期に於ける華夷思想の崩壊
5	魏晉時代の知識人達—1—
6	同 上 —2—
7	魏晉南北朝期の「志怪小説」の思想的意味—1—
8	同 上 —2—
9	仏教の果たした役割
10	8世紀の唐王朝を中心とする東アジアの文化交流—1—
11	同 上 —2—
12	中国文学と日本文学の思想的比較
備考	

科目名	人文科学特殊講義A (現代社会と学問) 2 (94年度以降)	担当者名	川村 肇
-----	--------------------------------	------	------

講義の目標	<p>本年度は、「現代青年の自己認識」をテーマとして、現代青年の人間関係のあり方、社会へのかかわり方を探ってゆきたいと考えている。特に、青年をとらえている非合理的なものをどのように考えるか、またそのことと社会との関係をどのように考えるか、などの問題を、様々な具体的事例から討議などを通じて交流したい。これを通して、大学で学問を学ぶ意味をとらえ直し、新しい自分を発見するための第一歩となればと思う。</p>		
講義概要	<p>本や雑誌、ビデオ等で描き出されている現代青年の姿を、客観的に見つめ直し、相互の討論の中で、自らのアイデンティティと社会や学問とのかかわりを改めて考えるものとした。ルポルタージュ等に多く触れながら、その現実を、自分たちのものとしてとらえる作業を行なう。参加者で感想や意見を出し合って、より深くほり下げて考える機会をもちたい。取り上げる素材については、参加者の希望を取り入れていきたいと考えている。夏休みには、それまでの講義を通じて獲得した視点をふまえて、各自、自分史を執筆する。必要に応じてアンケートや様々な調査も行ないたいと思う。従って、本シラバスの予定は、大幅に変更されることがありうる。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 竹内常一著『子どもの自分くずしと自分づくり』(東大出版会)</li> <li>・ 斎藤茂男著『お子さま戦争』(草土文化)</li> <li>・ 藤田省三著『全体主義の時代経験』(みすず書房)</li> </ul>	
評価方法	<p>レポートによる(随時)。</p>		
受講者に対する要望など	<p>参考文献を事前に見ておくことが望ましい。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

班	主 要 テ ー マ
1	開講の辞。概要の説明など。
2	非合理的なものと現代青年(1)——オウムはどうして青年をとらえたのか
3	” (2)——青年はオウムに何を期待したのか
4	” (3)——占いはどうして青年をとらえているのか
5	” (4)——非合理的なものと、青年の自己認識について
6	現代青年の人間関係(1)——現代青年の人間関係はいかなるものか(藤田省三の提起を考える)
7	” (2)——人間の本質から見た現代の人間関係
8	” (3)——現代教育と青年の自己認識
9	” (4)——現代青年の恋愛観を考える
10	” (5)——現代青年のコミュニケーション
11	自分史を書く(1)——自分史とは何か
12	” (2)——自分史執筆準備
備考	

### 後 期

班	主 要 テ ー マ
1	” (3)——自分史の交流
2	” (4)——同上
3	現代青年のアイデンティティと、人間の発達(1)——幼児教育の問題と家庭教育の問題(斎藤茂帳の問題提起を考える)
4	” (2)——学校教育の問題(竹内常一の問題提起を考える)
5	” (3)——高等教育の問題
6	現代社会と主体形成(1)——生き方を考える
7	” (2)——現代日本はどんな社会か
8	” (3)——主体形成の歴史
9	非合理主義と合理主義(1)——学問の発達と生活
10	” (2)——知の質と社会発展
11	レポートを書く(1)——自己認識を見つめ直すことで獲得したもの
12	” (2)——レポート執筆準備
備考	

科目名	人文科学特殊講義A (中東の歴史) 3 (94年度以降)	担当者名	高橋正男
-----	------------------------------	------	------

講義の目標	中東の歴史をオスマン帝国の成立から現代までをカイロを基点に概観する。	
講義概要	別紙参照	
使用教材	テキスト	牟田口義郎著『カイロ』（世界の都市の物語10）文藝春秋 鈴木薫著『オスマン帝国』（講談社現代新書）
	参考文献	その都度紹介する
評価方法	学年末のレポートもしくは筆記試験および出席回数によって決める。授業はゼミナール形式で行なう。	
受講者に対する要望など		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	中東概観 —地理的範囲—
2	—民族・宗教—
3	—政治・経済・国際社会—
4	日本における中東研究瞥見
5	中東世界の統一性と多様性
6	オスマン帝国の成立(1) 14-15世紀
7	オスマン帝国の成立(2)
8	イスラーム世界帝国の出現(1) 16世紀
9	イスラーム世界帝国の出現(2)
10	ビデオ
11	ビデオ
12	まとめ
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オスマン帝国の苦悩
2	帝国から共和国へ
3	アラビアの胎動
4	スエズ運河とエジプト
5	アラブの覚醒
6	二つの大戦
7	戦中から戦後へ
8	中東戦争(1)
9	中東戦争(2)
10	和平条約締結
11	ビデオ
12	まとめ
備考	



科目名	人文科学特殊講義A（西洋哲学史）4（94年度以降） 西洋哲学史（93年度以前）	担当者名	谷口郁夫
-----	--------------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>初学者にも読みやすく、なおかつ西洋哲学を代表する哲学書を読みながら、西洋哲学において「何」が「どのように」論じられて来たかについて、ともに考えたい。あまり専門的になることなく、身近な問題について考える一助となるようにしたい。</p>		
講義概要	<p>哲学は本来、一部の専門家の学問ではなく、すべての人々が考えるべきこと（恋愛・死・善と悪・生、等々）を考えようとする学問である。具体的にどのような問題を取り上げるかは、受講者の要望も容れたいと考えている。したがって、講義予定は変更がありうる。また、哲学書を読むことによって、その思想を受け入れるのではなく、批判的に受容しながら現代社会の中で生きていくために自分自身の考え方を確立する助けとなるように、批判的に読んでいくことにする。</p>		
使用教材	テキスト	プラトン『饗宴』など。詳細は講義予定を参照。	
	参考文献		
評価方法	前期、後期とも2回ずつ600字前後の小論文を書いてもらう予定。		
受講者に対する要望など	受講者の希望を可能な限り容れていくので、積極的に発言してもらいたい。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	プラトンの「饗宴」を読みながら、古代ギリシャにおける「エロス」的なものについて、キリスト教以前の古代社会における恋愛観について理解を深める。
2	前回に引き続き、「饗宴」を読む。
3	前回の続き。また、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の恋愛観についても触れたい。
4	デカルトの「方法序説」を読み、中世の人間観から近世の人間観への転回が、どのような意味内容を持つのかについて、イタリア・ルネッサンスとの関連なども考察する。
5	前回に引き続き、デカルトと「方法序説」を読む。さらに、デカルト以後の哲学者との関係について論じる。
6	パスカルの「パンセ」を読む。生と死、人間存在についてパスカルがどのように考えたかを学ぶ。
7	前回の続き。
8	フランシス・ベーコンの「ノヴム・オルガヌム」を読み、いわゆる経験論的思考方法がなぜイギリスに始まったのかについて、時代背景などもあわせて考える。
9	前回の続き。
10	カント「啓蒙とは何か」を読む。ドイツがヨーロッパの後進地となったことの歴史的原因にも留意する。
11	前回の続き。カントにおける近代的人間観について。
12	予備。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	キルケゴールの著作から自伝的箇所を取り上げ、キルケゴールの思想の特徴を成すものが何かを考える。
2	前回の続き。特に、キルケゴールの婚約破棄についてのキルケゴールの日記記述から、キルケゴールの結婚についての思想を見てゆく。
3	キルケゴールの「死にいたる病」における、「人間とは何か」という問いに対するキルケゴールの答えを見る。あわせてキルケゴールにおけるニヒリズムとの戦いについて考える。
4	ショーペンハウアー「意志と表象としての世界」を通じて、彼の思想の根本問題を探る。
5	前回に続き、ショーペンハウアーの「意志と表象としての世界」を読む。
6	ショーペンハウアーの「余録と補遺」に含まれるいくつかの作品を通して、彼の悲観論哲学とその問題点について考える。
7	ニーチェの「力への意志」を読み、彼のキリスト教批判とニヒリズムの到来について考える。
8	前回の続き。特に、現代における、あるいは我々のうちなるニヒリズムとその克服について。
9	前回の続き。さらに、ニーチェの「ツァラトゥストラはこのように語った」から、彼の考えた新たな人間像を考える。
10	前回の続き。「この人を見よ」を併読予定。
11	予備。
12	予備。
備考	

科目名	人文科学特殊講義A (哲学思想史) 5 (94年度以降)	担当者名	谷口郁夫
-----	------------------------------	------	------

講義の目標	<p>哲学史をたどりながら、それぞれの時代において何が問題となって来たかを考えることを通じて、「今」は何が問題とされるべきかも考えたい。したがって、現代との関わりを念頭に置きながら論じることを課題とする。</p>		
講義概要	<p>一年間を通じて、真理とは何か、社会と個人との関わり、ニヒリズムとその克服、などを絶えず念頭において講義を進める。また、日本社会との対比、キリスト教と西欧社会との関わりについても顧慮する。</p>		
使用教材	テキスト	特に用いない。	
	参考文献	講義の中で適宜あげていく。	
評価方法	<p>参考文献として講義であげた書物に関するレポート（1200字前後を予定）を前期、後期にそれぞれ提出してもらう。</p>		
受講者に対する要望など	<p>ひとつの正解を持たないことが哲学という学問の特殊性であるとも考えられる。受動的に聞き流すのではなく、講義の中から自分自身にとっての問題を探してもらいたい。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

題	主 要 テ ー マ
1	古代ギリシャにおける哲学の始まり。ソクラテス以前の哲学者達。主題・方法の特徴などについて。
2	ソクラテスとプラトン(1)。ソクラテス以前の哲学者達とソクラテス以後の転回点について。
3	ソクラテスとプラトン(2)。両者の分岐点。ソクラテスの方法と死刑。対話法などについて。
4	ソクラテスとプラトン(3)。プラトンの方法とイデア論。プラトンにおける理想国家、理想的人間像。
5	ユダヤ教とキリスト教(1)。ユダヤ教の特質について。特に、キリスト教に引き継がれていった要素を中心に。ユダヤ教の人間観について。
6	ユダヤ教とキリスト教(2)。二元論的思考、キリスト教の人間観など、キリスト教が西洋哲学に及ぼした影響を中心に論じる。
7	中世哲学。普遍論論争とアベラルドゥス。キリスト教社会、中世社会と中世的人間像などについて。
8	ルネッサンス、宗教改革における人間中心主義、近代主観主義への転回の準備。
9	近代の哲学(1)。デカルトの中世哲学批判と哲学の方法について。不可知論と懐疑論の問題。
10	近代の哲学(2)。パスカルにおける人間存在の悲惨と偉大。死の思想について。
11	近代の哲学(3)。イギリス経験論。ベーコン、ロック、ヒュームの学問的方法について。ロックの宗教寛容論と時代背景もあわせて論じる。
12	予備。
備考	

### 後 期

題	主 要 テ ー マ
1	ドイツ理想主義哲学(1)。レッシングの真理観、ルター派正統主義との戦い、ドイツにおける宗教寛容論の始まりなどについて。
2	ドイツ理想主義哲学(2)。カントの哲学の方法。
3	ドイツ理想主義哲学(3)。ヘーベルの哲学。特に、弁証法と呼ばれる彼の方法を中心に。
4	ヘーゲル左派(1)。シュトラウスの「イエス伝」によるヘーゲル学派の分裂。フォイエルバッハのキリスト教批判と人間学。新たな哲学の試み。
5	ヘーゲル左派(2)。マルクス主義の目指したもの。さらに、現代社会における人間疎外の問題についても考える。
6	実存の哲学(1)。キルケゴールの思想。キリスト教界批判。20世紀に流行することになったキルケゴールのいわゆる「不安」の思想を通じて、現代社会の問題について考える。
7	実存の哲学(2)。ドストエフスキーの思想。理想的人間像。
8	実存の哲学(3)。ニーチェの思想。キリスト教批判、ニーチェによって予言されたニヒリズムの到来とその克服の問題について。
9	実存の哲学(4)。ニーチェの思想。新たな価値の創造の模索と彼の超人思想について。価値観とは何か。
10	20世紀の哲学。第一次世界大戦、第二次世界大戦による旧来の家族関係、社会、価値観などの崩壊。時代の変化と思想の関わり。
11	予備。
12	予備。
備考	

科目名	人文科学特殊講義A（キリスト教史Ⅰ）6（94年度以降） キリスト教思潮（93年度以前）	担当者名	中島文夫
-----	------------------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>キリスト教史の考察にはいくつかの異なる視点が可能である。教義・教理の展開を主眼とすることもあれば、教勢の伸張・衰退に焦点を合わせることもできる。また、教団・教派の生成・変化に着目するという事もある。信仰生活の慣習や典礼の変遷を中心とする歴史も考えられるであろう。しかし、この講義では、キリスト教がヨーロッパ大陸の歴史の中で展開した歴史的宗教であるという基本的認識を基盤として、キリスト教を一般史との関わりにおいて見、キリスト教の展開を軸として一般史を見ようとする。</p>		
講義概要	<p>——キリスト教史Ⅰ：古代——</p> <p>キリスト教は歴史的宗教である。初めから完成されたものとして存在したのではなく、ヨーロッパ大陸の歴史との関わり合いの中で形成されて来たばかりでなく、その歴史的展開の中の摂理を読み取ろうとする姿勢を常に持ち続けている。二重の意味で歴史的本性をもつ宗教なのである。そのような宗教としてキリスト教が形成されて行った過程を丹念に跡づけて行くことにする。範囲を古代に限定し、ローマ教皇を頂点とする普遍的教会という体制が一応でき上がるまでの経緯を明らかにする。</p>		
使用教材	テキスト	使用しない。ただし、レジュメのプリントを配布する。	
	参考文献	必要に応じて、授業中に適宜指示する。	
評価方法	<p>前期・後期とも、期末に筆記試験またはレポートを課す。また、毎回出欠を点検し、評価の一要素とする。甚しく欠席の多い者には単位を与えない。</p>		
受講者に対する要望など	<p>特に予備知識は要求しないが、未知の分野に対する旺盛な知的好奇心を持って欲しい。また、講義者および同僚履修者に対する節度あるマナーを期待する。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	(4/15) 序説1. キリスト教大観 序説2. キリスト教史の意義
2	(4/22) 序論 ヘブライズムとヘレニズム
3	(4/29) 休日
4	(5/6) 休日
5	(5/13) § 1. イエスとその弟子たち
6	(5/20) § 2. 原始教会の成立と発展
7	(5/27) § 3. 「異邦人の使徒」パウロ
8	(6/3) § 4. 新約諸文書の成立
9	(6/10) § 5. 「キリスト論」の展開
10	(6/17) § 6. 2世紀のキリスト教
11	(6/24) § 7. 初期異端とカトリック教会の成立
12	(7/1) § 8. ローマ教会の優位
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(9/30) § 9. ロゴス・キリスト論の確立
2	(10/7) § 10. アレクサンドリア学派
3	(10/14) § 11. 教会制度の発展(1)
4	(10/21) § 12. 教会制度の発展(2)——秘跡
5	(10/28) § 13. 「帝国の教会」への歩み
6	(11/11) § 14. ニカイア抗争——アレイオス主義の問題
7	(11/18) § 15. ゲルマン民族大移動とキリスト教
8	(11/25) § 16. 修道院制度の発展
9	(12/2) § 17. 正統キリスト論の確定
10	(12/9) § 18. 西方教会の独自の発展
11	(12/16) § 19. 西方教会の權威の確立
12	(1/13) § 20. 東方の分裂と破局
備考	

科目名	人文科学特殊講義A(西洋倫理思想史)7(94年度以降) 西洋倫理思想史(93年度以前)	担当者名	中島文夫
-----	------------------------------------------------	------	------

講義の目標	ヨーロッパ近代精神の中核をなす諸要素は中世ゲルマン的キリスト教文化の中から発出したという考えに基づいて、中世ヨーロッパ世界の形成と解体、近代精神の確立に、キリスト教がどのように関わったかに焦点を合わせて、中世～近代のキリスト教史を考察する。	
講義概要	Ernst Troeltsch の“Corpus Christianum”(キリスト教的社会有機体)という概念を導きの糸として、中世ヨーロッパ世界の形成と解体、近代ヨーロッパ世界の形成の過程を、キリスト教史の視点から捉えて考察する。カリキュラム上の制約から副題は「西洋倫理思想史」となっているが、実質的には「キリスト教史Ⅱ(中世～近代)」と考えてさしつかえない。	
使用教材	テキスト	使用しない。ただし、レジュメのプリントを配布する。
	参考文献	必要に応じて、授業中に適宜指示する。
評価方法	前期・後期とも、期末に筆記試験またはレポートを課す。また、毎回出欠を点検し、評価の一要素とする。甚しく欠席の多い者には単位を与えない。	
受講者に対する要望など	特に予備知識は要求しないが、未知の分野に対する旺盛な知的好奇心を持って欲しい。また、講義者および同僚履習者に対する節度あるマナーを期待する。	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序章 ヨーロッパの「近代化」とキリスト教。
2	第1章 中世キリスト教的ヨーロッパ世界。 § 1. アイルランド系修道士の宣教活動。
3	§ 2. ゲルマニアの宣教活動とフランク教会の形成。
4	§ 3. カルル大帝とカロリング・ルネサンス。
5	§ 4. 修道生活の革新。 § 5. 聖者・聖遺物崇敬と巡礼。
6	§ 6. オットー大帝と神聖ローマ帝国。
7	§ 7. グレゴリウス改革と「使徒的生活」。
8	§ 8. グレゴリウス改革のもたらしたもの。
9	§ 9. 正統と異端。
10	§ 10. 都市・大学。 § 11. トーマス・アキィナス。
11	§ 12. ドイツ神秘主義と“Devotio Moderna”。 § 13. スコラ学の変貌。
12	§ 14. 先駆的宗教改革運動。 § 15. “Schisma”とコンスタンツ公会議。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第2章 近代化の進行。 § 1. イタリア・ルネサンス。
2	§ 2. ドイツの宗教改革——Martin Luther。
3	§ 2. ドイツの宗教改革（続）
4	§ 2. ドイツの宗教改革（続）
5	§ 3. スイス（チューリヒの宗教改革）。
6	§ 4. フランスとスイス（ジュネーヴ）の宗教改革——Jean Calvin。
7	§ 4. フランスとスイス（ジュネーヴ）の宗教改革（続）
8	§ 5. イギリスの宗教改革。
9	§ 6. カトリック改革。
10	§ 6. カトリック改革（続）。
11	§ 7. 近代化の完成。
12	[予備]
備考	



科目名	人文科学特殊講義A（日本近代史）8（94年度以降） 日本文化特殊講義A-2（93年度以前）	担当者名	中村 稔
-----	--------------------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>どこの国の歴史にも光と影があるやうに、我国の近代史や、その中で起つた大東亜戦争にも光と影があつた。NHKや朝日新聞などの偏向反日メディアから日本と日本人の醜悪な面のみを頭に叩き込まれてきた学生諸君に、この講義はそれとは大分異なつた面を取上げて講ずることになる。異常な話は大抵嘘である。諸君の健全な常識によつて歴史の真実を見分けて欲しい。この講義は日本人学生を対象とする。</p>		
講義概要	<p>日清・日露戦争から大東亜戦争に至る日本近代史の推移を講じつつ、よく話題になる諸事件、諸問題についても検討する。マスコミの伝える一面的な事実も事実には違ひないが、真実ではない。歴史の真実像は光と影の複雑に交錯する中にこそ求められねばならないのである。</p> <p>大東亜戦争とは何だつたのか？その背景は？その意義は？——それが本講義の主題である。マスコミの戦争報道や教科書の日本悪玉論に疑問をもつ諸君の受講を期待する。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中村稔著『大東亜戦争への道』（展転社）</li> <li>・同 『大東亜戦争はなぜ起つたのか』（日本政策研究センター）</li> </ul>	
	参考文献	<p>随時紹介。</p>	
評価方法	<p>平素の勤怠・意欲と定期試験・レポート等。</p>		
受講者に対する要望など	<p>早目にテキストを購入して読んでおくこと。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の目的・内容について概要を説明する。
2	「大東亜戦争」といふ名称について ①その決定の経緯と呼称の意味 ②「太平洋戦争」「15年戦争」といふ名称(戦後の造語)の誤りについて ③「侵略」とは何か
3	東京裁判について ①事後法で裁いたこと ②戦勝国のみで裁いたこと ③共産主義論争を禁止したこと ④パル判事の日本無罪判決について
4	近代日本の対外行動(1) ①自存自衛の原理 ②日清・日露両戦争
5	近代日本の対外行動(2) ①韓国併合 ②朝鮮統治は「史上類例のない悪政」だったのか
6	近代日本の対外行動(3) ①第1次大戦と日本 ②所謂「21ヶ条」問題の背景 ③ワシントン会議 ④尼港事件(日本人大虐殺)
7	近代日本の対外行動(4) ①国際協調主義の幻想 ②支那の赤化 ③革命外交の猛威 ④済南事件(日本人虐殺)
8	満洲事変 ①原因 ②独立と溥儀執政は日本の強制だったのか ③満洲は中国の領土なのか
9	事変以後の北支 ①日華関係 ②コミンテルンの新戦略 ③西安事件の真相
10	蘆溝橋事件 ①最初に射つたのは何者か ②偶発か謀略か ③我軍及び我が政府の不拡大方針と和平協力 ④通州事件(日本人大虐殺)
11	支那事変 ①船津工作 ②大山中尉虐殺事件 ③上海事変 ④トラウトマン工作
12	南京戦 ①その概要 ②南京陥落後の状況(掃蕩など) ③市民生活の急速回復 ④「平和甦る南京」(朝日新聞の報道写真)
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	所謂「南京30万人虐殺」について(1) ①東京裁判で初めて出た話 ②荒唐無稽の証言と数字 ③創作写真、インチキ写真の見分け方 ④朝日新聞の虚報 ⑤「虐殺」とは何か
2	所謂「南京30万人虐殺」について(2) ①大虐殺を否定する現場の証人(新聞記者、カメラマン他) ②「捕虜」「投降兵」「敗残兵」「便衣兵」とは ③真実は何か
3	支那事変と日米関係の悪化 ①支那事変の時期区分 ②日米の事変観の相違 ③事変が長期化した理由 解決への努力 ⑤「兎狩り」「強制連行」は中国の慣行
4	戦争の諸問題(1) ①「三光作戦」といふ中国語について ②慰安婦は中国軍にも居た ③朝鮮女性を強制連行したのは何者だったのか ④NHKの虚報
5	戦争の諸問題(2) ①戦後日本女性が暴行された諸例(満州と朝鮮で) ②ソ連軍に虐殺された日本人(葛根廟事件、秦東丸事件他) ③慰安所のなかつた戦場の悲劇
6	日米交渉 ①三国同盟と松岡外相 ②日米交渉 ③東條内閣の和平努力 ④ハル・ノートのこと
7	真珠湾攻撃 ①グルー情報 ②オランダ情報 ③ゾルゲ情報 ④暗号解読 ⑤東の風、雨 ⑥ルーズベルトは知らなかつたのか ⑦消えた解説文書
8	日本開戦は回避できたか ①三国同盟 ②南部仏印進駐 ③クレギー報告書
9	朝鮮総督府の治績 ①土地調査事業 ②植林 ③教育の向上と普及 ④農村振興 ⑤工業化 ⑥差別撤廃への努力
10	朝鮮総督府の治績 ①内鮮融和から内鮮一体へ ②創氏改名とは何だつたのか ③陸軍特別志願兵に応募者84倍 ④欧米植民政治を超える努力
11	大東亜戦争とは(1) ①東南アジアから米英蘭の勢力を駆逐 ②東南アジアの独立 ③大東亜会議 ④インパール作戦に志願したインド国民軍
12	大東亜戦争とは(2) ①日本軍の勇戦を絶賛した蒋介石 ②兄弟喧嘩は終つた ③大東亜戦争とは何だつたのか
備考	

科目名	人文科学特殊講義A (古典古代の遺産) 9 (94年度以降)	担当者名	古川 堅治
-----	--------------------------------	------	-------

講義の目標	本年度は「ギリシア神話とは何か」と題し、その多様な内容と現代的意義を考えようというものである。		
講義概要	プリントを中心に概説的に進めるが、ギリシアの歴史・文化にも幅広く触れていく。ビデオや写真なども豊富に使いイメージを豊かにしていくことにも意を用いたい。アト・ホームな雰囲気、積極的な議論がわきおこることを期待する。		
使用教材	テキスト	プリント配布 (登録人数が確定しだい冊子を配布する)。	
	参考文献	その都度指示する。	
評価方法	前・後期二回のレポートで評価する。テーマ、メ切日、枚数等は授業中に指示する。		
受講者に対する要望など	主体的・積極的に授業に参加することを期待する。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「はじめに」 ギリシア神話と現代のわれわれの関わり方について考える。
2	「世界のはじまり」(I) 創成神話をとりあげ、そのギリシア的特徴について考える。
3	「世界のはじまり」(II) 同 上
4	「神々の世界」(I) ギリシア神話の神々の由来、権能、神々にまつわる諸々の神話をとりあげ、ギリシア人の擬人的神観について考える
5	「神々の世界」(II) 同 上
6	「英雄伝説」(I) ギリシア神話は「英雄伝説」といってもいいほどたくさんの英雄にまつわる神話を残している。それらの具体的内容と意味について考える。
7	「英雄伝説」(II) 同 上
8	「英雄伝説」(III) 同 上
9	「英雄伝説」(IV) 同 上
10	「人間」(I) 神話に登場する人間たちをとりあげ、かれらと神々、英雄との関わりを通して生と死の問題について考える
11	「人間」(II) 同 上
12	「小括」 前期のまとめを行なう
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「罪と罰」(I) 人間たちがおかす罪を神々によって下される罰に関わる神話をとりあげ、その意味について考える。
2	「罪と罰」(II) 同 上
3	「愛について」(I) ギリシア神話の中にみられる「愛」について考える。
4	「愛について」(II) 同 上
5	「変身物語」(I) ギリシア神話では人間たちがさまざまなものに変身させられる。その具体的な神話をとりあげ、その意味を考える。
6	「変身物語」(II) 同 上
7	「神話と祭祀」(I) ギリシア神話はさまざまな祭祀(儀礼)と結びついている。神話は祭祀によって伝えられてきたと言ってもよい。そのような視点から神話と祭祀の関係を考える。
8	「神話と祭祀」(II) 同 上
9	「神話と祭祀」(III) 同 上
10	「まとめ：ギリシア神話とは何か？」(I) 多様な内容と意味をもつギリシア神話をどのように総括しうるか、いくつかの試論を提示する。
11	「まとめ：ギリシア神話とは何か？」(II) 同 上
12	「総括」 一年間の総括を行なう。
備考	

科目名	政治学	担当者名	志摩園子
-----	-----	------	------

講義の目標	現代の政治を理解するのに必要な理論的枠組を示し、具体的な問題の理解へ向かう。	
講義概要	大衆の政治的無関心が広がっている現代、他方で、政治権力は肥大し続けている。政治権力について具体的な問題を検討することによって、政治に対するわれわれの考え方、あり方を考えてみる。	
使用教材	テキスト	特に指定しない。
	参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	主として、前期・後期のレポート。	
受講者に対する要望など	学生の関心や時事問題の発生で、内容に変更があることもある。学生の問題意識に期待する。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	政治学とは
2	政治と統治
3	権力と権威
4	国家と政府
5	現代の国家観
6	市民社会から大衆社会へ
7	政治的リーダーシップ
8	投票行動と政治参加
9	政治体制
10	政治体制
11	政治システム
12	前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	民主主義
2	社会主義
3	日本の政治
4	日本の政治
5	日本の政治
6	欧州統合と西欧の政治
7	欧州統合と西欧の政治
8	欧州統合と西欧の政治
9	欧州統合と東欧の政治
10	欧州統合と東欧の政治
11	欧州統合と東欧の政治
12	まとめ
備考	

科目名	政治学(93年度以前)	担当者名	白井久和
-----	-------------	------	------

講義の目標	政治学の基本的な概念と、政治の構造と仕組みについて講述する。	
講義概要	よく「政治化の時代」といわれる。われわれの日常生活は、現実の政治の動きに大きな影響を受けている。この政治の実態を権力と自由、国家と個人という根源的な視点から理論的に検討し、現代政治学の課題とは何かを明らかにできればと考えている。	
使用教材	テキスト	特定のテキストを使うことはない。
	参考文献	講義の初めに文献リストを配布する。
評価方法	前期レポート、後期試験。両者を総合して評価する。	
受講者に対する要望など	受講者は学ぼうとする意欲のある学生だけにしてほしい。	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間の講義概要と参考文献の紹介。
2	政治学と「政治化の時代」
3	政治の概念（１）－政治的なるものとは何か
4	政治の概念（２）－権力現象説
5	政治の概念（３）－政治システム論
6	政治学の方法
7	政治学における科学性
8	政治制度（１）
9	政治制度（２） 国民主権・権力分立・代表制
10	民主主義－自由民主主義・人民民主主義・指導民主主義
11	政治権力の本質－原型と正統性
12	政治権力の手段
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	政治的リーダーシップ（１）リーダー論
2	政治的リーダーシップ（２）リーダーの類型
3	リーダーシップの課題と機能
4	政治的態度の形成
5	政治的無関心
6	政治のプロセス（１）政党
7	政治のプロセス（２）圧力団体
8	政治のプロセス（３）マス・メディアと世論
9	政治変動－革命と戦争
10	外交と国際政治
11	国際連合と日本
12	地球環境問題
備考	



科目名	政治学 (93年度以前)	担当者名	柴田 平三郎
-----	--------------	------	--------

講義の目標	<p>現代の政治は国の内側においても外側においても複雑をきわめている。簡単に理解しうるなどと夢々思わないほうがよいと思う。マックス・ウェバーは政治を理解するには年をとらねばならないと言ったが、けだし至言である。この政治学入門は、文字通り政治を学ぶ入口の役目が課されていると思うが、その政治は結局人間によって営まれているので、政治と人間のかかわり合いの姿を注目していくことに力点が置かれると思っている。</p>		
講義概要	<p>単なる時事問題の解説とか制度の仕組みの解説とかではなく、政治の原理を学ぶ場所にしたいたいと考えている。</p>		
使用教材	テキスト	<p>この原稿を書いている時点では未定。</p>	
	参考文献	<p>政治学の基礎文献は無数にある。講義のなかでできるだけ多く紹介するつもりである。この講義が終わったあとにおいてもじっくり読み続けてほしいと思っている。</p>	
評価方法	<p>前期・後期の2回のテキストを基本に評価を決定する。その間、レポートを課す場合もありうる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>言わずもがなのことであるが、学びたい意欲のある者だけが講義への真の参加者である。そのことをよく弁まえてほしい。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	〔以下は、あくまでも当初の予定である。型通りに進まない可能性のあることを断っておく。〕 政治学入門を始めるにあたって。
2	政治とは何か。政治の定義の多様性。その語源的意味と歴史の変容。
3	政治の構造的理解——力・倫理・技——について論じる。
4	同つづき。
5	政治と人間のかかわり合いについて論じる。
6	同つづき。
7	政治学の学問的性格——哲学と科学。
8	同つづき。
9	政治を動かすもの——力と思想の二契機。
10	(1)力〔権力〕の理解。
11	同つづき。
12	前期のまとめ。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(2)〔思想〕の理解。
2	同つづき。
3	近代国家とは何か——歴史・思想・制度。
4	同つづき。
5	近代を動かした三つの政治的イデオロギー——保守主義・自由主義・社会主義。
6	同つづき。
7	同つづき。
8	民主主義とは何か——歴史・思想・制度。
9	同つづき。
10	現代日本の政治。
11	同つづき。
12	後期のまとめ。
備考	

科目名	経済学	担当者名	岡田 博
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>経済学の入門書をテキストに使用して、経済学の基礎理論を講義する。講義では経済学の基礎知識の修得とともに、現実の経済にも関心を深めその動きを洞察する力が少しでも涵養されるように意を用いたい。</p>		
講義概要	<p>経済学の基礎理論をできるだけ理解し易いように講ずる。講義の主内容は、経済学の方法、経済体制、経済循環、国民所得、貨幣と金融、財政と財政政策、消費の理論、生産の理論、市場理論、等々。</p>		
使用教材	テキスト	<p>未定、最初の講義のときに指示する。</p>	
	参考文献	<p>・川口他：『経済学入門』有斐閣、他。</p>	
評価方法	<p>学年末の定期試験の成績で評価する。場合によっては前期末の定期試験も行う。また出席も時々とり、これも評価の参考に加える。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業に欠席しないこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済学とはどんな学問か：経済問題の根源、経済学の定義、ミクロ経済学、マクロ経済学
2	経済体制についてⅠ：経済体制とは、経済体制の共通課題
3	経済体制についてⅡ：体制分類の視点、資産の所有制度、経営管理のあり方、経済活動の調整機構、経済的成果の比較
4	資本主義市場経済の特徴：経済主体とその行動、市場の役割
5	混合経済体制における政府の役割：所有権と契約の保護、経済政策
6	経済循環：生産から消費への財・サービスの流れの概観
7	国民所得の概念：GNP, NNP 等々、わが国の国民所得
8	国民所得の決定：有効需要の原理、消費関数と乗数理論
9	国民所得の変動：景気循環、インフレーション
10	貨幣と金融Ⅰ：貨幣の形態・機能、資金と金融市場
11	貨幣と金融Ⅱ：貨幣創出の機構、信用創造
12	貨幣と金融Ⅲ：金融政策
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	財政Ⅰ：政府の経済的機能の拡大、予算制度、わが国の予算
2	財政Ⅱ：租税、わが国の税制
3	財政政策Ⅰ：財政政策の目標
4	財政政策Ⅱ：資源配分と財政政策、所得再分配と財政政策、経済安定と財政政策
5	消費の理論Ⅰ：消費者と効用、消費者の合理的選択
6	消費者の理論Ⅱ：序数的効用理論と消費者均衡
7	生産の理論Ⅰ：供給と費用
8	生産の理論Ⅱ：利潤極大の条件、生産関数
9	市場価格の決定Ⅰ：需要と供給
10	市場価格の決定Ⅱ：市場構造
11	国際経済：国際収支、為替相場、貿易と開発
12	おわりに
備考	

科目名	経済学	担当者名	小尾 恵一郎
-----	-----	------	--------

講義の目標	<p>受講生が経済学を学ぶ意義がよく理解できるようになること。</p> <p>経済学はどう展開されてきたか。</p> <p>経済学は経済政策にどうかかわりと役割をもつか。</p>		
講義概要	<p>(1)経済学のスミス以来の展開</p> <p>(2)ケインズ以前の経済学 ケインズの経済学—その意義—</p> <p>(3)経済発展・成長のしくみ</p> <p>(4)経済政策の意味・経済学との関連</p> <p>前半は(1)、(2)。これをふまえて後半は(2)と(3)(4)を中心として講義をする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>単一テキストは用いない。</p> <p>適時、適当な教材をコピーして配布。</p>	
	参考文献	<p>同上</p>	
評価方法	<p>図や式の理解も時に必要ではあるが講義内容の全体的な理解度を重視する。</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	経済学(93年度以前)	担当者名	小林 進
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば若い人の多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮させるので、1年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。またカレントな経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。</p>	
講義概要	<p>マクロ経済学を前半にそして後半にはミクロ経済学の初歩的概念を講義する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	参考文献 講義の中で適時に指示する
評価方法	<p>前期と後期の二回の試験によって評価する。</p>	
受講者に対する要望など		

# 年間講義予定

## Ⅰマクロ経済学

### 国民所得概念

名目価値の定義 (単なる所有権の移転だけでは変化しないことに注意)

GNP = 雇用人所得 (賃金) + 営業余剰 (利潤) + (間接税 - 補助金) + 資本減耗分

GNP - 資本減耗分 = NNP (資本減耗分 = 減価償却費)

GNP と GDP (国内総生産) の相違 (海外からの要素所得 - 海外への要素所得)

GNP = C + I + G + X - Q (総需要)

(C: 消費, I: 投資, G: 政府支出, X: 輸出, Q: 輸入)

主婦の労働と農家の自家消費は国民所得に含まれるか?

消費関数  $C = cY + A$  の性質

限界消費性向  $c = \frac{\Delta C}{\Delta Y}$  ( $0 < c < 1$  の経済的意味に注意)

貯蓄の定義及び貯蓄関数

国民所得の決定Ⅰ. 単純モデル ( $Y = C + I$ )

①代数解

$$Y = \frac{1}{1-c} (A + I)$$

②45度線図による理解

③貯蓄と天資の均等による図からの理解

(投資) 乗数理論

$$\Delta Y = \frac{1}{1-c} \Delta I$$

生産関数  $Y = F(K, N)$  (Kは資本, Nは労働)

短期生産関数  $Y = f(N)$  (Kは短期では一定と見なす, したがってNのみの関数)

インフレギャップとデフレギャップ

(完全雇用時の国民所得  $Y_1$  と現実の国民所得の乖離)

国民所得の決定Ⅱ. 政府を含むモデル ( $Y = C + I + G$ )

可処分所得  $Y_d = Y - T$

貯蓄と投資の関係式  $I = S + (T - G)$

乗数算乗数は1 ( $\Delta Y = \Delta G$ )

貯蓄のパラドックス (貯蓄は美徳か?)

ケネティストの主張 (大恐慌の原因は貨幣量の異常な縮小)

資本の限界効率と投資関数

IS曲線とその右下がりの性質

貨幣需要関数とLM曲線

IS・LM曲線と経済政策の有効性

貨幣数量説 (フィッシャーの交換方程式とケンブリッジ残高方程式)

マンチャルの  $k$  といわゆる「カネ余り」の問題

$$\frac{\Delta M}{M} = \frac{\Delta k}{k} + \frac{\Delta p}{p} + \frac{\Delta y}{y} \quad (y: \text{実質国民所得})$$

短期及び長期のフィリップス曲線

## Ⅱミクロ経済学

経済主体 (消費者及び企業) の合理的行動 → 最大化行動

・消費者行動

効用関数

無差別曲線

限界代替率 (MRS) 逓減の経済的意味

予算線

最適消費点 → MRS = 価格比

所得効果, 上級財 (正常財), 下級財 (劣財等)

価格変化と代替効果

下級財の特殊例としてのギッフェン財

個別需要曲線の導出

需要の価格弾力性

製作費の理論的理解

Jカーブ効果

・企業の理論

総費用 (TC) = 可変費用 (VC) + 固定費用 (FC)

平均費用 (AC) と限界費用 (MC) の関係 (平均概念と限界概念の把握)

利潤最大条件 → 価格  $P = MC$

個別供給曲線の導出, 損益分岐点, 操業停止点

科目名	経済学(93年度以前)	担当者名	田村申一
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>テレビのニュースや新聞の記事から経済の動きに興味をもち、あるいは疑問を感じ、「なぜだろう」と考えること—これが、経済学の勉強をはじめるとき、一番、大切なことです。経済の理論や学説を暗記することではなく、経済社会の現実の出来事について、自分なりに問題を見つけ、解決への手掛りを探ることが大事なのです。ナマの経済問題に対処するためには、経済学的な考え方、分析の仕方を理解し、身につけておきましょう。この講義では、経済の動きに関心をもち、経済学の学習が面白くなるようなキッカケをつくりたいと思っています。</p>		
講義概要	<p>経済に興味をもち、経済学を楽しく学ぶために、授業は原論や概論という形ではなく、物語的に進めます。前半では、現代の代表的な経済学であり、経済政策に影響力が強いケインズ、ケインジアン、フリードマン、マネタリスト達が経済をどうとらえ、経済政策をどう考えたか、これらを明らかにする中で、経済学の流れや考え方を学びます。同時に、彼等が活躍した時代の状況を把握し、経済学と現実の経済を絡めて、両者の関連も学びます。後半では、日本ばかりでなく世界的にも重要な今日の経済問題—経済成長と環境、財政赤字、国際通貨体制など—を中心とするテーマをとりあげ、日本やアメリカはじめ国際的な状況を検討し、21世紀に向かう経済のメガレンドを占ってみたいと思います。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・W・カール・ビブン著、斎藤精一郎訳、『[物語・経済学] 誰がケインズを殺したか』日本経済新聞社、1990年、1,500円。</p>	
	参考文献	<p>・飯田経夫著、『経済学誕生』筑摩書房、1991年、1,600円。          ・根井雅弘著、『現代アメリカ経済学』岩波書店、1992年、2,000円。          ・レスター・C・サロー著、佐藤隆三訳、『デンジャラス・カレンツ』東洋経済新報社、1983年、1,800円。          ・ポール・オルメロッド著、斎藤精一郎訳、『経済学は死んだ』ダイヤモンド社、1995年、2,300円。          後半の部分については、各章ごとに提示します。</p>	
評価方法	<p>成績評価は、前期のレポートと後期の試験との平均点を基準とし、これに出席状況を加味して決定します。前期レポートか後期試験のいずれか一方を欠いた場合は、単位を認定できません。前期レポートの提出期限は9月末日(教務課)、後期試験は定期試験の時間割で実施します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>出席状況と成績との間には、ほぼ正の相関関係がみられます。欠席すると、話のつながりが分らなくなります。授業には、必ず出席して下さい。</p>		



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

	主 要 テ ー マ
	この講義の狙い、年間プログラム、受講上の注意、成績の評価方法などについてガイダンスしたあと、日本経済の現状に関するトピックスをとりあげ、イントロダクションとして説明します。
1	第1章 ケインズは古典派を超えたか 1 古典経済学とは何か
2	2 貨幣について古典派はどう考えたか 3 ケインズ対古典派
3	第2章 ケインズ革命はどう波及したか 1 「一般理論」の米国上陸 2 ケインズの政策の実験と浸透
4	3 円卓の騎士 4 フィリップ・カーブはいかに創られたか
5	5 円卓の騎士たちの「輝ける一瞬」 第3章 マネタリズムの反革命 1 社会問題としてのインフレーション 2 フリードマンとマネタリズム
6	3 ケインジアン対マネタリスト論争 4 マネタリズムとフィリップス・カーブ
7	5 合理的期待学派の登場 6 マネタリズムは今 第4章 マネタリズムは金融政策をどう変えたか 1 銀行とは何か
8	2 FRBの金融政策 3 マネタリストの凱旋 4 ボルカーはマネタリストか
9	5 金利対マネーサプライ 6 マネタリズムの失敗
10	第1章～第4章のまとめ スミス、ケインズ、フリードマンの時代の人間観、経済観
11	第5章 経済成長のダイナミズム 1 景気循環と経済成長 2 マイクロエレクトロニクス革命の衝撃
備考	

## 後 期

	主 要 テ ー マ
1	3 日本経済の成長と環境問題
2	4 シュムペーターのイノベーション論 5 経済成長のメカニズム
3	第6章 財政赤字の経済学 1 サプライサイド・エコノミクスとは何か
4	2 1981年レーガン税制改革 3 レーガノミックスのメカニズム
5	4 財政赤字のネガティブ効果 5 日本の財政赤字
6	第7章 ドル体制は崩壊したのか 1 貿易黒字と為替レート
7	2 すべては金本位制からはじまった
8	3 ブレントウッズ体制とは何か
9	5 金との訣別 5 「双子の赤字」の原因と結果
10	6 80年代前半のドル独歩高 7 「プラザ」以降のドル下落
11	8 EMSとEC統合 9 アジア経済における円
12	第1章～第7章のまとめ 日本型経済システムと日本経済の国際化
備考	

科目名	経済学(93年度以前)	担当者名	波形昭一
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>経済学の学生でありながら、経済学にあまり興味を覚えないまま卒業してしまう人を多く見かける。それには種々の原因が考えられようが、最大の原因は、入学当初における経済学の授業のあり方にあるように思われる。その意味から本講義では、できるだけ経済学の面白さを感じ取ってもらえるような講義内容とした。</p>		
講義概要	<p>前期に資本主義社会の経済システムを理解するための基礎的理論を講義する。後期には、まず資本主義経済が世界史的にどのような発展段階をたどったかを論じ、さらにその世界史的な環境の中で日本経済がいかなる特殊性を帯ながら展開し、現状に至っているかを講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・柴垣和夫著『知識人の資格としての経済学』大蔵省印刷局、1995年</p>	
	参考文献	<p>・戸原四郎ほか共著『経済学概論』東京大学出版会</p>	
評価方法	<p>前期・後期とも定期試験をおこない、その総合点で評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>大学というところは、経済学部に限ったことではないが、本を読まないことにはどうにもならない、つまり無意味な場所である。とにかく、本は一冊でも多く読むように心がけてほしい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	資本とは何か
2	まず「商品とは何か」から学ぼう
3	貨幣の諸機能とインフレーション
4	市場経済と生産力の発展
5	「見えざる手」の働きとは何か
6	資本の利潤源泉としての労働力商品
7	労働力商品化の無理と資本主義の基本的矛盾
8	土地の所有と地代・土地価格の原理
9	銀行の成立とその機能
10	経済原論の世界
11	古典的資本主義の3段階
12	現代資本主義の歴史的位置
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	自由貿易主義と保護貿易主義
2	日米経済摩擦を考える
3	国際通貨制度と為替レート
4	重工業・株式会社・金融史本
5	アメリカの企業、日本の企業
6	中小企業問題と中小企業の新しい動向
7	農業・食料問題と農家経済
8	政府部門の比重と役割
9	日本資本主義の歩み(1)
10	日本資本主義の歩み(2)
11	日本資本主義の歩み(3)
12	「過剰富裕化」社会としての先進国
備考	

科目名	経済学(93年度以前)	担当者名	益山光央
-----	-------------	------	------

講義の目標	「近代経済学」の基本理論を学ぶ。		
講義概要	経済学の基礎的な理論を中心に講義する。前期はマイクロ経済学、後期はマクロ経済学を講義する。現実の問題は扱わない。		
使用教材	テキスト	教科書 未定	
	参考文献	近代経済学(非マルクス経済学)の文献であれば全て可。	
評価方法			
受講者に対する要望など	数学を履修してほしい。まじめに勉強してほしい。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のアウトライン
2	消費者行動の理論Ⅰ
3	消費者行動の理論Ⅱ
4	消費者行動の理論Ⅲ
5	生産者行動の理論Ⅰ
6	生産者行動の理論Ⅱ
7	生産者行動の理論Ⅲ
8	完全競争市場Ⅰ
9	完全競争市場Ⅱ
10	独占Ⅰ
11	独占Ⅱ
12	まとめ
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国民所得の諸概念
2	消費関数と貯蓄関数
3	所得決定メカニズムⅠ
4	所得決定メカニズムⅡ
5	投資関数
6	利子率の決定（流動性選好説）Ⅰ
7	利子率の決定（流動性選好説）Ⅱ
8	貨幣供給メカニズム
9	IS 曲線と LM 曲線
10	金融政策と財政政策Ⅰ
11	金融政策と財政政策Ⅱ
12	まとめ
備考	

科目名	経済学 (93年度以前)	担当者名	松本正信
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>現代経済の実際と理論を知識すること。——経済学・社会科学の面白さの一面に、「個人にとって真なる行動も社会全体から見ると必ずしも真ではない、つまり逆もまた真」とか、「経済学を学ぶ前の常識と学んだ後の常識とは異なる」といった事があります。しかもっと大切な事は経済理論・経済思想がその時代々の背景とともに変遷してきた事実を見極める事です。そのうえに立って出来れば現代世界の政治経済的動向を、人類の未来像へのビジョンを、年間の経済学を通じて探ってみたいと考える。</p>		
講義概要	<p>年間を通じて、ミクロ・マクロの経済理論の概要を講義します。後記の年間講義予定に示す通り、前期ではほぼミクロ経済学を、後期ではほぼマクロ経済学を配当します。前期のミクロ理論は個人（消費者）や企業など個々の経済主体が経済合理性にしたがって行動するとき、その経済社会はどのような経済状態を実現することになるか。そのキーワードは価格、市場、外部性等である。後期のマクロ理論は個々の経済主体の行動を社会全体の1つの集合体と考え、その行動を1つの集計量としてとらえるとき、社会全体がどのような状態になるかを分析する。そのキーワードは所得、消費、貯蓄、投資、物価水準、利子率、政府の財政・金融政策等々である。これらを講義の目標に関連させるようにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・小野俊夫編著『現代経済学の基礎』学文社</p>	
	参考文献	<p>・根岸隆他共著『近代経済学—経済分析の基礎理論』（有斐閣大学双書）有斐閣</p>	
評価方法	<p>前期・後期の2回ある定期試験の結果に出席状況・受講態度を加味して評価する。もとより定期試験の結果を最重要視する。かといって試験さえ出来れば出席しなくともよいと思えば大間違い。自身で自学自習すれば受講時間の5倍、10倍の時間を要するであろう。努々忘れ給もうな。</p>		
受講者に対する要望など	<p>静かに眠っている分にはさしつかえないが、雑談・私語は真面目で熱心な受講生と講義をしている私にとっては騒音という名の一大外部不経済。排除さるべきは当然。まずは熱心に聴き給え。授業料が不経済。</p>		

# 年間講義予定

つぎの序・終章を含めた12の章を2～3回の講義で進めて行く積りである。

## ○ 序章 (プロローグ)

経済学と経済系、現代経済の問題：南北問題と環境問題（地球系と人間系）、人類の経済発展：とりわけ産業革命前と後、さらびに経済思想の変遷（アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、シュンペーター、ケインズ等々）、資本主義経済の変遷（とりわけ第二次世界戦争前と後の移り変わり）、現代の経済思想。

## ○ 第Ⅰ部 ミクロ経済学（価格分析）

### 1 需要の理論

（狙いは「需要の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）

消費者行動の理論、消費嗜好理論に基づく解説；消費者の均衡点、価格・消費曲線、個別および社会需要曲線、所得効果と代替効果、代替財（競争財）と補完財、需要の価格（所得）弾力性、消費者余剰。

1章の最後にいたっては、工業製品と農産物の需要の違い、特質を考えてみよう。昨今、ガット・多角的貿易交渉（ウルグアイラウンド）において日本の米の輸入自由化問題が宣伝されているのでこの問題も考えてみよう。

### 2 生産の理論

（狙いは「供給の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）

生産とは、企業（生産者）行動の理論、費用分析、平均費用と限界費用、損益分岐点と操業中止点、個別および社会供給曲線、短期および長期供給曲線、技術進歩の供給曲線に与える影響、大都市集中の問題。

### 3 市場；マーケット（交換の理論）

市場と取引：その形態、市場における均衡と不均衡、市場機構（マーケット・メカニズム）の果たす役割、とその効率性、価格の媒介機能（Parametric function of price）、部分均衡と一般均衡、マーシャル調整とワルラス調整、くもの巣の理論（農産物価格の形成過程）

### 4 競争の問題

競争市場と自由市場、完全競争市場の定義、不完全競争市場の諸形態、独占の問題；ここでは売手独占について考える。独占均衡と、独占利潤、完全競争均衡との相違（短期・長期）、市場の効率性と資源の最適配分ならびに消費者主権との関連、生産者余剰と社会的余剰；その完全競争者と独占者の相違、社会的余剰の独占による死重的損失、最後にアメリカの生産者が日本の輸出品に対してしばしばなされるダンピング（廉価販売）提訴について考えてみたい。消費者がとるべき態度、消費者教育の問題も考えよう。

### 5 市場の限界と失販・欠落

市場には大なり小なり不完全、ただその程度が問題だ。非価格競争、品質競争、アフター・サービスはよしとして、ビホアー・サービス（ワイロ）、談合・慣れ合いはかつてアメリカにもあった。日本でも建設業界ばかりではない。もともと、市場での取引にそぐわない財貨・サービスが増大しているのも現代社会の特質。ゴミをだれが金をだして買いますか。負の価格の意見するもの、一般通路で通行料を徴収するか税では賄うかどちらが効率的か火を見るより明らか。

外部経済・不経済、公共財（公共サービス）、パブリック・ニューティリティ、公的独占と公共料金、投票と納税、パレート最適と社会的厚生。

## ○ 第Ⅱ部 マクロ経済学（所得分析）

### 6 国民所得の分析

マクロ経済学の生成と意義、大恐慌とケインズ思想、修正資本主義と混合経済、第二次世界戦争後の自由主義圏工業先進国の経済成長と現代経済思想。

マクロの経済循環、国民所得の諸概念、総需要・総供給（総生産）あるいは集計需要・集計供給、消費とマクロ消費関数、貯蓄と投資の意義、その行動主体と動機の違い、投資の変動性；投資の限界効用；投資対象の価値、将来の期待収益と割引利率、貯蓄と投資の不均衡による均衡国民所得所得水準の変動、乗数過程、節節のパラドックス、政府部門と外国貿易を加えた乗数理論。国民所得水準と労働雇用水準との関係。

### 7 貨幣・金融市場

金本位制と管理通貨制度；その歴史的意義と機能の違い、銀行のはじまりと近代銀行制度、金融市場における銀行の信用創造過程と貨幣供給、ケインズの流動性選好説と貨幣需要、金融市場の均衡利率いわゆる市場利率

### 8 中央銀行の機能と役割：金融政策

現金通貨の発行と通貨価値の維持；その社会的意義と責任、その歴史的・現代的素描、中央銀行の金融政策の主たる手段、とりわけ公定歩合操作、公開市場操作とその金融市場に与える効果。

### 9 政府の経済的役割：財政政策

政府の経済的役割すなわち経済政策には大きく分けて2つ；その1つは将来の国民経済の構造をどのような方向に誘導するか、例えば福祉政策、年金制度、農業問題、租税制度、社会基盤整備等々である。もう1つは、いわゆる景気の変動に対する調整的機能としてのマクロ経済政策である。ここでは後者の役割をの狭義の財政政策（フィスカル・ポリシー）として考える。

その見本は1930年代前半のアメリカのニュー・ディール政策（当時のルーズベルト大統領による）に見ることができる。政府は財政赤字の時は減税もしくは歳出を増大して短期的には益々赤字が拡大するように、黒字の時には財源があるからといって減税などしないで増税もしくは歳出を削減して益々黒字が拡大するように行動するのが、現代のマクロ経済学の原理なのである。

政府も1つの主体、その主体の行動としては不合理である。しかし、社会全体、国民経済にとっては合理的なのである。これはひいては政府にとっても長期的には合理的であるはずだ。逆もまた真パラドックスなる由縁である。

分析：政府財制支出と減税の国民所得水準に与える影響、租税体系の変更と国民所得、ラフファー曲線、完全雇用政策と物価水準安定（貨幣価値の維持）、フィリップ曲線

### 10 財政・金融政策とヒックス＝ハンセン 総合（IS-LM 曲線）

ポリシー・ミックスについて、国民生産物資市場と貨幣・金融市場の相互作用、これまでのマクロ経済理論の再論とまとめ；IS-LM 分析、古典派の理論；セーの販路法則と完全雇理論およびその時代的背景、ケインズの有効需要原理と不完全雇理論、ならびにその時代的背景、現代マネタリストの思想と理論；修正型貨幣数量説、集計供給からみたポスト・ケインズ学派との違い、付論：サプライサイド経済学派とネオ・ケインジアン、景気循環と民主政治、政策のタイム・ラグ。

## ○ 終章（エピローグ）—結びにかえて—

人間社会と経済と政治と価値観と、経済発展と自然環境、国際貿易；古典派リカードの比較生産費説と現代のオーリン・ヘクシャー理論、現代の貿易不均衡問題、技術移転と資本移動、長期的有効需要の拡大と世界規模化

科目名	経済学(93年度以前)	担当者名	山本美樹子
-----	-------------	------	-------

講義の目標	<p>イギリスの経済学者ジョー・ロビンソンは「経済学は人間の行動の原理である」という。さて日常の経済行動の背後にはどのような経済的法則があるのだろうか？経済理論はそのような法則について取り扱う学問と考えればわかりやすいだろう。この講義は大学で経済学部に入學したばかりの一年生が対象である。経済学部の一年生の学生として最低限知っておいて欲しい経済理論の基礎を講義する。</p>		
講義概要	<p>経済理論は大きくミクロ経済理論、マクロ経済理論に分けられる。</p> <p>ミクロ経済理論：個々の消費者や社会の意志決定に遡り、各自の行動を分析する。ミクロ経済理論の背後には「限られた資源の効率的分配による経済的厚生 of 最大化」という経済学の究極目標がある。</p> <p>マクロ経済理論：経済全体、とくに一国レベルを、一つの巨大な単位と考え、その単位の各集計量（消費、投資 etc）の間の関係について扱う。</p> <p>前期はマクロ経済理論、後期はミクロ経済理論を講義する予定である。</p>		
使用教材	テキスト	平成8年度は「エレメンタルミクロ経済学」「エレメンタルマクロ経済学」英創社 を使う予定である。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中谷 巖 『入門マクロ経済学』 日本評論社</li> <li>・伊藤 元重 『入門ミクロ経済学』 日本評論社</li> <li>・福岡 正夫 『ゼミナール経済学入門』 日本経済新聞社</li> <li>・松下他 『チャートで学ぶ経済学』 有斐閣</li> <li>・福岡他 『経済原論』 世界書院</li> <li>・幸村 千佳良 『経済学事始』 多賀出版</li> </ul>	
評価方法	<p>前期、後期の期末試験</p> <p>毎回取る出席（前、後期あわせて5回以上休んだ場合には単位は出さない。）</p>		
受講者に対する要望など	<p>1年間でミクロ経済学、マクロ経済学両者を駆け足で講義するので、一回でも休むと授業についていけなくなる。できる限り欠席しないで講義を受けて欲しい。</p>		



# 年間講義予定

## 第一部

### 第1章 経済学とは何か (第1週)

1. 経済学を学ぶ目的
2. 経済学と経済理論

### 第2章 経済体制 (第2週)

1. 混合資本主義体制の性格
2. 社会主義体制の性格

## 第二部 マクロ経済の基礎理論

### 第3章 マクロ経済学の課題 (第3、4週)

1. マクロ経済学で取り扱うこと
2. ストックとフロー

### 第4章 国民所得とそれに関連する集計量 (第5、6週)

1. 国民総生産、国民純生産、国民所得
2. 三面等価の原則
3. 国民所得集計上の留意点

### 第5章 有効需要の理論 (第7、8)

1. 消費関数
2. 投資関数
3. 簡単な国民所得決定の理論
4. 海外部門を含めた場合
5. 政府支出を増加させた場合
6. 海外からの輸入が増大した場合

### 第6章 貨幣の需要と供給 (第9、10週)

1. 貨幣とは何か
2. 貨幣の需要
3. 貨幣の供給
4. 信用乗数

### 第7章 IS-LM 分析 (第11、12週)

1. IS 曲線
2. LM 曲線
3. IS-LM 曲線の同時均衡の意味すること
4. 財政政策の効果
5. 金融政策の効果

## 第三部 ミクロ経済の基礎理論

### 第8章 ミクロ経済学(理論)の課題 (第1週)

### 第9章 消費者行動の理論 (第2、3、4)

1. 効用、限界効用
2. 無差別曲線
3. 限界代替率、限界代替率逓減の法則
4. 予算制約と消費者の効用極大化行動
5. 財の分類
6. 所得消費曲線と価格消費曲線
7. 需要曲線、消費者余剰

### 第10章 生産者の行動の理論 (第5、6週)

1. 等量曲線と限界代替率
2. 生産者の利潤極大化行動
3. 生産可能性曲線と限界変形率
4. 消用関数
5. 供給関数

### 第11章 市場価格の決定 (第7、8週)

1. 市場価格の決定—均衡価格の決定
2. 価格調整 フルラス的調整 マーシャル的調整 蜘蛛の巣の理論

### 第12章 独占、寡占、独占的競争 (第9、10週)

1. 完全独占
2. 差別独占
3. 独占的競争
4. 寡占と複占
5. 独占の弊害点

### 第13章 資源配分の効率性と市場の失敗 (第11週)

1. 米価問題と間接税
2. 市場の失敗 1 外部経済 2 収穫逓減産業のケース 3 公共財のケース

### 第14章 まとめ (第12週)

科目名	経済学 (93年度以前)	担当者名	米山昌幸
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>経済学は、経済社会のメカニズムを分析的手法により解明し、貧困、不平等、公害といったさまざまな問題を解決して、よりよい社会を実現することを目指している実践的な学問である。経済学の研究は、皆さんが現実社会に対して日頃抱いている問題意識や疑問を経済学的な問題として捉えることから始まる。</p> <p>この講義では、経済学の理論的フレームワークの修得を通して、現実の経済学の問題に実態的・理論的にアプローチするための基礎（分析道具）を得ることが目標である。</p>		
講義概要	<p>経済学は、分析対象の経済変数を決定し、経済変数間の相互依存関係を明らかにする学問である。前期は、資源配分のメカニズムを明らかにする「ミクロ経済学」を講義する。ここでは、家計と企業の行動を分析し、完全競争市場における価格決定のメカニズムを明らかにする。</p> <p>後期は、GNP、物価水準、利子率などの経済全体を捉えるマクロ変数の相互関係を明らかにする「マクロ経済学」について講義する。ここでは、財市場・貨幣市場・労働市場の分析を行い、経済全体のマクロ均衡がどのように達成されるのかを明らかにする。また、マクロ経済政策の効果の分析も行う。</p>		
使用教材	テキスト	<p>未定（次のものを予定している）。</p> <p>【前期】奥野正寛『ミクロ経済学入門』日経文庫、1990年。</p> <p>【後期】中谷 巖『入門マクロ経済学（第3版）』日本評論社、1993年。</p>	
	参考文献	<p>福岡正夫『ゼミナール経済学入門（第2版）』日本経済新聞社、1994年。</p> <p>倉澤資成『入門価格理論（第2版）』日本評論社、1988年。</p> <p>西村和雄『ミクロ経済学入門（第2版）』岩波書店、1995年。</p> <p>伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社、1992年。</p> <p>浅子和美・加納悟・倉澤資成『マクロ経済学』新世社（新経済学ライブラリ＝3）、1993年。</p> <p>広松毅・R.ドーンブッシュ・S.フィッシャー『マクロ経済学（第4版）（上・下）』マグロウヒル、1989年。</p> <p>なお、授業中に参考文献一覧を配布する。</p>	
評価方法	<p>成績評価は、前期および後期の定期試験に、レポートの得点を加味して行う。レポートは年間10回以上を予定している。</p>		
受講者に対する要望など	<p>出席もせずに、試験だけとりあえず受けたような人で、試験ができたためしがありません。まず、出席して講義を聞いて下さい。でも、聞いているだけではだめです。自分で本を読んで勉強し、レポートで腕試しをして下さい。でも、勉強しっぱなしで、わからないところをそのままにしておいてはだめです。質問に来て下さい。以上のような努力をすれば、その努力は必ず結果につながるでしょう。</p> <p>経済学は皆さんがこれから進んで行く専門分野の基礎となることを十分に認識して、わかってもらう努力をして下さい。その場しのぎで何とか単位が取れば良いと考えていると、後々苦勞します。</p> <p>なお、再履習の学生は、登録前に必ず授業に出席して、履修の許可を受けて下さい。</p>		

# 年間講義予定

## 前期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション 経済学とは？、経済理論・モデル分析の必要性、ミクロ経済学とマクロ経済学、講義の内容と進め方、学習の仕方、レポートについて、テキスト・参考文献の紹介、成績評価の方法、前期講義の範囲
2	
3	1. 家計の行動と需要曲線
4	効用と無差別曲線、無差別曲線の性質、限界代替率逓減の法則、予算制約線、最適消費点の決定、所得の変化と
5	需要の変化（所得消費曲線）、所得弾力性、正常財と劣等財、価格の変化と需要の変化（価格消費曲線）、個別需
6	要曲線の導出、市場需要曲線と消費者余剰、価格弾力性、スルツキー分解（代替効果と所得効果）、ギッフェン財、代替財と補完財、与件の変化と需要曲線のシフト→テキスト第2章。
7	
8	2. 企業の行動と短期供給曲線
9	利潤とは？、生産関数（技術の制約）と利潤最大化、短期と長期、短期総生産物曲線、限界生産性逓減の法則、
10	短期費用曲線、（短期）限界費用・平均費用・平均可変費用、利潤最大化と（短期）個別供給曲線、短期市場供給曲線と生産者余剰、与件の変化と供給曲線のシフト→テキスト第3章。
11	3. 完全競争市場と効率性—部分均衡分析—
12	完全競争市場とは？、市場の部分均衡、市場メカニズム、均衡の存在と安定性、生産者余剰と消費者余剰、経済厚生、与件の変化と市場均衡の変化、市場の失敗（不完全競争、外部効果、公共財）、分配と公正→テキスト第4章および第1章。
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	前期試験の解説、後期講義の範囲の説明。
2	
3	1. GNPと物価指数
4	GNP（国民総生産）とは？、三面等価の原則、ISバランスと財政収支・経常収支、貯蓄と投資の恒等関係、物価指数（パーシェ指数とラスパイレス指数）→テキスト第2章。
5	
6	2. 財市場の分析
7	財市場における数量調整、消費関数と貯蓄関数、45°線分析による国民所得決定の理論、乗数、均衡予算乗数の定理、財市場と貨幣市場の統合（投資の限界効率表）→テキスト第7章、その他 pp. 18-22, 83-85, 85-87。
8	
9	3. 貨幣市場の分析
10	貨幣市場と資産市場、貨幣の機能、貨幣に対する需要（取引需要と資産需要）、債券価格と利子率の関係、資産需要と市場利子率（流動性選好表）、貨幣需要関数と貨幣市場の均衡、名目利子率と実質利子率→テキスト第4章、その他 pp. 87-88。
11	4. IS-LM分析と総需要曲線
12	IS曲線の導出、財市場における不均衡の調整、LM曲線の導出、貨幣市場における不均衡の調整、財市場と貨幣市場の同時均衡、財政金融政策の効果、労働市場との関係、不均衡からの調整過程、IS-LM分析のまとめ、総需要関数の導出→テキスト第8章。
備考	

科目名	法学（日本国憲法2単位を含む）（93年度以前）	担当者名	坂本延夫 後藤巻則
-----	-------------------------	------	--------------

講義の目標	<p>法学部の学生として、専門科目の勉強をするに際して必要な基礎的知識を修得させること。専任教員が、かなり多くの法分野について、それらがどのようなものであるのかの概説を行うので、コースの選択あるいは専門ゼミの選択にも役立ちうるであろうこと。</p>		
講義概要	<p>詳しくはレジュメ集を見られたい。法令の常識、判例の常識、文献検索法などに立ち入ることは、従来の「法学」の講義では不十分ではなかったかと思われ、これらの点も特色とあってよいであろう。</p>		
使用教材	テキスト	各授業内容の概要を示したレジュメ集を配布する。	
	参考文献	各教員ごとに、指示がある。	
評価方法	<p>年二回の学期末定試による。担当教員が各自出題し、そのなかから選択し解答させる。採点は出題者が行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>独立した内容の講義が続くので、欠席すると全体像が把握し難くなる。止むを得ない事情の他は欠席しないこと。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	学部長挨拶 開講にあたって
2	法令の常識
3	判例の常識
4	判例の常識
5	民法の世界①
6	民法の世界②
7	労働法の世界①
8	労働法の世界②
9	文献検索法
10	民法の世界③
11	商法の世界
12	基礎法の世界
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	教育法の世界
2	民事手続法の世界
3	国際法の世界①
4	国際法の世界②
5	行政法の世界①
6	行政法の世界②
7	刑法の世界
8	刑事手続法の世界
9	憲法の世界
10	憲法の世界
11	法哲学の世界
12	
備考	

科目名	社会学	担当者名	有吉広介
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>現代社会の諸問題は、近代に起こり、現在も進行している産業化、これに引き続いて起こりつゝある脱産業化、そしてこれらが引き起こした社会構造の変化とおおいに関係がある。本講義では、この視点から、現代のわれわれの日常生活にみられる諸変化と、そこにあるさまざまな社会問題とを考えてみたい。</p>	
講義概要	<p>豊かで、ゆとりある生活の実現とか、余暇の確保とかがテーマになる時代に、現実には、企業では能率主義的管理体制のもとにサービス残業が求められたり、過労死までもがみられる。その背景には、日本社会の特殊性もあるが、市場原理に結びついた産業化の論理が社会や文化に浸透し、これらを変化させてきた事情がある。核家族化、組織の官僚制化、都市化、流動社会化、学歴主義化、高齢化と少子化、福祉化などもそうした流れのなかに起こる。産業化が職業生活を含めてわれわれの日常生活のなかで社会問題をどのように生みだしているのかを講義の論旨にして、前記の諸現象の源をも説明していく。講義の進行は、講義メモを配布して理解を深めることによる。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	随時紹介。
評価方法	<p>評価は、前・後期の定期試験期間中に各一回おこなう試験の成績による。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義に出席し、そこで要点を把握すること</p>	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会学の先駆者サン・シモンやオーギュスト・コントなどにおける社会学のテーマ
2	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
3	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
4	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
5	社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方
6	社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方
7	現代の職業構造の分析
8	雇用社会と職業的キャリア
9	産業社会における知識の性格と教育
10	日本の近代化、教育システム、および学歴社会
11	社会的不平等の諸次元
12	不平等の構造化
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会移動の現実
2	日本の階層社会と社会移動
3	管理社会の中核としての近代官僚制
4	近代的経営の社会構造
5	日本的組織構造
6	都市化と地域社会
7	家族の定義・類型、そして核家族化・少子化
8	家族のライフサイクルの変化
9	高齢化社会の人口学および社会学的分析
10	高齢化社会における社会問題
11	生活の質を考える。
12	まとめ
備考	

科目名	国際関係論（94年度以降） 時事問題研究（93年度以前）	担当者名	阿部純一
-----	---------------------------------	------	------

講義の目標	現代国際関係の動態を、前期は歴史的な流れに沿って包括的に論じ、基礎的知識の涵養に努める。後期は現代における「戦争と平和」に焦点を当て、安全保障という国際関係の基本命題に取り組むことによって現代国際社会の問題点を明らかにする。		
講義概要	米ソ冷戦が終結してからすでに六年が経過した。しかし、冷戦構造にかわる世界秩序はいまだ模索段階である。北朝鮮の核開発問題にせよ、東南アジアを中心とした安保対話の場である ASEAN 地域フォーラムの発足にせよ、冷戦終結への対応に端を発した事態の展開であることを考えたとき、現実の国際関係を理解するうえで歴史としての冷戦から学べることは多い。本講義では、こうした観点から「歴史」と「現在」の関わり合いに配慮しつつ、国際関係の現実に迫りたい。		
使用教材	テキスト	高坂正堯著『現代の国際政治』講談社学術文庫	
	参考文献	必要に応じてアドバイスする。	
評価方法	前期：レポート 後期：論述筆記試験		
受講者に対する要望など			



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

題	主 要 テ ー マ
1	国際関係論とは何か：研究対象とそのアプローチ
2	学問としての国際関係論の成立と発展
3	現代国際関係の史的展開：第2次大戦の終結から冷戦の開始へ
4	現代国際関係の史的展開：中華人民共和国の成立から朝鮮戦争へ
5	現代国際関係の史的展開：米ソ核軍拡競争からキューバ危機へ
6	現代国際関係の史的展開：ベトナム戦争から米中接近、米ソ・デタントへ
7	現代国際関係の史的展開：資源ナショナリズムと先進主要国の協調体制
8	現代国際関係の史的展開：レーガン政権と米ソ新冷戦
9	現代国際関係の史的展開：ゴルバチョフ政権の成立と核軍縮の模索
10	現代国際関係の史的展開：ソ連・東欧社会主義体制の崩壊と冷戦の終結
11	現代国際関係の史的展開：ポスト冷戦の世界
12	前期まとめ
備考	

### 後 期

題	主 要 テ ー マ
1	国際関係の中心課題としての戦争と平和：軍事力の発展過程
2	核兵器出現のインパクトと冷戦の開始
3	核兵器の国際的管理めぐる米ソの対立
4	ソ連の核保有と水爆開発：米ソ核軍拡競争の構図
5	「恐怖の均衡」：核戦略のロジック
6	核兵器との共生の模索：核実験の停止を求めて
7	核拡散防止への努力：部分核禁条約から核拡散防止条約へ
8	核軍拡の自制をめざして：戦略兵器制限交渉の意味
9	核軍備管理から核軍縮へ
10	核兵器をとりまく国際環境の現状
11	安全保障から見た国際関係の安定：「勢力均衡」と国際システム
12	後期まとめ
備考	

科目名	文化人類学（94年度以降） 人類学（93年度以前）	担当者名	井上兼行
-----	------------------------------	------	------

講義の目標	文化人類学は、文明社会から最も遠い位置にある未開社会の文化を、異文化として理解し、同時にそれを通してわれわれの文化についても理解を深めようとする学問である。事例を通してそのおおよそを知る。		
講義概要	文化人類学形成の歴史を通して、未開社会の文化に対するこの学問の態度を明らかにし、次いでその独特な研究方法を述べる。そのあとは、いくつかの事例を通して異文化理解の仕方を示し、またそこからわれわれの文化をどのように考えることができるかを説明してゆく。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	随時紹介する。	
評価方法	試験を考えているが、登録者が極端に少ない場合はレポート等もありうる。		
受講者に対する要望など	以下に示す日程はあくまで暫定的なものである（順序はこの通りである）ことを念頭においてほしい。		



科目名	社会科学特殊講義A (東アジア国際関係分析)1 (94年度以降) 時事問題研究特殊講義A-1 (93年度以前)	担当者名	阿部純一
-----	------------------------------------------------------------	------	------

講義の目標	現代東アジアの国際関係を扱う。世界で最もダイナミックな経済成長を示す東アジア地域はまた、政治的にもその重要性を増している。東アジア国際関係の主要アクターについてのケース・スタディを中心に、歴史的展開を踏まえた分析を行い、この地域の直面する問題点を明らかにし、将来を展望する。		
講義概要	ポスト鄧小平の時代を間近に控えた中国、金日成亡き後の北朝鮮、「民主化」の名目による事実上の「独立」めざす台湾、経済成長を背景に政治的発言力を強めるASEANなど、東アジアの動向に世界の注目が集まっている。本講義では、こうした東アジアの主要アクターを個別に取り上げながらも、地域全般にかかわる国際関係の文脈に留意しつつ、その動態を分析していく。		
使用教材	テキスト	とくに指定しない。	
	参考文献	必要に応じてアドバイスする。	
評価方法	前、後期とも論述筆記試験。		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	東アジアの国際関係——イントロダクション
2	現代東アジア国際関係の形成(1)アジアにおける冷戦の開始と共産中国の成立
3	現代東アジア国際関係の形成(2)朝鮮戦争のインパクト：米中対立、日本再軍備
4	現代東アジア国際関係の形成(3)ベトナム戦争と米中接近、米ソ・デタント
5	ケース・スタディ(1)北朝鮮・金日成体制の成立と発展
6	ケース・スタディ(2)北朝鮮の核開発と対外インパクト
7	ケース・スタディ(3)金正日体制の前途
8	ケース・スタディ(4)韓国政治の発展——李承晩から朴正熙まで
9	ケース・スタディ(5)韓国政治の発展——強権政治から民主化への軌跡
10	ケース・スタディ(6)毛沢東の中国——建国、大躍進から文化大革命へ
11	ケース・スタディ(7)鄧小平の中国——改革・開放政策の展開
12	予備日
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ケース・スタディ(8)鄧小平の中国——天安門事件前後の状況
2	ケース・スタディ(9)ポスト鄧小平の中国——江沢民体制の行方
3	ケース・スタディ(10)民主化を目指す台湾——蔣介石・蔣経国時代
4	ケース・スタディ(11)民主化を目指す台湾——李登輝時代
5	ケース・スタディ(12)民主化を目指す台湾——台湾化・独立と中台関係
6	ケース・スタディ(13)アジア太平洋の時代——ASEANの形成と発展
7	ケース・スタディ(14)アジア太平洋の時代——拡大めざすASEANの現況
8	ケース・スタディ(15)アジア太平洋の時代——APECの形成と発展
9	ケース・スタディ(16)アジア太平洋の時代——APECの可能性と問題点
10	東アジアの現状(1)安全保障からの観点：北東アジアの状況
11	東アジアの現状(2)安全保障からの観点：ASEAN地域フォーラムの可能性
12	予備日
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（教育法）2（94年度以降） 教育法（93年度以前）	担当者名	市川 須美子
-----	----------------------------------------	------	--------

講義の目標	<p>教育法学の基礎理論の理解の上に、現代的問題である1980年代以降の「子どもの人権裁判」を素材に、教育法の体系的理解を目標とする。</p>		
講義概要	<p>前期は、教育法の基本概念である教育人権の概念と、教育における国家の役割を学ぶ。教育法形成に重要な影響を及ぼした基本判例を素材とする。</p> <p>後期は、現在の教育法の焦点となっている「子どもの人権裁判」を体罰、いじめ裁判、校則裁判、学校教育措置訴訟、教育情報裁判に分類して、論点と課題を検討する。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神田修編『教育法と教育行政の理論』三省堂、1993年</li> <li>・兼子・神田編『ホーンブック教育法』北樹出版、1995年</li> </ul>	
評価方法	<p>前期 レポート</p> <p>後期 試験</p>		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	教育法とは何か？ 教育法の機能的三種別、教育条理
2	戦後教育法制の基本的特徴 戦前法制と比較して
3	教育法における教育人権と一般人権、教育権力
4	教師の教育権(1)
5	教師の教育権(2)
6	親の教育権(1)
7	親の教育権(2)
8	子どもの学習権(1)
9	子どもの学習権(2)
10	教育の地方自治 教育委員会準公選制
11	国家の教育権と国民の教育の自由
12	学校事故と教育行政の条件整備義務
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	子どもの人権裁判総説
2	体罰裁判(1) 水戸五中事件とその後の体罰判例
3	体罰裁判(2) 風の子学園事件
4	いじめ裁判(1) いわきいじめ自殺事件、中野富士見中事件
5	いじめ裁判(2) その後のいじめ事件判例
6	校則裁判(1) 二つの丸刈り訴訟
7	校則裁判(2) バイク退学事件・パーマ退学事件
8	学校教育措置訴訟(1) 原級留置き訴訟
9	学校教育措置訴訟(2) エホバの証人生徒退学事件
10	学校教育措置訴訟(3) 障害生徒入学不許可事件
11	教育情報裁判 内申書開示請求訴訟
12	まとめ 子どもの権利条約と教育法
備考	

科 目 名	社会科学特殊講義A (近代市民社会像の形成と批判) 3 (94年度以降) 社会思想史 (93年度以前)	担当者名	市 川 達 人
-------	--------------------------------------------------------	------	---------

講義の目標	私たちの政治や経済に対する見方・考え方のなかに生きている近代的社会観の生成を、その誕生の時と所にさかのぼって理解することを目的とする。		
講義概要	ルネッサンスを起点として19Cあたりまでの社会思想の歴史を概観する。近代市民社会の成立・成熟を支えた政治思想、経済思想、哲学などの流れをたどることとなるが、それぞれの時代を代表する人物の思想に焦点をあてた講義となる。現在、リベラリズムが時代の関心となっているが、その形成と限界というのが隠れたテーマとなる。		
使用教材	テキスト	渋谷一郎編『社会思想の歴史』八千代出版社	
	参考文献	講義で適宜指示	
評価方法	後期の一括試験で評価を与える。前期末にレポートの提出を求める場合もありうる。		
受講者に対する要望など	私語厳禁		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間予定。講義の目的と課題、講師の問題意識。
2	思想史の方法。社会とは。社会思想の歴史的類型。
3	近代市民社会について（西欧的社会観の原型と展開）
4	ルネッサンスと都市。
5	マキャヴェリズムとマキャヴェリ評価の歴史。
6	マキャヴェリと『君主論』。
7	ユートピア思想一般について。
8	トマス・モアの『ユートピア』。
9	中世の教会改革運動。千年王国説。後期スコラ学派。
10	ルターの改革運動、神学、政治思想。
11	ルターの職業倫理。カルヴィニズムの二重予定説。
12	カルヴィニズムと近代合理主義。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ヨーロッパにおける自然思想の歴史（古代ギリシャ、中世、近代）。
2	ホッブズの人間観と自然権思想。
3	ホッブズの国家論。
4	ロックの市民政府論。
5	ロックの所有権理論とリベラリズムの原点。
6	フランス啓蒙思想（ヴォルテール、ディドロ、モンテスキュー）
7	ルソーの啓蒙批判と社会批判(1)
8	ルソーの啓蒙批判と社会批判(2)
9	マダム・スミスと経済的自由主義、市民社会の交通理論。
10	社会主義思想の諸潮流。
11	マルクスの社会主義と現代への影響。
12	まとめ。
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（文化人類学特殊講義）4（94年度以降） 文化人類学（93年度以前）	担当者名	井上兼行
-----	------------------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>“未開社会の宗教”という、一般に“迷信”及びそれに基づいた行為とされ、考察の余地などないものと思われがちである。しかしここにはかれらの世界についての考え方が表明されている。したがって、われわれとは異なった人々の世界観を見ることができ、ひいてはわれわれの世界観を意識化できる面もある。こうした視点への糸口をつくりたい。</p>	
講義概要	<p>ここでは、神話や昔話のような言語によって世界観が表明されているものよりも、儀礼、祭りといった、行動からかれらの世界の見方を考えていかなければならないものを取り上げる。いくつかのテーマを選んで順次話をしてゆく。年間講義予定については第一回の講義においてその大枠を述べる。</p>	
使用教材	テキスト	なし。
	参考文献	随時紹介する。
評価方法	登録者の数による。	
受講者に対する要望など	平成6年度（1994年度）以降入学の者は“文化人類学”の単位を取っていることが望ましい。	

科目名	社会科学特殊講義A（政治学原論）5（94年度以降） 政治学原論（93年度以前）	担当者名	小野修三
-----	--------------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>本講義はわれわれ政治の主体ないし主人公が実は政治については学ばぬ限り政治の主体ないし主人公であることすら知らぬ存在だという現実を見据えるところから出発する。政治の主体の側が自分たちの方に奉仕すべき側から“裸の王様”に過ぎないと笑われてしまう危険に常に曝されているのである。政治の主体は笑われ、操られて、政治の客体に転化し易いのである。本講義はこうした政治の現実に敢然と立ち向った人類史上に名を残す何人かの人たちを紹介するので、受講する諸君も主体的に勉強することを期待している。</p>	
講義概要	<p>まず最初に紀元前399年に死刑に処せられたアテナイの市民ソクラテスを紹介する。そしてそのソクラテスの生涯を見ていた同じアテナイのプラトンにおける、ソクラテスとの連続と不連続つまりソクラテスのどこを学び、どこを学ばず自分自身の思想を打ち出していったのかを明らかにする。こうした二人の間の連続と不連続をさらにアリストテレス、また古代ユダヤ教の歴史のなかでイエスまた中世のアシンのフランチェスコ、そして近代のマキアベリ、ホッブズ、ロック、アダム・スミス、ヘーゲル、マルクス、ウェーバーといった人たちの著作を紹介しつつ、検討してゆきたいと考える。</p>	
使用教材	テキスト	なし。
	参考文献	全体を見渡せるものとしてシェルドン・ウォーリンの『西欧政治思想史』（邦訳、福村出版）がある。本講義においては随時原典（邦訳されたもの）を配布し、それらを読みつつ私の講義を聞くことになるので、一年間で諸君の手元には相当数のコピーの束が出来て、資料集が作られることになる。
評価方法	<p>前期と後期に各一回、計二回の論文形式の試験（持ち込み不可）を行なう。その他に前期、後期とも数回の小テストを行ない。それらを総合して評価を行なう。</p>	
受講者に対する要望など	<p>教科書はないので出席をよくしなければ年二回の試験には何も書けないだろう。こちらの出題以外のことをいかに正確かつ大量に書いても一切評価しないことは予め断っておく。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間の講義計画の紹介。
2	ソクラテス以前の思想家。
3	政治家ソクラテス (I)ソクラテスの生き様。
4	(II)ソクラテス裁判。
5	逃亡者プラトン。
6	政治学者アリストテレス。
7	ボリスの時代から帝国の時代へ。
8	古代ユダヤ教——旧約聖書の世界。
9	イエスの思想 (I)福音書によるイエスの生涯。
10	(II)意識革命と暴力革命。
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	アシシのフランチェスコ——最初の宗教改革者。
2	トーマス・モア——中世人と近代人の共存。
3	ニコロ・マキャベリと stato。
4	ルターとカルヴァン——キリスト教の民衆化。
5	トーマス・ホッブスと Leviathan。
6	ジョン・ロックにおける国家と社会 (I)統治二論。
7	(II)寛容についての書簡。
8	アダム・スミス——国家なしの秩序形成原理。
9	ヘーゲルの『法哲学』。
10	マルクスの『ユダヤ人問題』。
11	ウェーバー (I)宗教社会学。
12	(II)支配の社会学。
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（広告論）6（94年度以降） マスコミュニケーション論特殊講義A（93年度以前）	担当者名	梶山 皓
-----	------------------------------------------------------	------	------

講義の目標	現代における広告の役割を、マーケティングとコミュニケーションの視点から解説します。		
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業や団体が広告をなぜ行うか、どのように広告を計画し実施するかを学びます。また社会風俗や価値観、倫理・法的な面から、現代の広告を考えます。</li> <li>2. マスコミやメディア、広告業界の仕組みや動向を取り上げます。</li> <li>3. 消費者のコミュニケーション過程や購買行動を分析します。</li> <li>4. アメリカと日本のCMをVTR等で紹介し、日米のビジネス観やコミュニケーションの違いを探ります。</li> </ol>		
使用教材	テキスト	梶山皓著『広告入門（新版）』 日経文庫	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八巻俊雄・梶山皓『広告読本』東洋経済新報社。</li> <li>・干場英男『アメリカの広告・風と土』電通。</li> <li>・『広告に携わる人々の総合講座』日経広告研究所。</li> <li>・S. W. Dunn: Advertising, Dryden Press. 1994.</li> <li>・Barron's: Dictionary of Advertising and Direct Mail Terms.</li> </ul>	
評価方法	<p>通例、前期・後期に試験をします。他に数回の出席をとります。</p> <p>試験は講義と教科書から出題します。試験の持ち込みはありません。</p>		
受講者に対する要望など	評価は厳しいと考えて下さい。		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	広告をなぜ学ぶか (Introduction) : 広告を学ぶと、社会の未来が見えてくる。また物事をポジティブに考える習慣が身に付く。
2	広告の定義 (Ad. Defined) ① : 日本語の広告には、広告活動と広告物という2つの違った意味が含まれている。英語ではそれを分けて使っている。
3	広告の定義 (Ad. Defined) ② : 広告という言葉は、しばしば世間で誤って使われている。宣伝、PR、広報、SPなどと広告は別の事柄である。
4	広告の機能 (Role of Ad.) : 広告には情報み伝える機能がある。このほかに人を説得する機能、広告主と受け手の関係を強化する機能がある。
5	広告の種類 (Ad. Classification) ① : 広告を代表するのは、消費財広告、ビジネス広告のように商業目的に使われる広告である。
6	広告の種類 (Ad. Classification) ② : 広告には、公共広告、意見広告、政治広告のように、市民の啓蒙や世論の喚起に使うものがある。
7	広告主 (Advertisers) ① : アメリカの広告費は邦貨で年間約15兆円で、世界の半分を一国で占める。日本は世界2位で約5兆円である。
8	広告主 (Advertisers) ② : 広告主は、広告活動を効果的に行うために、広告計画を策定して実施する。また様々な組織を編成する。
9	広告会社 (Ad. Agency) ① : 広告会社は、広告コミュニケーションを企画し実施する専門家集団である。日米ではビジネスの進め方が異なる。
10	広告会社 (Ad. Agency) ② : 広告会社には色々な形態や組織がある。広告会社の収入源は、媒体手数料という古い習慣に基づいている。
11	広告メディア (Ad. Media) ① : 広告メディアには、マスメディアから看板やチラシまで色々な種類があり、広く活用されている。
12	広告メディア (Ad. Media) ② : マルチメディア時代を迎えて、衛星放送、双方向CATVなどの新しいメディアが広告界を揺さぶっている。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	広告とマーケティング (Marketing Principles) : マーケティングの基本理念は、消費者志向である。受け手のニーズから出発する。
2	戦略企業計画 (Strategic Planning) : 戦略計画はアメリカで発達した経営理論で、マーケティングをサブシステムとする企業の全体計画である。
3	マーケティング・ミクス (Marketing Mix) ① : 製品とは、効能の側面だけではなく、パッケージ、色、デザイン、保証を含む広い概念である。
4	マーケティング・ミクス (Marketing Mix) ② : 価格の心理的側面、流通チャネルと物流、プロモーション・ミクスについて説明する。
5	広告コミュニケーション (Communication) ① : 広告は社会的なコミュニケーションであり、受け手に様々な心理的影響を与える。
6	広告コミュニケーション (Communication) ② : 消費者には、マスコミによる新しい情報を受け入れる人と、従来の習慣に固執する人がいる。
7	DAGMARの理論 (DAGMAR) : 広告効果は、売上高にではなくコミュニケーション効果に置くべきだという理論で、論争を引き起こした。
8	広告階層モデル (Ad. Hierarchy Model) : 人々は製品を調べてから買うのか、買った後に調べるのか。衝動買いはなぜ起きるのかを考える。
9	広告計画 (Ad. Planning) ① : 広告活動は、広告目標の設定、予算策定、広告表現の決定、媒体選択、効果測定という一連の過程を経て進める。
10	広告計画 (Ad. Planning) ② : 広告計画の中でも、広告表現の方針を決めることと、メディアを選ぶことがとくに重要である。
11	広告規制 (Ad. Regulation) : 広告規制には、広告を倫理や公序良俗からチェックする自主規制と、法律で取り締まる法規制がある。
12	広告の将来 (Ad. Future) : 広告はどのような方向に進むのか、これからの広告ビジネスや広告人に何が求められるかを考える。
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（商法概論）7（94年度以降） 商法概論（93年度以前）	担当者名	坂本延夫
-----	------------------------------------------	------	------

講義の目標	最近の重要な判例・立法・理論を通じての株式会社法の平易な理解。		
講義概要	本年度の講義内容は、商法のうち株式会社法を中心に行う。講義方法は、受講生が会社法の理論と実務の双方について理解しうるよう努める。商法のうち特に会社法を講義内容として選んだのは、法学部以外の学生さんが、将来、会社企業に就職した場合、そこで生じる可能性の高い法律問題の解決について、目安となるような知識を習得してもらいたいからである。		
使用教材	テキスト	・山村忠平・坂本延夫・中村建編著『要説会社法』〔二訂新版〕、嵯峨野書院	
	参考文献	追って指示する。	
評価方法	原則として二度の筆記試験をもって評価する。		
受講者に対する要望など	意欲的な受講を期待する。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	株式会社の経済的意義〔Ⅰ〕
2	株式会社の経済的意義〔Ⅱ〕
3	会社の法概念
4	会社の権利能力
5	会社の種類
6	株式会社の意義〔Ⅰ〕 1. 株式 2. 有限責任 3. 資本
7	株式会社の意義〔Ⅱ〕 1. 株式会社の弊害 2. 社会的責任
8	株式会社の設立〔Ⅰ〕
9	株式会社の設立〔Ⅱ〕
10	株式〔Ⅰ〕
11	株式〔Ⅱ〕
12	補講
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	株式会社の機関〔Ⅰ〕——所有と経営の分離
2	株式会社の機関〔Ⅱ〕——機関の分化と権限の分配
3	株式会社の機関〔Ⅲ〕——株主総会
4	株式会社の機関〔Ⅳ〕——取締役会・代表取締役
5	株式会社の機関〔Ⅴ〕——監査役
6	株主の代表訴訟
7	株式会社の資金調達〔Ⅰ〕——新株発行〔Ⅰ〕
8	株式会社の資金調達〔Ⅱ〕——新株発行〔Ⅱ〕
9	株式会社の資金調達〔Ⅲ〕——社債
10	補講〔Ⅰ〕
11	補講〔Ⅱ〕
12	補講〔Ⅲ〕
備考	



科目名	社会科学特殊講義A (マスコミュニケーション論) 8 (94年度以降) マスコミュニケーション論1 (93年度以前)	担当者名	佐々木 輝 美
-----	---------------------------------------------------------------	------	---------

講義の目標	マス・コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、且つ、これらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになる事を目標とする。		
講義概要	本講義への導入として、先ずコミュニケーションの基礎について説明する。次の数週間で、マス・コミュニケーションの効果およびモデルについて解説し、マス・コミュニケーションの全体像を捉えてもらう。その後、前期の後半はマスコミと教育の問題を、そして後期は、マス・コミュニケーションの影響研究を中心に講義を行う予定。影響研究については、特に「テレビ暴力の視聴者への影響」について時間をかける予定。		
使用教材	テキスト	毎回プリントを配布する予定	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡崎篤郎他編著 1992 『マス・コミュニケーション効果研究の展開』 北樹出版</li> <li>・H. J.アイゼンク他著 1982 岩脇三良訳 『性 暴力 メディア』 新曜社</li> <li>・山根常男他編 1977 『テキストブック社会学(6)―マスコミュニケーション―』 有斐閣ブックス</li> </ul>	
評価方法	定期試験、レポート又は発表、平常点の総合評価を行う。		
受講者に対する要望など	具体的なマス・コミュニケーション状況を分析する力を養うために、授業ではグループ発表やディスカッションも行い、学生諸君の授業参加を重視する。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	マス・コミュニケーションとは
2	コミュニケーションについての基礎知識① ープロセスの概念についてー
3	コミュニケーションについての基礎知識② ー意味はどこに存在するか？ー
4	コミュニケーションについての基礎知識③ ーメディア接触についてー
5	マス・コミュニケーションのモデルについて① ーモデルの長所と短所ー
6	マス・コミュニケーションのモデルについて② ーマス・コミュニケーションの要因ー
7	ビデオ視聴&解説 (レポート課題発表) (レポートはB5サイズの400字詰め原稿用紙×3枚以内、又はワープロでB5サイズの内紙(40字×30行)×1枚にまとめる。)
8	マスコミ効果の概念について① ー効果とはー
9	マスコミ効果の概念について② ー順機能と逆機能ー (レポート提出締切り)
10	マス・コミュニケーションと教育①
11	マス・コミュニケーションと教育②
12	まとめ
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	マスコミの影響研究について① ー弾丸パラダイムー
2	マスコミの影響研究について② ー限定効果パラダイムから適度効果パラダイムへー
3	マスコミの影響研究について③ ー強力効果パラダイムー
4	テレビ暴力研究について① ーカタルシス理論ー
5	テレビ暴力研究について② ー観察学習理論ー
6	テレビ暴力研究について③ ー脱感作理論ー
7	テレビ暴力研究について④ ー教化理論ー
8	4理論のまとめ ー番組のタイプとの関係ー
9	ビデオ視聴&解説 (レポート課題発表) (レポートはB5サイズの400字詰め原稿用紙×3枚以内、又はワープロでB5サイズの内紙(40字×30行)×1枚にまとめる。)
10	グループ発表①
11	グループ発表② (レポート提出締切り)
12	まとめ
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（経営学概論）9（94年度以降） 経営学（93年度以前）	担当者名	富田忠義
-----	------------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>企業、経営、管理をキーワードとして取り上げて、実践学としての現代経営学について概説する。はじめて経営学を学ぶ受講生を前提にして、最新の内容と入門的易しさを両立させたいと考えている。本講義は「現代経営学入門」である。</p>		
講義概要	<p>ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の分野での最新の研究成果の紹介を通して行う。経営学の研究対象が経営であることをまず明らかにして、経営機能を下位機能に区分して概説する。次に企業に注目し、それが時代とともに性格を変えながら、現代企業へと発展してきたことを明らかにする。主体論として、企業の側からは企業家精神とその革新活動を、経営の側からは最高経営の機能と機関について論じる。企業活動の特質として戦略性に注目して、経営環境と経営戦略を取り上げて分析的に検討する。他方では、現代的企業は理念を掲げて行動しているので、経営理念と社会的責任の問題を取り上げ、これらと関連させて日本的経営と経営文化についても論じる。その他、経営組織と組織行動、人材の育成と活用、マーケティング、国際財務と資本調達などについても概説する。</p>		
使用教材	テキスト	工藤達男他編著『現代経営学』白桃書房	
	参考文献	山城章編著『増補改訂・経営学小辞典』中央経済社	
評価方法	後期末定期試験の結果により成績を評価する。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義計画の説明。シラバスを参照しながら、経営学とはどのような学問であるかについて概説する。
2	経営学の研究対象と研究方法。経営学は経営体と経営機能について研究すること、研究方法として科学的方法と実践学的方法があることなどを概説する。
3	経営機能の下位機能としての4つの機能 I. 経営機能を、外向き、前向き、横向き、内向きという4つの下位機能に区分して説明する。
4	経営機能の下位機能 II. 外向き機能は環境適応、前向き機能は創造的破壊としての革新、横向き機能は対境関係の処理に関することなどを概説する。
5	企業体制と現代経営体 I. 支配の見地から企業の形態を吟味するとともに、企業の今日までの発展を企業の性格変化の側面から論じる。
6	企業体制と現代経営体 II. 生業・家業、近代企業、現代経営体の特質について、理念と目的、運営の論理、編成原理などについて概説する。
7	イノベーションと企業家精神 I. ドラッカーの著作の紹介を通して、テーマの解析を行う。企業におけるイノベーションの意味について考える。
8	イノベーションと企業家精神 II. イノベーションの種類と過程について概説する。個人レベルでの決定過程、組織における採用過程について論じる。
9	トップ・マネジメントの機能と機関 I. 株式会社の最高経営と全般管理の機能と機関について概説する。まず株主総会と取締役会から取り上げる。
10	トップ・マネジメントの機能と機関 II. 欧米企業のCEO（最高経営責任者）、わが国企業の社長、常務会などのトップ機関の役割について論じる。
11	経営環境。企業の経営環境について論議する際に役立つ概念として、環境の定義、一般環境とその下位環境、タスク環境、機会と脅威などについて概説する。
12	経営戦略 I. 現代企業における経営戦略の意義、戦略の種類、一般的な策定過程などの基礎的事項について概説する。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	経営戦略 II. 競争戦略、成長戦略、多角化戦略、ポートフォリオ・マネジメント、リストラ戦略、国際化戦略について論じる。
2	経営理念と社会的責任 I. 社会性責任、公益性責任、公共性責任に区別して、経営社会責任について吟味する。社会的責任肯定論と否定論についても言及する。
3	経営理念と社会的責任 II. 経営理念の意義、欧米企業の経営理念、わが国企業の経営理念などの吟味を通して、現代企業の経営理念を明らかにする。
4	日本的経営と経営文化 I. 文化、仕事文化、経営文化、企業文化、日本的経営文化としての日本的経営論などについて論じる。
5	日本的経営と経営文化 II. 企業文化の分析的研究の成果を取り上げて紹介した後で、経営戦略の課題としての企業文化の変革について考察する。
6	経営組織と組織行動 I. 公式組織と非公式組織、公式組織の構成要素としての責任と権限、職務、組織編成の原則、基本的な組織形態などについて概説する。
7	経営組織と組織行動 II. 行動科学の研究成果に基づいて、組織における人間行動と、モチベーション現象について概説する。
8	人材の育成と活用 I. 従来的人事・労務管理の分野を人材の育成と活用の見地から考察し、わが国企業の雇用管理の現状について概観する。
9	人材の育成と活用 II. 日本的経営の要素としての企業内教育の現状を概観し、わが国企業の内部では従業員はどのようにして育成されるかを明らかにする。
10	マーケティング。新製品開発戦略、価格設定戦略、広告戦略などを含むマーケティング・ミックス戦略と国際マーケティングの進め方について概説する。
11	国際財務と資本調達。資本の調達と運用を取り扱う企業財務の機能の内容と、財務の国際化といわれている問題について論じる。
12	講義のまとめと定期試験のための説明。
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（日本経済論）10（94年度以降） 日本経済論（93年度以前）	担当者名	波形昭一
-----	---------------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>情報社会のゆえか、日本経済の現状に関する書物は巷に氾濫している。しかし、日本経済がどのような歴史的経緯をたどって現状に至っているのかという、そうした観点から書かれた良書は意外と少ない。若い学生諸君の弱点も、実はそこにあるように見受けられるので、この点に講義の重点をおきたい。</p>		
講義概要	<p>年間講義予定の欄に記したように、前期は主に戦前における日本経済のシステムとその崩壊過程、および戦後の再建過程を論ずる。後期では高度成長とその緒特徴、さらに70年代中期以降の構造転換の意味を論じつつ現在の日本経済の問題点を探りたい。</p>		
使用教材	テキスト	・竹内 宏『昭和経済史』ちくまライブラリー	
	参考文献	・佐々木隆爾編『昭和史の事典』東京堂出版	
評価方法	<p>前期・後期とも試験を行ない、総合点で評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>こんなことを要望すること自体、どこかおかしいのだが、最近とみに授業中の私語が多い。大学生でも、自己管理能力の低い人が多くなっているようである。「私語」は「死後」と同音である。同義にならないよう注意されたい。</p>		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	日本資本主義経済の成立(1) その産業・貿易構造
2	日本資本主義経済の成立(2) 金本位制成立の意義
3	金融恐慌から昭和恐慌へ
4	金本位制の崩壊、管理通貨制への移行
5	井上財政と高橋財政
6	戦時経済体制への突入
7	戦時統制経済の実態
8	戦後経済改革
9	戦後復興策とインフレ
10	ドッジ・ラインとシャープ勧告
11	朝鮮戦争と特需景気
12	戦後経済からの脱皮と55年体制
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	神武景気と岩戸景気
2	所得倍増計画からイザナギ景気へ
3	大衆消費社会の到来
4	高度経済成長と儒教精神
5	ドル・ショックと過剰流動性
6	第一次石油ショックと大不況
7	トリレンマからの脱出
8	世界経済秩序の転換
9	レーガノミックスとプラザ合意
10	円高進展とバブル景気
11	バブル崩壊の日本経済
12	未曾有の長期不況と再建への挑戦
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（歴史的に見たパレスチナ問題）II（94年度以降） 時事問題研究特殊講義A-3（93年度以前）	担当者名	奈良本 英 佑
-----	-------------------------------------------------------------	------	---------

講義の目標	<p>代表的な長期国際紛争であるパレスチナ問題を取り上げる。この問題の歴史的背景、当面する諸問題を分析し、中東世界の政治文化や欧米のユダヤ人問題、さらに国際政治のダイナミクスについて理解を深めることを目標とする。オスロ合意と占領地パレスチナ人の暫定自治実施にもかかわらず、問題解決には長い年月を要する。昨年の、イスラーム教徒による自爆テロ、ユダヤ教徒によるラビン首相暗殺は、手放しの楽観論が通用しないことを物語っている。</p>		
講義概要	<p>前期は、パレスチナ問題にかかわる基本的なターム、およびイギリスの委任統治終了までの歴史を扱おう。後期は、イスラエル建国、アラブ・イスラエル紛争、パレスチナ人の闘争、これらと国際政治とのかかわりなどについて講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>W. Laqueur &amp; B. Rubin eds. <i>The Israel-Arab Reader</i>. Penguin Books, 1984.</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木村修三『中東和平とイスラエル』（有斐閣、1992年）</li> <li>・浦野起央『パレスチナをめぐる国際政治』（南窓社、1985年）</li> <li>・D. ギルモア『パレスチナ人の歴史』（北村訳、新評論、1985年）</li> <li>・池田明史編『中東和平と西岸・ガザ』（アジア経済研究所、1990年）</li> <li>・A. レオン『ユダヤ人と資本主義』（波田訳、法政大出版、1973年）</li> <li>・立山良司『中東和平の行方』（中公新書、1995年）</li> <li>・Y. ハルカビー『イスラエル——運命の刻』（奈良本訳、第三書館）</li> </ul>	
評価方法	<p>前期と後期の定期試験による。場合によっては、1～2回、レポートの提出を求める。</p>		
受講者に対する要望など	<p>現代史、国際問題に関心を持つ諸君の受講を歓迎する。高校の世界史程度の常識を前提に講義する。英文テキストを使うので、英語が不得意な学生は少々苦勞するかも知れない。</p>		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	〔イントロダクション〕パレスチナ問題の見取図を描き、参考資料を紹介する。
2	〔パレスチナ〕古代から近代に至るパレスチナの歴史を概観し、「文明の十字路」としてのパレスチナの特異性について論じる。
3	〔エルサレム〕「文明の十字論」で生まれた、ユダヤ教、キリスト教、イスラームとは何か。これら3つの共通の聖都エルサレムの歴史を概観する。
4	〔ユダヤ人〕信徒集団、人種、民族——コンテキストによって「ユダヤ人」の意味するものは異なる。今なお論争が付きない「ユダヤ人の定義」について考える。
5	〔シオニズム運動〕「ユダヤ人」と呼ばれた人々は、なぜ自分たちが一個の民族(nation)を構成し、自分たちの国を持たねばならないと考えたのか。近代の反ユダヤ主義との関連で論じる。
6	〔アラブ・ナショナリズム〕「アラブ意識」は古いが、彼らのナショナリズムは新しい。「アラブ」はなぜ政治的統一と独立を求めるに至ったかを考える。
7	〔イギリスの三重取引〕第一次世界大戦中にイギリスが3つの当事者(フランス、シオニスト、アラブ)に対して行なった、互いに矛盾する約束は良く知られている。イギリスの動機について考える。
8	〔委任統治とシオニストの入植〕委任統治と呼ばれるイギリスのパレスチナ支配の下で、シオニストのパレスチナ移民はいかに行なわれたか。入植による人口動態、土地問題、新たな政治紛争について講義する。
9	〔イシューヴの形成〕入植を通じてパレスチナに形成されたヨーロッパ型のユダヤ人社会=イシューヴは、どのように組織されたか。その社会組織、経済構造、政治機構、軍事組織などについて。
10	〔パレスチナ・アラブ社会〕同時期の伝統的なパレスチナ・アラブ社会はどのような構造を持ち、委任統治の下でどのように変化したのか。彼らの宗教コミュニティ、政党などについて。
11	〔パレスチナ・アラブの反乱〕イギリスの支配とシオニストの入植に反対するアラブの大反乱(1936-39)は、いかに開始され、なぜ失敗したのか。敗北により彼らの社会はいかに解体されたか。
12	〔シオニストの反乱〕親シオニスト政策を修正し入植制限に踏み切ったイギリスに対するシオニストの反乱は、なぜ成功したか。イギリスの委任統治政策はなぜ失敗したか。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	〔冷戦とパレスチナ分割〕第二次世界大戦後の冷戦開始期において激しく対立した米ソは、競ってシオニストを支援し、イスラエル建国を助けた。米ソのパレスチナ政策の奇妙な一致について考える。
2	〔第一次中東戦争〕シオニスト=イスラエルはいかに勝利したか。未だ解決の見通しのないパレスチナ難民問題はなぜ発生したのか。
3	〔第二次中東戦争〕エジプトによるスエズ運河国有化を直接のきっかけとする1956年の戦争は、結果的にアラブ・ナショナリズムの昂揚をもたらした。このパン・アラビズムとパレスチナの関係などについて講義する。
4	〔第三次中東戦争〕アラブ諸国はイスラエルに大敗し、広大な領土を占領され、アラブ・ナショナリズムは求心力を失なう。1967年のこの戦争はなぜ起こり、中東の政治地図をどのように塗り変えたか。
5	〔パレスチナ解放運動の自立〕パン・アラビズム衰退のなかから、いかにしてパレスチナ・ナショナリズムが興り、自立した解放運動がはじまったか。PLOはアラブ諸国の支配から、いかにして独立したか。
6	〔第四次中東戦争〕エジプト主導の限定戦争として始まった1973年の10月戦争は中東世界に何をもちたか。
7	〔PLOの国際認知〕石油戦略の発動に成功したアラブ諸国とパレスチナ解放運動は、これを背景にどのような政策転換を計ったか。エジプトの対イスラエル講和、ミニ・パレスチナ構想などにも触れる。
8	〔レバノン戦争〕建国後はじめて政権をとったイスラエル右派政党「リクード」の主導ではじめられた、1982年のこの戦争は、PLOの壊滅と大イスラエル建設を目指した。リクード政権のもくろみは成功したか。
9	〔イスラエルの反戦運動〕イスラエルの右傾化が進む一方で、これに危機感をいだく平和勢力(Peace Camp)の運動も盛んになる。レバノン戦争反対やPLOとの対話を求めるイスラエル人の運動について。
10	〔占領地とインティファダ〕レバノン戦争後、パレスチナ解放運動の主体は、難民から占領地の住民に移る。インティファダと呼ばれる大衆闘争はいかに始まり、中東政治にいかなるインパクトを与えたか。
11	〔オスロ合意〕オスロで行なわれたイスラエル政府とPLOの秘密交渉で、1993年、約1世紀におよぶ闘争の「停戦協定」が成立。両者の妥協は何を意味するのか。ラビン首相暗殺にも触れる。
12	〔展望——残された問題〕オスロ合意とオスロⅡで棚あげにされた多くの問題(パレスチナ難民の帰還権、補償、エルサレムの地位、占領地の将来、入植者の扱いなど)の解決は可能か。解決のために何が必要か。
備考	



科目名	社会科学特殊講義A (経済理論の基礎—マクロ理論を中心として) 12 (94年度以降) 経済原論 (93年度以前)	担当者名	西村 允克
-----	--------------------------------------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>市場経済を理解するための理論的枠組みを学習することによって、現実の経済問題を正しく理解する力を養うことが、この講義の目的である。経済現象は孤立してあるものではなく、他の経済現象と複雑な複合関係にあることをまず理解してもらいたい。講義では、経済現象を1つ1つ取り上げていくが、それは経済現象間の複雑な複合関係を解くための1つの方法であって、必ずそれは結合させて次の段階へ進むから、絶えず講義で学習した内容を復修しながら学習しなければならない。</p>				
講義概要	<p>現実経済は極めて複雑な組織である。複雑なシステムを理解するためには、システムをそれを構成する基本的要素（供給者と需要者、家計、企業、政府）と基本的要素間の経済関係によって、理論的分析が可能となるモデルに再構築しなければならない。前期では、経済学の最も基礎的なミクロモデルとマクロモデルを学習し、経済理論の基礎的な考え方を理解し、後期の学習の基礎をかためる。前期の前半は経済分析ために必要な基礎知識を学び、後半のモデル分析理解の土台となる学習であるから、常に先に進んでももどって再学習しなければならない。後期は前期のモデル分析をより現実に近いものに拡張し、さまざまな現実経済問題の理解に進む。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・中谷 巖 著 『入門マクロ経済学』 日本評論社</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幸村千佳良著 『マクロ経済学事始』 多資出版</li> <li>・R. T. ギル著 久保、長谷川訳 『マクロ経済学入門』 上下 東洋経済新報社</li> <li>・藤野正三郎 著 『価格理論』 東洋経済新報社</li> <li>・スティグララー著 『価格の理論』 有斐閣</li> <li>・倉沢資成 『入門価格理論』 日本評論社</li> </ul> </td> </tr> </table>	テキスト	・中谷 巖 著 『入門マクロ経済学』 日本評論社	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幸村千佳良著 『マクロ経済学事始』 多資出版</li> <li>・R. T. ギル著 久保、長谷川訳 『マクロ経済学入門』 上下 東洋経済新報社</li> <li>・藤野正三郎 著 『価格理論』 東洋経済新報社</li> <li>・スティグララー著 『価格の理論』 有斐閣</li> <li>・倉沢資成 『入門価格理論』 日本評論社</li> </ul>
テキスト	・中谷 巖 著 『入門マクロ経済学』 日本評論社				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幸村千佳良著 『マクロ経済学事始』 多資出版</li> <li>・R. T. ギル著 久保、長谷川訳 『マクロ経済学入門』 上下 東洋経済新報社</li> <li>・藤野正三郎 著 『価格理論』 東洋経済新報社</li> <li>・スティグララー著 『価格の理論』 有斐閣</li> <li>・倉沢資成 『入門価格理論』 日本評論社</li> </ul>				
評価方法	<p>前期と後期の定期試験の結果による。試験問題についての採点基準は講義において注意した点をよく理解して記述されているかである。</p>				
受講者に対する要望など	<p>日々の新聞の経済面の見出しに注意し、経済の動きについての常識的理解を深める努力をしてほしい。講義は常に現実の経済の動きに対応している。</p>				

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1 経済学を学ぶための基礎 (I) 基礎用語 経済主体、経済資源 経済活動 財とサービス 実物資産と金融資産 価格
2	2 経済学を学ぶための基礎 (II) 分析ツール 関数と曲線 図の読み方 限界と平均 関数の変化と曲線のシフト 変数 (独立変数と従属変数)
3	3 経済学を学ぶための基礎 (III) 市場モデルの作り方、市場均衡と市場不均衡 短期と長期 (経済与件)
4	4 国民経済計算 (I) 付加価値額 国内総生産 国内総支出 グロスとネット 国民1人当り国内総生産
5	5 国民経済計算 (II) 物価指数 (デフレーター) 名目値と実質値 経済成長率
6	6 生産関数と総費用関数 産出量と投入量 限界生産力 完全雇用と不完全雇用 等生産量曲線 総費用関数 固定費用と可変費用 限界費用と可変費用
7	7 消費関数 限界消費性向と限界貯蓄性向 平均消費性向と平均貯蓄性向
8	8 価格決定理論 (I) 需要関数と供給関数 市場均衡の安定分析
9	9 価格決定理論 (II) なぜ価格は変化するのか
10	10 国民所得決定理論 (I) 簡単なモデル 貿易のない場合の国民所得決定理論 財政政策の国民所得に及ぼす効果
11	11 国民所得決定理論 (II) 貿易を含む場合の国民所得決定理論
12	12 前期のまとめ
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	13 貨幣市場の問題 マネーサプライとハイパワードマネー 金融政策 (公定割引歩合 公開市場操作、予金準備率) 貨幣数量説
2	14 貨幣需要について 取引動機による貨幣需要と投機的動機による貨幣需要
3	15 IS = LM 分析 (I) ——国民所得と利子率の同時決定理論 IS 曲線と LM 曲線の導出とその意味
4	16 IS = LM 分析 (II) 財政政策は国民所得と利子率をどのように変化させるか 金融政策は国民所得と利子率をどのように変化させるか
5	17 IS = LM 分析 (III) 安定分析、現実経済への応用
6	18 景気変動 (I) キッチン波動 ジュグラー波動 コンドラチェフ波動 技術革新 独立投資と従属投資
7	19 景気変動 (II) 資本稼働率 バブルと平成不況
8	20 経済成長論 (I) (基本概念) 投資の生産力効果 潜在的成長率と現実成長率
9	21 経済成長論 (II) なぜ日本は戦後このような高度成長を実現したのか、基本概念を用いながら説明する。
10	22 国際収支 経常収支 (貿易収支 貿易外収支 移転収支) と資本収支、変動相場制 交易条件
11	23 インフレーション フィリップス曲線
12	24 まとめと平成8年の日本経済の諸問題
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（国際法）13（94年度以降） 国際法（93年度以前）	担当者名	廣部 和也
-----	-----------------------------------------	------	-------

講義の目標	国際法という国際社会の法を通して、国際社会における諸現象をみることができ、国際社会も一定の法（規律）に基づいて諸活動が成り立っていることを知ってもらうこと。		
講義概要	国際社会において、法的規律がどのように行なわれているか、国際法の形成・発展をはじめとして、その基本的事項、特に、国家の活動との関係で国際法の基本的事項を扱う。時には、実際に生じた事件を取り上げ、生きた国際法についても解説する。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寺沢一 他編著『標準 国際法（新版）』青林書院</li> <li>・石本泰雄 他編『解説 条約集（第5版）』三省堂</li> </ul>	
	参考文献		
評価方法	筆記試験による。日常点（例えば、出席など）も考える。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明と勉強する場合に心がけておくこと、及び、授業態度などについて述べる。
2	近代国際社会の構造と国際法の出現及び発展について述べる。(教科書、I、pp.3-23)
3	国際法がどのような形式で存在するかについて述べ、特に、国際慣習法を取り上げる。(教科書、II、pp.29-51)
4	前回到引き続き国際法の存在形式について述べ、特に条約を取り上げる。(教科書、VII、pp.337-345)
5	前回到続き、条約を取り上げる。(教科書、VII、pp.356-373)
6	国際法と国内法の関係(教科書、II、pp.58-73)
7	国家とは何か。国家はどのようにして成立するのか。(教科書、III、pp.74-92)
8	国家の権利義務について、特に、国家主権、管轄権などについて。(教科書、IV、pp.105-112)
9	前回到続き、不干渉義務について。(教科書、IV、pp.113-116)
10	国家の領域について、領土とは何か、国境とは何か、また、領域権の性質などについて。(教科書、VI、pp.201-217)
11	海洋の国際法について、領海、経済水域、大陸棚など。(教科書、VIII、pp.229-253)
12	海洋の国際法の続き、公海、深海底などを中心に。(教科書、VIII、pp.225-228、254-278)
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	空の国際法について、航空機の地位、宇宙と人工衛星など。(教科書、VII、pp.222-224、279-283)
2	人の国際的移動と国際法の関連について。国籍、出入国、難民などの問題。(教科書、X、pp.288-298)
3	人権の国際的保護の問題。(教科書、X、pp.306-311)
4	国際犯罪について。
5	外交使節と領事。(教科書、XI、pp.317-331)
6	国際組織の構造と活動、その国際的地位について。(教科書、V、pp.129-156)
7	国際責任の問題、国際違法行為があれば、責任をとらなければならない。(教科書、XIII、pp.373-389)
8	国際環境の保護と国際法。(教科書、XIV、pp.395-420)
9	国際紛争の解決はどのようになされるか。(教科書、XV、pp.421-431)
10	国際裁判について。(教科書、XV、pp.432-450)
11	戦争と国際法について、戦争の法的性質、その違法化の問題。(教科書、XVI、pp.451-466)
12	国際連合と集団安全保障。(教科書、XVI、pp.477-510)
備考	

科目名	社会科学特殊講義A (国際貿易と国際収支調整) 14 (94年度以降) 国際経済論 (93年度以前)	担当者名	益山光央
-----	-------------------------------------------------------	------	------

講義の目標	国際経済を分析する際に必要な最低限必要と思われる諸概念の修得を目標とする。		
講義概要	国際経済学の基礎的な理論を中心に講義する。前期は貿易理論、後期は開放経済下の所得決定メカニズムを中心テーマとする。今日、世界で問題となっている具体的事項については直接は取り扱わない。		
使用教材	テキスト	教科書 仙頭佳樹ほか、『あなたにもわかる国際経済学』多願出版、1991	
	参考文献	渡辺太郎『国際経済 (第四版)』春秋社、1990 Peter B. Kenen; <i>The International Economy (Third Edition)</i> , Cambridge University Press, 1994	
評価方法			
受講者に対する要望など	まじめに勉強してほしい。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のアウトライン
2	リカード的率易理論Ⅰ
3	リカード的貿易理論Ⅱ
4	ヘクシャーオリーン定理Ⅰ
5	ヘクシャーオリーン定理Ⅱ
6	リブチンスキー定理
7	ストルパーサミュエルソン定理
8	関税Ⅰ
9	関税Ⅱ
10	国際生産要素移動Ⅰ
11	国際生産要素移動Ⅱ
12	まとめ
備 考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	GNP と GDP
2	固定収支表
3	固定相場制下の所得決定Ⅰ
4	固定相場制下の所得決定Ⅱ
5	変動相場制下の所得決定Ⅰ
6	固変動相場制下の所得決定Ⅱ
7	開放経済上の金融政策Ⅰ
8	開放経済上の金融政策Ⅱ
9	開放経済上の財政政策Ⅰ
10	開放経済上の財政政策Ⅱ
11	ポリシーミックス
12	まとめ
備 考	

科目名	社会科学特殊講義A（民法概論）15（94年度以降） 民法概論（93年度以前）	担当者名	松嶋由起子
-----	-------------------------------------------	------	-------

講義の目標	日常的な生活をめぐる社会現象に対し、客観的な評価と対応ができるように、民法学の研究を通し、リーガルマインドを養成することを目標とする。		
講義概要	我々の日常生活を規律する法としての民法の仕組みとその実際を、裁判例や実例をあげながら説明する。生活法としての家族法を中心とするが、適宜、財産法、国際家族法その他、関連特別法にも触れる。今後の社会生活の中で、なるべく実際に役立つと思われる事項を中心に、平易に講義し、一緒に考えたい。		
使用教材	テキスト	『民法とはこんな法律』（日本法令）を使う予定である。	
	参考文献	『家族は変わったか』 有地亨著 有斐閣選書 『民法入門(2)家族法』 川井健編 有斐閣新書	
評価方法	試験または研究レポート。		
受講者に対する要望など	意欲のある学生を希望する。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	市民法としての民法の基本原理と体系
2	民法の歴史
3	民法の解釈と適用をめぐって
4	民法総則
5	物をめぐる権利
6	契約をめぐる権利
7	消費者をめぐる権利
8	不法行為
9	現代社会と市民法の政策について（特別法関連）
10	戸籍法と国籍法
11	民事紛争処理機関としての裁判制度
12	国際家族法・家族をめぐる国際条約
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	親族法総論（総論・氏と戸籍）
2	婚姻
3	離婚
4	親子
5	扶養（高齢者の扶養）
6	相続法総論
7	相続人と相続分・相続財産
8	遺産分割の手続きと実際
9	遺言
10	遺留分
11	現代社会と家族法の改正
12	"
備考	講義順位は変更する可能性もある。



科目名	社会科学特殊講義A（社会思想史）16（94年度以降） 社会思想史（93年度以前）	担当者名	松丸 壽雄
-----	---------------------------------------------	------	-------

講義の目標	歴史観、社会観を自らの判断のもとで形成することができるように、批判的なものの観方を得ること。		
講義概要	それぞれの社会には、それぞれの歴史的状況、習慣などにより、異なったものの考え方が生じうる。それは社会をどう考えるかという思想までに展開することもあるし、それぞれの時代の単なる傾向に終わる場合もある。しかし、それと社会思想の一つと考えられる。本講義では、「社会思想」を上のような広い意味に捉えて、特に日本人の社会に対する考え方、主に西洋人の社会に対する考え方を比較しながら明らかにしたい。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	講義中に指示	
評価方法	受講者が多い場合には、筆記試験も考えられる。受講者が相応であれば、最低年二回のレポートと授業への貢献度（例えばディスカッションへの参加）により評価。		
受講者に対する要望など	例年他人のレポートを写すだけで、あるいはただ調べただけのものをレポートにする人が後を絶たない。自分でものを考えようと努力する人が受講することを望む。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要説明
2	受講者数の調整
3	明治時代の社会
4	明治時代と江戸時代
5	明治以降の家族制度から見た社会観
6	明治以降現代までの風俗から見た社会観
7	芸術作品から窺える自然観、世界観
8	同上
9	現代の自然観、世界観
10	現代の社会観
11	できれば、ディスカッション
12	前期の総括
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期のまとめと後期の講義の概要
2	ヨーロッパの芸術作品から見た自然観、世界観
3	同上
4	同上
5	ヨーロッパの中世以降近代に至る歴史現象から見た世界観、社会観
6	同上
7	同上
8	ヨーロッパの現代の生活様式から見た人間観、社会観
9	同上と日本の場合の比較
10	同上
11	できればディスカッション
12	年間の総括
備考	

科目名	社会科学特殊講義A (集団と社会の心理学) 17 (94年度以降) 社会心理学 (93年度以前)	担当者名	三本 茂
-----	-----------------------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>——集団と文化の社会心理学——</p> <p>人間とは、集団のなかに生まれ、集団のなかで生活し、次の世代に行動の結果を伝えて去る「社会的動物」である。</p> <p>集団の構造とその機能、および集団の中身としての文化と人間行動の様式としてのパーソナリティとの関連性を考察する。</p>		
講義概要	<p>まず、社会集団の特質とその形成過程を取り上げ、次に社会集団内の活動の特徴としての文化について触れる。</p> <p>次いで、特定の文化圏で生活する人間たちのパーソナリティの特徴を集団的パーソナリティとしつ考察する。</p> <p>事例として、ネパールの高地民族であるシェルパの生活実態やその集団的パーソナリティについて考えてみる。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	その都度指示する	
評価方法	前期のレポートの提出と期末の筆記試験とによる。		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1. 集団形成の過程と規定要因
2	2. 人間集団の特徴
3	3. 集団の機能
4	4. 集団と文化
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	1. 文化とは何か
2	2. 文化の構造
3	3. 人間行動のスタイルとしてのパーソナリティ
4	4. 集団的パーソナリティ
5	5. 事例研究
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	社会科学特殊講義A (ジャーナリズム) 18 (94年度以降) マスコミュニケーション論2 (93年度以前)	担当者名	森 永 京 一
-----	-----------------------------------------------------------	------	---------

講義の目標	マスコミの本質・機能などについて考えるとともに、内外マスコミの当面する諸問題などについての理解を深めるのが目的。		
講義概要	講義の時点での最新のニュースや問題を積極的に採り上げていきたいと考えています。従って講義予定表には必ずしも準拠しません。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	レポート		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ニュースとは何か。その本質
3	マスコミの成立と変遷
4	日本のマスコミの特質と歴史
5	海外のマスコミ
6	映像メディアと印刷メディア
7	記者クラブの持つ意味 その功罪
8	報道の自由 「知る権利」
9	マスコミの責任と倫理
10	報道の客観性 「やらせ」の問題
11	マイノリティとマスコミ
12	差別の問題
備 考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	新聞の制作 取材と編集
2	検閲と圧力団体
3	自主規制はどこまで許されるか
4	プライバシーはどこまで守られるべきか
5	暴力・セックス報道の限界
6	ヒーロー、ヒロイン、アイドル
7	皇室報道
8	選挙報道
9	出版、広告、映画
10	マルチメディア
11	ビジネスとしてのマスコミ
12	マスコミの直面する諸問題
備 考	

科目名	社会科学特殊講義A（世論調査）19（94年度以降） 世論調査（93年度以前）	担当者名	森 永 京 一
-----	-------------------------------------------	------	---------

講義の目標	世論調査の理論や沿革、問題点についての理解を深めるとともに、実技の習熟を目指します。		
講義概要	受講学生数が多い場合は、どうしても講義中心になりがちですが、なるべく実際に自分の頭で考え、体験できるようにしたいと考えています。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	レポート		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	世論調査の基本的な考え方
3	沿革と問題点
4	選挙と世論調査
5	調査の進め方
6	調査の実施の方法 その種類
7	調査の実施の方法 その長所・短所
8	質問の作り方
9	質問の形式
10	調査票の作成(1)
11	調査票の作成(2)
12	調査票の作成(3)
備 考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	標本抽出の方法
2	乱数表
3	無作為抽出
4	等間隔サンプリング、2段サンプリング
5	層別サンプリング
6	多段サンプリング
7	調査の集計
8	調査の集計(続)
9	調査の誤差と信頼度
10	調査の読み方
11	調査の処理
12	まとめ
備 考	



科目名	社会科学特殊講義A（貿易実務）20（94年度以降） 貿易実務（93年度以前）	担当者名	山崎 静光
-----	-------------------------------------------	------	-------

講義の目標	貿易の実務を引合の段階からクレームの解決まで時間的な順序に従って説明し、将来貿易に従事しない学生には一般的な知識を与え、貿易に従事することを志す学生には本格的な企業内研修への準備とする。		
講義概要	取引の前段階として一般的な事項、例えば打切りと代理商商い、買越・売越・現物と先物等の知識を与え、以後引合、契約、受渡、支払、入金 of 段階を追ってそこに出てくる用語・取引技術を説明する。その際絶えず既知の事実に戻り全体を把握させ、同じ用語の理解が段階を進むにつれて深まっていくようにする。さらに簿記・会計、法律、経済学、歴史、言語等の隣接科学にも触れて興味を起させることを図る。		
使用教材	テキスト	『貿易実務基礎講座』（物産研修センター）	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浜谷源蔵『貿易実務』（同文館）</li> <li>・ 東京銀行『貿易と信用状』（実業之日本社）</li> <li>・ 山崎静光『輸出入手続ハンドブック』（中央経済社）</li> </ul>	
評価方法	学年試験の成績による。		
受講者に対する要望など	授業中に理解することを心掛け、質問・教師に対する批判を活発にし、双方向の通信のあるクラスにするのに寄与して下さい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	貿易取引の前段階
2	——"——
3	I. 引合段階——値段を出す——インコタームズ
4	運賃——海上輸送一般
5	——"——
6	海上保険
7	採算の立て方
8	与信——荷為替
9	——"——
10	信用状
11	——"——
12	D/P, D/A取引
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	カントリーリスク——貿易制限の諸形態
2	オファー
3	オファー条件
4	II. 契約段階——契約書
5	契約履行の管理
6	為替
7	——"——
8	III. 受渡段階——船積書類
9	——"——
10	通関
11	輸入
12	IV. 支払段階——経済協力 V. クレーム
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（会計総論）21（94年度以降） 簿記・会計（93年度以前）	担当者名	湯田雅夫
-----	--------------------------------------------	------	------

講義の目標	本講は、初級簿記の原理と技法を取得するとともに、会社運営に役立つ経理全般を主として制度会計の面から学習する。さらに、企業の公表する財務諸表をひとつおり分析できるよう指導する。		
講義概要	簿記は、企業の管理運営を合理的に推進するにあたって、また企業の財政状態や営業成績を外部の利害関係者に正しく報告すうえで、欠くことのできない計算技術である。本講では、簿記の計算技術を主として前期でとりあげ、初級簿記を習得できるよう指導する。 また、後期においては、企業会計の構造と機能を、会計情報を利用する人々の立場から学習する。		
使用教材	テキスト	湯田雅夫他『演習商業簿記入門』中央経済社； 小川洵『会計総論』放送大学教材	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渋谷武夫他『日商簿記検定3級 初級簿記演習』税務研究会出版局</li> <li>・ 渋谷武夫『日商簿記検定2級 中級簿記演習』税務研究会出版局</li> <li>・ 『会計法規集』中央経済社</li> <li>・ 金児昭『ビジネスゼミナール会社経理入門』日本経済新聞社</li> </ul>	
評価方法	当該講義科目の成績評価は、前期・後期の2回実施する試験によって行う。なお、出席状況を素点に加点するために、毎回出席をとる。出席回数が授業日数の2/3に達しない者の成績評価は、試験の成績だけで評価する。		
受講者に対する要望など	一、二年生から履修することを希望する。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション：講義概要ならびに授業の進め方を明らかにして、学習意欲を喚起する。
2	簿記・会計の歴史を辿り、簿記・会計発展に関わる経済社会の背景を学習する；ルネッサンス期の北部イタリア →産業革命→
3	第1章 簿記の意義と目的；第2章 資産・負債・資本と貸借対照表、東京商会の事例；第3章 収益・費用と損益計算書
4	第4章取引；第5章勘定；第6章仕訳と転記
5	第7章帳簿；第8章簿記一巡の手続き
6	第9章現金預金；第10章商品売買
7	第11章有価証券；第12章売掛金と買掛金；第13章その他の債権債務
8	第14章手形；第15章貸倒れと貸倒引当金
9	第16章固定資産；第17章資本金と引出金
10	第18章収益・費用の繰延と見越
11	第19章決算予備手続
12	第20章決算本手続；第21章財務諸表の作成
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	企業活動；企業目的；企業の法的形態；企業規模；経理の役割；制度会計と管理会計
2	企業組織；定款；株主総会；取締役会および代表取締役；監査役；業務監査と会計監査；公認会計士
3	決算発表；株主総会開催・召集通知・利益処分と配当；決算公告および有価証券報告書
4	経理のバイブルとしての企業会計原則：一般原則、貸借対照表原則、損益計算書原則
5	損益計算書の様式・勘定式と報告式；尺度性の利益と可処分利益；損益計算書の6つの利益と利益処分
6	費用・収益の測定；現金主義；発生主義；実現主義；費用・収益対応の原則；販売基準；工事進行基準と工事完成基準
7	貸借対照表の様式：勘定式と報告式；流動性配列法と固定性配列法
8	流動資産：当座資産と棚卸資産；固定資産：有形固定資産、無形固定資産、投資その他資産；繰延資産；引当金；資本の内容
9	ディスクロージャーと監査：株式会社における債権者および株主の保護；商法による財務報告；証券取引法による財務報告
10	財務諸表の見方：財務諸表を利用する立場から；財務諸表分析の目的：収益性分析・安全性分析・生産性分析・成長性分析
11	財務諸表の分析技術：実数分析・比率分析・構成比率分析・趨勢分析；決算情報の入手方法
12	簿記・会計の総まとめ
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（現代国際社会の統合と分裂）22（94年度以降） 国際関係論特殊講義A（93年度以前）	担当者名	若林 広
-----	---------------------------------------------------------	------	------

講義の目標	本講義では、冷戦後の現代世界が直面する複雑な種々の問題（地域紛争、南北格差、先進国間摩擦、環境破壊、国連の強化、経済統合の進展等）の理解を目標に、その根本には、近代国民国家とは何かとの理解が必須と考え、国家論の理論的、歴史的理解の後、個々の地域に関しても、その歴史的側面に常に言及しつつ、検討を加えていく。		
講義概要	冷戦後の現代社会は、核の脅威こそ大幅に減じたものの、旧ソ連地域、ユーゴ等、世界各地で発生する地域紛争や、アルジェリア等におけるイスラム原理主義運動といった文明的・宗教的対立の問題、さらには、南北格差、先進国間貿易・経済摩擦、地球環境破壊等、多くの経済問題をいまだに抱えている。世界には現在、このように世界を分裂的、破壊的方向へ導く力が存在する一方、安全保障、環境問題等における国連中心主義への移行・WTOの発足が象徴する国際貿易体制の強化、さらには、EU等の統合の進展といった、全地球及び地域レベルでの種々の問題解決への模索もなされている。本講では、これら諸問題の根本には、国民国家に対する種々の方向からの挑戦があると考え、まず、国民国家概念の理論的側面に検討を加え、現代世界の動きを理解するうえで重要なこれら分裂・破壊的、及び統合・協力的な動きを、諸地域の例に即して検討を加えていく。講義の性格上、以下にあげる年間予定に加え、その時々アップ・トゥ・デートな問題も積極的に取り上げて行く。		
使用教材	テキスト	追って指示する。	
	参考文献	細谷千博・白井久和編『国際政治の世界』有信堂	
評価方法	基本的には、学年度末の試験によるが、場合によっては、各自の関心のあるテーマに関する自由研究レポートの提出による場合もある。		
受講者に対する要望など	授業の理解と積極的な参加のため、新聞の国際面と経済面には、常に目を通しておく事。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論 国際関係論とは何か。国民国家とはなにか。
2	第二次大戦後の国際体系(1)
3	第二次大戦後の国際体系(2)
4	グローバル・イシュー(1) 核兵器一軍拡競争から軍縮へ
5	グローバル・イシュー(2) 国際貿易体制と南北問題(1)
6	グローバル・イシュー(3) 国際貿易体制と南北問題(2)
7	グローバル・イシュー(4) 地球環境と人口
8	西ヨーロッパ(1) 欧州連合の統合(1)
9	西ヨーロッパ(2) 欧州連合の統合(2)
10	西ヨーロッパ(3) ベルギー、フランス等における分権化(1)
11	西ヨーロッパ(4) ベルギー、フランス等における分権化(2)
12	旧ソ連・東欧地域(1) ユーゴ、ソ連の分裂(1)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	旧ソ連・東欧地域(2) ユーゴ、ソ連の分裂(2)
2	アジア(1) APEC・ASEAN の進展(1)
3	アジア(2) APEC・ASEAN の進展(2)
4	北アメリカ(1) 日米経済摩擦
5	北アメリカ(2) NAFTA
6	ラテン・アメリカ(1) 経済リジョナリズム(1)
7	ラテン・アメリカ(2) 経済リジョナリズム(2)
8	中東(1) イスラエル・パレスチナ問題
9	中東(2) 多極共存型民主主義とレバノン問題
10	アフリカ(1) アフリカの独立とパン・アフリカニズム
11	予備
12	まとめ
備考	

科目名	数学（94年度以降） 数学概論（93年度以前）	担当者名	福井尚生
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	<p>数学は現象を客観的に解析する際に最も有効な道具の一つとして使われます。一見複雑に見えるいくつかの現象の奥底に共通して流れる本質的な法則を抽出し、その法則を客観的に処理し、普遍的なモデルを作る際に威力を発揮します。</p> <p>例えばヴェアフルスト・モデル。人口変化に関する過去のデータに基づき仮説と思考とから作り上げられた人口変化の数学モデルです。このモデルからの人口の予測値と実測値とは非常によく一致しています。</p> <p>現象を数学的に解析することを念頭に、使える数学を目指します。</p>		
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 簡単な関数：有理関数と無理関数 三角関数と逆三角関数 指数関数と対数関数</li> <li>2. 微分（関数の変化のようす）：1変数関数の微分 多変数関数の微分</li> <li>3. 積分：不定積分（微分の逆演算、微分方程式への助走）</li> <li>4. 微分方程式（数学モデル作り）：変数分離形 1階線形微分方程式 2階線形微分方程式</li> </ol>		
使用教材	テキスト	プリント	
	参考文献		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習（ほぼ毎授業の際渡す用紙にその日の授業内容に関する演習をしてもらい、その都度その用紙を提出してらいます。）</li> <li>2. その他は受講者数・学習態度を見て決めます。</li> </ol>		
受講者に対する要望など	<p>予備知識は問いませんが、真面目に取り組んでくれることを希望します。不明な点は是非質問して下さい。又私からの質問にも積極的に答えて下さい。新しいことの学習には不明・間違いはあたりまえです。</p>		

科目名	数学Ⅰ・Ⅱ（93年度以前）	担当者名	田中雅英
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>経済学にとってある程度の数学の知識は必要不可欠である。数学の知識なくして経済学を学ぶことは難しいといってもよいだろう。</p> <p>この講義では、経済学を学ぶための必要最小限と思しき数学の基礎的な分野の学習をする。扱う分野は線型代数（行列）と微積分である。</p>		
講義概要	<p>前期は行列と行列式を講義する。これらは数学の基礎であると同時に現実問題に応用されることも多い。</p> <p>後期は微積分を扱う。これもまた理系専用ではなく、経済学でも幅広く使われているものであり、線型代数と同じく必須であるとも言える。</p> <p>方針は証明や公式導出に際して、数学的厳密さを要求するよりも、わかり易さをモットーとし、使いこなせることを中心にする。</p>		
使用教材	テキスト	特にないが、テキストがわりとしてプリントを準備する。	
	参考文献	必要に応じて、講義中に紹介する。	
評価方法	前期、後期の試験のみに限らず、途中で何回か実施するテストで評価する。		
受講者に対する要望など	授業中の私語は慎むこと。また講義予定は変更はあり得る。		



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	行列の定義 行列の演算
2	行列の演算
3	行列の変形
4	逆行列 掃き出し法
5	行列式の定義
6	行列式の性質
7	行列式の性質
8	余因子とその性質
9	余因子とその性質
10	余因子を用いて逆行列の導出
11	連立1次方程式 Cramerの公式
12	連立1次方程式 掃き出し法
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	関数の概念
2	関数の極限
3	関数の連続
4	微分係数と導関数の定義
5	微分法
6	いろいろな関数の微分
7	関数の極大・極小
8	平均値の定理
9	偏微分の定義
10	偏微分の応用
11	不定積分
12	定積分
備考	

科目名	物理学	担当者名	東 孝 博
-----	-----	------	-------

講義の目標	現代物理学の基礎である相対性理論と量子力学を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、科学と非科学の違いに留意し、科学のはたす役割と限界についても考えていきたい。		
講義概要	過去2年間、前期を相対論、後期を量子論に充てて講義を行ってきたが、消化不良気味であった。この反省から、今年度は、特に、相対論に焦点を当てて、1年間講義を行ってきたい。前期を特殊相対論（光の速度、同時概念の相対性、時間・空間概念の変更）、後期を一般相対論（等価原理、重力の幾何学化、ブラックホール、宇宙論）として、その考え方を見ていく。量子論についても簡単に紹介するつもりである。		
使用教材	テキスト	テキストはとくになし。参考書は適宜紹介する。授業では視聴覚教材も使用する。	
	参考文献		
評価方法	前・後期各3回の課題と学年末試験で評価を付ける予定。		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	プロローグ—現代物理学を学ぶ意味
2	飛行機中でもワインが注げるわけ—相対性原理
3	"
4	光の速度で走りながら光を見たら—光速一定の原理
5	"
6	時間は遅れ、空間は縮む—時間・空間の相対性
7	"
8	"
9	18歳の少女に恋した4?歳の科学者の戦略—「浦島効果」
10	"
11	$E=mc^2$ —原子爆弾!
12	"
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	エレベータの綱が切れたら—等価原理
2	"
3	空間も曲がる—重力の幾何学化
4	"
5	光も出られない蟻地獄—ブラックホール
6	宇宙の将来はどうなるの?—膨張宇宙
7	始めに光ありき—ビックバン宇宙
8	暗黒物質・銀河の種・インフレ宇宙—現代宇宙論の諸問題
9	宇宙人さん、こんにちわ—地球外文明探査
10	量子論の世界
11	"
12	エピローグ—再び、現代物理学を学ぶ意味
備考	

科目名	地 学	担当者名	福 井 尚 生
-----	-----	------	---------

講義の目標	<p>かつて宇宙を支配する法則と地上を支配する法則とは異なるものだと信じられていました。ニュートンが登場してそれ等の法則はどちらも同じ法則として統一され、地上の法則が広い宇宙へ使える事を知りました。逆に宇宙を支配している法則が地上にも及んでいることを知ったのです。そこで地上で得られた知識（例えばキルヒホッフの放射法則）で宇宙（例えば、星の物理的・化学的性質）をどう理解しようとしているか、又宇宙（例えば、宇宙の果て）を通して地上の知識をいかに普遍的な知識（例えば、相対性理論）へと修正しているかを、天文学を通じて知覚してもらおうと思います。</p>		
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 恒星：太陽（系） 連星 散開星団 球状星団</li> <li>2. 銀河：銀河（系） 銀河群 銀河団 超銀河団</li> <li>3. 見える限りの宇宙：宇宙の構造 宇宙の起源</li> </ol>		
使用教材	テキスト	<p>プリント 視聴覚教材</p>	
	参考文献	<p>・現代天文学要説（内海和彦、他著）朝倉書店</p>	
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎回出す課題（数行程度）をこちらで用意する用紙に書き溜め、前期分1枚・後期分1枚を提出してもらいます。これが主な評価対象です。</li> <li>2. その他の評価方法は受講者数・学習態度（出席、1.の課題への取組み方）を見て決めます。</li> </ol>		
受講者に対する要望など	<p>課題については、資料等を調べた後、自分で考えたユニークな内容に努めて下さい。尚、受講希望者は本講義の目標・概要を読み各自の意見を100字以内にまとめたメモを最初の講義の日の17時まで直接福井（教室又は中央棟702）に必ず提出して下さい。</p>		

科目名	生物学 A	担当者名	加藤 僖重
-----	-------	------	-------

講義の目標	近年、問題になっている様々な環境問題を生物学の立場から把握する。	
講義概要	身近な生物を理解するため、種新聞・雑誌等の記事を利用しながら講義を進める。	
使用教材	テキスト	使用しない
	参考文献	講義中に必要に応じてコピー配布をする。
評価方法	通常のテスト、レポート、夏期休暇のレポート、定期試験等の結果を総合して決定する。	
受講者に対する要望など		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読む必要があること、またそれについてのレポート提出が多いことを説明する。簡単なテストを行なう。
2	人口問題、食糧危機問題についての英語や日本語の新聞・雑誌記事を読む。
3	"
4	" (第1回レポート提出)
5	生態系、生態系を乱す例についての英語や日本語の新聞・雑誌記事を読む。
6	"
7	"
8	" (第2回レポート提出)
9	自然保護についての英語や日本語の新聞・雑誌記事を読む。
10	"
11	"
12	"、夏休みのレポートの説明
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期の序論 後期の講義の進め方を説明。
2	森林の構造、森林の分布、森林と文化
3	"
4	" (第3回レポート提出)
5	植物の分布 プラントハンターにとって魅惑の地日本
6	" "
7	" (第4回レポート)
8	絶滅の危機に瀕している生物とその保護問題
9	"
10	"
11	"
12	まとめ 一年間のまとめ。
備考	

科目名	生物学B	担当者名	加藤 僖重
-----	------	------	-------

講義の目標	身近な自然を注意深く観察出来るようになることを目指す。		
講義概要	普段、見過ごしている普通の種類を材料に、現代の生物学が抱える問題にスポットを当てて講義を進めたい。そのためにも新聞・雑誌等に目を通すことが肝要である。原則として毎回特定のテーマについてのレポートを提出してもらう。		
使用教材	テキスト	教科書：使用しない。	
	参考文献	参考書：講義中に必要に応じてコピー配布をする。	
評価方法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論 一年間の講義の進め方を説明し、レポート提出が多いことを理解してもらった後、抽選によって受講生の確定、実験室での座席の決定を行う。
2	実験室内における心得 実験室の器具等の扱い方を説明。
3	キャンパス・ウォッチング① 種を区別するポイントを説明。
4	身近な植物の観察① 見慣れた花の構造を観察。
5	顕微鏡の使用法① 実際の顕微鏡に慣れてもらう。
6	顕微鏡の使用法② ミクロメーターの使用法。
7	顕微鏡の使用法③ 単位面積当りの細胞数を数える。
8	キャンパス・ウォッチング② 五感を働かせる。
9	身近な植物の観察② 見慣れた果実の解剖。
10	トピックス① 新聞・雑誌等の記事を読む。
11	身近な植物の観察④ 見慣れた種の葉の形態を観察する。
12	身近な自然 夏期休暇のレポートを書くための説明。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期の序論 夏期休暇のレポート回収と後期の説明。
2	種の多様性保全条約 なぜ他の生物を守らなければならないか。
3	身近な植物の観察⑤ スイカズラ科の特殊の形態を観察する。
4	身近な植物の観察⑥ 身近なブナ科植物を観察する。
5	ワシントン条約 身近かな“絶滅の危機に瀕している動植物”の観察をする。
6	身近な植物の観察⑦ 秋の果実を観察する。
7	身近な植物の観察⑧ 生産構造図を描く。
8	身近な植物の観察⑨ 紅葉・黄葉の観察。
9	分類に使われるキー・キャラクターとは デンドログラムを描く。
10	レポートの整理 観察結果をより良いレポートにする方法を説明する。
11	トボックス② 新聞・雑誌の記事を読む。
12	まとめ 一年間のまとめと試験の説明。
備考	



科目名	自然科学概論	担当者名	福井 尚生
-----	--------	------	-------

講義の目標	<p>自然科学屋は夫々の専門分野の興味に従って部分自然を研究しています。随分成果は上がっていると思います。しかし各分野にしか通用しない法則では未だ自然の本質を見抜いたとは言えません。自然全体を貫いている普遍的な法則の発見には、全体自然の目が必要です。目先の現象に感わされずに、遠くまで思考を伸ばせる対象を選ぶことが大切です。</p> <p>これまでに得られた知識を総合的に要求される“地球外文明及びその探査”は格好の対象だと思います。先人がこの問題にどう取り組んで来たかを学び、未知の問題に我々がどう対処すべきかを考えるきっかけを作ります。</p>		
講義概要	<p>地球外文明の</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 進化 利用するエネルギーに依る文明の階段</li> <li>2. 探査計画 SETI</li> <li>3. 探査哲学 平凡性の原理、人間原理</li> <li>4. 思想 多数世界論と唯一世界論</li> <li>5. 効能</li> </ol>		
使用教材	テキスト	地球外文明の思想史（横尾広光著）恒星社厚生閣 視聴覚教材	
	参考文献		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎回出す課題（教行程度）をこちらで用意する用紙に書き溜め、前期分1枚・後期分1枚を提出してもらいます。これが主な評価対象です。</li> <li>2. その他の評価方法は受講者数・学習態度（出席及び1.の課題への取組み方）を見て決めます。</li> </ol>		
受講者に対する要望など	<p>課題については、資料等を調べた後、自分で考えたユニークな内容に努めて下さい。尚、受講希望者は本講義の目標・概要を読み各自の意見を100字以内にまとめたメモを最初の講義の日の17時まで直接福井（教室又は中央棟702）に必ず提出して下さい。</p>		

科目名	自然科学概論（93年度以前）	担当者名	田中雅英
-----	----------------	------	------

講義の目標	<p>科学する心が忘れられてしまったようにも思えるほど、単に情報を受容し受け入れる、あるいは記憶するだけという風潮が強い。我々のまわりの日常的な事から始まり、大は銀河・宇宙まで、小は物質構造の究極まで視野を広げていくにつれ、それらによって人間の精神活動にも与えた影響ははかりしれない。それらすべては無理にしても、現在の我々はどこまで自然を知り得たか、その知識をどのように生かしているのかを見つめ直してみたい。</p>	
講義概要	<p>前半では地球の成り立ちから、現在に至るまでの進化の過程や、それらと密接に関連する環境問題について、その原理から見つめてみたい。とりわけ原子力についてはその姿を知ることから始める。</p> <p>後半では物質の究極像や宇宙との関連を中心に講義する。特に我々の日常生活における常識と思しきことが、真の自然の姿とどのように異なっているかとか、不正確な知識がいかに事実の認識を誤らせているかにも重点を置く。</p> <p>授業では数式を使うことはほとんどない。また最近のトピックもどんどん取り入れるため、年間計画の変更は大いにあり得る。</p>	
使用教材	テキスト	現在作成中。必要に応じてプリントも配布。ビデオも使用。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広瀬立成著『宇宙150億年の旅』 日本評論社</li> <li>・石弘之著『地球破壊 七つの現場から』 朝日新聞社</li> </ul> <p>他にも多くあるが、途中で適当に紹介する。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期は夏休み中に課題本を指定し、その中からレポート。</li> <li>・後期は講義中のミニレポート（複数回）、あるいは試験。</li> </ul>	
受講者に対する要望など	<p>理科（物理や化学）の予備知識は不要。こまかい事を覚えようとするのではなく、全体の流れをつかもうという姿勢、単に覚えようというのではなく、自ら考えるようにしようという態度で臨むこと。</p>	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	我々の生活する地球の概観
2	地球の誕生から進化の過程
3	生命の存在する環境の変遷
4	主たる環境問題と地球環境との関連
5	原子力と環境
6	原子・原子核の構造
7	原子核の反応 放射性崩壊
8	原子核の反応 核分裂と核融合
9	原子核の反応 元素合成と元素の変遷
10	量子の世界
11	素粒子 Quark
12	自然の階層
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	自然界の力と素粒子
2	力の統一
3	力の統一
4	宇宙への認識の拡がり
5	宇宙での現象 星の進化
6	宇宙での現象 暗黒星雲
7	宇宙の誕生
8	宇宙初期と力の統一
9	宇宙誕生からの物質の変遷
10	物質の構造と生命の発生
11	生命科学、水との関連
12	生活と科学の関連
備考	

科目名	自然科学特殊講義A（東洋の健康論）1（94年度以降）	担当者名	青柳多恵子
-----	----------------------------	------	-------

講義の目標	<p>日本・中国の古典的書物に見られる「健康観」や「養生訓」の中に、現代の我々が抱えている多くの問題の解決策を見出す事ができると思われる。健康を害する環境問題・ストレス・栄養・休息・動き方等を古典的書物の中に見出す事ができる。また、人間を動物の一員としてとらえる時、自然に順応する事や、人間が本来保持している生命力、抵抗力、治癒力に意識して顧みるとき、真の健康の在り方が何であるかを考える必要があるといえます。</p>		
講義概要	<p>日本の文化遺産、中国の古書を健康観の面から分析・検証していく。特に民族特有の生活状況から基本的な健康意識を検索し、現代の我々の生活との関わりを考える。また、生活習慣・行事・式典・祭り等々に現れている健康への祈りと希望、または生命への無限の表出と現代生活の対比と共に自然界の一部としての人間の在り方を今一度反省しつつ、理想的な生き方や、現代人が忘れてしまった自然との融合を、先人の残した言葉の中から民族・生活・文化を検証しながら、健康であることの意味や、大切さを考える。</p>		
使用教材	テキスト	適宜プリントを使用	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『支那人の古典とその生活』吉川幸次郎著</li> <li>・『現代スポーツの社会学』佐伯 聡夫著</li> <li>・『論語からみたビジネス生活の方法』青柳洋次郎著</li> <li>・『生涯教育と学校教育』森 隆夫著</li> <li>・『奥の細道』松尾 芭蕉著</li> </ul>	
評価方法	レポート内容と出席状況による。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間の講義概要の説明と「気」概念について
2	中国古典文献に見られる健康の基本的な考えかた
3	「論語」の中にある「気」の取扱いについて
4	「孔子」の生き方にみられる人生哲学と宇宙観
5	浩然の気と「孟子」について
6	道家の基本典籍「老子・荘子」に於ける養生訓について
7	日本の儒学とその健康観について
8	「気」・「経絡」・「黄帝内経」について
9	中国の文献にある「気」の概念と日本の文献にある「気」の概念の違い
10	俳句や浮世絵に現れる日本人の自然観について
11	日本人の健康意識と現代文明の功罪について
12	まとめ レポート提出
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期のレポート講評 現代日本の「健康観」について
2	老いと心の様相について考え、健康を疎外する要因を検証する
3	歴史の中の健康意識の変化とその社会状況について
4	世界の健康意識について
5	現代日本の健康意識について (NHK 調査結果)
6	日本のラジオ体操・中国の対極拳・ドイツのトリム運動等の意味するもの
7	現代社会の健康を疎外する問題点
8	運動不足のもたらす個人的・社会的問題と健康について
9	現代社会の中での健康の価値とその経済的背景
10	健康への関心と健康への配慮と日常生活の在り方
11	原始生活への回帰の意味することとは
12	まとめ レポート提出
備考	

科目名	自然科学特殊講義A (人間の自然認識) 2 (94年度以降)	担当者名	東 孝 博
-----	--------------------------------	------	-------

講義の目標	現代科学における人間の自然認識について、テーマを絞って考えていく。とくに、自然とそれを認識する人間の存在との関わりに注目する。		
講義概要	<p>今年度のテーマは「“時間”とは何だろうか?」。</p> <p>主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 絶対時間と相対時間 相対性理論による時間は観測者に依存し、絶対的な時間など無いという</li> <li>2. 時間の矢 一般の物理法則は時間反転に対して対称であるのに、何故時間は逆には流れないのか?</li> <li>3. 量子宇宙論における時間の発生 量子宇宙論によると宇宙は“無”から創成され、同時に時間も発生した</li> </ol>		
使用教材	テキスト	テキストはとくになし。参考書は適宜紹介する。	
	参考文献		
評価方法	前・後期各3回の課題と出席・授業への参加態度。		
受講者に対する要望など	「物理学」の既修者に限る。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要に沿って進めていく。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	自然科学特殊講義A (トレーニング論) 3 (94年度以降)	担当者名	梶野克之
-----	--------------------------------	------	------

講義の目標	<p>競技スポーツから健康づくりにまで必須とされているトレーニングについて、定義からはじめて筋の組成についての理解を深め、筋の収縮によって発揮される筋力について考察する。筋の力強さやねばり強さについての理解とともに、そのエネルギー源についても理解を深める。さらにトレーニングで培われた体力について、その維持の重要性を理解するとともに、その具体的な方法について考えることにより、現代社会と体力について理解し、これからの生活に役立てることを目的とした。</p>		
講義概要	<p>トレーニングの定義からはじめ、トレーニングを実施する時期について又発達段階に応じたトレーニングについて考察する。筋の収縮によって起る動作様式の習得について考える。続いて筋力について発揮される力や筋活動の様式について理解する。筋肉と神経について、筋活動と神経支配について、又筋肉の活動のためのエネルギーについて理解する。筋線維の組成について理解し、力強さやねばり強さと筋について理解する。体力測定の意義とその方法について理解する。力強さ、ねばり強さを鍛える条件について考える。エネルギー源となる栄養について理解するとともに、トレーニング効果を高めるための栄養について考察する。さらに体力の維持について重要性を理解する。</p>		
使用教材	テキスト	宮下充正著『トレーニングの科学的基礎』1993年、ブックハウス・エイチディ	
	参考文献		
評価方法	<p>評価は、前後期各1回のレポートと授業への参加態度等によって決定する。</p> <p>前期レポート提出日：7月22日</p> <p>後期レポート提出日：1月13日</p>		
受講者に対する要望など			



年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	第1回目の授業では1年間の授業概要の説明を行い、トレーニングという言葉の意味、生物の適応能力などについて考え、トレーニングの定義について解説する。(教科書第1章)
2	第2回目の授業ではトレーニング実施の時期について考える。長い成長段階に応じたトレーニングについて考える。又身体発達にかかわる要因について理解する。(教科書第2章)
3	第3回目の授業ではトレーニングを考える前に、いろいろな動作様式がどのように習得されるかを考え、基本動作を身につける必要性について理解する。年齢に応じたトレーニングについても考える。(教科書第2章)
4	第4回目の授業では筋肉について、運動を引き起こす力としての構造と活動のメカニズムを理解し、エンジンとしての筋肉の特性について考える。(教科書第3章)
5	第5回目の授業では前回に引き続いて筋肉について、関節角度と発揮される力の関係及び、筋活動の様式についての理解を深める。(教科書第3章)
6	第6回目の授業では筋肉と神経について、特に筋活動と神経支配について運動調整として理解する。筋肉の発揮する力を調節する仕組みについて理解する(教科書第4章)
7	第7回目の授業では前回に続いて筋肉と神経について、筋肉の活動のためのエネルギーについて、その補給という視点から ATP や ADP などについて理解する。(教科書第4章)
8	第8回目の授業では力強さとは何かについて考え、筋の組成を理解し、筋線維組成と筋出力について考える。筋線維組成とスポーツ種目とのかかわりについても考える。(教科書第5章)
9	第9回目の授業では前回につづいて筋線維について、力強さのもととなる速筋線維について遺伝的要因と後天的なトレーニングの影響によるものなのかについて考える。(教科書第5章)
10	第10回の授業ではねばり強さとは何かについて考え、筋の組成と筋線維の代謝の特徴について理解し、運動強度と酸素摂取量について考察する。(教科書第6章)
11	第11回目の授業では前回に引き続いてねばり強さのもととなる遅筋線維と、呼吸機能や循環機能の影響について考える。酸素が筋力に運ばれる過程について理解する。(教科書第6章)
12	第12回目の授業では前期授業のまとめと、前期提出レポートのテーマの発表を行う。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	第1回目の授業では前期レポートの講評を行う。筋肉の活動能力と競技成績の関係について考え、体力と技術にみられる相関について体力の測定の必要性を理解する。(教科書第7章)
2	第2回目の授業では体力測定について、その実際の方法を理解するとともに、意義についても考える。トレーニングの経過と体力測定の結果について理解する。(教科書第8章)
3	第3回目の授業では力強さを鍛える、すなわちハイ・パワーを増大させる条件について考える。さらにハイ・パワー・アップの方法について理解を深める。(教科書第8章)
4	第4回目の授業では前回に続いて、ハイ・パワーを増大させる条件について考える。具体的なトレーニングの方法を理解して、実践上の注意点をも理解する。(教科書第8章)
5	第5回目の授業では力強さを持続させることについて考える。ハイ・パワーの持続能力を向上させる条件について考える。ハイ・パワーの持続能力と成績について考える。(教科書第9章)
6	第6回目の授業では前回に続いてハイ・パワーを持続させる条件について考える。ハイ・パワーの持続力を高めるトレーニングについて考える。球技でのハイ・パワーの持続についても理解する。(教科書第9章)
7	第7回目の授業ではねばり強さについて考える。ロー・パワー向上のためのトレーニングとその発展について考察する。ロー・パワー向上の条件についても考える。(教科書第10章)
8	第8回目の授業では前回に続いて、ねばり強さを鍛える条件について考える。いろいろなトレーニングについて考察するとともに、その限界についても理解する。(教科書第10章)
9	第9回目の授業ではエネルギーの補給について考える。トレーニングと栄養についての視点から考え、運動強度と利用されるエネルギー源について理解する。(教科書第11章)
10	第10回目の授業では前回につづいてトレーニング効果を高めるための栄養について考える。スポーツ選手の実際の食事例をとりあげながら栄養についての理解を深める。(教科書第11章)
11	第11回目の授業ではトレーニングで培われた体力について、年齢にともなうその維持の重要性と方法について考える。運動習慣と寿命や成人病予防についても考える。(教科書第12章)
12	第12回目の授業では後期の授業のまとめと、提出レポートの課題を発表する。
備考	

科目名	自然科学特殊講義A（植物と人間）4（94年度以降）	担当者名	加藤 僖重
-----	---------------------------	------	-------

講義の目標	普段、あまりに見慣れた種類のために注意深く観察することのない植物を材料として民族の交流を想像してみたい。		
講義概要	身近な生物を理解するためにも、幅広く種類を選び、様々な文献を参考に講義を進めたい。読書に無関心な学生の受講はお断りする。必要に応じて一定のテーマについてのレポートを提出してもらう。		
使用教材	テキスト	教科書：使用しない。	
	参考文献	参考書：講義中に必要に応じてコピー配布をする。	
評価方法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論 一年間の講義の進め方を説明。特に現代の課題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読み、それについてのレポート提出が多いことを理解してもらう。
2	遺跡から出た植物遺骸① ヒトが利用した植物を地域ごとに紹介する。
3	遺跡から出た植物遺骸② ヒトが利用した植物を地域ごとに紹介する。
4	遺跡から出た植物遺骸③ ヒトが利用した植物を地域ごとに紹介する。
5	トピックス① 英語や日本語の新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
6	栽培植物の起源① 何を植栽したか、民族による違いを説明する。
7	栽培植物の起源② 何を植栽したか、民族による違いを説明する。
8	日本文化の基盤をなす植物① 縄文時代を特徴づける植物は。
9	日本文化の基盤をなす植物② 弥生時代を特徴づける植物は。
10	日本文化の基盤をなす植物③ 古墳時代を特徴づける植物は。
11	日本文化の基盤をなす植物④ 奈良・平安時代を彩る植物は。
12	トピックス③ 自然環境に関する新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
備考	前期のまとめ 授業内容をまとめ、併せて夏休みのレポートのを説明する。

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期の序論 講義後期の進め方を説明。
2	日本文化の基盤をなす植物⑤ 鎌倉時代を特徴づける植物は。
3	日本文化の基盤をなす植物⑥ 南蛮人の持ってきた植物。
4	トピックス④ 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
5	日本文化の基盤をなす植物⑦ 日光御成街道沿いの植木村。
6	日本文化の基盤をなす植物⑧ 菊人形。
7	日本文化の基盤をなす植物⑨ 朝顔。
8	トピックス⑤ 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
9	日本文化の基盤をなす植物⑩ ケンペル、ツェンベリー、シーボルト。
10	日本文化の基盤をなす植物⑪ ソメイヨシノ。
11	トピックス⑥ 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
12	まとめ 一年間のまとめと試験の説明。
備考	

科目名	自然科学特殊講義A（化学）5（94年度以降） 化学（93年度以前）	担当者名	杉浦 三千夫
-----	--------------------------------------	------	--------

講義の目標	<p>教養科目としての自然科学とくに物質の性質について解明する化学の必要性は今更こゝで述べるまでない。しかしながら化学の基礎を諸兄弟が高校において学んだ方は少ないことも事実である。そこでこの科目は年間を通じ経験を実証化して学問とした化学についての基礎的理論を中心として少なくとも化学一般を平易に述べることを目標としている。</p>		
講義概要	<p>内容としては前半は化学の成立の歴史、原子、分子の考え方、化学記号の成立、元素の周期性とその活用法、分子の化学結合について、資源としての物質の成因について述べ、その取扱い生産化に及ぶ。後半は主として有機化合物を中心として反応性と性質、ついで生活に関連する化学、生体に関する生物化学に述べる。そして物質製造に生ずる公害の原因とその対策即ち環境科学に及び、更に述長しての安全工学を論じ、先端技術に使用されている材料としての化学物質について述べることを予定している。通じていかに物質の品質管理されていたかについて言及するつもりである。</p>		
使用教材	テキスト	『目で見ると 化学（改訂版）』山本、前川、高瀬、鈴木、岡本他著 培風館	
	参考文献	プリント、および磯・富田他著『ケミストリー』（東京教学社刊）	
評価方法	前期・後期の通常試験の評価点、および出席率、熱意度		
受講者に対する要望など	出席して、講義内容の把握が最大の要望である。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	化学とはなにか、西洋と東洋圏とで、物質創造についての相違など化学史の立場より比較しながら述べる。
2	原子と分子の考え方と化合物にいたる過程について述べる。
3	周期律表の成立とその活用、元素の類似性
4	原子と原子核、電子配置、化学結合論 その(一)
5	原子結合論のつづき、電子対結合、配位結合、錯塩について
6	その他の化学結合、金属結合、結晶と巨大分子について
7	物質の3態と基本法則
8	化学反応とエネルギー、熱化学と燃料
9	大気、水、地下資源、それからの無機工業化学 その(一)
10	無機工業化学のつづき、主として電気化学に関する化学工業
11	生活環境と化学物質の関連性について
12	生活環境と環境基準
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	無機化合物と有機化合物相違点、官能基による有機化合物の分類について考える。
2	炭水化物と石油工業、および石油化学工業
3	有機化合物の反応性、および不飽和炭化水素
4	有機化合物の反応性のつづき、置換反応・付加反応について
5	有機化合物の反応性(三) 高分子化合物生成反応
6	ベンゼンから出発した誘導体について物質と物性
7	有機工業化学(一) コロイド化学の概念、それからの製品について述べる
8	高分子化合物と有機工業化学、合成樹脂と合成繊維
9	生活関連有機化合物、生物化学
10	化学材料から見た先端技術、品質管理の初歩
11	化学物質から発生した公害とその環境保全
12	環境問題と化学の面からみた安全工学の概念について述べる。
備考	

科目名	自然科学特殊講義A（宇宙論）6（94年度以降）	担当者名	福井 尚生
-----	-------------------------	------	-------

講義の目標	<p>相対論的宇宙論を話題にします。宇とは「四方上下」で空間を、宙とは「往古来今」で時間を意味します。宇宙論とは時間・空間に関する学問です。宇宙の起源や構造を調べる学問とも言えます。</p> <p>とは言っても宇宙観は時代と共に変化していますし、時間・空間の捉え方にも違いがあります。宇宙はひとつの筈なのに、宇宙の本質をどの様に捉えるかに依ってどうしても違いが生じてしまいます。</p> <p>ここでは使う道具を相対性理論に絞って、この理論が宇宙の姿をどこまで統一的に記述・説明し得ているかを探ってみようと思います。</p>	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宇宙観の変遷：古代の宇宙観（地球） 中世の自然観（数学的側面） 近代的宇宙観（要素的自然観）</li> <li>2. 「光」に依る宇宙観（光の実速度の測定）</li> <li>3. 空間とは？時間とは？（マッハ原理、時間の矢）</li> <li>4. 相対性理論：特殊相対性理論（特殊相対性原理、光速度不変の原理） 一般相対性理論（一般相対性原理、等価原理）</li> <li>5. 相対論的宇宙論：構造論（宇宙モデル） 起源論（宇宙のはじまり）</li> </ol>	
使用教材	テキスト	プリント 視聴覚教材
	参考文献	
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎回出す課題（数行程度）をこちらで用意する用紙に書き溜め、前期分1枚・後期分1枚を提出してもらいます。これが主な評価対象です。</li> <li>2. その他の評価方法は受講者数・学習態度を見て決めます。</li> </ol>	
受講者に対する要望など	<p>科目名からして、相対論的宇宙論についてじっくりと考え度いと思います。この方面に特に関心がある学生の受講を希望します。尚、受講者数に依っては講義形態を変えることも考えています。</p>	

科 目 名	自然科学特殊講義A (体カトレーニング論) 7 (94年度以降)	担当者名	松 原 裕
-------	----------------------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>身体運動に関する種々の現象についての最近の科学研究の進歩、発展は著しい。このような現代社会にあって、健康で文化的な生活をおくるためには、身体運動にかかわる様々な科学的知識をもつことが極めて重要である。身体運動科学とは人間の身体運動に関する科学的分析と統合とを目的とする学問領域である。</p>		
講 義 概 要	<p>身体運動にはスポーツ活動や身体トレーニングをはじめ、日常生活動作、労働活動、健康の維持増進、及び運動機能回復や障害予防のための運動等が含まれる。</p> <p>この授業では、身体トレーニングを中心に講義を進めるが、一方、各自が参考文献(スキー・サッカー・テニス)の中からテーマを決めて研究しながら授業を進める方式も取り入れる予定である。</p>		
使 用 教 材	テキスト	そのつど紹介する。	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「スキージャーナル」「スキーグラフィック」</li> <li>・「サッカーマガジン」</li> <li>・「テニスマガジン」</li> </ul>	
評 価 方 法	<p>毎時間の出欠席、受講態度、レポート、テストなどを総合して評価する。遅刻は認めないのでその時間の講義を受講できない場合がある。</p>		
受 講 者 対 する 要 望 等	<p>『大学は学問を通じての人間形成の場である』という建学の理念に立ち、常に自己のレベル向上を目指す態度を持ち続けて欲しい。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成（写真添付） ○授業実施上の諸注意
2	トレーニングの基礎理論①
3	トレーニングの基礎理論②
4	実習：心拍数について
5	○受講生との話し合いで前期授業テーマを決定する
6	前期テーマに沿って進める。
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	○受講生との話し合いで後期授業テーマを決定する
2	後期テーマに沿って進める。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	



科目名	コンピュータ概論	担当者名	東 孝 博
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>コンピュータ初心者のために、コンピュータによる読み書き算盤教育を行う。これからの大学生活・社会生活に必要なコンピュータ利用のための基本や、コンピュータが人間の生活・社会に及ぼす影響について学ぶ。</p>		
講義概要	<p>1人1台のパーソナルコンピュータで、日本語ワープロ・英文ワープロ、表計算ソフト・データベース機能の使い方、コンピュータによる検索、通信を実習する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>文書と資料を配布。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>授業中に出す課題で評価。</p>		
受講者に対する要望など	<p>遅刻は他の人の迷惑になるので厳禁。やむを得ず欠席した場合も、自習して遅れを取り戻すこと。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	受講者の決定と講義のガイダンス
2	コンピュータに触れる／Windows 入門
3	キーボードとタイピング
4	ワープロ入門—文書の編集(1)
5	ワープロ入門—文書の編集(2)
6	ワープロ入門—文書の編集(3)
7	ワープロ入門—文書の印刷
8	ワープロ入門—英文ワープロ(1)
9	ワープロ入門—英文ワープロ(2)
10	表組みからグラフを作成する
11	グラフを文書に貼り付ける
12	課題
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	表計算入門—表の作成・編集
2	表計算入門—表計算
3	表計算入門—グラフの作成
4	表計算入門—表・グラフの装飾と印刷
5	データベースの取り扱い—データベース作成・整備
6	データベースの取り扱い—データの検索
7	データベースの取り扱い—データの抽出
8	データベースの検索利用
9	コンピュータ通信—電子メールの送信・受信
10	コンピュータ通信—電子メールの整理
11	コンピュータ通信—ファイルの送信・受信
12	課題
備考	

科目名	コンピュータ概論	担当者名	金子 憲一
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心になるのはコンピュータである。</p> <p>この科目では、コンピュータの基本操作や各種のアプリケーションソフトの利用、及び情報処理の考え方や人間とコンピュータとの関係を学んでいく。</p> <p>特に大学生活（広くは社会生活）で実際的に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p>		
講義概要	<p>1人1台でパーソナルコンピュータを利用し、主として実習を中心として授業を進める。（実習中心なので全回とも休まない位の心構えで臨むように）。具体的には日本語及び英文ワープロ、表計算ソフト、データベース操作、ネットワーク（通信）を学ぶ。</p> <p>初心者を対象に、ていねいに説明を行うが、受講生も主体的に取り組むように。板書以外も積極的にメモを取ること。「ゆっくりでよいから正確に」操作すること。</p>		
使用教材	テキスト	文書と資料を配布。	
	参考文献	授業中、随時紹介する。	
評価方法	授業中に示す課題の作成と平常点（特に出席を重視）で総合評価。		
受講者に対する要望など	毎回の授業は「前回迄の積み重ね」である。欠席や遅刻は厳禁とする。欠席した場合は、必ず自習して遅れを補っておくこと。また実習室は「共同利用」の場であり、そのルールを厳守すること。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	受講者の決定と講義のガイダンス
2	コンピュータの基本操作/Windows 入門
3	キーボードとタイピング
4	ワープロ入門一文書の編集(1)
5	ワープロ入門一文書の編集(2)
6	ワープロ入門一文書の編集(3)
7	ワープロ入門一文書の印刷
8	ワープロ入門データのリンク(1)
9	ワープロ入門データのリンク(2)
10	ワープロ入門英文ワープロ(1)
11	ワープロ入門英文ワープロ(2)
12	総合課題
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	BITNETメールの送信・受信(1)
2	BITNETメールの送信・受信(2)
3	BITNETファイルの送信・受信
4	表計算入門一表の作成・編集
5	表計算入門一表計算
6	表計算入門グラフの作成
7	表計算入門グラフの装飾・印刷
8	データベースの操作データベースの作成・整備(1)
9	データベースの操作データベースの作成・整備(2)
10	データベースの操作データの検索
11	データベースの操作データの抽出
12	総合課題
備考	

科目名	コンピュータ概論	担当者名	高柳 敏子
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>本講義は、コンピュータの初心者のためのコンピュータリテラシ教育を目的とする。以降の大学生活で必要な情報利・活用のための基本を習得する。</p>		
講義概要	<p>前期は、まずタイピングから始め、近年特に利用が盛んになっているコンピュータネットワークを実習する。次に、MS-Windowsのもとで、ワープロソフトMS-Wordを中心に総合的な文書編集の基礎を学習する。</p> <p>後期は、表計算ソフトMS-Excelを使用し、表とグラフを含めたMS-Excelの入門から表計算の応用と、データベースの取り扱いを学習する。</p> <p>またデータベースの応用として、大学内で利用できる図書館等の情報検索も実習する。最後にワープロと表計算を統合した総合的な問題を学習する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>前田功雄編『Windowsを活用した情報処理』共立出版 タイプ練習用ソフト (TypeQuick)</p>	
	参考文献	<p>参考書については随時紹介する。</p>	
評価方法	<p>前・後期各1回の実習を含んだテストおよび、前・後期各2～3回程度のレポートおよび出席を加味して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>実習を中心とした授業なので、欠席をしないこと。年間を通じてデータや文書を記録するためのフロッピー (3.5インチ2HD) を3枚用意すること。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	受講者の決定と講義のガイダンス
2	パソコン入門(1)：マウス操作 コンピュータに触れる。
3	パソコン入門(2)：ウィンドウ操作 ウィンドウの扱い方とフロッピーの初期設定を学ぶ。
4	キーボードとタイピング タイピングソフトの解説とタッチタイピングの練習をする。
5	パソコン通信：パソコン通信のデモンストレーション 電子掲示板、電子メールの送受信、チャット等を学ぶ。
6	Internet(1)：ホストコンピュータとネットワーク ホストへの login、logoff とメールの送受信を学ぶ。
7	Internet(2)：パソコンとホストコンピュータ ファイルのアップロードとダウンロード、ファイルの送受信を学ぶ。
8	ワープロ入門(1)：文書の編集(1) 日本語入力の基礎を学ぶ。
9	ワープロ入門(2)：文書の編集(2) コマンドのメニューや機能ボタンの使い方を学ぶ。
10	ワープロ入門(3)：文書の編集(3) 文書の表組みを学ぶ。
11	ワープロ入門(4)：文書の編集(4) 文書の段組みを学ぶ。
12	ワープロ入門(5)：文書の印刷 印刷の設定や仕方を学ぶ。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ワープロと表計算の統合(1)：表計算入門(1) 表組みからグラフを作成することを学ぶ。
2	ワープロと表計算の統合(2)：表計算入門(2) グラフの作成と、グラフの文書への貼り付けを学ぶ。
3	ワープロと表計算の統合(3)：統合編集 段組み、表組み、グラフ等の総合的な編集と印刷を学ぶ。
4	表計算の応用(1)：ワークシート(1) 連番をつける、セルの複写と移動、計算式とその複写等を学ぶ。
5	表計算の応用(2)：ワークシート(2) セルの相対番地指定、絶対番地指定の違い、関数の利用等を学ぶ。
6	表計算の応用(3)：ワークシート(3) セルの装飾、ワークシートの印刷の設定等を学ぶ
7	表計算の応用(4)：データベースの取扱い(1) データの入力、追加、削除等を学ぶ。
8	表計算の応用(5)：データベースの取扱い(2) 項目によるデータベースの並べ替えを学ぶ。
9	表計算の応用(6)：データベースの取扱い(3) 項目による条件検索や条件抽出を学ぶ。
10	表計算の応用(7)：データベースの取扱い(4) 項目によるクロス集計やデータベース関数の使用を学ぶ。
11	データベースの検索利用：図書館の検索 図書館の検索および検索結果を資料にまとめる。
12	表計算の応用(8)：総合練習 レポートの作成。
備考	

科目名	コンピュータ概論	担当者名	前田 功雄
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>本講義は、コンピュータの初心者のためのコンピュータリテラン教育を目的とする。以降の大学生活に必要な情報利・活用のための基本を習得する。</p>		
講義概要	<p>前期は、まずタイピングから始め、近年特に利用が盛んになっているコンピュータネットワークを実習する。次に、MS-Windowsのもとで、ワープロソフト MS-Word を中心に総合的な文書編集の基礎を学習する。</p> <p>後期は、表計算ソフト MS-Excel を使用し、表とグラフを含めた MS-Excel の入門から表計算の応用と、データベースの取り扱いを学習する。</p> <p>またデータベースの応用として、大学内で利用できる図書館等の情報検索も実習する。最後にワープロと表計算を統合した総合的な問題を学習する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>前田功雄編『Windows を活用した情報処理』共立出版 タイプ練習用ソフト (TypeQuick)</p>	
	参考文献	<p>参考書については随時紹介する。</p>	
評価方法	<p>前・後期各1回の実習を含んだテストおよび、前・後期各2～3回程度のレポートおよび出席を加味して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>実習を中心とした授業なので、欠席をしないこと。年間を通じてデータや文書を記録するためのフロッピー (3.5インチ 2HD) を3枚用意すること。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	受講者の決定と講義のガイダンス
2	パソコン入門(1)：マウス操作 コンピュータに触れる。
3	パソコン入門(2)：ウィンドウ操作 ウィンドウの扱い方とフロッピーの初期設定を学ぶ。
4	キーボードとタイピング タイピングソフトの解説とタッチタイピングの練習をする。
5	パソコン通信：パソコン通信のデモンストレーション 電子掲示板、電子メールの送受信、チャット等を学ぶ。
6	Internet(1)：ホストコンピュータとネットワーク ホストへの login、logoff とメールの送受信を学ぶ。
7	Internet(2)：パソコンとホストコンピュータ ファイルのアップロードとダウンロード、ファイルの送受信を学ぶ。
8	ワープロ入門(1)：文書の編集(1) 日本語入力の基礎を学ぶ。
9	ワープロ入門(2)：文書の編集(2) コマンドのメニューや機能ボタンの使い方を学ぶ。
10	ワープロ入門(3)：文書の編集(3) 文書の表組みを学ぶ。
11	ワープロ入門(4)：文書の編集(4) 文書の段組みを学ぶ。
12	ワープロ入門(5)：文書の印刷 印刷の設定や仕方を学ぶ。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ワープロと表計算の統合(1)：表計算入門(1) 表組みからグラフを作成することを学ぶ。
2	ワープロと表計算の統合(2)：表計算入門(2) グラフの作成と、グラフの文書への貼り付けを学ぶ。
3	ワープロと表計算の統合(3)：統合編集 段組み、表組み、グラフ等の総合的な編集と印刷を学ぶ。
4	表計算の応用(1)：ワークシート(1) 連番をつける、セルの複写と移動、計算式とその複写等を学ぶ。
5	表計算の応用(2)：ワークシート(2) セルの相対番地指定、絶対番地指定の違い、関数の利用等を学ぶ。
6	表計算の応用(3)：ワークシート(3) セルの装飾、ワークシートの印刷の設定等を学ぶ
7	表計算の応用(4)：データベースの取扱い(1) データの入力、追加、削除等を学ぶ。
8	表計算の応用(5)：データベースの取扱い(2) 項目によるデータベースの並べ替えを学ぶ。
9	表計算の応用(6)：データベースの取扱い(3) 項目による条件検索や条件抽出を学ぶ。
10	表計算の応用(7)：データベースの取扱い(4) 項目によるクロス集計やデータベース関数の使用を学ぶ。
11	データベースの検索利用：図書館の検索 図書館の検索および検索結果を資料にまとめる。
12	表計算の応用(8)：総合練習 レポートの作成。
備考	



科目名	情報論	担当者名	前田 功雄
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>情報および情報量の概念を明らかにするとともに、パソコン通信やコンピュータ・ネットワーク上の情報伝達の仕組みと信頼性の高い情報システムの構築について解説する。</p>		
講義概要	<p>上記目標のためにコンピュータ・ネットワークの積極的な利用をしながら講義を進める。電子掲示板、電子メール、ファイル転送などが最初に説明されると同時に、それらの利活用をとうして情報伝達の効率や信頼性の問題が述べられる。特に、レポートの提出等に学内のコンピュータ・ネットワークを使うこと。そのために最初の2～3回ぐらいはコンピュータ・ネットワークのデモンストレーションを行なう。</p> <p>キーワード：パソコン通信、獨協大学BBS、コンピュータ・ネットワーク、BITNET、LAN、Internet、プロトコル、電子メール、電子掲示板、ファイル転送、エントロピー、誤り検出符号、誤り訂正符号、情報の圧縮、高信頼性情報システム、獨協大学学籍番号システム</p>		
使用教材	テキスト	必要な都度プリント配布。	
	参考文献	授業中に述べる。	
評価方法	評価は授業中に課する課題のコンピュータ通信によるレポート提出。		
受講者に対する要望など	コンピュータ概論あるいは情報処理概論あるいはC言語を含むプログラミング論を既修または平行履修のこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	パソコン通信とは パソコン通信とは？どんなことができるのか？どんな機械が必要か？ キー・ワード：パソコン、モデム、通信ソフト、通信速度
2	パソコン通信のデモンストレーション 具体的な幾つかのBBS局（含獨協大学BBS局）に接続して実演。 キー・ワード：BBS局、サインオン、ログオン、ログオフ、電子メール
3	コンピュータ・ネットワークとは コンピュータ・ネットワークの種類と仕組み。 キー・ワード：ホスト・端末、LAN、コンピュータ間通信、BITNET、Internet
4	BITNETの仕組みと実演 コンピュータ間通信の代表であるBITNETの仕組みと実演。 キー・ワード：ノード、ユーザID、パスワード、電子メールの送受信
5	BITNETの実習 ログオン、ログオフ、電子メールの送受信等の実習。
6	BITNETによるファイル転送 ユーザ間でのテキスト・ファイルやバイナリー・ファイルの転送法の解説。 キー・ワード：TEXT FILE、BINARY FILE
7	パソコン上のファイルのBITNET上での転送 FDのファイルをBITNET経由で転送する方法を解説。 キー・ワード：アップロード、ダウンロード
8	前期中間レポート パソコンによるファイルのアップロードを含むレポート提出。課題は授業中に説明。
9	情報管理とデータベース（ファイルとディレクトリ） 情報を管理する場合のファイルの扱い方法。 キー・ワード：ファイル、（ルート、サブ）ディレクトリ、ツリー
10	情報管理とデータベース（情報検索と抽出） データベースから必要な情報の検索・抽出の方法について解説。 キー・ワード：データベース、レコード、フィールド、検索・抽出条件
11	情報管理とデータベース（データベースの作り方） パソコン通信やネットワークによるデータベースの構築。 キー・ワード：ダウンロード、エディター
12	前期レポート パソコン通信やコンピュータ・ネットワークによるデータベースの構築に関するレポート課題の説明。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	自然言語と情報理論 自然言語（英語）の生成メカニズムと確率モデル。 キー・ワード：文字の出現頻度、単語長の分布、文章長の分布、文章発機
2	情報の種類 情報の種類とそれらを伝達する媒体について解説。 キー・ワード：アナログ情報、デジタル情報、標本化、量子化、マルチメディア
3	情報量の測りかた（確率入門1） 情報量の定義とその尺度について解説するために、確率論の初歩を学習。 キー・ワード：確率、基本公式、独立な確率変数
4	情報量の測り方（確率入門2） 情報理論によく出てくる確率概念の解説。 キー・ワード：条件付確率、ベイズの定理、事前確率、事後確率
5	情報量の測りかた（エントロピーの導入） 情報量の定義とその尺度の導入。 キー・ワード：不確かさ、自己情報量、相互情報量、条件付情報量、エントロピー
6	エントロピーの社会科学的解釈 エントロピー概念の経済学上の問題への応用。 キー・ワード：所得の均衡とエントロピー
7	情報伝達システム（誤りの無い場合） 効率のよい伝達システムと符号化について解説。 キー・ワード：情報源、通信経路、受信点、符号器、復号器、符号化
8	情報伝達システム（誤りのある場合） 情報伝達システムはどこまで信頼性を高められるか。 キー・ワード：雑音、誤り訂正符号、パリティチェック方式
9	Hamming符号とHuffman符号 代表的な誤り訂正符号の紹介と情報圧縮への応用について解説。 キー・ワード：誤り訂正符号、情報圧縮
10	10進系符号における誤り検出符号 10進系での誤り検出符号について解説。 キー・ワード：誤り検出符号、パリティチェック方程式
11	獨協大学学籍番号システム 本学の学籍番号システムは誤り検出符号を採用している。 キー・ワード：置換、パリティチェック方程式
12	後期最終レポートについて 後期最終レポートの課題と作成要領について述べる。
備考	

科目名	文献調査法	担当者名	宮部 頼子
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>質の高い論文を執筆するには、関連文献の調査を行うことが必要である。この授業ではそのために行う文献調査に関わる以下の知識や技術を身につけることを目標としている。</p> <p>①論文執筆における文献の意義についての理解          ②文献を活用した論文作成に対する理解          ③文献に関する情報の効果的な探索          ④文献収集の実践的な技術          ⑤文献リストの作成技能</p>	
講義概要	<p>本講は、「論文執筆と文献」、「雑誌論文の探索」、「図書の探索」、「文献とリストの作成」の四部から構成される。第一部では、論文執筆と文献との関係を理解する。第二部では、論文執筆の最重要課題である雑誌論文の探索技術を身につける。第三部では、一般的な知識を入手するために、図書の探索方法を学ぶ。第四部では、収集した文献をリストとして表記するための技能を習得する。第一部は講義と演習を組み合わせ、ビデオ教材を活用して文献調査の概要を理解する。第二部と第三部では、演習と実習を行い、文献探索の実際を体験する。第四部では、演習と個別指導によって、一定のテーマの文献リストを完成される。この作業のために、文献カードの作成を前提とした指導を行う。</p>	
使用教材	テキスト	長澤雅男『情報としてのレファレンス・ブックス 新訂版』日本図書館協会、1994年
	参考文献	長澤雅男『情報と文献の探索 第3版』丸善 1994
評価方法	<p>理由を問わず授業への8割以上の出席と個別指導を受けることを最低条件とする。その上で、試験、提出課題、文献リストの成績に基き、総合的に評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>授業はきわめて実践的な知識と技術を扱うので、出席して作業に参加することが重要である。また、演習課題の整理や文献カードの準備などに関して、ひとつひとつの指示を守ること大切である。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：年間予定、提出課題、評価基準、テキストの使用法、参考文献について説明する。また、文献カードの購入についての指示を行う。[講義形式]
2	文献調査の基本知識：文献の種類について整理し、論文執筆に重要な文献とは何かを理解する。また、文献の役割と活用の仕方（参考文献、参照文献、引用文献など）を理解する。[講義形式]
3	文献探索と論文執筆過程：ビデオ「レポート・論文のまとめ方」に基づいて、基本的な論文執筆のプロセスとスケジュールについて認識する。[講義・演習形式]
4	文献探索の情報源(1)：ビデオ「図書館の機能」に基づいて、文献調査を実施する図書館の基本的な使い方に関して確認を行う。[講義・演習形式]
5	文献探索の情報(2)：情報源として用いるレファレンス・ブックスやCD-ROMについての概要を理解し、それぞれの特徴に応じた使い分けを学ぶ。[講義・演習形式→テキスト1章]
6	文献探索の情報源(3)：文献探索の前提となるさまざまな事実について確認するための道具と方法に関して理解する。[講義・演習形式→テキスト2～6章]
7	雑誌記事の探索(1)：雑誌と雑誌記事の関係について理解した上で、ビデオ「雑誌記事の探索」に基づいて、基本的な探索方法を学ぶ。[演習形式→テキスト8章]
8	雑誌記事の探索(2)：「雑誌記事索引」、「総目録」、「総索引」の具体例とそれぞれの利用方法について学ぶ。[演習形式→テキスト8章]
9	雑誌記事の探索(3)：CD-ROM形態の「雑誌記事索引」の具体例とその利用方法について学ぶ。また、雑誌記事の入手方法について理解する。[演習形式→テキスト8章]
10	雑誌記事の探索(4)：テーマから雑誌記事を探索する方法を整理し、効果的な収集方法について理解する。[演習形式→テキスト8章]
11	探索実習(1)(2)：雑誌記事を探索する実習課題を解決する。[実習形式]
12	雑誌記事リストの作成：雑誌記事情報を記述して排列する原則と方法について学ぶ。[演習形式]
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	図書の探索(1)：ビデオ「文献探索の基礎」に基づいて、基本的な探索方法を学ぶ。[演習形式→テキスト7章]
2	図書の探索(2)：書誌の種類とそれぞれの利用方法について理解する。[演習形式→テキスト7章]
3	図書の探索(3)：CD-ROM形態の「書誌」の具体例とその利用方法について学ぶ。また、図書の購入方法について理解する。[演習形式→テキスト7章]
4	図書の探索(4)：テーマから図書を探索する方法を整理し、効果的な収集方法について理解する。[演習形式→テキスト7章]
5	探索実習(3)(4)：図書を探索する実習課題を解決する。[実習形式]
6	図書リストの作成：図書情報を記述して排列する原則と方法について学ぶ。[演習形式]
7	参照、引用文献の表示：論文文中で使用した参照文献や引用文献の表示の一般的な方法について理解する。[演習形式]
8	文献リストの作成(1)：各自の設定したテーマに基づいて文献調査を行い、文献リストを作成する。[個別指導形式]
9	文献リストの作成(2)：各自の設定したテーマに基づいて文献調査を行い、文献リストを作成する。[個別指導形式]
10	文献リストの作成(3)：各自の設定したテーマに基づいて文献調査を行い、文献リストを作成する。[個別指導形式]
11	文献リストの作成(4)：各自の作成したテーマに基づいて文献調査を行い、文献リストを作成する。[個別指導形式]
12	まとめ：提出された文献リストを評価し、講評する。
備考	

科目名	言語学 (94年度以降) 一般言語学 (93年度以前)	担当者名	新里博樹
-----	--------------------------------	------	------

講義の目標	<p>言語は、人間にとってその在存の基盤であり、また、人間のあらゆる営みの様相としての文化の根幹をなすものである。本講義では、そうした言語の本質や一般的特性を追求する学問領域としての“言語学”に対する基礎的な理解を深めることを目標とする。特に、人間が言語というものに対してどのような問題意識を抱いてきたのか、という観点から言語学の諸領域を概観しつつ、言語の一般的特性の諸点、および、言語の諸機能を学ぶ。さらに、自己の内部や周囲における様々な言語現象に注意を払い、自分自身で考えていく姿勢を涵養することを旨したい。</p>		
講義概要	<p>言語学は、そのカバーする領域の極めて広い学問であり、その諸領域概観するだけでも容易ではない。その上、関連する隣接領域も多岐にわたるため、一年間の講義ですべてを網羅することは困難である。けれども、本講義が入門的性格を有していることから、言語学の諸領域をできる限り広範に眺めていく。前期は講義中心で、古代からソシュールまでの言語研究の様相を概観し、後期は講義に教室内レポートや討議などを交えて、言語と人間との関わりを広く考察する。そうした講義を通して、“言語”そのものに対する数多くのハテナ(?)を提示していくので、自分なりのハテナを生み出していく姿勢が望まれる。</p>		
使用教材	テキスト	言語学入門／田中春美・五十嵐康男他著／大修館書店	
	参考文献	入手しやすいもの（文庫本や新書本など）を、講義の内容に即してその都度提示紹介する。	
評価方法	<p>単位レポートが中心となるが、年間数回実施される教室内小レポートも勘案される。出席すればよいということではなく、授業への参加（質問したり、意見を述べるなど）の度合いを加味する。特に、レポートに関しては、オリジナリティを重視した評価を行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>特別な予習などは必要としないが、授業時における真剣な思考が要求される。講義中心の場合もあるので、他の受講者の迷惑になるような行為は一切厳禁する。なおシラバスは予定なので、相談の上変更も有り得る。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス 年間の講義概要の解説、および、評価の方法と基準の説明を行い、導入として、「言語学」とはどのような学問か、について論じる。
2	言語学の研究領域と隣接領域 言語学にはどのような研究分野があるかということ、および、その研究方法を概観するとともに、隣接領域との関わりについて考える。
3	言語学の歴史と発展（第一回） 「言語学以前」として、人間の言語に対する関心の在り方の始源の段階について考察する。
4	言語学の歴史と発展（第二回） 「古代の言語研究」として、古代におけるギリシア・ローマ・インド・中国での諸研究について概観する。
5	言語学の歴史と発展（第三回） 「中世の言語研究」として、ルネッサンス以前における言語研究とルネッサンス以後における言語研究とがどう変化したかを概観する。
6	言語学の歴史と発展（第四回） 「近代の言語研究Ⅰ」として、近代前期（17～18世紀）における言語研究を、主として言語起源論を中心に概観する。
7	言語学の歴史と発展（第五回） 「近代の言語研究Ⅱ」として、近代後期（19世紀）における言語研究を、主として比較・歴史言語学を中心に概観する。
8	言語学の歴史と発展（第六回） 「余説」として、比較・歴史言語学の発展の副産物として（基礎領域として）精緻化した音声学について概観する。
9	ソシュールの言語理論（第一回） 「現代言語学の夜明け」としてのソシュールの言語観を学ぶ。特に、通時論と共時論・ラングとパロール・記号観などを概説する。
10	ソシュールの言語理論（第二回） 恣意性・分節性・線状性 etc. などの、言語の記号としての特質についてソシュールの理論を整理し、理解を求める。
11	ソシュールの言語理論（第三回） 統合関係・連合関係などを中心に、言語の構造性についてソシュールの理論を学び、併せて構造主義言語学を概観する。
12	前期の総括と後期への展望
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の総括と後期の予定の確認
2	言語の一般的特性Ⅰ／記号性・体系性 etc. 前期のソシュールの言語理論（第二回）をもとに、言語の一般的特性を考察する。
3	言語の一般的特性Ⅱ／言語の単位とその構造 構造主義言語学の立場から見た、言語の一般的特性を考察する。
4	言語の一般的特性Ⅲ／言語の生産性と定型性 チョムスキーの言語理論を概観し、生成論の立場から見た、言語の一般的特性を整理考察する。
5	言語よ機能Ⅰ／伝達機能 コミュニケーション論の立場から、言語の機能のうち、伝達に関わる働きの種々相について論議する。
6	言語の機能Ⅱ／認識機能 認知論の立場から、言語の機能のうち、認識に関わる働きの種々相について論議する。
7	人間の言語能力 「ことばの不思議」（第一回）のVTRを見て、教室内レポートを提出する。
8	人間の言語習得 「ことばの不思議」（第二回）のVTRを見て、教室内レポートを提出する。
9	人間の進化と言語 「ことばの不思議」（第三回）のVTRを見て、教室内レポートを提出する。
10	言語と社会 言語と社会の関わりについて、その基本的な問題を整理し、論議する。
11	言語と文化 言語と文化の関わりについて、その基本的な問題を整理し、論議する。
12	総括 年間の講義・論議を振り返り、まとめる。併せて、単位レポートを提出する。
備考	

科目名	言語学 (94年度以降) 一般言語学 (93年度以前)	担当者名	城田 俊
-----	--------------------------------	------	------

講義の目標	我々人間は言語使用者である。言語は我々の内にある。しかし、この内にある言語に関する知見を我々は通常意識しない。講義の過程でこの意識されざる知見を意識化するように努めたい。		
講義概要	人間は太古から言語を観察してきたが、科学的研究の対象としたのは比較的新しい。言語学は新しく成立した学問分野と言ってもよい。しかし、新しいとはいえ、今や人文科学を一部で主導する。本講義では、言語に関するいかなる知見がいかんして得られたか、その手段・思考方法等に関し具体的に語っていく。テキストとしては下記のものを用いる。シラバスに記したものと実際の講義では一部で前後することがある。		
使用教材	テキスト	田中春美・樋口時弘等著『入門ことばの科学』 大修館書店	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョージ・ユール著 今井邦彦訳『現代言語学20章』大修館書店</li> <li>・R・ヤーコブソン著 田村すゞ子等訳『一般言語学』みすず書房</li> <li>・ヤーコブソン選集(米重等訳) I・II 大修館書店</li> <li>・中島平三等編集『言語学への招待』大修館書店</li> <li>・G・ムーナン著 福井芳男等訳『言語学とは何か』大修館書店</li> <li>・マルティネ編著 三宅徳嘉監訳『言語学事典』大諸館書店</li> </ul>	
評価方法	前期・後期共定期試験期間中に試験を行う。		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	言語の起源、人間の言語（テキスト、3-17頁）
2	失語症と言語学、隠喩 metaphor と換喩 metonymy—シュールレアリスムの絵画とキュービズムの絵画
3	ジェスチャーと言語学—首の振り方とハイ・イイエ
4	見る記号と聞く記号
5	言語の構造(I)
6	言語の構造(II)（テキスト、5・6併せて53-66頁）
7	言語の習得（テキスト 32-52頁）
8	発音記号の役割—音声学入門(I)
9	発音記号の役割—音声学入門(II)
10	文法カテゴリーの研究(I)
11	文法カテゴリーの研究(II)
12	文法カテゴリーの研究(III)
備考	

後期

週	主要テーマ
1	発話の意味(I)
2	発話の意味(II)（テキスト、1・2併せて91-110頁）
3	言語の多様性(I)
4	言語の多様性(II)（テキスト、1・2併せて111-129頁）
5	言語と社会（テキスト、130-160頁）
6	言語と文化
7	言語接触、言語同盟（テキスト、161-182頁）
8	ビジンとクレオール（テキスト、183-202頁）
9	言語の系統(I)
10	言語の系統(II)（テキスト、9・10併せて203-222頁）
11	世界の言語(I)
12	世界の言語(II)（テキスト、11・12併せて223-236頁）
備考	



科目名	情報科学特殊科学A (コンピュータ・プログラミング論) 1 (94年度以降) コンピュータ・プログラミング論1 (93年度以前)	担当者名	高柳敏子
-----	---------------------------------------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>本講義では、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観し、続いてコンピュータに情報処理をさせるとはどのようなことかを理解するために、非常に単純なコンピュータをシミュレートするソフトを使って、コンピュータの構造、動作の仕組みおよびコンピュータ内部における情報の表現等、コンピュータの原理を学習する。</p> <p>コンピュータの原理が理解できたところで、高級言語によるプログラミングを通じて、コンピュータによる問題解決の手順や方法を学習する。</p>
講義概要	<p>前期は、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から簡単に概観する。続いて、CASL シミュレータを利用して、架空のコンピュータ COMET とそのアセンブラ言語 CASL のプログラミングおよび実習を通して、一般的なコンピュータの構造と動作の仕組み、またコンピュータ内部での情報の表現、そして基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。</p> <p>後期は、初めに CASL のより応用的なところをみたところで、現実の一般的なパソコン言語の一つとしてコンパイラ言語の C++ を取り上げ、CASL プログラムと対応させながら C++ によるプログラミングを、Turbo C++ for Windows を使用して実習しながら勉学する。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <p>随時必要な資料をファイルで配布する。</p> <p>参考文献</p> <p>田中武二著『コンピュータと社会』サイエンス社、1993。</p> <p>『CASL Programming』ITEC (情報処理技術者教育センター)、1994。</p> <p>B. ストラウストラップ著、斎藤・三次・追川・宇佐美共訳『プログラミング言語 C++』第2版、アジソンウェスレイ・トッパン、情報科学シリーズ-40、1993。</p> <p>K. Jamsa 著、春木・佐藤共訳『C++ 超入門』アスキー出版局、1994。</p> <p>『岩波 情報科学辞典』岩波書店、1990。</p>
評価方法	<p>前・後期各1度の実習テストと、Internet による前・後期各4～5回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。</p>
受講者に対する要望など	<p>情報処理概論 (経済学部)、法学部 (法学部)、コンピュータ概論 (外国語学部)、または言語情報処理 I (英語学科) を既修のこと。また、コンピュータールームの台数に合わせて受講人数を制限するので、第1回の授業には必ず出席すること。</p>

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	コンピュータの歴史(1): ハードウェア。ノイマン型電子計算機、電子計算機の世代論と記憶素子。
2	コンピュータの歴史(2): ソフトウェア。総領事館言語、オペレーティングシステム。
3	コンピュータの構成: 中央処理装置、制御装置、演算装置 記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置。
4	COMET の処理装置(1): 語構成とビット構成、アドレスとアドレッシング、命令語、制御方式、プログラムカウンタ (PC)。
5	COMET の処理装置(2): レジスタ、汎用レジスタ (GR)、指標レジスタ (XR)、フラグレジスタ (FR)。
6	情報の表現(1): 数値の内部表現。整数と2の補数表記、16進表現。
7	CASL プログラミング(1): CASL の命令、疑似命令、マクロ命令、機械語命令 命令の形式、ラベル、命令コード、オペランド、注釈。
8	CASL プログラミング(2): CASL プログラム、ロード命令とストア命令、加算命令と減算命令、定数定義と領域の確保。
9	CASL シミュレータとその実行: プログラムの入力、編集、アセンブル、1命令毎の実行 プログラムのディスクへの記憶、ディスクからの呼出し。
10	CASL プログラミング(3): 乗除算処理(1) シフト演算命令。
11	CASL プログラミング(4): 乗除算処理(2) 比較演算命令および分岐命令とフラグレジスタ。
12	CASL プログラミング(5): 繰り返し処理。指標レジスタの使用。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	CASL プログラミング(6): 情報の表現(2) 文字の内部表現、ASCII コード。
2	CASL プログラミング(7): 入出力命令。コード変換と論理演算。
3	CASL プログラミング(8): サブプログラム(1) 汎用レジスタによるデータの受け渡し。
4	CASL プログラミング(9): サブプログラム(2) スタックを利用したデータの受け渡し。
5	アセンブラとコンパイラ: プログラムの翻訳と実行。例題と Turbo C++ for Windows の操作。
6	C++ プログラミング(1): C++ 言語とは。 C++ 言語の基本事項。
7	C++ プログラミング(2): 出力処理。四則演算と演算子、シフト演算。
8	C++ プログラミング(3): 判断・分岐演算。関係演算子、論理演算子。
9	C++ プログラミング(4): 繰り返し演算。配列。
10	C++ プログラミング(5): 入力処理。文字と文字列の扱い。
11	C++ プログラミング(6): 関数 (メインプログラムとサブプログラム)。サブプログラムにデータの値を渡す。
12	C++ プログラミング(7): 関数(2) サブプログラムにデータのアドレスを渡す。
備考	

科目名	情報科学概論A (コンピュータ・プログラミング論) 1 (94年度以降) コンピュータ・プログラミング論 2 (93年度以前)	担当者名	立 田 ル ミ
-----	--------------------------------------------------------------------	------	---------

講義の目標	<p>現在ワープロや表計算ソフト等の様に、様々なソフトウェアが開発されている。それらがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。また、現在どのようなプログラミング言語があり、どのような言語で現在のソフトウェアが開発されているかを知る事も目標とする。</p>		
講義概要	<p>現在コンピュータがどのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアを知ってもらうために、ビデオまたはコンピュータを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすれば良いかを、オブジェクト指向言語の1つである Visual Basic を用いて例を挙げて解説する。さらに最近話題になっているインターネットやマルチメディアについても解説およびデモンストレーションを行う。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立田ルミ『BASIC プログラミングの基礎』朝倉書店</li> <li>・川井義治『完全マスター Visual Basic』サイエンス社</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天笠美知雄編『情報処理の基礎』朝倉書店</li> </ul>	
評価方法	<p>前期、後期の試験：60% レポート 1、2     : 30% 出席                 : 10%</p>		
受講者に対する要望など	<p>情報処理論(3)を並行して履修（または既習）することが望ましい。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業のガイダンスとコンピュータの歴史 コンピュータ誕生までの背景、第一世代、第二世代、第三世代、第四世代のコンピュータ
2	ハードウェアの概略と獨協大学におけるコンピュータの利用 入力装置、CPU、記憶装置、記憶方式、ビット、バイト、KB、MB、GB、サイクルタイム、アクセスタイム
3	ソフトウェアの歴史と概略 ソフトウェアの分類、オペレーティングシステム
4	情報処理におけるコンピュータの役割 自動化とコンピュータ、コンピュータと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ
5	システム開発とプログラム開発の手順 システム開発の手順と機械化、情報処理技術者の職種、情報処理技術者試験、プログラム開発の手順と期間
6	詳細設計とその手法 プログラムのモジュール化設計、モジュールの論理設計、プログラム流れ図、NS チャート、木構造チャート、HIPO
7	プログラム言語の種類と利用目的 機械向き言語、問題向き言語、オブジェクト指向言語、システム開発用言語、シミュレーション言語
8	第四世代言語と CASE ツール 現在開発されている第四世代言語、ソフトウェアの生産性と信頼性
9	各種プログラム言語の使用推移とパソコンソフトウェア各種言語の推移、パッケージソフトの概要、出荷実績
10	Visual Basic とは オブジェクト指向言語、フォーム、プロジェクト、プロパティ、ツールボックス、プロジェクトウインド
11	簡単なプログラム作成の手順 アプリケーション開発手順 Visual Basic 開発環境
12	アプリケーションの構築(1) アプリケーションの設計 コントロールの扱い方 プログラム設計の選択
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	アプリケーションの構築(2) プロパティをフォームに割り当てる プロパティをコントロールに割り当てる メニューのプロパティ
2	アプリケーションの構築(3) イベント駆動型プログラミングモデル Visual Basic と他のバージョンの Basic プログラム編成
3	アプリケーションのデバッグとコンパイル 実行エラーの修正 アプリケーションのコンパイル
4	入出力のテクニック データをキーボードから入力する データをディスクに書き込む 売上のグラフを描く
5	データ構造とコントロール 動的データ配列の使用 コントロール配列の使用 データの印刷
6	ランダムアクセスファイル レコードのフィールドへの入力 データベースファイル プロシージャとメソッド
7	いろいろな機能を使う ピクチャーボックス、グラフィクス タイマーコントロール
8	日付と時刻 日付と時刻の値を利用する
9	ファイル、ディレクトリ、ドライブコントロール 円グラフを描く
10	動的データ交換 シートを印刷する
11	ドラッグアンドドロップ操作 プログラム一覧表を作成する
12	Visual Basic とネットワーク Visual Basic からネットワークを使う
備考	

科目名	情報科学特殊講義A (コンピュータサイエンスと自然言語処理) 2 (94年度以降) 情報論特殊講義A (93年度以前)	担当者名	工藤育男
-----	----------------------------------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>言語理論を構築することと自然言語処理システム（英語や日本語などの言語を処理すること）の間には、理論と応用という表裏一体の関係がある。機械（コンピュータ）で言語を処理する方法を学び、実習などを通じて言語の持つ特質（複雑さ、困難さ、効率性など）へ理解を深めることを目的とする。コンピュータを操作することにより、コンピュータの基礎的知識を獲得することができるであろう。ワープロ、インターネットの実習も行なう。</p>		
講義概要	<p>我々の身の廻りにも、ワープロ、スペルチェッカー、機械翻訳システム、音声認識、合成装置など自然言語処理をする技術が広く使われ始めている。本講義では、自然言語の処理をする上で基本原理となっている技術、および、その考え方の基礎となっている言語理論などについて、分りやすく解説する。理解を深めるためにコンピュータ上での実習を行う。コンピュータのプログラムやコーパスを用いたシステムの評価方法は、将来研究などに役立つことであろう。コンピュータの基礎知識のないものでも受講できるよう配慮する。</p>		
使用教材	テキスト	特になし	
	参考文献	講義の中で紹介する	
評価方法	<p>評価は、前期・後期各1回のレポートによって決める。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義中に分らない用語や箇所があった場合は、講義中又は講義後に遠慮なく尋ねること。積極的な態度で受講することを望む。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要を説明する。自然言語処理、コンピュータの基礎をつかむ。
2	統計言語学について説明する。世界の言語や文字がどのくらい存在し、計算機でどのように取り扱っているかについて解説する。
3	Zipf の法則に代表される統計量を実際プログラムを利用して計ってみる。計算機を利用するメリットについて理解する。
4	コンピュータを利用するための基礎知識（ファイル、エディター、WINDOWS）について実習する。
5	ワードプロセッサの基本原理である形態素解析技術について解説する。日本語の品詞のあいまいさについて理解する。
6	ワードプロセッサの実習を行う。身近な日本語処理について慣れ親しむ。カナ漢字変換を中心に日本語入力について実習する。
7	ワードプロセッサの実習（2回目）を行う。ワープロをうまく利用するための辞書登録や印刷方法、フロッピーへのセーブ、読み込みについて実習する。フロッピーのフォーマット、ディレクトリーについても扱う。
8	統語理論について解説する。文法を形式的に定義し、統語構造を導出する。とくに、形式言語の一つである文脈自由文法について解説する。文のあいまいさについても理解する。
9	意味解析について解説する。意味解析とは、格文法や結合価文法による解析を指す。意味解析を行うのに必要なソーラスや意味素性について説明する。
10	80年代に提案された言語理論について紹介する。特に（LFG）を中心としたユニフィケーション文法と機械処理の関係について解説する。
11	Prolog というプログラミング言語を用いて構文解析について実習する。実習を効率的に行なうために Emacs というエディターを利用する。
12	構文解析について実習（2回目）を行う。文法と辞書を作成して、各自、文を解析する。構文解析のあいまいさについて確認する。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期の講義内容について説明する。
2	文脈処理について考える。文脈処理しなければならない現象は何か、扱うためにはどうしなければならないかについて説明する。
3	機械翻訳システムの原理について解説する。解析・変換・生成の各過程の中で辞書がどのような役割をしているのかについて理解する。
4	機械翻訳の開発の歴史を紹介する。言語データを整理し、実用的なシステムの辞書を構築するのにどのような労力が費やされているかを理解する。
5	コーパスについて説明する。コーパスが自然言語処理システムを評価する上で欠かせないことを理解する。KWIC、関係データベースについても説明する。
6	機械翻訳システムの実習を行う。システムの使い方に慣れる。
7	機械翻訳システムの実習（2回目）を行う。辞書の登録を行う。
8	機械翻訳システムの実習（3回目）を行う。翻訳システムの評価を行う。翻訳システムのメリット、デメリットについて理解する。翻訳システムの特徴を生かした利用方法について考える。
9	自然言語理解について解説する。言語を理解する上で、解釈ということが重要な役割を果たしていることについて理解する。Speech act についても紹介する。
10	マルチメディアについて説明する。インターネットを利用するための基礎知識を得る。音声データ・画像データの扱い方、将来のコンピュータの利用についてイメージを持つことを目的とする。
11	インターネットの実習を行う。電子メール、WWWについて利用する。インターネットが有益なツールであることを理解する。
12	マルチメディアをめぐる知的財産権（知的所有権）について法律上の問題について解説する。急速な情報処理技術の発展に伴って法律が未整理な課題を多くかかえていることを理解する。
備考	

科目名	言語学特殊講義A（音の構造）1（94年度以降） 一般音声学（93年度以前）	担当者名	伊豆山 敦子
-----	------------------------------------------	------	--------

講義の目標	<p>人間の言語音の調音機構を観察し、その聴取の訓練を行なう。そして、その表記の方法を習得する。それは言語研究の基礎である。</p> <p>更に、音声はその言語で果たしている機能はどのようなものか、日本語を例として考える。この授業により、無意識に習得した自国語の音声に対する客観的な認識が得られることを期待する。</p>		
講義概要	<p>国際音声字母表を用いながら、調音音声学的訓練を行なう。更に自国語の音声面に対する観察をしながら、音声の果たす機能に着目し、音韻論の基礎を学ぶ。各人が音声学的知識を身につけ、音声の観察をすることができるように、訓練を中心とした授業である。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風間喜代三、上野善道他『言語学』（1993）東京大学出版会</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服部四郎『音声学』（1984）岩波書店</li> <li>・川上泰『日本語音声概説』（1977）桜楓社</li> <li>・城生伯太郎『音声学』アポロン工業社</li> </ul>	
評価方法	<p>授業中に行なう単音聴取テストへの参加</p> <p>前期・後期各一回の聴取テスト</p> <p>後期末の筆期試験</p> <p>以上の総合により評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>実際の音を聞き取り発音するのは、一人ではむずかしい。授業で聴けばわかるものも、休んでは教科書を読んでもわかりにくい。休まないことを要望する。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要の説明。言語音が同じとか違うとかいうのは何を意味するか。音声面の研究とはどのようなことか。
2	音声と音声学。音声学の分野。(p.193-196)
3	音声器官と気流のおこし手。(p.199-202)
4	発声と調音。(p.202-207)
5	国際音声字母の母音の調音。(p.218-220)
6	国際音声字母の子音の調音点と調音法。(p.209-212) わたりと持続部。(p.214-215)
7	両唇音
8	唇歯音
9	歯音
10	破擦音
11	硬口蓋音
12	復習とテスト
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期テストの発表と講評
2	軟口蓋音
3	口蓋垂音
4	ふるえ音、はじき音
5	側面摩擦音、側面接近音
6	鼻母音、接近音
7	日本語の音声表記。(p.220-222)
8	音声表記の問題点。(p.222-226)
9	日本語の音素体系。(p.226-229)
10	音素設定の作業原則(1)。(p.230-234)
11	音素設定の作業原則(2)。(p.234-236)
12	復習とテスト
備考	



科目名	言語学特殊講義A (外国人から見た日本語) 2 (94年度以降) 言語学特殊講義A (93年度以前)	担当者名	W. M. Jacobsen
-----	-------------------------------------------------------	------	----------------

講義の目標	外国人（特に欧米人）が日本語を学習する際に難点となりやすいところに主眼を置きながら、日本語の主要文法項目を取り上げ、英語その他の言語と対比しつつ、日本文法に見られる特殊性と普遍性について考える。		
講義概要	外国人の目を通して日本語を見た場合、日本語のどういうところが外国語と比べて違うのか、どういうところが特に説明を要する箇所か、という観点から日本語の主要文法項目を概観し、その制約をなるべく明らかにする。講義とディスカッションを混ぜた形で授業を進める。受講者には、日本語の具体例を通して様々な構文の使用条件を自分なりに考えさせると共に、日本語以外に習った言葉（あるいは、非日本語母語者の場合、自分の母語）と日本語との類似点や相違点について意見交換をさせる。		
使用教材	テキスト	寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味』Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ くろしお出版	
	参考文献	久野暲 『日本文法研究』 大修館書店 久野暲 『新日本文法研究』 大修館書店 須賀一好・早津恵美子編 『動詞の自他』 ひつじ書房	
評価方法	(1)授業参加・態度 (2)個人発表 (3)期末試験		
受講者に対する要望など	特になし		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	世界の言語の中での日本語の類型学的特徴 (その1)
2	世界の言語の中での日本語の類型学的特徴 (その2)
3	日本語における述語の種類とその活用
4	助詞—「は」と「が」(その1)
5	助詞—「は」と「が」(その2)
6	助詞—空間的表現を中心に
7	助詞—時間的表現を中心に
8	埋め込文—連体修飾を中心に
9	埋め込文—「の」「こと」「ところ」などの形式名詞
10	埋め込文—時を表す副詞節
11	敬語・親族名称
12	前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	動詞の自他 (その1)
2	動詞の自他 (その2)
3	受け身・可能・自発の表現
4	使役・使役受け身
5	やりもらいの表現
6	テンスとアスペクト—主文を中心に
7	テンスとアスペクト—埋め込文を中心に
8	条件文 (その1)
9	条件文 (その2)
10	「のだ」の意味と用法
11	個人発表
12	個人発表
備考	

科目名	地域文化研究（現代英米社会研究）1（94年度以降）	担当者名	有吉 広介
-----	---------------------------	------	-------

講義の目標	英国社会を支えるミドルクラスの社会学的分析を通して、現代英国の社会構造および文化を理解する。		
講義概要	かつてミドルクラスは英国資本主義社会をつくりだした歴史的主体ブルジョアジーであった。そしてこの国の伝統と革新とを独特な方法で調和させて英国社会を生みだした。現代英国のミドルクラスは、19世紀末における経営者革命や官僚機構の発達に起源をおく専門経営層、中間管理者層、専門技術者層、および大量の事務員層からなるホワイトカラー層である。この層の中核をなす人びとは、家庭生活のなかでミドルクラスの文化を体得したうえで、英国の独特な教育システムを通して社会に送りだされて英国の社会と文化とを支えている。本講義では、英国人の生活と文化とを読み取ってもらいたい。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	随時指示する。	
評価方法	前・後期の終りに求めるレポートにて評価する。		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	英国におけるミドルクラスの現状
2	産業革命前後のミドルクラス
3	古典的ミドルクラスの性格
4	前回に続く
5	古典的ミドルクラスの文化
6	新しいミドルクラスの出現
7	現代におけるブルジョア階級の衰退
8	専門経営層の確立
9	前回に続く
10	中間管理者層の出現と社会的地位
11	前回に続く
12	新旧の専門家層
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前回から続く
2	実業家層の現状
3	事務労働者の階級状況
4	前回に続く
5	ミドルクラスの家庭生活
6	前回に続く
7	ミドルクラスと教育
8	前回に続く
9	ミドルクラスと余暇
10	ミドルクラスの政治的関心
11	ミドルクラスと政治リーダー
12	まとめ
備考	

科目名	地域文化研究(熱帯雨林の生態と開発問題) 2 (94年度以降) 人文地理学(93年度以前)	担当者名	犬井 正
-----	--------------------------------------------------	------	------

講義の目標	熱帯雨林の破壊は単に森林資源の消失問題としてではなく、全地球的な環境、経済、文化の問題としてとらえなければならぬ。熱帯雨林の生態と開発問題について広い視野から検討し、人間と風土とのかかわり方を考察する。		
講義概要	熱帯雨林とはなにかという問いを端緒に、熱帯雨林がどこに存在し、どのような特徴をもった森林なのかを明らかにし、地球上で最も重要な生態系と言われている理由を考察していく。なぜ熱帯雨林が開発されるようになったのか、その開発の形態と規模、開発過程、この開発の結果どのようなことが生起しているのか、なにが適切な解決策かなどについて考えていく。テキストを用いながら、随時、VTR、スライドなども援用しながら講義をすすめる。		
使用教材	テキスト	クリス・C・パーク著『熱帯雨林の社会経済学』(1994、農林統計協会)	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T・C・ホイットモア著『熱帯雨林総論』(1993、築地書館)</li> <li>・ジョン・C・クリッチャー著『熱帯雨林の生態学』(1992、どうぶつ社)</li> <li>・四手井綱英・吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』(1992、人文書院)</li> <li>・環境庁「熱帯雨林保護検討会」編『熱帯雨林をまもる』(1992、NHKブックス)</li> </ul>	
評価方法	前期、後期1回ずつの定期試験による。		
受講者に対する要望など	特になし		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の1年間の受講の心構え、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションをおこなう。
2	1次生産者としての森林の重要性について。
3	世界の森林の分布と熱帯雨林地域の気候条件。
4	熱帯雨林成立の過程と特質。
5	熱帯雨林の森林としての構造。
6	熱帯雨林の動植物と食物連鎖。熱帯雨林の土壌の特質。
7	熱帯雨林の生態学的多様性。
8	VTR『熱帯雨林の生態』視聴。
9	熱帯雨林の開発の過程と破壊の核心地域。
10	様々な開発形態と開発速度。
11	薪炭材の生産と焼畑農耕—伝統的焼畑農耕は破壊的か？
12	人口爆発と集落再編計画。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	商業的木材生産による森林破壊。
2	プランテーション経営と牧畜業。
3	ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊。
4	VTR『ミドリを守る男たち』視聴。
5	熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下。
6	熱帯雨林破壊の気候変化と地球の温暖化。
7	熱帯雨林破壊の経済と生態の損失。
8	熱帯雨林で暮らす森林の民の苦境—アマゾンのヤノマミ族とカヤポ族。
9	VTR『熱帯雨林とサラワク先住民族』視聴。
10	日本の熱帯材輸入と森林破壊。
11	熱帯雨林破壊をくい止める可能な解決策？
12	まとめ—再考「人間と自然のかかわり」。
備考	

科目名	地域文化研究(ヨーロッパ近代とイスラーム世界)3(94年度以降) 比較文化論特殊講義A(93年度以前)	担当者名	奈良本 英 佑
-----	--------------------------------------------------------	------	---------

講義の目標	<p>危機の時代ともいべき現代においてイスラーム世界が直面している諸問題の理解を目指す。とくに、近代ヨーロッパと、同時代の中東イスラーム世界を対比し、後者が前者からの挑戦に対してどのように応答したかを見る。このようにして、近代合理主義と呼ばれる文化のシステムと、イスラームと呼ばれるそれとの間の相異、相互関係が分かってくるだろう。そうすれば、今日のいわゆる「イスラーム原理主義」と呼び慣されているもののすべてが、必ずしも狂信者の迷いごとばかりとは限らないことも理解されよう。</p>		
講義概要	<p>前期は、主として、オスマン帝国の成立から解体までに至る中東の歴史と、西ヨーロッパの近代史を講義する。中東世界とヨーロッパ世界の力関係が逆転するのは17C末だが、この逆転によって「東方問題」と総称される一連の国際紛争が発生する。前期の講義は、この東方問題を軸とした東西関係史という性格を持つだろう。後期は、この2つの世界の思想、イデオロギーを取り扱う。近代合理主義とは何か、それはいかにして生まれ発展したのか。それがイスラーム世界の思想にどのようなインパクトを与えたのか、イスラーム世界のエリートたちはどのように反応したか。こうしたことが講義のテーマとなるだろう。</p>		
使用教材	テキスト	とくに指定しない。必要に応じ紹介する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秀村欣二編『西洋史概説』(東京大学出版会)</li> <li>・S. J. Shaw, <i>History of the Ottoman Empire and Modern Turkey</i> (2 vols), Cambridge UP, 1976~7.</li> <li>・B. Lewis, <i>The Emergence of Modern Turkey</i>, Oxford UP, 1961.</li> <li>・A. Hourani, <i>Arabic Thought in the Liberal Age, 1798-1939</i>, Oxford UP, 1962.</li> <li>・N. Berkes, <i>Development of Secularism in Turkey</i>, McGill UP, 1964.</li> </ul>	
評価方法	<p>評価は、前期と後期各1回の試験による。場合によっては、後期1回、レポート提出を求める。</p>		
受講者に対する要望など	<p>世界史について、高校生程度の常識があることを前提に講義する。異文化に対する興味を持つ諸君の受講を歓迎する。事前にイスラームに関する入門書を読んでおくことを奨める。たとえば、小杉泰「イスラームとは何か」(講談社現代新書、1994)。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	〔イントロダクション〕地中海をはさんだヨーロッパと中東との間の交易・文化の伝播について。
2	〔オスマン帝国の発展〕13世紀末、アナトリアの一角に生まれた、イスラーム戦士集団の一小侯国が、いかにして世界最強国に発展し、ヨーロッパを脅かしたか。
3	〔オスマン帝国の社会構造〕異教徒から改宗したエリート奴隷たちが文武の支配機構の中枢を占めた、ユニークな帝国の組織と構造について。
4	〔オスマン帝国の衰退〕このイスラーム帝国は16Cを絶頂期として、以後は衰退に向かう。その政治的・経済的諸原因について論じる。
5	〔産業革命〕ヨーロッパにおける農業革命、商業革命、産業革命の関係。ヨーロッパ近代の経済基盤は如何に形成されたか、イギリスを中心に論じる。
6	〔産業革命②〕同上。他地域への伝播などにも触れる。
7	〔市民革命〕ヨーロッパにおける経済発展、都市の形成、絶対主義を経て市民革命に至る政治過程について、フランスを中心に論じる。
8	〔帝国主義と東方問題〕産業革命と市民革命を経て力を蓄えたヨーロッパ列強と、衰退期のオスマン帝国との関係について。
9	〔オスマン帝国の近代化①〕スルタン、セリムⅢ、マハムートⅡによる近代化の着手について。
10	〔オスマン帝国の近代化②〕“Tanzimat”と呼ばれる、エリート官僚主導の近代化改革について。
11	〔青年トルコ革命〕さらなる近代化によりオスマン帝国の再生を目指したこの革命が、なぜ帝国の分解をもたらしたかについて。
12	〔ケマリスト革命〕オスマン帝国の廃墟のなかから、近代的な国民国家建設を目指して創られたトルコ共和国について、それを指導したケマリストたちの政治思想と政策を論じる。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	〔ルネサンスと宗教改革〕復古運動としてはじまったルネサンスと宗教改革が、なぜ「近代」の萌芽をつくり出したのか。
2	〔近代合理主義①〕理神論を中心に、「神」観、宗教観の転換がいかにして近代的な自然観・社会観を導いたかについて論じる。
3	〔近代合理主義②〕近代自然科学、社会科学はいかに生まれたか。
4	〔ナショナリズム〕近代ヨーロッパが生み出した、非合理的なイデオロギーであるナショナリズムとは何か。
5	〔イスラームとは何か〕イスラームは、どのような政治的・文化的背景から生まれたか。預言者・政治家としてのムハンマドの役割、イスラーム法の成立などについて。
6	〔イスラーム改革運動①〕近代イスラーム改革運動の特徴は何か。復古運動として始まった改革は、新しい思想を生み出したのか。改革者たちは、理性と啓示の関係をどのように扱えたかなどについて。
7	〔イスラーム改革運動②〕先駆者としての aī-Tahtawi, Khayr ad-Din, al-Afghani の思想と行動。
8	〔イスラーム改革運動③〕Muhammad Abduh と Rashid Rida について。
9	〔イスラーム改革運動④〕イスラーム近代主義 (tajdid) と青年オスマン人運動について。
10	〔アラブ・ナショナリズム〕イスラーム改革運動とアラブ・ルネサンスの結合から、いかにして新しいナショナリズムが生まれたか。
11	〔トルコ・ナショナリズム〕オスマン帝国の中央集権化を目指した改革運動から、聖俗分離の原則に立つ新しいナショナリズムがいかに生まれたか。
12	〔近代化とイスラーム復興運動〕中東イスラーム世界における近代化の実験は成功したのか。現代のイスラーム復興運動は何を目指しているのか。
備考	



科 目 名	地域文化研究（戦後冷戦史の展開）4（94年度以降） 国際政治史（93年度以前）	担当者名	深 谷 満 雄
-------	--------------------------------------------	------	---------

講義の目標	戦後国際政治を長期にわたって支配した東西「冷戦」の実相を明らかにし、「冷戦」の発生と消滅の意義についての正しい理解を目ざす。		
講義概要	冷戦の起源に関する解釈から説き起こし、NATO、ワルシャワ条約機構の成立により戦後のヨーロッパが東西に完全に分断されるまでの経緯について概観する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	講義の都度指示する。	
評価方法	原則として学年末の論文形式の筆記試験による。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要と授業方針について説明する。
2	「冷戦」の起源に関する三つの解釈——「正統的」、「修正主義的」、「中間派的」——を扱う。
3	「冷戦発生史におけるポーランド問題」として、ソ連と亡命ポーランド政府との関係が断絶した1943年4月までの時点を扱う。
4	同じく、1945年2月のヤルタ会議での討議と決定を扱う。
5	同じく、ヤルタ会議後この問題をめぐりアメリカの対ソ態度が硬化しはじめた模様について述べる。
6	「冷戦」発生のもう一つの大きな原因としてのドイツ問題につき、戦後ドイツが米英ソ仏4カ国によって分割された事情について述べる。
7	ポツダム会議および管理理事会で決定・作成された「ドイツ産業水準計画」を取り上げる形で、米ソ関係変化の推移を追う。
8	第7週と同じ。
9	第7、第8週と同じ。
10	第7、第8、第9週と同じ。
11	第7、第8、第9、第10週と同じ。
12	レポートの課題、提出期限等について説明する。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「冷戦」を公式に宣言したとされる1947年3月のトルーマン・ドクトリンを取り上げ、その内容、意義づけ、宣言が出された背景について述べる。
2	第1週と同じ。
3	対ソ「封じ込め」の意義をもったヨーロッパ復興計画＝マーシャル・プランの発表経緯、およびその具体化について述べる。
4	第3週と同じ。
5	東側に対抗的な軍事同盟として1948年3月結成されたブリュッセル条約の締結経緯およびその内容について述べる。
6	第5週と同じ。
7	西側12カ国による一大軍事同盟機構 NATO (=北大西洋条約機構) の成立事情について述べる。
8	第7週と同じ。
9	「ベルリン封鎖」危機の発生、その進行、およびドイツ分裂を取り上げる。
10	東西ドイツの成立から1950年代半ばに至る西ヨーロッパ統合の動き、および東側におけるワルシャワ条約機構結成の動きについて概観する。
11	第10週と同じ。
12	一年間の授業についての「まとめ」を行い、定期試験に関し、出題方針を明らかにする。
備考	

科目名	地域文化研究（西洋美術史）5（94年度以降） 西洋美術史（93年度以前）	担当者名	前川久美子
-----	-----------------------------------------	------	-------

（後期完結）

講義の目標	<p>初期ルネッサンス美術の概要をとらえつつ、壁画、祭壇画、写本絵画など、様々な絵画の見方を学ぶ。</p> <p>14世紀 ジオットとジオット派の画家たち ジャン・ピュッセルとパリの画家たち</p> <p>15世紀 マサッチオ、ピエロ・デラ・フランチェスカとトスカナの画家たち ベリー公の画家たち ファン・エイク、ロヒール・ファン・デル・ウェイデン、メムリンクとフランドルの画家たち</p> <p>「講義」のほか短い英語のテキスト（美術館のガイドなど）の「講読」なども含める予定</p>		
講義概要			
使用教材	テキスト	開講時に指示する	
	参考文献	開講時に指示する	
評価方法	平常点+テスト		
受講者に対する要望など	秋学期からの開講につき、変更もあり得る。		

科目名	地域文化研究(中洋(ネパール・インド・チベット)の社会と文化)6(94年度以降)	担当者名	三本茂
-----	------------------------------------------	------	-----

講義の目標	<p>異なった地域や文化の間で行われる交流には長い歴史がある。西洋と東洋の間にある広大な地域は中洋と呼ばれるべき特有の文化を持っている。</p> <p>体験を基にしてこの地域の社会と文化の特徴を明らかにし、地域間の交流のありかたについて考えてみる。</p>		
講義概要	<p>中洋の国々のなかから、担当者の訪れたネパール・インド・チベットを取り上げ、これらの地域と西洋文化との交流について探検の歴史と絡めて考察する。</p> <p>講義では、出来るだけ現地で撮影した映像を用いる予定である。また、こうした知識を得るための方法としてフィールドワークの技術について触れる。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	その都度指示する。	
評価方法	評価は、数回のレポートの提出と授業中の報告および期末の筆記試験による。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

主 要 テ ー マ

1. 中洋の国々で出会ったこと、考えたこと
2. ネパールの社会・文化・人間
3. インドの社会・文化・人間

備考

後 期

主 要 テ ー マ

1. チベットの社会・文化・人間
2. 文化の交流としての探検
3. 中洋の文化を結んでいるもの

備考

科目名	比較文化論特殊講義A(カリブ海の民族と文化)1(94年度以降)	担当者名	井上兼行
-----	---------------------------------	------	------

講義の目標	地理上の距離ばかりでなく、人口が少なく経済力が小さいため、日本からは最も遠いところにあるのがカリブ海域である。しかしその歴史的経緯から独特の民族文化をもつにいたっている。そのおおよそを知る。		
講義概要	カリブ海域の民族と文化は、独特の歴史の上に成り立っている。そこでまずその歴史をある程度時間をあけて明らかにする。それを基礎に民族及び言語について述べ、その後いくつかのテーマで文化の特質を述べる。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	随時紹介する。	
評価方法	登録人数による。		
受講者に対する要望など	“文化人類学”の単位を取っていることが望ましい。例年登録者が少ない。それだけに登録するなら休まずに出てほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序——カリブ海域概観
2	歴史——(1)
3	〃——(2)
4	〃——(3)
5	〃——(4)
6	民族構成からみたカリブ海域社会——(1)
7	〃——(2)
8	〃——(3)
9	〃——(4)
10	独特の言語、また社会によって異なる複雑な言語構成——(1)
11	〃——(2)
12	〃——(3)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	以下、独特の文化について、いくつかのテーマを取り上げて話をする。テーマは今のところ未定。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A（東西文化比較）2（94年度以降） 西洋文化特殊講義A-1（93年度以前）	担当者名	近衛秀健
-----	----------------------------------------------------	------	------

講義の目標	地球がせまくなり、われわれ極東の住民にとって西洋は昔のように遠い存在ではなくなった。にも拘らず日本人は日本人、ヨーロッパ人はヨーロッパ人、両者は同一ではあり得ない。双方の生活環境、宗教、世界観の相異点を理解することが、今後ますます縮まって来た生活圏の中の地球人、世界人には必要であると思われる。二十一世紀人に、その思惟の根拠を提供する一助としてこれを開講する。	
講義概要	毎日、時事の話題、問題は絶えない。新聞、テレビなどから新鮮な事象を取り出し、それをテーマに、人の考え方、解釈法等を考えて行く。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	諸君は人生の一番良い時期を過ごしている。管理的な考え方にとらわれず、自由に自分の思想を吐露してもらいたい。前、後期にレポートを課す。	
受講者に対する要望など		



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	なぜ、今、ヨーロッパ人、ヨーロッパ文化なのか。
2	時事問題とその解析（毎回完結）
3	"
4	"
5	"
6	"
7	"
8	"
9	"
10	"
11	"
12	"
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	"
2	"
3	"
4	"
5	"
6	"
7	"
8	"
9	"
10	"
11	"
12	今年度の世界の事象とその総括
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A (南から見る南北アメリカ関係) 3 (94年度以降) 時事問題研究特殊講義A-2 (93年度以前)	担当者名	佐藤 勘治
-----	-----------------------------------------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>(新) 比較文化論特講 (副題: 南からみる南北アメリカ関係)</p> <p>第一の目標は、ラテンアメリカ・カリブ海域の現状をその歴史的背景とともに知ることである。高校で世界史および地理を学ばなかった学生がいること、およびその内容の偏重を考慮して、ラテンアメリカに関する基礎的知識の習得に重点を置く。第二の目標は、米国とラテンアメリカがぶつかりあう地域「米・メキシコ国境地帯」について現状と歴史を学び、北米自由貿易協定時代における多民族・多文化社会の今後を考えていきたい。米・ラテンアメリカの外交関係を論じるのではないので注意していただきたい。</p>		
講義概要	<p>米国もラテンアメリカも、その歴史をたどれば、植民地として成立し、30年から40年の差があるものの同時期に独立を果たしたなど、多くの共通性がある。しかし、我々の常識では米国とラテンアメリカが本質的に共通な性格を持つものとは理解されていない。ラテンアメリカ、特にカリブ海・中米地域から北のラテンアメリカは19世紀半ばから米国の圧倒的な影響下に置かれた。現在のラテンアメリカは、米国の影響を無視して理解することはできない。一方、米国もラテンアメリカの存在と切り放して理解することはできない。後者に関して一般的には無視されることも多いが、米・メキシコ国境地帯に焦点をあてることでラテン化が進む米国についても言及したい。</p>		
使用教材	テキスト	特に指定しない。プリントを配布する予定である。	
	参考文献		
評価方法	<p>出席と授業での発言を重視する。レポートを前後期二回提出してもらう。受講者数によっては試験 (ペーパーテスト) をおこなうことがある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>一方的授業にはしたくないと考えている。学生の積極的参加を望む。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	NAFTA時代のラテンアメリカと米国：北米自由貿易協定NAFTAとは／サパティスタ国民解放軍の意味するること／米国における多文化主義の見直し
2	民族の誕生(1)インディオとメスティーソ+クレオール：リゴベルタ・メンチューー／民族とはなにか／植民地社会、19世紀および現代におけるインディオとメスティーソ／クレオール
3	民族の誕生(2)ラティーノ：米国におけるラティーノの形成過程／現代米国でのラティーノの位置／アストラン
4	米メキシコ国境の町：ティファナ／シウダ・フアレス 以上4回が導入である
5	ラテンアメリカの独立：ハイチの独立／グアダルーペの聖母とメキシコの独立／サンマルティン／ボリバル／ブラジルの独立
6	ラテンアメリカの19世紀：保守派と自由主義派／輸出経済の形成／自由貿易帝国主義
7	現代のラテンアメリカ：軍政の時代／チリ革命／民主化へ 以上3回でラテンアメリカ史の概観をつかむ
8	米・メキシコ関係史(1) テキサス共和国の独立
9	米・メキシコ関係史(2) 米墨戦争
10	米・メキシコ関係史(3) メキシコ革命 国境地帯のメキシコ革命 ビージャ
11	日本におけるラテンアメリカ研究の現状 主要文献の紹介
12	予備：レポートの課題について
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	米国の裏庭(1)：中米・カリブ海地域の形成と米西戦争
2	米国の裏庭(2)：キューバ革命とプエルトリコ
3	米国の裏庭(3)：パナマ建国の経緯 ニカラグア革命
4	世紀転換期の米メキシコ国境地帯(1)：1906年カナネア銅山ストライキ
5	世紀転換期の米メキシコ国境地帯(2)：ジェロニモ追討 カヘメとヤキ戦争
6	世紀転換期の米メキシコ国境地帯(3)：メキシコ自由党とカリフォルニア半島
7	世紀転換期の米メキシコ国境地帯(4)：中国人大虐殺
8	米墨国境地帯への人の移動：マキラドーラと「世界都市」の形成と生産の国際化（サッセン）
9	NAFTA時代のメキシコ：メキシコ体制は崩壊するのか
10	まとめ：南北アメリカの総合的理解をめざして
11	予備：後期レポートの課題について
12	予備
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A（能楽における中世武士の諸像）4（94年度以降） 日本文化特殊講義A-1（93年度以前）	担当者名	瀬尾菊次
-----	-----------------------------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>日本の古典芸能である『能楽』を、歴史・舞台構造・装束・作品構成・などに分けて解説し、その実際を理解していく。</p> <p>また、時節に即して昔より伝わる生活行事・しきたりなど、日本人の風習を考えてみる。</p>		
講義概要	<p>中世・源平時代の武士のなかで、悲劇の英雄としてさまざまな伝説を残した『源義経』をとりあげ、その生涯にそくした能の曲目（ドラマ）を題材として、ビデオを鑑賞しながら現役の能役者の舞台体験を通した、舞台芸術としての能を解明していく。</p>		
使用教材	テキスト	関連資料のコピーを授業ごとに配布	
	参考文献		
評価方法	前・後期各1回のレポートで決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	能楽についてのあらまし。
2	能楽を演じる流儀・各役について。
3	能の現行曲・五番立て・番組の見方などについて。
4	五節句のはなし。そのⅠ
5	能舞台について。
6	能舞台と演技のかかわりについて。
7	義経の能の概略・義経の一生について。
8	義経の能・幼少年時代・『鞍馬天狗』を題材として。
9	能の作品構成・登場のしかた。
10	能の作品構成・舞事について。
11	義経の能・はじめての奥州下り・『鳥帽子折』を題材として。
12	前期レポート課題
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	能の作品構成・夢幻能と現在能。
2	「更衣」について。
3	義経の能・平家討伐・『八島』を題材として。
4	平家物語と能との関連について。
5	五節句のはなし。そのⅡ。
6	冠婚葬祭に関するしきたり。
7	義経の能・奥州への逃避行『安宅』
8	歌舞伎『勅進帳』と能『安宅』との関連。
9	人生儀礼に関するしきたり。
10	能と狂言との演技の対比。
11	後期レポート・曲目解題について。
12	能の流れ・まとめ
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A（ユダヤ教の歴史）5（94年度以降） 西洋文化特殊講義A-2（93年度以前）	担当者名	高橋正男
-----	-----------------------------------------------------	------	------

講義の目標	今年度は下記のテキストを手がかりにユダヤ教の歴史を概観し、次いで日本人とユダヤ人との豊富な文化遺産と歴史伝統とを比較して、両者が世界史の嵐のなかで果たしてきた役割を多面的・立体的に理解させることを目標とする。		
講義概要	初めに唯一神ヤハウェ信仰を民族共同体存続の基本原理とするユダヤ教団成立の経緯を概観し、日本人とユダヤ人との宗教・伝統・価値観・行動様式等の比較研究を行なう。これらは同時に両者の相互理解を助けるであろう。講義は平明・概説的・重要事項は詳述し、あわせて学界の研究状況も織り込んで紹介する。		
使用教材	テキスト	B=シロニー著仲山順一訳『ユダヤ人と日本人』新日本公法、1995年 高橋正男著『イェルサレム』（世界の都市の物語14）文藝春秋、1996年	
	参考文献	随時紹介する	
評価方法	学年末のレポートもしくは筆記試験および出席回数によって決める。少人数の場合はゼミナール形式で行なう。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本人とユダヤ人
2	日本におけるユダヤ教史研究瞥見
3	ユダヤ教史研究の基本史料(1)
4	ユダヤ教史研究の基本史料(2)
5	儀礼とユダヤ教暦(1)
6	儀礼とユダヤ教暦(2)
7	古代イスラエルの宗教(1)
8	古代イスラエルの宗教(2)
9	ヤハウェ信仰の継承——ユダヤ人共同体の成立——(1)
10	ヤハウェ信仰の継承(2)
11	VIDEO
12	VIDEO・前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	共通点と特異点(1)
2	共通点と特異点(2)
3	共通点と特異点(3)
4	共通点と特異点(4)
5	アウトサイダー(1)
6	アウトサイダー(2)
7	日本人とユダヤ人とのかかわり(1)
8	日本人とユダヤ人とのかかわり(2)
9	日本における反ユダヤ主義運動(1)
10	日本における反ユダヤ主義運動(2)
11	イスラエルと日本・将来展望
12	まとめ
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A（比較教育）6（94年度以降）	担当者名	鳥谷部 志乃恵
-----	---------------------------	------	---------

講義の目標	<p>本講義は自然観の相違が宇宙観・世界観や人間観、ひいては教育観にどのような違いをもたらすかを、教育思想の観点から比較的に考察する。この考察を通して、現在の教育にも通底する自然観を明らかにし、かつ変化する社会の中での人間の教育を方向づける新しい自然観を探究することを目標とする。</p>		
講義概要	<p>西欧文化の源流である古代ギリシアの思想から、自然科学が支配的な現代思想に至る歴史的過程の中に、代表的な自然観をとり挙げてその変遷を概観する。またそれぞれの自然観を代表する教育思想を比較的に考察する。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『自然の観念』、R. G. ユリングウッド著 みすず書房</li> <li>・『教育思想史』Ⅰ～Ⅵ 上智大学中世思想研究会編、東洋館出版</li> </ul>	
評価方法	<p>評価は、2回のレポート提出によって決定する。</p>		
受講者に対する要望など			



年 間 講 義 予 定

前 期

題	主 要 テ ー マ
1	講義の進め方と参考文献について説明する。自然観を考察する今日的意義と重要性について述べる。
2	古代ギリシアの自然観と教育 (1)神話にみられる自然観……ゼウスとプロメテウスの対立について
3	(2)イオニアの自然哲学における自然観……自然の事物と自然界
4	(3)ピュタゴラス学派の自然観……自然における質的な相違と幾何学的構造の相違
5	(4)プラトンとカリクレスの自然観の比較……「自然に従って」と「自然に反して」
6	(5)「模倣」(ミメーシス)と「分有」(メテクシス)について……「バラ」はそれ自身の中に赤をもつことによるのみ赤を模倣しうる
7	(6)プラトンの教育論……『国家』編から
8	(7)アリストテレスの自然観……自然それ自体は過程であり、変化であり、成長である。
9	(8)アリストテレスの教育論……「すべての人間は、自然によって(生れつき)知ることを欲する」
10	古代キリスト教の自然観と教育 (1)ユダヤ思想にみられる自然観
11	(2)アウグスティヌスの自然観……「三位一体論」について
12	(3)アウグスティヌスの教育論……「ペルソナ」について
備考	

後 期

題	主 要 テ ー マ
1	ルネッサンス期の自然観と教育 (1)コペルニクスの自然観……世界は中心をもたない
2	(2)南イタリアの自然哲学者にみられる自然観……不動の動者としての超越的な神ではなく、内在的動者としての神性の発見
3	(3)ルネッサンス期における教育と自然観
4	17世紀の自然観と教育 (1)ガリレオとデカルトにおける近世機械論的自然観……科学的知識の対象としての自然と主観としての人間
5	(2)レアリズムの教育と自然観……「客観的自然」と汎知学
6	18世紀の自然観と教育 (1)ルソーにおける自然観とフランス啓蒙思想……「心理的自然」について
7	(2)ルソーの教育論……「自然主義」の教育思想
8	(3)カントにおける自然観……科学的認識の根拠づけと目的論について
9	(4)カントの教育論……「強制」において「自由」を養う
10	現代の自然観と教育 (1)生物としての自然……生命は新しいものの出現に至る創造の過程
11	(2)ゲーレンの人間学における自然観
12	(3)現代教育思想の課題としての自然観
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A (パロディーが作りだす日本文学の伝統) 7 (94年度以降) 日本文化特殊講義A-3 (93年度以前)	担当者名	中村文
-----	-------------------------------------------------------------------	------	-----

講義の目標	<p>平安時代後期に成立したとされる『堤中納言物語』をテキストに取り上げ、登場人物の心理や行動を読み取りながら、撰関体制の全盛期に作り出された『源氏物語』のような作品と比較してみたときに、どのような差異が認められるかを探って、物語作品としての特性を考えたい。またこの作品が、既に存在する文学作品から何を受けつぎ、何を捨てたのかについて考え、日本の古典文学の伝統がどのように形成されてゆくのかという問題に迫りたい。</p>		
講義概要	<p>『堤中納言物語』の中から三話を講読する。この作品のストーリーの展開や主人公の性格の設定などには、古代から培われてきた日本人になじみ深い話型や、『伊勢物語』『源氏物語』等の先行作品が大きな影響を与えている。また、物語叙述の根底に、和歌・散文の文学伝統の中で固定していった物の見方の枠組があるために、描写の方法は非常に省略されている。行間に隠されたイメージを読み解きながら、前代までの文学的達成をどのように受容・変容することで新しい文学作品が形成されるのか、また撰関体制が崩壊して王朝的なものの存続が困難になってゆく時代にこのような物語が産み出された必然性などについて考えたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>三角洋一『堤中納言物語』（講談社学術文庫、1000円）</p>	
	参考文献	<p>授業中に適宜プリントを配布する。</p>	
評価方法	<p>前期・後期各一回、レポートを提出してもらおう（400字詰原稿用紙5枚程度）。文学の伝統がどう受容され、変容してゆくのかという問題に対してどの程度、関心があるか、また物語を深く読み込んでいるかどうかによって判定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業に積極的に関わる姿勢を持ってほしい。間違えることを恐れず、自分の言葉で意見を述べてもらいたい。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス「堤中納言物語」および時代背景についての説明。
2	思はぬ方にとまりする少将(1)
3	思はぬ方にとまりする少将(2)
4	思はぬ方にとまりする少将(3)
5	思はぬ方にとまりする少将(4)
6	思はぬ方にとまりする少将(5)
7	思はぬ方にとまりする少将(6)
8	思はぬ方にとまりする少将(7)
9	思はぬ方にとまりする少将(8)
10	このついで(1)
11	このついで(2)
12	このついで(3)
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	このついで(4)
2	このついで(5)
3	逢坂越えぬ権中納言(1)
4	逢坂越えぬ権中納言(2)
5	逢坂越えぬ権中納言(3)
6	逢坂越えぬ権中納言(4)
7	逢坂越えぬ権中納言(5)
8	逢坂越えぬ権中納言(6)
9	逢坂越えぬ権中納言(7)
10	逢坂越えぬ権中納言(8)
11	逢坂越えぬ権中納言(9)
12	逢坂越えぬ権中納言(10)
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A(現代スペインの社会と文化) 8 (94年度以降)	担当者名	野々山 ミチコ
-----	-------------------------------------	------	---------

講義の目標	闘牛やフラメンコだけではないスペイン現代社会について正しいイメージを持つよう学生を指導したい。	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ビデオを用いてスペインの特質について概説する。</li> <li>2) スペインの有名人をとりあげ彼らの生き方を考察する。</li> <li>3) 現代スペインのかかえる社会問題をいくつかとりあげ、解説する。</li> </ol>	
使用教材	テキスト	野々山真輝帆著『すがおのスペイン文化史』(東洋書店)
	参考文献	斉藤孝編『スペイン・ポルトガル現代史』(山川出版社)
評価方法	前期はレポート、後期はテスト。出席率も考慮する。	
受講者に対する要望など	スペインの問題としてだけでなく、日本の問題と比較して考えていただきたい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ビデオ&スペインとスペイン人とは
2	”
3	”
4	”
5	”
6	”
7	”
8	”
9	”
10	”
11	スペインの有名人
12	”
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	スペインの有名人
2	”
3	”
4	スペインの社会問題
5	”
6	”
7	”
8	”
9	”
10	”
11	”
12	”
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A（神話・説話の世界）9（94年度以降） 日本文化特殊講義A-4（93年度以前）	担当者名	肥田野 昌之
-----	------------------------------------------------------	------	--------

講義の目標	『古事記』『日本書紀』『風土記』『日本靈異記』などの古文献を読みながら、古代の神話や説話について概観する。そして古代人の豊かな心をさぐるとともに、その文学的特質を考え、また日本周辺の神話からさらにギリシア神話など世界各地の神話との類似性や世界大拡布の説話との関連性についても言及したい。		
講義概要	<p>前期は主として、黄泉国訪問・天の石屋戸・ヤマタのオロチ退治・海幸山幸などの神話について、古代祭式や氏族伝承の問題などと関係させて解説したい。</p> <p>後期には、昔話「蛇喰入」「鳥女房」と親近な関連にある三輪山型説話や羽衣説話など、いわゆる異類婚姻譚といわれるものを中心にして広く伝説や仏教説話について考察してみたい。</p>		
使用教材	テキスト	阿蘇瑞枝他『古代説話』 笠間書院	
	参考文献	西郷信綱『古事記の世界』（岩波新書）	
評価方法	授業への出席および年度末試験によって決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	文献以前の歴史を概観するとともに、年間の講義概要を説明する。
2	天地創造の神話——記紀を中心として、世界の創成神話についても言及する。
3	黄泉国訪問——オルベウス型との比較や呪的逃亡譚について
4	天の石屋戸神話——特に鎮魂祭儀礼との関連について
5	八俣大蛇退治——ペルセウス・アンドロメダ型との比較や生贄伝説について
6	大国主神の神話——通過儀礼および死と復活・ジェソン型についても考える。
7	天若日子神話——ニムロドの矢との関連および招魂の歌舞など
8	国譲りと天孫降臨——神々と神社について述べ、大嘗祭儀礼との関連についてもふれる。
9	木花之佐久夜毘売——聖婚儀礼について述べ、ままた世界各地の死の起源譚についても考える。
10	海佐知毘古と山佐知毘古そのⅠ——失われた釣針型との比較や隼人舞の起源について
11	海佐知毘古と山佐知毘古そのⅡ——蛇女房・竜女説話との関連について考える。
12	日本神話のたどめとして、その構造・特色や南方系・北方系などについても考える。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	異類婚姻譚について、そのⅠ——三輪山型と昔話「蛇掣入」について
2	異類婚姻譚について、そのⅡ——丹塗矢型（賀茂社縁起）および蟹満寺縁起など
3	異類婚姻譚について、そのⅢ——羽衣説話（白鳥処女説話）と天人女房・鶴女房など
4	異類婚姻譚について、そのⅣ——浦島説話（仙境淹留譚）と竜宮女房や亀女房について
5	異類婚姻譚について、そのⅤ——信田妻・女化稻荷と狐女房・芦屋道満大内鑑など
6	沙本毘古と沙本毘売——ヒメヒコ制やヲナリ信仰などについても説明する。
7	倭建命——異常誕生・怪力・熊曾退治・悲劇的末路・神に転生など貴種流離譚との関連でも考える
8	天之日予——日光感精説話や卵生説話について述べ、百濟・新羅・高句麗や中国説話との関連についても考える。
9	赤猪子——赤猪子説話と皿々山説話について述べ、さらにその歌謡についても考える。
10	筑波と富士・蘇民将来——祖神巡行説話・外来者歓待譚および祇園社縁起について
11	まとめとしてプリント四枚を配り、年度末試験についての出題傾向とその対策を説明する。
12	道場法師譚および力女譚について——異常出生・異常な怪力・鬼退治など金太郎譚・桃太郎譚との関連についても考える。
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A (古代ギリシア社会における日常生活) 10 (94年度以降) 西洋文化特殊講義A-3 (93年度以前)	担当者名	古川 堅 治
-----	-------------------------------------------------------------------	------	--------

講義の目標	<p>古代ギリシアの植民者たちは前8～6世紀地中海各地に移住し、新しい社会を形成した。本年度は「古代ギリシア植民者たちの日常生活」と題し、そのような植民者たちの日々の暮らしぶりを追うことによって、古代社会と現代社会の相違性と類似性、古代ギリシア人と現地の非ギリシア人との接触・交流・対立の意味を探ることによってギリシア文化の本質を理解することを目標とする。</p>		
講義概要	<p>講義は概説的に進めてはいくが、関連するテーマ、地域に関するビデオなどの映像資料も駆使して理解を深める一助とする。毎回できるだけテーマごとに課題を設定して考えていくようにしたい。記憶するとか暗記してもらうというものではないので、アトホームな雰囲気ですららの考え、感想なりが湧きあがるよう期待する。</p>		
使用教材	テキスト	特に使用することはない。	
	参考文献	ポール・フォール／古川堅治訳『古代ギリシア植民の世界』刀水書房、1996年（予定）	
評価方法	前・後期2回のレポートと数回の小レポートで評価。テーマ、枚数等については授業中に提示する。		
受講者に対する要望など	積極的な姿勢で参加することを期待する。		



年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	「はじめに」 ・歴史の方法論としての日常生活と心性史の問題
2	「移住者たちの世界」(I) ・ピタゴラスの生涯 海軍 歩兵 銀貨 ギリシア文字 植民の諸要因
3	「 同 上 」(II) 同 上
4	「 同 上 」(III) 同 上
5	「ダーダネルス海峡と黒海沿岸」(I) ・船上の生活 上陸と定住
6	「 同 上 」(II) ・キュジコスとまぐろ漁 ・ビザンティオンと木材
7	「 同 上 」(III) ・ヘラクレアからトレビゾントまでの地域と鉄と銀 ・金羊毛の国パシス スキティアと小麦
8	「キプロス島とその周辺」(I) ・アナトリア南岸 リュキアの植民者たち
9	「 同 上 」(II) ・キリキアとパンプリュリアの香料 ・キプロスの古い植民市
10	「 同 上 」(III) ・キプロスの農民たち キプロスの祭祀 鉱石と鍛冶場 ・香料とアヘン 職人階級 葬礼慣行
11	「アフリカの植民者たち：エジプトとキレナイカ」(I) ・デルタ地域との接触 ナウフラティスと外国人祖界 ・陶器商と陶工 エジプトの織物
12	「 同 上 」(II) ・商業とバビルス 科学・芸術・遊興生活 ・オアシスのギリシア人たち
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	「アフリカの植民者たち：エジプトとキレナイカ」(II) ・キレナイカ概観 キレネの創設 ギリシア人植民者たちと現地の女たち ・労働力の問題 農業・シルフィオン・狩猟・教育 人口と政治問題
2	「イベリア半島」(I) ・ギリシア人ヘラクレスとフェニキア人メルカルト ・カディス・タルテッソスと大西洋方面
3	「 同 上 」(II) ・アンダルシアのゴールドラッシュ 銀の精練 ・毛皮の取り引き
4	「 同 上 」(III) ・錫 貨物集散所としてのアンブリアス ・ギリシア人の建国と恩恵
5	「マルセイユからローマまで」(I) ・リグリア地方の概観 ギリシア人以前の人々 ・マルセイユの建設
6	「 同 上 」(II) ・漁業と紫紅色染料 町の生活 ・マルセイユの商業
7	「 同 上 」(III) ・アラリアとコルシカ人 ギリシア人とエトルリア人 ・ギリシア人とローマ
8	「シチリア島」(I) ・植民の展開 人口問題 ・組織上の諸問題
9	「 同 上 」(II) ・諸技術 ・シラクサ
10	「マグナ・グレキア」(I) ・領域とその沿岸 コルフ島 ・メタポンティオンと格子状街区
11	「 同 上 」(II) ・マグナ・グレキアでのピタゴラス 宗教と宗教運動 ・商業と独立自治 領域的拡大と戦争 充実した政治生活
12	「おわりに」 ・最初のギリシア帝国 ・植民のバランスシート まとめ
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A (アラブ文化・芸術) 11 (94年度以降)	担当者名	本田 孝一
-----	-----------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>本講義ではアラブ文化、特にアラブの芸術に焦点をあててその特性について考えます。また日本文化との違いを理解し、これから将来、国際交流の時代にわれわれはどのように生きるべきかをさぐります。</p>		
講義概要	<p>講師のアラブとの具体的な関わりをいろいろな角度から紹介します。従って本講義はアラブ文化を広く浅く知るためのものではなく、講師がアラブに対して熱い視線を向けている部分、あるいはアラブだけに関わるのではなく人間としての生き方に関わる部分を強調して話します。</p> <p>特に講師がアラブの「砂漠」で経験したことを中心に話します。</p> <p>授業は映像（映画、ビデオ、スライド等）を見ながら進行させる予定。</p>		
使用教材	テキスト	特に使用しません。	
	参考文献	その都度紹介します。	
評価方法	初めに題を出し、簡単な作文を書いてもらいます。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction
2	アラブ全体について、「アラブとは何か」ということを考えます。『アラブの風土』のスライドを観ながら、砂漠的風土の特性を確認。
3	アラブの言語であるアラビア語とその周辺の言語について紹介し、それらの言語と日本語や英語との違いを考えます。
4	アラブの衣食住研究(1)
5	” (2)
6	” (3)
7	アラブ文化の基礎となっている砂漠的文化について、その住民であるベドウィンの生活を紹介して考えます。
8	講師のサウジアラビアの砂漠での体験を話します。
9	「アラビアのロレンス」(1)の映画を観ながら、アラブと西欧について考えます。
10	「アラビアのロレンス」(2) ロレンスという現代的個性をもった人物に焦点をあてて、なぜ彼が現代史のヒーローに祭り上げられていったかを見ていきます。
11	「アラビアのロレンス」(3) 「アウトサイダー」としてのロレンスの実像を彼の著書『知恵の七柱』から考慮します。
12	「アラビアのロレンス」(4) ”
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	アラブの宗教である「イスラム教」について紹介し、その誕生の意味や教義を考えます。
2	イスラム教の聖典『コーラン』を取り上げ、他の宗教の聖典との違いなどを検討します。
3	アラブの芸術の中でも最も際立った位置を占めているアラビア語（ペルシャ語）書道について、その名品を鑑賞しながらアラブ人・ペルシャ人の美意識を探ります。
4	講師が専門としているアラビア語書道の動向を紹介。あわせて講師の作品を紹介しながら、書道芸術の将来的意義を検討します。
5	エジプト映画「バイナル・カスライン」(1) (エジプトのノーベル賞作家の小説)を観ながら、アラブ社会のあり方を探ります。
6	エジプト映画「バイナル・カスライン」(2)同映画を通じてアラブの家族、男女問題などについて考えます。
7	エジプト映画「バイナル・カスライン」(3) ”
8	今世紀が生んだアラブの異色の作家、詩人であるジブラーン・ハリール・ジブラーンについて、彼の代表作である『預言者』(プロフェット)の一部を読みながら、生きる意味について考えます。(1)
9	ジブラーン・ハリール・ジブラーン(2)
10	アラブとの関わりが深かった『星の王子さま』の著者であるサンテクジュペリーを取り上げ、彼の人生に対する考え方をまとめた『人間の大地』を読んで、如何に生きべきかを考えます。
11	アラブの音楽・舞踊について紹介し、その特徴を考えます。
12	まとめ。講師のアラブとの将来的な関わりを話します。
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A（比較思想）12（94年度以降）	担当者名	松丸壽雄
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	「西洋」と「東洋」、さらに「中近東」文化の思想的基礎の究明とその比較。		
講義概要	<p>現在の世界の危機的状況をどのように考えることができるのか、という問題と取り組む時、西洋と東洋の歴史的・文化的基礎を理解することは必須のことと思われる。この二つの文化圏は異なった思想的基盤の上に立っているので、両者の文化現象を比較検討することによって、その思想的基盤を明らかにしたい。しかし、このような旧来の区分だけでは、現在世界が直面している問題を理解する手がかりとしては不十分である。ことに中近東を中心としたイスラム文化圏の世界に与えている影響は無視できない。従って、イスラム文化の思想的基礎にも光を当てたい。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	講義中に指示	
評価方法	<p>受講者が多い場合には、筆記試験も考えられる。受講者数が相応であれば、最低年二回のレポートと授業への貢献度（例えばディスカッションへの参加）により評価。</p>		
受講者に対する要望など	<p>受講者数いかに依るが、ディスカッションの時間を設けることを考えている。そこで、積極的にそれに参加する用意のある人（自分勝手にではなく、確かな根拠を持って発言すること）が望ましい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要説明と補足説明。
2	「東洋」文化圏とは何か。
3	中国文化と日本文化
4	同上
5	同上
6	儒教文化と仏教文化
7	同上
8	ディスカッション
9	インド文化と日本文化
10	同上
11	仏教文化・儒教文化・ヒンズー文化
12	ディスカッション
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「西洋」文化とは何か
2	西欧・東欧・南欧・北欧
3	ヨーロッパとアメリカ
4	西洋文化と日本文化
5	同上
6	ディスカッション
7	イスラム文化とは何か
8	イスラム文化
9	同上
10	イスラム・キリスト教・ユダヤ教・仏教・儒教
11	同上
12	ディスカッション
備考	

科目名	日本語学概論	担当者名	金田一 秀 穂
-----	--------	------	---------

講義の目標	母語である日本語を客観化するための視座を提供すること。日本語は、私たちの思考や感情を決定しているものかもしれない。その可能性や限界を少しでも明らかにしたい。		
講義概要	音声、語彙、文法、発話というレベルを通じて、日本語の意味の表し方を中心テーマとする。各外国語との対照も適宜行う。授業は学生からの発言をもとにしていく。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	玉村文郎編 『日本語学を学ぶ人のために』 世界思想社 工藤浩ほか 『日本語要説』 ひつじ書房 林大編 『図説日本語』 角川書店（古書）	
評価方法	前・後期試験を予定。		
受講者に対する要望など	豊かな好奇心と柔軟な発想を持った学生の活発な発言を期待する。		

年 間 講 義 予 定

前 期

主 要 テ ー マ
・日本語学の領域 共時態・一語意識・膠着語
・音声 シニフィアン・シニフィエ・拍（モーラ）の種類、数、構成
・音声 アクセントと弁別素・恣意性と意味 ・表記 文字文化と声文化 ・語彙 語彙の分類・出自
・語彙 外来語
・語彙 相対名詞・指示詞
・語彙 語構成・派生語
・語彙 数と語彙
・語彙 辞書論
・語彙から文法へ シンタックスと品詞
・文法 格・助詞
・文法 アスペクト
・文法 ヴォイス

後 期

主 要 テ ー マ
・文法 モダリティ
・文法 複文・条件
・言語行動 発話・語用論・含意
・言語行動 敬語
・言語行動 送り手・受け手
・言語行動 会話の方法
・言語行動 話題
・言語行動 言語外知識
・言語変化 発生と変化
・言語変化 流行・将来
・教育 日本語教育
・位相 方言・隠語・アイデンティティ

科目名	日本語教育概論	担当者名	井口厚夫
-----	---------	------	------

講義の目標	日本語教育とは何か、今日本語教育に何が起きているかを理解する。		
講義概要	このコースでは、日本語教育がどのようなものなのかを紹介し、概観する。併せて日本語教育に関連した諸々の問題にも触れる。		
使用教材	テキスト	石田敏子著『日本語教授法』大修館書店 ¥2,266	
	参考文献		
評価方法	前期試験・夏期レポート・後期試験の3つによって評価する。		
受講者に対する要望など	『日本語教授法』の前にこのコースを取ることが望ましい。 日本語を外国人に教えることに興味を持つ人は、まずこの授業から入ること。		



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

主 要 テ ー マ
オリエンテーション
日本語教育とは何か・日本語教育と国語教育
日本人なら日本語が教えられるか
君の日本語は大丈夫か/日本語教育能力検定試験について
辞書の話/日本語学習者の姿
日本語授業の実際
日本語教育の歴史 1
日本語教育の歴史 2
教授法あれこれ——その歴史的発展と特長
日本語教育の現状 1
日本語教育の現状 2
日本語教育の抱える問題点

## 後 期

主 要 テ ー マ
前期のテストの解答・解説
質問に答える
海外で教える
今日本語教育で何が起きているか
日本語と外国語
外国人の日本語
日本語教師論 1
日本語教師論 2
日本語教育の将来 1
日本語教育の将来 2
まとめ
(予備)

科目名	日本語教授法Ⅰ（94年度以降） 日本語教授法（93年度以前）	担当者名	中西 家栄子
-----	-----------------------------------	------	--------

講義の目標	言語理論及び言語学習理論の理解を深めた上で、日本語教育に当たって、必要とされる日本語の知識と具体的な日本語の教授法を習得する。		
講義概要	日本語を母国としているからといって日本語が教えられるということではない。この点をまずはっきりと自覚することが日本語を外国語として教えるに当たって必要になる。その上で、どのように日本語を分類或いは分析し、どのような順序で、どのように教えていったらいいのかという問題について具体的、実践的に考えて行く。基本的には講義が中心ではあるが、教案作成、教材作成、研究課題のクラス発表など、学生の積極的な参加が求められる。		
使用教材	テキスト	中西家栄子・茅野直子『実践日本語教授法』バベル出版 プリントのハンドアウト	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・D. スタインバーグ 『言語心理学』 研究社</li> <li>・A. C. Omaggio "Teaching Language in Context"</li> <li>・名柄迪・茅野直子・中西家栄子『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』アルク出版</li> <li>・『にほんごのきそ Ⅰ、Ⅱ—教師用指導書』財団法人海外技術研修協会</li> <li>・ビビアン・クック 米山朝二訳『第2言語の学習と教授』研究社</li> </ul>	
評価方法	1) 中間・期末テスト 30%+30% 2) 課題提出 20% 3) 出席 20%		
受講者に対する要望など	本クラスを取るまえに日本語教育概論又は/日本語学概論を履修していること。また、日本語文法論・音声学等も履修していることが望ましい。実践的な内容の科目なので、出席を非常に重視する。従って6回以上の欠席は認めない。		

年 間 講 義 予 定

前 期

主 要 テ ー マ
オリエンテーション
コースデザインの概要・ニーズ分析とシラバス・学習者の Variables
言語教育の基礎理論・第一言語習得・第二言語習得の違い
教材—— 1. 教科書の分析・教材 初級・中級の文型と語彙 2. その他の専門教材
同上
教室活動と授業分析・教案の書き方
同上
音声の指導法 (Video) と教材の作成 同上
聴解の教材作成と指導 1. 初級 2. 中級 3. 上級 同上
文字表記の指導と教材 1. 平仮名・片仮名の導入 2. 漢字圏・非漢字圏の学習者の指導
同上
同上

後 期

主 要 テ ー マ
読解力の養成——精読・スキミングと教材作成 1. 初級 2. 中級 3. 上級
同上
文法の指導と教材——意味と文型の導入 1. ドリルから応用へ 2. 絵教材・その他の教材の作成と検討
同上
同上
会話指導と教材 (上級のディベート教材の作成)
同上
Video 教材の紹介とその使用方法
同上
作文の指導法と評価の方法
同上
評価とテストの作成法

科目名	日本語教授法Ⅱ（94年度以降） 日本語学特殊講義A-2（93年度以前）	担当者名	井口厚夫
-----	----------------------------------------	------	------

講義の目標	模擬授業及び授業見学を通して、日本語教育の実践的知識と技能の育成を図る。		
講義概要	前期目標は日本語教育実習への準備として、導入から練習までの教案を作成し、模擬授業をする。後期目標は実習での経験を踏まえ、外国語としての日本語表現・文法の導入・説明を行うための方法を考え、教材作成を行い、発表する。		
使用教材	テキスト	『しんにほんごのきそⅠ』・『しんにほんごのきそⅠ・教師用書』（スリーエーネットワーク）	
	参考文献	授業中に指導する。	
評価方法	教案提出・模擬授業・教材発表 ①模擬授業 ②教材の提出 ③模擬授業の反省と自己分析 ④テストは無し ⑤出席		
受講者に対する要望など	自分に与えられた課題をきちんと果たすこと。教授法のⅠは既習又は履習中であること。 <u>実習をする学生は是非履習してほしい。</u> 欠席5回以上は認めない。		



科目名	日本語文法論	担当者名	城田 俊
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>伝統的な「助詞・助動詞論」に立って日本語の文法を把握しようとする江戸時代に開発された「活用」という概念に大きく頼らざるを得ない。そうすると、「未然形」という統一的理解が不可能な形態と「終止形」「命令形」という明確な語形を混在させる「活用」とは一体何かという問題にぶつかる。しかし、この理解しにくい「活用」の概念なくしても日本文法の記述は可能である。可能というばかりではない。より明快で、より統一性を持ち、より体系的で、小・中学生および外国人学習者に理解しやすい文法が現出する。新しい等身大の文法の構築を目標とする。</p>	
講義概要	<p>まず、用言（動詞・形容詞）・体言（状詞・形容動詞語幹・名詞）の類別を行い、最も形態の豊富な動詞から記述を開始する。その成果はたやすく他の品詞の形態把握にひろげられるからである。</p> <p>語尾形・語幹形・語的つらなり・文形の四つの水準を区別し、日本文法の厳密な形態論的記述を行う。そのために、子音語幹、母音語幹、結合子音、結合母音という概念を導入する。</p> <p>まず、語尾形を終止形・連用形・汎用形に分け、その外容・内容を統一的にとらえる。ついで、語幹形を基本語幹と二次語幹に分けて把握する。語的つらなりを汎用形ベースのものと接続形ベースのものに分けて解明する。文形が示す語法と待遇の κατηγοリーを記述する。</p>	
使用教材	テキスト	特になし。
	参考文献	<p>①寺村秀夫『日本語のシンタクシスと意味』Ⅰ、Ⅱ くろしお出版</p> <p>②鈴木重幸『日本語文法形態論』 むぎ書房</p> <p>③井口厚夫・井口裕子『日本語文法整理読本』 バベル・プレス</p> <p>④村木新次郎『日本語動詞の諸相』 ひつじ書房</p> <p>⑤城田俊『語の活用と文の活用』 『国語学』164集、1991・3・43-55頁</p>
評価方法	試験	
受講者に対する要望など	<p>シラバスを見ると見慣れぬ用語がめだつが、それらと伝統的概念や一般に流布する考えとの異同は講義の途上で解説する。シラバスに記したものと講義では多少前後するところがある。テキストは特に指定しないが参考文献①②③のうち1つを読むこと。</p>	

年間講義予定

前期

主要テーマ	
1	序論：形態と形態論、文法的形態、文法形態の展望、ダロウと推量形、語の活用と文の活用、語尾活用と語幹活用一語尾形と語幹形、基本語幹活用と二次語幹活用、語的つらなり
2	文法的内容をとらえるめやす：ヒトと構成者一行為者・対象等、話とその構成者一話し手・聞き手・第三者、語形：動詞と名詞、語彙語幹と助辞、語尾助辞と語幹助辞、子音語幹と母音語幹、結合子音と結合母音等
3	語尾形、語幹形、語幹形の語尾活用、語尾形：終止形一伝達話法と呼掛け話法、伝達話法一叙述語法と推量話法、叙述語法一現在形と過去形、推量話法
4	呼掛け話法一命令話法と意志・勧誘話法、命令話法（形成・意味・用法）、意志・勧誘話法（形成・意味・用法）、連用形：接続形（形成・意味・用法）、条件形（形成・意味・用法）、例示形（形成・意味・用法）
5	汎用形〔いわゆる連用形〕（形成・意味・接続形との競合、移動の目的表示、強調表現、二次語幹形のもととなる汎用形、語的つらなりのもととなる汎用形、語形成を行う汎用形一複合動詞、名詞形成、否定汎用形
6	語幹形：基本語幹形（受身態の形成・意味・用法、使役態の形成・意味・用法、いわゆる自発、尊敬、肯定と否定）、複合語幹（否定語幹の後行特性、使役・受身態、使役・可能態、受身・可能態）
7	二次語幹形：動詞語幹一過剰相スギル（形成・意味・用法）、尊敬ナサル、オ+汎用形+ナサル等、願望態形容詞タイ（形成・意味・用法）、願望態動詞タガル（形成・意味・用法）、傾向・容易態形容詞ヤスイ
8	傾向態状詞ガチ・ギミ（形成・意味・用法）、可能態動詞エル・カネル（意味・用法）、動作相一段階相動詞の形成・意味・用法（始メル・始マル・ダス等、カエル、カカル、オエル、オワル、ヤメル、ヤム、サス等）
9	様態相動詞の形成・意味・用法（続ケル・続ク・ツケル、ナレル・ナラワス、オボエル、タテル、マクル、チラス、マワル、アルク、ツメル、ハテル、シメル、スエル、返ス、タス、加エル、タリル、ツカレル等）
10	将前相状詞の形成・意味・用法（ソウダ）、関連〔タクシス〕：ナガラ、ツツ、ツイデニ、ガテラ、カタガタ、シダイ等
11	語的つらなり、汎用形ベースの語的つらなり一形成・意味・用法、尊敬汎用形ベースの語的つらなり、接続形ベースの語的つらなり：テシマク（形成・意味・用法）、テイル（形成・意味・用法）、テイク/クル、テミル等
12	試験

後期

主要テーマ	
1	文形、文の活用、話法文尾助辞と待遇文尾助辞、文形変化、かわり文形、文のパラダイム、文形の語形変化、話法体系、話法一叙述話法と推量話法、叙述話法一平叙話法と既定話法（いわゆるノダ文）
2	平叙話法（形成・意味・用法・待遇）、既定話法（形成・意味・用法、語話用、ノダッタ、ノデ、ノデ+主文とカラ+主文、ノデの共起制限、ニとは何か、状態汎用形、語的つらなり一ノdeal、ノデナイ、スコープ）
3	推量話法、無確信話法一無準拠無確信話法と準拠無確信話法、無準拠無確信（カモンレナイ）文形（形成・意味・用法・語活用、他の文形の無準拠無確信文形化）、準拠無確信（ソウダ）文形（形成・意味・用法等）
4	確信話法、無準拠話法、無準拠弱確信（ダロウ）文形（形成・意味・用法、他の文形のダロウ文形化）、無準拠強確信（ニチガイナイ）文形（形成・意味・用法、他の文形のニチガイナイ文形化、語活用、語的つらなり）
5	準拠話法、内在準拠確信（ヨウダ）文形（形成・意味・用法・語活用、語的つらなり、他の文形の内在準拠確信文形化）、外在準拠確信（ラシイ）文形（形成・意味・用法、語活用、語的つらなり等）
6	待遇一通常待遇と丁寧待遇（形成、動詞文+デスの使用制限、デスとマス、語活用、デンタとタデス、ナイデスとマセンとシマセン、ダ・ダロウ、デス・デショウ等の二重性、デ・ニ・ナラ等の諸問題）
7	主語撲滅論について、主語と述語、ガ格の優位性、文法格と副詞格、一次機能と二次機能、ラ、ガ、ニ、デ、カラ、ト(1)、ト(2)、へ、マデ、ヨリカ、ノ、連用補語と連用修飾語の区別、不定格
8	副助詞、完全副助詞、不完全副助詞
9	体言とは、正常体言、名詞とは、ダナニ状詞、ダノニ状詞、ダノゼロ状詞、不完全体言、ダナ状詞、ダノ状詞、タルト状詞、純副詞、連体詞
10	日本文法への形態音素論的注解
11	文法論（語論と文論）、形態素論の可能性、国文法における「活用」の概念、語幹変化か語形変化か、
12	試験

科目名	日本語音声学	担当者名	城田 俊
-----	--------	------	------

講義の目標	日本語音声の実践的・構造的把握をめざす。それは正しい日本語をみずから話すためばかりでなく、外国人に正しい標準的日本語を教え、発音上の誤りを矯正するのに役立つ。また、事象を構造的に、理論的にとらえるためにも音声の理論的把握は必要である。哲学的・思想的立場としてある構造主義も、また、現在人文科学で広く用いられる構造主義的手法も言語音声の研究成果を出発点としていることを忘れてはならない。
講義概要	<p>調音音声学の基礎を講じ、それを基盤にして日本語の子音・母音を調音面から解説する（講義の形態をとるが、時に受講者を指名して、発音練習を行うことがある）。次に音節に話しを進め、それがなす体系には基本体系と第二体系が併存し、その異なりと発展のメカニズムを明らかにする。アクセントの正しい学び方・教え方に話しを及ぼす。</p> <p>第二部としてある音素論では、位置の差に著目しながら子音体系・母音体系をとらえ、日本語にはいかなる子音音素・母音音素があるかを論じる。ついで弁別要素（素性）によって日本語音声を記述する道筋をあきらかにする。</p>
使用教材	<p>テキスト 城田俊 『日本語の音（おと）—音声学と音韻論』 ひつじ書房（トテスト版）</p> <p>参考文献  <ul style="list-style-type: none"> <li>・服部四郎 『音声学』 岩波書店</li> <li>・川上泰 『日本語音声概説』 桜楓社</li> <li>・猪塚元・猪塚恵美子 『日本語の音声入門』 バベル・プレス</li> <li>・マリンベル・大橋保夫訳『音声学』 白水社（文庫クセジュ）</li> <li>・城生伯太郎 「現代日本語の音韻」『岩波講座日本語』5『音韻』 岩波書店</li> </ul> </p>
評価方法	前期・後期共定期試験期間中に試験を行う。
受講者に対する要望など	



年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	第Ⅰ部 音声学、単音 ことばの音(おと)、1単音か2単音か、発音記号、調音器官
2	子音と母音(テキスト1・2併せて1-25頁)
3	子音の分類、調音点による分類、調音方法による分類、無音子音・有声子音、非口蓋化子音、口蓋化子音、有気音、無気音、重ね子音
4	子音の調音、閉鎖音
5	弱い閉鎖音、摩擦音(テキスト3・4・5併せて26-52頁)
6	弱い摩擦音、破擦音
7	鼻音、はじき音、ふるえ音、側面音(テキスト6・7併せて52-64頁)
8	母音、母音の分類、舌の位置、唇の丸め、ジョーンズの「基本母音」
9	母音の調音、長母音、無声化母音、鼻音化母音(テキスト8・9併せて65-79頁)
10	日本語の音節、基本体系(伝承された体系、閉鎖体系)、[e][i]に関する規制、[t][ts][d]に関する規制、[h][ʔ]に関する規制、[w]に関する規制、第二体系(革新体系、開放体系)、両体系の差
11	結合表、基本体系における結合則、第二体系における結合則、長音節、促音付き音節、拗音付き音節、引き音付音節、イ音付音節、拡大長音節、拍、日本語音節の特徴(テキスト5・6併せて80-112頁)
12	アクセント、共通語のアクセント、他言語との対照、高さアクセント・強さアクセント、統語機能、固定アクセントと自由アクセント、意味機能、アクセント核(テキスト113-124頁)
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	第Ⅱ部 音韻論、音素論(I)、母音音素、音素の定義、母音の分布、母音音素、第二体系の母音の分布、第二体系の母音音素(テキスト127-146頁)
2	音素論(II)、子音の分布と子音音素、1.[a]位置、2.[o]位置(テキスト146-155頁)
3	音素論(III)、3.[u]位置、4.[e][i]位置、子音音素まとめ(テキスト156-163頁)
4	音素論(IV)、第二体系の子音の分布と子音音素、1.[a]位置、2.[o]位置、3.[u]位置(テキスト163-169頁)
5	音素論(V)、4.[e]位置、5.[i]位置、第二体系の子音音素まとめ、基本体系と第二体系の比較、第二体系が目指すもの(テキスト169-181頁)
6	音素論(VI)、特殊音素(テキスト182-192頁)
7	弁別要素(索性)(I)、音素から弁別要素へ、/i/の仮構、同じ音素か違う音素か、音素より小さな単位、弁別要素の簡単な解説
8	弁別要素(II)、弁別要素の簡単な解説(続き)、音声の弁別要素による特徴づけ(テキスト2・3併せて193-206頁)
9	弁別要素(III)、音節の各部分における弁別要素(テキスト206-216頁)
10	音節図素、特殊音の図表化(テキスト217-226頁)
11	第二体系の一般音節(テキスト226-233頁)
12	無声化母音、基本体系と第二体系、文化の問題、「開れた受容性」と「同化による閉鎖性」
備考	

科目名	対照言語学	担当者名	中西 栄子
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>二言語間（日本語と他の言語—基本的には英語）の様相を体系的に比較対照することによって、次のことについて考えを深める。 1) それぞれの言語についての体系的知識 2) 言語の背景にある発想法 3) 第二言語としての日本語習得への干渉 4) 日本語教育への応用</p>		
講義概要	<p>前期は講義中心であるが、後期は学生による課題発表を中心に授業を進める。学生が発表するテーマは、教師が指定する課題の中から選ぶ。基本的には文法項目の比較対照が中心になるが、言語行動などを含めた広い範囲のものを考えている。学生は実際の言語資料からデータを集め、それを自分なりに整理・分析した上で、参考文献等を使用してまとめることが求められる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>無。但しテーマごとにプリントの配布があり、それが最終的にはテキストとなる。</p>	
	参考文献	<p>安藤貞雄『英語の論理・日本語の論理』大修館書店          森田良行『日本語の視点』創拓社          水谷信子『日英比較話し言葉の文法』くろしお出版          国広哲弥編『日英語比較講座 1-4巻』大修館書店          吉川千鶴子『日英比較動詞の文法』くろしお出版          『講座日本語学』外国語との対照10、11、12 くろしお出版</p>	
評価方法	<p>1) 中間・期末テスト 30%+30% 2) レポートの発表と提出 30% 3) 出席 10%</p>		
受講者に対する要望など	<p>テキストはなく毎回の配布プリントがテキストになる。従って、きちんと出席しないと授業についていけなくなることに注意。レポート発表は全員する。どのテーマで発表するか早くから考えをまとめておくこと。すくなくとも日本語学概論・日本語学は履修していることが望ましい。</p>		



科目名	日本語史	担当者名	小島幸枝
-----	------	------	------

講義の目標	<p>日本語は、まだ日本民族が文字をもたなかった文献以前の時代から現代まで、日本列島に行われてきた言語である。海洋の島国という地理的条件から、古来日本人には外来文化を消化・吸収する能力が培われてきた。このことは、日本語の歴史においてどのような面に成果があらわれ、どのように日本語を生成発展させてきたのだろうか。今年度は語彙をとりあげ、その史的変遷を辿ることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>講述にあたって時代を日本の政治区分に従い、上代・中古・中世・近世・近代・現代に分けて、主として古辞書、各種文献資料によって、各時代ごとの語彙の特徴を知り、その変遷の要因を考察する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>国語学会編：国語史資料集（武蔵野書院）</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 亀井孝他編『日本語の歴史』1～7（平凡社）</li> <li>・ 永山勇『国語史概説』（風間書房）</li> <li>・ 国語学会編『国語の歴史』（改訂版）（刀江書院）</li> <li>・ 講座解釈と文法1～7（明治書院）</li> <li>・ 山田孝雄『国語の中に於ける漢語の研究』（宝文館）</li> <li>・ 土井忠生編『日本語の歴史』（至文堂） その他</li> </ul>	
評価方法	<p>前期・後期にレポート各1本</p>		
受講者に対する要望など	<p>日本史の基礎知識をもって受講することがのぞましい。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

	主 要 テ ー マ
1	国語史のための時代区分
2	国語史の資料
3	国語史の概要 音韻史(1)
4	国語史の概要 音韻史(2)
5	国語史の概要 文字史(1)
6	国語史の概要 文字史(2)
7	国語史の概要 文字史(3)
8	国語史の概要 文法史(1)
9	国語史の概要 文法史(2)
10	国語史の概要 外来語
11	語彙史概要
12	上代の語彙(1)
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	上代の語彙(2)
2	中古の語彙(1)
3	中古の語彙(2)
4	中古の語彙(3)
5	中世の語彙(1)
6	中世の語彙(2)
7	中世の語彙(3)
8	中世の語彙(4)
9	近世の語彙(1)
10	近世の語彙(2)
11	近代の語彙(1)
12	現代語の展望
備考	

科目名	日本語学特殊講義A (日本語ケーススタディ) (94年度以降) 日本語学特殊講義A-1 (93年度以前)	担当者名	井口厚夫
-----	---------------------------------------------------------	------	------

講義の目標	日本語に対する理解を深める。日本語を客観的に分析する能力を身に付ける。	
講義概要	指定テキストの中からいくつかをピックアップして論ずる。従って、日本語教育に必要な文法知識を広く網羅するものではない。テキストをもとにクラスで立てた仮説を生データの検証する。学生は必ずそのどれかについて発表をしなければならない。発表は指定教科書の他の関連した参考書や論文を含む。概論的知識からもう一步踏み込んで例外的なデータも扱いたい。コトバはなまものであるので、探せばいろいろと出て来るものである。じっと座って人の話を聞くのではなく、議論に積極的に参加してもらいたい。なお、ここでは外国人に日本語を教えるための実際の指導法などには触れない。	
使用教材	テキスト	未定 (講義初日に学生と相談の上決定)
	参考文献	
評価方法	発表・授業への参加態度・夏期レポート・後期レポートによって評価する。 なお、発表の当日に無断欠席した学生には単位は与えられない。	
受講者に対する要望など	『日本語文法論』を履修済みであることが望ましい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

主 要 テ ー マ

オリエンテーション

～未定

後 期

主 要 テ ー マ

科目名	ドイツ語Ⅰ	担当者名	大 串 紀代子
-----	-------	------	---------

講義の目標	<p>基礎的な文法事項は当然のことだが、日常的な会話、更には、簡単なディスカッションがドイツ語でできるようにしたい。あわせて、現代ドイツの社会、文化史的基盤にもなるべく触れる。</p>		
講義概要	<p>テキストとカセットテープ及びビデオを使用しながら、読む、聞く、話す能力を高めてゆく。</p>		
使用教材	テキスト	『Sag das mal bitte auf deutsch! 言ってみよう、話してみよう! ——ドイツ語文法読本』〔改訂版〕(三修社)	
	参考文献		
評価方法	<p>出席して、毎回積極的に参加することを重視する。定期試験結果は参考程度。</p>		
受講者に対する要望など			



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

主 要 テ ー マ
自己紹介の練習
趣味や家族の報告
日付、時刻、曜日など
数字を使って様々の練習
状況設定による会話
天候、季節などに関する会話
電話での応答
街の案内
ドイツの大学
列車で旅行する、時刻表の読み方
手紙の書き方
身辺雑貨に関する単語、利用表現

### 後 期

主 要 テ ー マ
新聞、テレビのプログラムを読む。ジャーナリズムについての知識
文法復習。一般動詞、その応用
文法復習。名詞、応用、性と格
文法復習。名詞と応用、性と格
文法復習。前置詞と応用
文法復習。助動詞と応用
文法復習。副文、条件文
文法復習。現在完了形とその応用
文法復習。形容詞とその応用
接続詞とその応用
まとめとして、各自作文
まとめとして、各自のスピーチ

科目名	ドイツ語Ⅱ	担当者名	渡部重美
-----	-------	------	------

講義の目標	簡単なドイツ語を聞き取り、話す能力を身につけることを目標とします。	
講義概要	<p>コミュニケーション中心の授業について色々と論じられている今日、以外と盲点になっているのがヒアリングではないでしょうか？相手が何を言っているのか聞き取れなければ、こちらから話すこともできません。逆に、相手の言っていることが聞き取れれば、Yes/Noや単語一つだけでも答えることはできます。ヒアリングは、コミュニケーションを成立させるための極めて重要な要素なのです。</p> <p>この授業では、まずビデオ教材を使いながらドイツ語の発音を学びましょう。そして、だんだんと簡単なドイツ語を聞き取り話す練習をして行きます。もちろんその際、文法についても必要最小限のことは学ばなければなりません。</p>	
使用教材	テキスト	コピーで配布します。
	参考文献	必要に応じて、その都度指示します。
評価方法	授業の性格上毎回毎回の積み重ねが大事だと思いますから、学期末の大きな試験は行わず、授業の進み具合に応じて小テストを何回か行い、評価を出します。	
受講者に対する要望など	やはり授業の性格を考えると、積極的に授業に参加して下さる方に受講して頂きたいと思っています。とにかく楽しい授業にしましょう!!!	

科目名	フランス語Ⅰ	担当者名	鵜澤 恵子
-----	--------	------	-------

講義の目標	<p>コミュニケーション的見地：日常生活の様々な場面で必要な表現・行動を身につける。</p> <p>語学的見地：一年（20数週）後に、フランス語という言語についてあるイメージ（独自性、他の言語との共通点）を持てるようにする。</p> <p>文化的見地：日常的な言動、習慣や行事を通して、フランスやフランス人を知る。</p> <p>教育的見地：来年度あるいは数年後、卒業後に学習を続ける（ことになった）ときに必要な基礎力をつける。</p>	
講義概要	<p>上記の目標をふまえ、第3外国語・週一コマであることを考慮し、内容的には平易なものとした。（自己紹介・買い物・週末の予定など、それにとまなう文法事項・語い）テキストを中心にいろいろな作業をこなしながら「話す・聞く・書く・読む」能力を少しずつ高める。したがって、授業の形態は講義形式ではなく、それぞれが「考える・使う」といった参加方式である。グループ作業も多い。</p>	
使用教材	テキスト	「Ici la Franc」（伸興通商、定価¥1900）授業ではビデオとオーディオカセットも使用。
	参考文献	
評価方法	<p>一年後の実力（＝後期試験）を評価。出席率等は考慮しないが、一般に授業に出ていないと力はつかない。</p>	
求める要望など	<p>第3外国語なので、授業以外の学習時間の負担はなるべく避けたい！とにかく授業中は積極的に！「みんなでワイワイやっていたらフランス語（ちょっと）できるようになったね。」というのが理想だなー。</p>	

科目名	フランス語Ⅱ	担当者名	渡 沼 英 二
-----	--------	------	---------

講義の目標	フランス語の基礎的な読解力、文法力を、他の言語（英語、日本語等）と比較対照しながら習得することを目指します。		
講義概要	個人、又は少人数のグループに分かれて文法演習を行い、それぞれの疑問点を解消しつつ授業を進めます。		
使用教材	テキスト	『基準フランス文法』山田、古本著 駿河台出版社	
	参考文献	特になし	
評価方法	平常点＋定期テスト		
受講者に対する要望など	積極的な参加を希望します。		

科目名	スペイン語Ⅰ（総）	担当者名	野々山 ミチコ J. L. Velasco
-----	-----------	------	--------------------------

講義の目標	<p>スペイン語を初めて学ぶ学生を対象として、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問と依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。</p>	
講義概要	<p>この授業で学ぶ文法項目は、直説法現在、命令の用法、疑問詞、形容詞、名詞、代名詞、数などである。点過去まで進みたい。日常的によく使う会話文については、順次練習をおこなう。受講生の積極的口頭練習が求められる。テキストでは第1課から第6課までである。</p>	
使用教材	テキスト	<i>¡Hola, amigos!</i> (芸林書房)
	参考文献	
評価方法	<p>出席状況、年2回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅰ総の進行にあわせて口頭練習をおこなうスペイン語ⅠLが用意されているので、同時履習を要望する。</p>	

科目名	スペイン語Ⅰ(L)	担当者名	北岸 団 後藤 雄介
-----	-----------	------	---------------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅰ総を補う授業である。テープおよびビデオ教材を使って、自然なスペイン語会話力（聞き取りと話す能力）を養うことを目的とする。</p>		
講義概要	<p>スペイン語Ⅰ総と同じテキストとテープおよびビデオ教材を使い、スペイン語Ⅰ総の進度にあわせて口頭練習をおこなう。文法についての解説などはスペイン語Ⅰ総で主におこない、この授業では練習を中心にする。ビデオ教材も使って、耳からだけではなく映像を通してテキストを補いたい。進捗については、スペイン語Ⅰ総のシラバスを参照のこと。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>¡Hola, amigos!</i> (芸林書房)</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、年2回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅰ総との組み合わせで受講すること。</p>		

科目名	スペイン語Ⅱ（総）	担当者名	後藤雄介
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅰ総の続きの授業である。スペイン語Ⅰ総の既習者を対象として、より進んだ文法の習得と、その文法内容をつかうより進んだ聴取力、理解力、口述能力の習得を目的とする。具体的には、二つある過去形の使い分けを自由に行えるようにすることが中心となる。</p>		
講義概要	<p>主な文法項目は、単純過去、完了過去、動詞の原型の使い方、現在進行形である。また形容詞、冠詞、前置詞など既習事項についてより高度な使い方の練習をおこなう。テキストのUnit7からUnit13を予定している。</p>		
使用教材	テキスト	Modern Spanish (Harcourt Brace)	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、年2回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語ⅡLとの組み合わせで受講することを要望する。</p>		

科目名	スペイン語Ⅱ(L)	担当者名	高松 朋子
-----	-----------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語ⅠLの続きの授業である。スペイン語Ⅰ総の既習者を対象にして、スペイン語Ⅱ総の進度に合わせてより高度なスペイン語会話力（聞き取りと話す能力）を養うことを目的とする。</p>		
講義概要	<p>スペイン語Ⅱ総と同じテキストとそれに準拠したテープ教材を使い、スペイン語Ⅱ総の進度に合わせて口頭練習をおこなう。文法についての解説などはスペイン語Ⅱ総で主におこない、この授業では練習を中心にする。また随時別のビデオ教材も使って、耳からだけでなく映像を通してテキストを補いたい。進度については、スペイン語Ⅱ総のシラバスを参照のこと。</p>		
使用教材	テキスト	Modern Spanish (Harcourt Brace)	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、授業への積極的参加、および年2回の定期試験によって評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅱ総との組み合わせで受講すること。</p>		



科目名	スペイン語Ⅱ（読）	担当者名	北岸 団
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅰ総の既習者を対象とした、スペイン語読解の入門的授業である。スペイン語Ⅰでは、いわゆる読みの授業を用意していなかったが、文法の基礎を学んだ二年目の段階で、簡単なスペイン語文献を読み進むことで、より広範囲なスペイン語力を身につけてもらいたいとおもう。また、スペイン・ラテンアメリカの文化・社会・自然などについての簡単な読み物を読むことで、スペイン語圏の文化の一端に触れられる授業としない。</p>	
講義概要	<p>スペイン語Ⅱ総の進度に合わせてレベルを設定し、簡単な読み物から読み進める。文法事項は、スペイン語Ⅱ総の進度を考慮しながら、適宜補う。</p>	
使用教材	テキスト	<p>プリントを用意する。</p>
	参考文献	
評価方法	<p>出席および授業への積極的参加、および年2回の定期試験</p>	
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅰ総の既習者は、是非受講を考えてもらいたい。また、スペイン語Ⅱ総の同時受講を希望する。</p>	

科目名	スペイン語Ⅲ（総）	担当者名	北岸 団
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>第三外国語としてのスペイン語の三年目である。スペイン語Ⅱ総の既習者を対象として、より高度で総合的なスペイン語能力の習得を目的とする。主要な文法項目をすべて身につけ、口頭表現に加えて文章を作る能力を習得させたい。</p>		
講義概要	<p>スペイン語Ⅱ総に引き続いて、復習をおこなった上で、同じテキストを順次進めていく。既習の文法項目のより高度な表現法をまなぶとともに、接続法の使い方、表現法も課題とする。テキストは、Unit13 からである。</p>		
使用教材	テキスト	Modern Spanish (Harcourt Brace)	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、授業への積極的参加、および年2回の定期試験によって評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅱ総の既習者は、履修を是非考慮していただきたい。スペイン語ⅢⅠ、およびスペイン語Ⅲ読との同時履修を希望する。</p>		

科目名	スペイン語Ⅲ (L)	担当者名	佐藤 勘治
-----	------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅱ (L) の続きの授業である。スペイン語Ⅱ総の既習者を対象にして、スペイン語Ⅲ総の進度に合わせてより高度なスペイン語会話力 (聞き取りと話す能力) を養うことを目的とする。</p>	
講義概要	<p>スペイン語Ⅱ総と同じテキストとそれに準拠したテープ教材を用い、スペイン語Ⅲ総の進度にあわせて口頭練習をおこなう。文法についての解説などはスペイン語Ⅱ総で主におこない、この授業では練習を中心にする。また随時別のビデオ・スペインニュース等を通して生きたスペイン語の世界に触れ、聞き取りの練習に役立てる。進度については、スペイン語Ⅲ総のシラバスを参照のこと。</p>	
使用教材	テキスト	Modern Spanish (Harcourt Brace)
	参考文献	
評価方法	<p>出席状況、授業への積極的参加、および年2回の定期試験によって評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅱ既修者は履修をぜひ考えていただきたい。</p>	

科目名	スペイン語Ⅲ（読）	担当者名	佐藤 勘治
-----	-----------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅲ（読）では、スペイン語Ⅱ（総）の即修者を対象に主に基本的な読解力を養うことを目的とし、自然な日本語で西文和訳出来るようにしたい。</p>		
講義概要	<p>スペイン、並びにラテンアメリカ諸国の簡単な読物、例えば、雑誌、新聞記事、その他スペイン語圏文化に関する書物から抜粋したものをテキストとして講読しながら、自然な日本語で西文和訳できるように、必要に応じて随所にスペイン語文法（特に接続法等）を折り混ぜながら勉強していきます。</p>		
使用教材	テキスト	<p>随時テキストをプリントして用意します。</p>	
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅲ総の受講者の同時受講を希望する。</p>		

科目名	ロシア語Ⅰ	担当者名	井上幸義
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>ロシア語は、単語の活用が多く、取っつきにくい言語だと言われていますが、その取っつきにくさを親しみに変えるには、少しでも慣れる必要があります。本講義ではロシア語の骨組みをつかみ、少しでもロシア語に慣れることを目標とします。</p>		
講義概要	<p>全くの初学者を対象としており、アルファベット、発音から始めます。最も基礎的な文法書を教材として使い、名詞の格変化、動詞の現在人称変化、過去時称形、未来形、形容詞の用法などを中心に学び最も基本的な構文が理解でき、使えるようにします。講義はゆっくりていねいに進めます。</p>		
使用教材	テキスト	『はじめてのロシア語』（桑野隆著、白水社）	
	参考文献	『博友社ロシア語辞典』	
評価方法	<p>前後期それぞれ1回ずつの試験を行い、それに基づき評価を下します。尚、参考として出欠を取ります。</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	中国語 I	担当者名	秦 敏
-----	-------	------	-----

講義の目標	はじめて中国語を学ぶ学生を対象とします。正確な発音と初歩的な文法が身につく、一年で基本的な会話と平易な文章が読めることを目標とする。		
講義概要	講義の内容は発音、文型、文法です。発音から始めます。基礎的な文法を説明しながら、平易な文章を読み、やさしい会話と聞きとりの訓練を行う。		
使用教材	テキスト	榎本英雄 『言える中国語』 同学社	
	参考文献		
評価方法	出席状況、授業中の態度、前後期の筆記試験などを総合して評価する。		
受講者に対する要望など	毎回きちんと予習・復習をすること。		

科目名	中国語Ⅱ	担当者名	陳 跡
-----	------	------	-----

講義の目標	発音の練習の次に少し長い会話ができることを目指す。		
講義概要	本講義で扱うテキストは自己紹介から中国旅行までの日常会話を網羅するものである。本授業の目的は会話練習しながら自然と語彙を増やし、文法の仕組みを習得させることである。更に中国文化を紹介する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など			

科目名	朝鮮語 I	担当者名	朴 勇 俊
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>朝鮮語を初めて学ぶ人を対象に朝鮮語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。</p> <p>会話の学習においては韓国固有の民俗、歴史、生活、芸能、衣食住等ストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め積極的に学習に取り組むようにする。</p>	
講義概要	<p>(1)朝鮮語の特徴と学習への取り組み方の理解・体得 朝鮮語の特徴、特に「ハングル」の構造を日本語およびその文字との比較からわかりやすく説明する。</p> <p>(2)朝鮮語の文字、文章の理解と解読 辞書の活用による「ハングル」の解読、「ハングル」による表現、「ハングル」の音韻的規則を指導する。</p> <p>(3)実用会話 基本会話文（あいさつ、自己紹介、基本的感情表現、ショッピング、食事の注文等の日常生活に必要な表現）を厳選し学習者同士が役割を変えながら問答型の会話の反復練習をする。</p>	
使用教材	テキスト	『韓国語学習—基礎から完成まで—』 朴勇俊 （プリント）
	参考文献	参考書や辞書等は後日指定する。
評価方法	評価は原則として定期試験と授業へのとりくみ、出席状況等を総合的に判定する。	
受講者に対する要望など	外国語の学習は学習者が持続的な学習や訓練に対応する積極的な興味や関心、継続的努力などを一貫して維持できるかどうかによって成果が左右される。意欲を持って主体的に取り組む姿勢を身につけてほしい。	



科目名	朝鮮語Ⅱ	担当者名	朴 聖 雨
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>日常の朝鮮語会話を正確に聞きとれるようにし、多様な状況、場面に応じて適切な会話表現が可能になるべく指導する。また辞書を使用しながら長い文章を読み、書くことができるようにする。</p> <p>映画やテレビ、ラジオ等の朝鮮語を聞いて理解できるようにし、実際にドラマの脚本等にそって実演することを通して生きた会話ができるように練習する。</p>	
講義概要	<p>日常生活で遭遇する多様な状況を教室に設定し、実体験にみあう会話を身につけるようにする。</p> <p>また朝鮮語は単なる意思疎通の用具にとどまらず、朝鮮人の習俗や伝説や文化の結晶体であることを実感させ、朝鮮の歴史や文化や生活の諸相について関心を高め、理解を深めて行く。個別指導を基本とし、自学自習が可能なテキストによって講義を進めて行く。</p>	
使用教材	テキスト	朴勇俊 編著『韓国語の活用』（未刊プリント）、1993
	参考文献	朴 聖雨・金 貞淑『韓国語の完成』同文書院、1988年
評価方法	<p>前・後期各1回の定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>はじめは、出来なくても、継続すれば必ず上達するので積極的に取り組むこと。</p>	

科目名	アラビア語Ⅰ	担当者名	本田孝一
-----	--------	------	------

講義の目標	アラビア語は、国連の公用語の一つにも入れられている世界で重要な言語です。しかし日本ではまだまだ西欧語偏重の中で、市民権を得ていないのが実状です。ここではそれを少しでも是正すべくアラビア語とアラブ世界について知識を広げてもらいたいと思います。	
講義概要	この講義では、語学だけではみなさんがアラブ世界に関心を向けることができるようにアラブに関わるいろいろな側面を紹介します。例えば、アラブの文化・習慣、ものの考え方など理解できるようビデオやスライドなどを使って紹介していきたいと考えています。	
使用教材	テキスト	本田孝一『アラビア語の入門』（白水社）
	参考文献	
評価方法	学期末に簡単な会話をやってもらいます。	
受講者に対する要望など		

科目名	アラビア語Ⅱ	担当者名	本田孝一
-----	--------	------	------

講義の目標	昨年アラビア語Ⅰを受講した人を対象に前年度の続きを勉強します。		
講義概要	授業内容はかならずしもテキスト通りに行なうということではありません。受講生の希望に従ってバラエティーに富んだ授業にしていきたいと考えています。昨年は講師の専門であるアラビア語の書道の実習を行ないました。今年も希望者が多ければ、それを行ない、各自書道作品を1点仕上げてもらおう予定。		
使用教材	テキスト	本田孝一『アラビア語入門』（白水社）	
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など			

科目名	古典ギリシア語	担当者名	古川 堅 治
-----	---------	------	--------

講義の目標	一年間の講義を通して、古典ギリシア語を着実に読み、書き、話すことができるようになることを主目的にする。そのために今年度からできるかぎり簡単にまとめられたテキストを使い、確実にテキストを終了できるようにする。また、古典ギリシア語の学習を通して古代ギリシア文化にも触れる。	
講義概要	各回ごとに単元を1つずつ学習するペースで進む。講義はアトホームな雰囲気で行なう。毎回出席は必ず必要。	
使用教材	テキスト	荒木英世『エクスプレス 古典ギリシア語』（白水社、1995年、2600円）（別売のセットは不要）
	参考文献	特になし。
評価方法	出席による問題解答を繰り返すことを行なうので、特別にテストや試験は行わない（平常点による評価）。	
受講者に対する要望など	だれでも一年間真面目に学ぶならば、ギリシア語はマスターできる。気軽に未知で、貴重な古典語を学んで欲しい。時には音楽やビデオでギリシア文化に触れるので興味ある人の受講を拒まない。	

科目名	ラテン語	担当者名	松田 治
-----	------	------	------

講義の目標	<p>古典ラテン語は難しそうに見えますが、語尾変化の約束を理解すればわりあい簡単なものです。</p> <p>前期はそのような約束を多少身につけて、簡単なラテン語の文章をつづれるようにしましょう。</p> <p>後期は、旧約聖書の易しい文章を少しずつ読むことも予定しています。</p>		
講義概要	<p>名詞の変化、動詞の活用を中心に勉強しましょう。動詞は完了形までを一応の目安にします。訳読の練習問題をこなす過程で、古典ラテン語の様々な姿を観察しましょう。特に近代語とのつながりを重視し、近代語の語源考察にも時間を割くつもりです。</p>		
使用教材	テキスト	<p>『詳細ラテン文法』（樋口・藤井共著、研究社）</p> <p>『旧約聖書』（プリントを配布します）</p>	
	参考文献	<p>授業時間に指示します。</p>	
評価方法	<p>どれだけ積極的に授業に参加したかを重視します。試験の成績だけではなく、総合的に判断します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>精神的かつ時間的ユトリのある諸君を歓迎します。つまり予習できる人です。</p>		

科目名	総合講座B-1 (94年度以降) 総合科目B-1 (93年度以前)	担当者名	加藤 億重
-----	--------------------------------------	------	-------

(前期完結)

講義の目標	<p>—くらしと習慣—</p> <p>我々は普段“くらし”とは何か、あまり考えていないかもしれません。都市化に塗りつぶされてしまったような我々の普段の生活も、それぞれの地域の環境や歴史に大きく根ざしています。何気ない仕草にも伝統や習慣を垣間見ることが出来、地域の違いを感じる事が出来ます。</p> <p>本科目は毎回、異なる分野からの話題を聞きながら、くらしの習慣の奥底に流れている普遍性と特殊性を展望します。</p>		
講義概要			
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	講義ごとに紹介いたします。	
評価方法	各担当者に提出されるレポートや出席状態を総合して評価します。		
受講者に対する要望など	<p>講義開始後の入退室を厳禁いたします。講義中の私語、仮眠をしている学生は退出してもらいます。</p> <p>諸事情により講義の順番が変わることがあります。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

	主 要 テ ー マ	
	4月10日 インTRODクシヨン	加藤 倂重
	4月17日 埼玉県のくらし(1)	新井 孝重
	4月24日 " (2)	新井 孝重
	5月8日 市史編さん室より	本多 正博
	5月15日 ペルーアマゾン河畔の人々の生活	山本 正三
	5月22日 アマゾン流域の日系人	山本 正三
	5月29日 ネパールの高地民族(1)	三本 茂
	6月5日 " (2)	三本 茂
	6月12日 未開人の環境へのかかわり(1)	井上 兼行
0	6月19日 " (2)	井上 兼行
1	6月26日 子供と生活(1)	青柳 多恵子
2	7月3日 " (2)	青柳 多恵子
備考		

科目名	総合講座B-2 (94年度以降) 総合科目B-2 (93年度以前)	担当者名	加藤 僖重
-----	--------------------------------------	------	-------

(後期完結)

講義の目標	<p>—環境を守る・暮らしを守る—</p> <p>我々の生活の場である地球環境は長い歴史の中で我々自身が暮らし方に適うように変化をさせてきたものであり、その一部でも破壊されると全体のバランスが壊れてしまうことさえある。</p> <p>本科目は毎回、異なる分野からの話題を聞きながら、我々一人ひとりの役割が何であるかを考える。</p>		
講義概要			
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	講義ごとに紹介する。	
評価方法	各担当者に提出されるレポートや出席状態を総合して評価する。		
受講者に対する要望など	<p>講義開始後、教室の入退室を認めない。講義中の私語、仮眠をしている学生は退出してもらおう。</p> <p>諸事情により講義の順序が変わることがあります。</p>		



年 間 講 義 予 定

後 期

種	主 要 テ ー マ	
1	9月25日 インTRODクシヨン	加藤 僖重
2	10月2日 地球環境を守る	加藤 僖重
3	10月9日 ナシヨナルトラストとは	加藤 僖重
4	10月16日 日本ナシヨナルトラスト財団の活動 1	米山 淳一
5	10月23日 " "	2 米山 淳一
6	11月6日 自然を守る	菅野 徹
7	11月13日 くらしを守る (1)	犬井 正
8	11月20日 " (2)	犬井 正
9	11月27日 文学の故郷を訪ねて (1)	秋山 武夫
0	12月4日 " (2)	秋山 武夫
1	12月11日 世界遺産条約について	担当者未定
2	1月8日 まとめ	加藤 僖重
備考		

科目名	共通演習（94年度以降）	担当者名	青柳多恵子
-----	--------------	------	-------

講義の目標	生涯教育の一環としてのスポーツの在り方を検索し、時代・国（民族）に於いてどのような変革を今日までなしてきたか・今年度はそのスポーツの在り方の1つとしてのダンス〔舞踊〕に焦点をおいて検証していくこととする。民族とダンス・ダンスの効用・ダンスの種類とその在り用・またダンスの歴史的経過・類似点について研究していく。		
講義概要	アメリカ・ドイツ・イギリス・ロシア・アジア諸国のダンスの特性とその国々に於ける『踊る』ことの意味・『民族衣装』『祭り』『宗教儀式』等人々の人生儀礼や豊かな伝統的な生活の中の『踊る』ことの意義を調べると共に『民族衣装と踊り』『シンボルとしての衣装』『シンボルとしてのダンス』等民族とダンス・民族と衣装・衣装とダンス・日常と非日常等を祭りや儀式といった行事の中で検索すると同時に現代の世俗的社会生活との関連とも比較してみる。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『世界の祭りと衣装』 芳賀日出男著 グラフィック社</li> <li>・『祭り民族・文化』 芳賀日出男著 クオレ社</li> <li>・『世界の民族と生活』 ぎょうせい</li> </ul>	
評価方法	レポートの評価と出席状況による。		
受講者に対する要望など	真面目で祭りやダンスを研究する意思のある者にかぎる。		

科目名	共通演習（94年度以降）	担当者名	有吉 広介
-----	--------------	------	-------

講義の目標	<p>現代の英国社会を学ぶ——現代の英国社会では、従来の社会構造に基礎を置く生活様式と、新しく起こってきた社会構造および文化に対応する生活様式とが混じりあって、ときには社会問題も生まれている。そこで、英国の社会構造や文化に関する社会学的分析を中心にして、英国人の行動様式や生活文化を深く理解することを目標とする。</p>	
講義概要	<p>まず現代イギリスにおける家族と家庭生活を取りあげて、社会が変化するなかで、伝統的なタイプとは違うさまざまな家族とその生活が生まれていて、そして人びとが結婚や家庭生活に関して不安感をいだくようになっているのを見る。第二に、英国の都市生活を取りあげて、都市とその周辺部との間に生活機会の不平等問題が起こっていたり、あるいは都市の機能が、物質文明の中心地としてよりもサービス文化のメッカに変貌しつつある様子をさぐる。第三に、現代の英国の教育制度を取りあげて、社会や文化を再生産する場である学校が、職業教育の場あるいはエリート選別の場になっている点を見る。最後に、階級社会といわれる英国の社会構造を取りあげる。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	適時指示したり、または作成したものを配布する。
評価方法	前・後期2回のレポートの評価による。	
受講者に対する要望など		

科目名	共通演習（94年度以降）	担当者名	井口厚夫
-----	--------------	------	------

講義の目標	外国人にも使える日本語の辞書を作成する。		
講義概要	<p>現在、国語辞書は様々なものがあるが、これらは日本人が使うことを前提にしたものばかりで、日本語を勉強する外国人が使うことを想定した本格的な辞書ではない。諸君も英語等の辞書を使っていて感ずるところがあるだろうと思う。この授業では外国人が使うための辞書作りについて論じ、かつ実際に作ってみたい。ただし辞書を作る、といってもせいぜいそのプロトタイプを示す程度しかできないだろう。どのようなことについてどのように書くかというフォーマット作りから始めなければならない。前期は既存の辞書の研究にはば費やされる。その途上で日本語の品詞に関するかなりつっこんだ知識に触れることになる。作成されたものは何らかの形で発表するつもりでいる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>国広哲弥他著『ことばの意味』平凡社 この他に国語辞書数冊。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>授業における発表の出来と前・後期レポートによる。なお、担当発表の当日に無断欠席した学生には単位は与えられない。</p>		
受講者に対する要望など	<p>辞書作りはコツコツと地道なものであるので覚悟して受講されたい。前・後期とも学生の発表が中心。積極的に参加されたい。時間外の作業多し。データ整理の都合上パソコンの使い方を覚えてもらう。</p>		

科目名	共通演習(94年度以降)	担当者名	佐藤勲治
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>ラテンアメリカ・カリブ海地域は、多民族・多文化社会の諸問題を考えるのに絶好の場である。同地域は、先住民社会とまずスペイン、ついでイギリス、フランス、など西洋列強との関わりの中でその地域の特徴が形成され、さらに19世紀半ば以降現代に至るまでアメリカ合衆国がその圧倒的影響力を行使している。この演習では、英独仏語各学科の学生を対象にして、西欧のラテンアメリカに対する影響だけではなく、ラテンアメリカが西欧社会に与えている影響に注意しながら演習をおこない、現代ラテンアメリカひいては現代世界理解につなげたいとおもっている。</p>	
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●米国のラティーノ（ラテンアメリカ系住民）に関する文献の講読と討論。</li> <li>●西洋列強の覇権争いの場であったカリブ海地域に関する文献の講読と討論。</li> <li>●メキシコ革命と米国、ヨーロッパ諸国の関係に関する文献の講読と討論。</li> </ul> <p>以上の三点について、受講者の専門領域に配慮しながら適切な文献を読み進めたい。その際、いわゆる研究書だけではなく、たとえば、チカーノ（メキシコ系米国人）へのインタビューなどを読むことで、自ら問題を発見し、解答を探る作業を参加者に課すことにしたい。</p>	
使用教材	テキスト	<p>基本的に、担当者がプリントを用意するが、一部は話し合いで共通の文献を購入してもらうことになる。</p>
	参考文献	
評価方法	<p>演習への積極的参加とレポート</p>	
受講者に対する要望など	<p>比較文化論特講（南からみた南北アメリカ関係）既修者の参加および同時履習を希望する。</p>	

科目名	共通演習（94年度以降）	担当者名	城田 俊
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>語と語は意味・文法・文体のみならず慣用によって結びつく。この慣用をいかに把握し、記述するか。いまだ未開拓の問題に様々な面から光りを与え、解明のいとぐちをつかむことをめざす。</p>		
講義概要	<p>形容することばと形容されることばの関係、名詞と動詞の結合上の関係等シンタグマティックな結びつきのみならず、代りに用いられるというパラディグマティックな関係を具体例に則して明らかにしていく。</p>		
使用教材	テキスト	<p>城田俊『ことばの縁—構造語彙論の試み』 リベルタ出版</p>	
	参考文献	<p>・ Explanatory Combinatorial Dictionary of Modern Russian. Wiener Slawistischer Almanach Sonderband 14 Vienna 1984 (I. A. Mel'cuk and A. K. Zholkovsky)          ・ Dictionaire explicatif et combinatoire du français contemporain. I, II. Les Presses DEL'UNIVERITE DE MONTRÉAL 1984～</p>	
評価方法	<p>レポート、発表、学習・研究態度を見て総合的に判定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>参加者の調査・研究・発表をもとに演習を進める。積極的参加が望まれる。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ことばとことばは何によって結びつくか。慣用研究の重要性。
2	コロケーションの研究、その目的。なめらかな文章とは、(テキスト、1・2併せて8-30頁)
3	強め-強調語
4	談え-称讃語 正しさ-真正語 (テキスト、3・4併せて31-48頁)
5	動詞化動詞 始まり-開始語 終わり-終止語
6	完了-完了語 続き-継続語、繰り返し-反復語 (テキスト、5・6併せて49-74頁)
7	充たし-充たし語
8	生み-生成語 (テキスト、7・8併せて76-101頁)
9	調え-調之語 無化-無化語
10	悪化-悪化語 攻撃-攻撃語
11	成果-成果語 発声-鳴き声のオノマトペ (テキスト、9・10・11併せて102-132)
12	試験
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	コトとコトの参加者
2	参加者を示す名詞
3	舞台だてを示す名詞-時・場所・状況を示す名詞 (テキスト、1・2・3併せて133-156頁)
4	助数詞 集合-集合語
5	集団-集団語 成員-成員語
6	頭(かしら)-頭目語 真中-中心語 (テキスト、4・5・6併せて157-178頁)
7	同義・類義-同義語・類義語
8	敬い-敬語 反義-反義語
9	反転-反転語 総括-総括語
10	品詞転換-品詞転換語 類型的関連-類型的関連語 (テキスト、7・8・9・10併せて179-220頁)
11	コロケーションの研究は何に役立つか。(テキスト、221-234頁)
12	試験
備考	

科目名	共通演習（94年度以降）	担当者名	高橋正男
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>近年われわれはユーラシア大陸の広大な地域を占めている西欧、東欧・ロシア、中東で相次いで起こった政治情勢の劇的な変転に際会し、人間生活の過去を構築する歴史学への興味をかきたてられている。</p> <p>本年は昨年引き続きエルサレムの多様な歴史を現代を基点に考古学・歴史学の成果を踏まえて中世・古代を展望する。併せて学習作法を懇切に伝授する。</p>		
講義概要			
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立山良司著『エルサレム』（新潮選書）新潮社、1993年</li> <li>・高橋正男著『エルサレム』（世界の都市の物語14）文藝春秋、1996年</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・D=バハト著 高橋正男訳『図説 エルサレムの歴史』（第2刷）東京書籍、1994年 随時紹介する。</li> </ul>	
評価方法			
受講者に対する要望など	<p>毎週休まずに演習に積極的に参加できるよう生活設計をたてることを希望する。</p>		



科目名	共通演習（94年度以降）	担当者名	中西 栄子
-----	--------------	------	-------

講義の目標	英語と日本語の相違を見ながら、英語を自然な日本語に翻訳する場合、どのような点に注意したらよいかを考える。言い換えれば、英語の発想と論理で書かれているものを日本語の発想と論理に置き換えるには、構文を転換するルールを見つけだすことが求められる。この授業では、このようなルールを体系化しながら、英文を自然な日本語に翻訳する能力を養う。	
講義概要	前期では個々の文型や表現について短い文例による翻訳練習とポイントの解説をする。そのあと、やや長めの英文を使って翻訳練習をする。その際、まず、英文を正確に理解していることを忠実な直訳によって確認し、それから自然な日本語に練り直した改訳をする。後期は短い文学作品を選び、実際の翻訳作業に入る。この際、登場人物の性格や背景などをきちんと把握した上で、翻訳作業に入る。	
使用教材	テキスト	前期 プリント 後期 未定（相談の上で決める）
	参考文献	最初の授業で指示
評価方法	100%の出席と与えられた作業をきちんと果たすこと	
受講者に対する要望など	とくになし。	



科目名	共通演習（94年度以降）	担当者名	古川 堅治
-----	--------------	------	-------

講義の目標	「ギリシア学入門」というタイトルで、ギリシアに関する諸々の問題を考えていく。本年度は「歴史と文化」を中心課題として採り上げる。ゼミなので、大学でのゼミナールというものがどのような形で進められるのか、出席者はどのような取り組みをすべきかなども合わせて、学んでいくことをめざしている。		
講義概要	ゼミの運営の仕方、出席者の各テーマに沿った報告と討論を中心に進めていく。関連するテーマについてのビデオやその他の資料を使っての解説がそれに加わる。ゼミ全体の雰囲気できるだけアトホームな形で作りたい。		
使用教材	テキスト	とくに使用しない。	
	参考文献	その都度指摘する。	
評価方法	日頃の出席と報告、討議への参加具合などで評価する。		
受講者に対する要望など	積極的に取り組む姿勢を期待したい。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「はじめに」 ゼミ開講にあたり、年間の運営方針と具体的内容についての説明
2	「民族」 ギリシア民族とは？ 起源と「民族呼称」の変遷 海外の移民たち 現代ギリシアの民族事情
3	「言語」 ギリシア語の特色 古代と現代の言語の多様性 「民衆語」対「純正語」 現代ギリシア語の言語論争
4	「ギリシア正教」 現代ギリシアのアイデンティティ 生活の中に生きる宗教 ギリシア正教と民衆 アトス山の修道院生活
5	「自然と産業」 ギリシアの自然と気候 ギリシアの資源と産業 ギリシア各地方の風土
3	「歴史」(I) ギリシアの先史(ミノア文化とミケーネ文化) ポリスの時代 ヘレニズムから中世のビザンティン帝国の盛衰まで
7	「歴史」(II) オスマントルコの支配 ギリシアの独立革命 独立から第二次大戦まで 現代ギリシア
3	「神話・宗教」 ギリシア神話と宗教 古代ギリシアの神域 密儀信仰 祭典と儀式 神話と予言 神話と民間伝承
9	「建築と集落」 クレタとミケーネの宮殿 パルテノン神殿の謎 ギリシア劇場の魅力 ギリシアの都市空間 ビザンティンの修道院 中世の軍事建築 民家
0	「美術・工芸」 古代エーゲ海の美術 壺絵の変遷と展開 古典期の青銅彫刻 ビザンティン時代のイコン芸術 金銀細工の魅力 現代の装身具
1	「音楽・舞踊」 古代ギリシアの音楽と舞踊 多彩な音楽生活 陶器画に描かれた音楽と舞踊
2	「小 括」 前期のまとめ
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「文学・演劇」(I) ホメロスの世界 抒情詩人たち ギリシア演劇のアマチュア性と民主性 ギリシア古喜劇と新喜劇 「探求」から「歴史」へ
2	「文学・演劇」(II) 古典の相統 ビザンティン時代の学者たち ギリシア中世英雄叙事詩 民謡・バラードの生きた伝承 独立戦争とロマン主義者たち
3	「思想・科学」(I) 「知」への愛 ギリシアの思想と科学の特質 哲学の誕生 医術と秘儀 ソフィストとソクラテス ギリシア哲学の全盛
4	「思想・科学」(II) エピキュリアンとストアック 古代ギリシアの科学 アレクサンドリアにおける展開 キリスト教とギリシア
5	「ギリシアと世界」 ギリシアの遺産と世界 ビザンティンからイタリアへ ルネサンスとギリシア 西欧近代におけるギリシア像
3	「ギリシアの生活」(I. 家庭生活) 子供の誕生・洗礼 正教の結婚式 ギリシアの葬儀 祝祭日の年中行事 ギリシア料理 ワインとコーヒーの愉しみ ギリシア刺繍
7	「ギリシアの生活」(II. 社会経済) ギリシア人社会の特色 現代ギリシアの政治事情 財政赤字と闇経済 現代ギリシアのバルカン外交 人間優先の社会事情
3	「現在の文化」 1. 映画 ギリシア映画の魅力
9	「現在の文化」 2. 文学 現代ギリシアの文学
0	「現在の文化」 3. 演劇 現代ギリシアの演劇事情
1	「現在の文化」 4. 音楽・舞踊 ギリシア民謡と民謡舞踊、「レンベーターカ」
2	「総 括」 一年間のまとめ
備考	

科目名	共通演習（94年度以降）	担当者名	松原 裕
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>一人一人が正しい健康観をもち、運動の文化的意義を理解するとともに運動を具体的に実践することを目標とする。</p> <p>具体的には、アルペンスキーを勉強する。</p>		
講義概要	<p>この演習では、生涯スポーツの一つとしてスキーを取り上げ、受講生が社会人となっても明るく健やかに過ごすための手段となる程度の基本的な技術が身に付けられるように進める。</p> <p>学内授業ではスキーの運動特性、運動構造、技術の組み立てについて学び、次に技術の床上トレーニングを行なう。</p> <p>シーズンに入り雪上で実践トレーニングを行なう。12月1日（日）前後を予定している。費用は20,000円程度を予定している。</p>		
使用教材	テキスト	『日本スキー教程』 全日本スキー連盟編	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VTR『日本スキー教程』</li> <li>・VTR『THIS IS THE オーストリアスキー』</li> </ul>	
評価方法	<p>毎時間の出欠席、受講態度、レポート、テストなどを総合して評価する。遅刻は認めないのでその時間の講義を受講できない場合がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>『大学は学問を通じての人間形成の場である』という建学の理念に立ち、「松原裕」というフィルターを通してスキーの一面を学んで欲しい。常に自己のレベル向上を目指す態度を持ち続けて欲しい。</p>		

科目名	共通演習（94年度以降）	担当者名	松丸 壽雄
-----	--------------	------	-------

講義の目標	ものの考え方を、実際に自分自身が「自己」に関わる問題と取り組みながら、身につける。	
講義概要	先ずは、担当教員が「自己」とは如何に考えられるかを、時間の許す範囲内で、様々に示す。その後、受講者がそれぞれに、決められた担当日に各自の発表をし、参加者全員でいろいろな面から、該当する事柄を検討討議する。課題は自由に選べる。また、担当教員が必要と判断した場合には、論理の説明もある。演習形式なので、人数制限がある。	
使用教材	テキスト	必要があれば、授業中に指示する。
	参考文献	授業中に指示。
評価方法	演習なので、参加者の発表内容と出席状況により評価。	
受講者に対する要望など	受講者は発表が義務づけられる。	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	演習の概要説明
2	参加者の発表日の決定。「自己をめぐる諸問題」の講義。
3	同上
4	参加者の発表。討議・検討。
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	前期発表分を全体を見ての討議・検討。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	参加者の発表。討議・検討。
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	前期発表分を全体を見ての討議・検討。
備考	

科目名	国際関係論 1・2 (93年度以前)	担当者名	有賀 貞
-----	--------------------	------	------

半 期

講義の目標	国際政治についての基本的知識をもち国際政治の歴史的理解を助けることを目指す。	
講義概要	<p>国際政治の歴史的展開を簡潔に講義することに力点をおくが、それに関連して、幾つかの国際政治理論にも言及する。</p> <p>講義概要は英文で作成し配布する。それにより、国際政治についての基本的語彙の習得を助ける。</p>	
使用教材	テキスト	テキストは使用しない。
	参考文献	参考文献は最初の授業で紹介する。主なものは『講座国際政治』1、2巻、3巻（東京大学出版会）、岡部達味『国際政治の分析枠組』（同）など
評価方法	学期中に提出するレポート（40点）と期末試験の成績（60点）を総合して評価する。	
受講者に対する要望など		



## 年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業についての説明。国際関係の研究の歴史と現在。 A Brief Guidance Studies in International Relations: Its History and the State of the Art
2	ヨーロッパ国際社会の成立と勢力均衡の理念 The Shaping of European International Community and the Concept of the Balance of Power
3	伝統的東アジア国際秩序の崩壊と帝国主義日本の台頭 The Collapse of the Traditional East Asian International System and the Rise of Japan as an Imperialist Power
4	帝国主義の時代と帝国主義論 The Age of Imperialism and Theories of Imperialism
5	ナショナリズムと国際主義 Nationalism and Internationalism
6	戦間期における反自由主義的民主主義思想の台頭 The Rise of Opposition to Liberal Democracy in the Interwar Years
7	冷戦期の国際政治とその終わり International Politics of the Cold-War Era and the End of the Era
8	「第三世界」の政治と経済 Politics and Economy in the "Third World"
9	現代における外交：政策決定過程論 Diplomacy in the Contemporary World : Decision Making Analysis
10	現代における戦争と安全保障 War and Security in the Contemporary World
11	現代における民族と国家 Ethnicity and the State in the Contemporary World
12	資本主義の世界化と情報化 The Globalization of Capitalism and the Information Revolution
備考	

注意) 「国際関係論1・2」とも通年で履修する科目ですが、半年ごとに担当教員が入れかわります。

ここでは、半期分のシラバスを掲載しています。履修にあたっては、残る半期のシラバス(竹田いさみ)も参照してください。

英語学科学生へ

この科目は、英語学科の科目と合併して開設されていますが、共通自由科目の科目として履修登録すると、選択必修の卒業要件には算入されませんので、留意してください。

科目名	国際関係論1・2 (93年度以前)	担当者名	竹田 いさみ
-----	-------------------	------	--------

半 期

講義の目標	<p>本講義では、「冷戦後」の新しい国際関係に注目し、(1)現代の国際関係を分析する道具として、理論・モデル・基本用語の解説（理論編）、(2)具体的な外交問題として政策課題の分析（政策編）が行われます。本講義における第1の目標は、国際関係を具体的に見る眼を養うことです。第2の目標は、現実主義、多元主義、グローバリズムと呼ばれる国際政治学の代表的な理論・モデル・アプローチを理解することです。第3の目標は、政策課題として移民・難民・ODA（政府開発援助）を取り上げ、国際政治の観点からこうした政策群を分析することです。</p>		
講義概要	<p>本講義では指定資料集、テキスト、ビデオなどを適宜使用しながら、現代国際関係の特色を国際政治学の分野から理解していきます。「国際関係」の「変化」に着目し、歴史を現代に引き寄せて国際関係を分析することになります。「情報」のフローよりストックを重視し、単に表面的な現象に目をとらわれているのではなく、その下に潜む「構造的要因」に関心を払うことになります。理論編で重要とされる視点は、政治的発想や政治的利害調整で、政治の役割が強調されます。近代ヨーロッパ社会に原点をもつ国際関係の基本的性格や原則を理解することになります。政策編では、政策形成の政治的側面が強調され、国際政治における利害調整や国益追求がいかに進められているかが考察の対象となります。</p>		
使用教材	テキスト	<p>(1)国際政治講義資料集 (2)竹田いさみ『移民・難民・援助の政治学』（勁草書房）</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有賀貞他編著『講座国際政治』全5巻（東京大学出版会、1989）</li> <li>・猪口孝『国際政治経済の構図』（有斐閣、1982）</li> <li>・川田侃『国際関係の政治経済学』（日本放送出版協会、1980）</li> <li>・高坂正堯『国際政治：恐怖と希望』（中央公論社、1966）</li> <li>・P. ビオティ、M・カピ『国際関係論』（彩流社、1993）</li> <li>・細谷・臼井編『国際政治の世界』（有信堂、1993）</li> <li>・嶋山道雄編『激動期の国際政治を読み解く本』（学陽書房、1992）</li> </ul>	
評価方法	<p>評価の仕方（レポート・試験など）は、授業の進み方を検討して決めます。</p>		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	①国際関係を見る眼：木・林・森 ②国際関係の世界：戦争と平和／繁栄と貧困／開発・環境・生存 ③国際関係論：世界大戦の落とし子（資料集：8-14、35-45頁）
2	①政治：有限の世界、無限の欲望《利害の調整》（資料集：21-27頁） ②政治過程：権力＋正統性＝権威（資料集：47-48） ③人間と権力：グロティウス、ホッブス、カント（資料集：52-54頁）
3	①リアリズム：トゥキディデス～E.H.カー（資料集：56-57、68-71頁） ②E.H.カー：ユートピアニズム v s リアリズム（資料集：12頁） ③勢力均衡論（資料集：91-94頁）
4	国際政治学：研修作業
5	①多元主義・相互依存論（資料集：58、118-142頁） ②現実主義・パワー論の補完 ③EC（EU）の出現・トランスナショナルリズム
6	①グローバリズム・従属論（資料集：59、143-171頁） ②反欧米思想・南の主張・世界システム
7	①ODA：開発援助とは何か、軍事援助との比較（テキスト：5頁） ②3つの目的、政策体系（テキスト：118-119、145-158、152-158頁）
8	①ODA：開発援助の特色 ②地理的配分・地域の階層化（テキスト：130-139、149、158-162頁）
9	①ODA：縦割りの国際援助 ②冷戦下の東南アジア援助（テキスト：120-127頁）
10	①国境を越える人々：移民とは何か（テキスト：2-3、12-13、61-62頁） ②難民とは何か（テキスト：3-4、56-64頁）
11	①国境を越える人々：難民の世界史（テキスト：64-82頁） ②難民受け入れ政策の政治性（テキスト：83-112頁）
12	①国境を越える人々 ②難民受け入れ政策の政治性（テキスト：83-112頁）
備考	

注意) 国際関係論1・2とも、通年で履修する科目ですが、半年ごとに担当教員が入れかわります。

ここでは、半期分のシラバスを掲載しています。履修にあたっては、残る半期のシラバス（有賀貞）も参照してください。

英語学科学生へ

この科目は、英語学科の科目と合併して開設されていますが、共通自由科目の科目として履修登録すると、選択必修の卒業要件には算入されませんので、留意してください。

科目名	日本語表現法 (93年度以前)	担当者名	松 縄 啓 子
-----	-----------------	------	---------

講義の目標	母国語としての日本語の、よりよい言語表現の修得を目的とする。よい文章の書き手となり、公的な場での正しい話し方を身につけられるよう指導したい。	
講義概要	<p>私達は大学に入学するまでに12年間以上母国語としての日本語や日本文学の教育を受けている。しかし相手に伝えたい内容を自分らしい表現で正確に話すことについて自信はあるだろうか。また書きたい材料を集めても、事実と意見を明快に読み手に伝えるための工夫と熱意を持っているだろうか。前半の7回は人前で話すためのスピーチの演習とする。各自の課題スピーチをクラス全員で講評しあい、今まで気づかなかった長所や短所を見つけ出し、よい話し手になれることをめざす。後半の16回はよい文章の書き手となるための実作中心のものとする。課題作文の添削や講評を通して、感動や発見を簡潔、ゆたかに個性的に伝える方法をともに考察してみたい。</p>	
使用教材	テキスト	プリント配布。
	参考文献	授業時に適宜指示する。
評価方法	授業への出席、漢字テスト、3分間スピーチ、スピーチ・テスト、課題作文の提出等によって評価する。	
受講者に対する要望など	授業に積極的に参加する意欲のある学生の受講を望む。出席を重視するので、ひとりひとりが「自分らしいよりよい表現を身につける」という目的意識を強くもって講義を選択してほしい。	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	(1)1年間の講義の概要の説明 (2)漢字テスト (3)400字作文の実作
2	パブリック・スピーキングについて (1)人前で話すこと (2)発音の練習—発声の点検・発音の点検—
3	(1)2分間スピーチ (課題について話す) (2)発声・発音の練習 (3)あいまいな表現—わかりやすく話す、具体的に話す—
4	(1)3分間スピーチ (課題について話す) —スピーチと講評— (2)はなしことばと書きことば
5	(1)3分間スピーチ (課題について話す) (2)心に届くはなし方—相手の心をつかむ・自分の立場を知る— (3)表現の工夫—語句の選び方・わかりやすい表現—
6	(1)3分間スピーチ (2)敬語を使いこなす (3)私の日本語再発見—各自の報告から—
7	(1)3分間スピーチテスト (2)まとめ—よい話し手をめざして—
8	文章を書く (1)よい文章とは? (2)心に残る表現—古今の名作・現代の文章から— (3)心に残る表現—各自の報告から—
9	(1)名文と悪文 (2)文章の基礎—漢字・かなの用法・原稿用紙の書き方他—
10	(1)文章の基礎—主題を決める、材料を整える、構想を立てる—
11	(1)効果的な文章表現—さまざまな表現、書き出しとむすび、修辞法など— (2)文章を書く (課題文800字)
12	(1)作文の添削と講評 (2)漢字テスト
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(1)文の構成、起承転結、5W1H (2)〈材料〉があれば書けるか—実作練習—
2	(1)いろいろな文章の書き方 (説明文・新聞記事他) (2)事実と意見—明快な文章とあいまいな文章—
3	(1)いろいろな文章の書き方 (感想文・意見文他) (2)語彙、表現をゆたかに—感性を磨く—
4	(1)いろいろな文章の書き方 (手紙文) (2)物の見方と表現する技術
5	(1)800字作文の実作—添削と講評— (2)文章の推敲—〈名文・名作〉を添削する—
6	(1)800字作文の実作—添削と講評— (2)いろいろな〈私の文章修業法〉について
7	(1)800字作文の実作—添削と講評— (2)各種の〈文章読本〉を読む
8	日本人の言語表現—日本人の言語表現や感受性を古今の作品から探る—
9	日本人の言語表現—前回に続き、更に考察する—
10	いろいろな文章の書き方のまとめ—ゆたかな表現を身につけるために—
11	予備日
12	(1)テスト (漢字と課題作文) (2)その他
備考	